
2016年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部

独：ドイツ語学科 養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

英：英語学科 養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

仏：フランス語学科 養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

交：交流文化学科

経：経済学部

済：経済学科

営：経営学科

環：国際環境経済学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

14以降入学：2014年度以降入学者(全学部)

13以降入学：2013年度以降入学者(全学部)

13以降入学養：2013年度以降入学者(国際教養学部)

13以降入学経：2013年度以降入学者(経済学部)

12以前入学：2012年度以前入学者(全学部)

12以前入学養：2012年度以前入学者(国際教養学部)

12以前入学経：2012年度以前入学者(経済学部)

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08～12年度……2008～2012年度入学者

07年度以前……2007年度以前入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

全学共通授業科目 目次（2008年度から2016年度入学者用）

全学総合講座

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について）		青山 愛香	木3	1	－	14
全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）		有吉 秀樹	木2	1	－	15
	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	有吉 秀樹	木2	1	－	16
全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）		市原 博	水2	1	－	17
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	岡村 国和	木2	1	－	18
	全学総合講座（メディア社会とロック）	岡村 圭子	火3	1	－	19
全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）		片山 亜紀	火3	1	－	20
全学総合講座（経営者が語る現代企業論1）		上坂 卓郎	火2	1	－	21
	全学総合講座（経営者が語る現代企業論2）	上坂 卓郎	火2	1	－	22
全学総合講座（教えるという仕事）		川村 肇	木3	1	－	23
	全学総合講座（メディアと私たち）	佐藤 勤治	月5	1	－	24
全学総合講座（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）		高松 和幸	金4	1	－	25
	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松 和幸	金4	1	－	26
	全学総合講座（情報社会とルール）	多賀谷 一照	水3	1	－	27
全学総合講座（環境学1）（環境基礎学－自然を見つめる）		中村 健治	火4	1	－	28
	全学総合講座（環境学2）（環境応用学－環境と社会）	中村 健治	火4	1	－	29
全学総合講座（大学における教養教育）		野澤 聡	月4	1	－	30
	全学総合講座（社会の中の科学）	野澤 聡	月4	1	－	31
全学総合講座（獨協学）		町田 喜義	水3	1	－	32
全学総合講座（スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える）		松原 裕	木4	1	－	33
	全学総合講座（文学の原点を考える）	矢羽々 崇	金3	1	－	34
	全学総合講座（クオリティライフのための健康講座）	和田 智	火4	1	－	35
	全学総合講座（自由時間の達人）	和田 智	金4	1	－	36

全学共通講義科目部門

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1（日本語文法形態論）	ことばと思想1（日本語文法統語論）	浅山 佳郎	月3	1	養・14以降入学	37
ことばと思想1（言語学概論）		安間 一雄	火3	1	養・12以前入学	38
ことばと思想1（言語学a）		安間 一雄	火3	1	養・13以降入学	38
ことばと思想1（言語学b）		安間 一雄	金1	1	養	39
	ことばと思想1（英語学a）	未定	火3	1	養	40
	ことばと思想1（英語学b）	未定	火4	1	養	41
ことばと思想1（日本語教育概説）		石塚 京子	月3	1	養	42
ことばと思想1（倫理の基本について考える）	ことばと思想1（環境と生命の倫理）	市川 達人	火3	1	養	43
ことばと思想1（社会思想史1）（市民的社会像の黎明期）	ことばと思想1（社会思想史2）（市民的社会像の確立期）	市川 達人	火4	1	免	44
	ことばと思想1（混成の英国とグローバル・ヒストリー）	上野 直子	水2	2	英	45
ことばと思想1（応用言語学）	ことばと思想1（第二言語習得）	臼井 芳子	水1	2	養	46
ことばと思想1（言語を使用する－文学・表現編）	ことばと思想1（言語を使用する－哲学・思想編）	工藤 達也	水2	1	－	47
ことばと思想1（心理学）（人間の行動・認知・動機的一般法則）	ことばと思想1（心理学）（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木1	1	－	48
ことばと思想1（心理学）（人間の行動・認知・動機的一般法則）	ことばと思想1（心理学）（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木2	1	－	48
ことばと思想1（こころの世界）		田口 雅徳	木2	1	養・免	49
	ことばと思想1（通訳・翻訳論）	永田 小絵	木4	2	－	50
ことばと思想1（Downton AbbeyとPax Britannicaの終焉）		前沢 浩子	火4	2	英	51
ことばと思想1（社会思想史1）（東洋古代から近世まで）	ことばと思想1（社会思想史2）（東洋近世から現代まで）	松丸 壽雄	水2	1	養・免	52
ことばと思想1（フランス・ドイツ哲学入門1）	ことばと思想1（フランス・ドイツ哲学入門2）	松丸 壽雄	水3	1	－	53
ことばと思想1（倫理学a）	ことばと思想1（倫理学b）	松丸 壽雄	木4	1	養・免	54
歴史と文化1（ドイツ語圏のメディア文化a）	歴史と文化1（ドイツ語圏のメディア文化b）	秋野 有紀	木4	2	独	55
歴史と文化1（日本文学論・中世Ⅱ）		飯島 一彦	水2	1	13以降入学養	56
	歴史と文化1（日本研究概論Ⅱ）	生田 守	木4	1	13以降入学養	57
歴史と文化1（歴史学1）（ヨーロッパ史1）	歴史と文化1（歴史学2）（ヨーロッパ史2）	上村 敏郎	木3	1	免	58
歴史と文化1（日本文化論）		宇津木 言行	火3	1	養・法	59
歴史と文化1（英語圏の文学）	歴史と文化1（英語圏の文学Ⅱ）	大熊 昭信	金5	1	養	60
歴史と文化1（英語圏の小説）		片山 亜紀	火4	2	英・養	61

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	歴史と文化1 (日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	養	62
歴史と文化1 (大衆文化論)		木本 玲一	月5	2	養	63
歴史と文化1 (歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1 (歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	木3	1	免	64
歴史と文化1 (東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1 (東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	-	65
歴史と文化1 (歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1 (歴史学2)(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	1	養	66
歴史と文化1 (韓国文化各論c)		佐藤 厚	木1	2	養	67
歴史と文化1 (韓国史)		佐藤 厚	金3	2	養	68
歴史と文化1 (ラテンアメリカ研究入門)		佐藤 勘治	月4	1	養	69
歴史と文化1 (恐怖の日本文学)		佐藤 毅	木1	1	13以降入学養	70
	歴史と文化1 (日本文学現代)	佐藤 毅	木1	1	養	70
歴史と文化1 (歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1 (歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	木3	1	免	71
歴史と文化1 (韓国文学史)		沈 元燮	水2	2	13以降入学養	72
歴史と文化1 (歴史学1)(中世の仏教と社会)	歴史と文化1 (歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	菅原 正子	水1	1	13以降入学経・免	73
歴史と文化1 (都市と建築1)	歴史と文化1 (都市と建築2)	鈴木 隆	月2	1	-	74
歴史と文化1 (中国史a)	歴史と文化1 (中国史b)	張 士陽	木4	2	養・免	75
歴史と文化1 (スペイン・ラテンアメリカの文学)		中井 博康	月3	1	-	76
歴史と文化1 (カリブ海域研究)		中村 隆之	水4	2	養	77
歴史と文化1 (スペイン研究入門)		二宮 哲	月5	1	養	78
歴史と文化1 (教育の歴史1)	歴史と文化1 (教育の歴史2)	長谷部 圭彦	木5	2	養	79
歴史と文化1 (日本における死生学)	歴史と文化1 (日本における世間学)	林 英一	火1	1	-	80
歴史と文化1 (民俗学)		林 英一	木1	1	養	81
	歴史と文化1 (地域文化)	林 英一	木1	2	養・法	81
歴史と文化1 (日本文学古典)		福沢 健	月5	1	養	82
	歴史と文化1 (平安時代の文学を読む)	福沢 健	月5	1	13以降入学養	82
歴史と文化1 (文化史入門)		古川 堅治	木2	1	養	83
歴史と文化1 (文化人類学a)	歴史と文化1 (文化人類学b)	松岡 格	金2	1	養	84
歴史と文化1 (歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1 (歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	水2	2	養	85
歴史と文化1 (移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1 (グローバル化と情報・通信の文化史)	水口 章	月4	1	-	86
歴史と文化1 (アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1 (アラブ文化・芸術b)	節岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	養	87
	歴史と文化1 (異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	1	英・養	88
歴史と文化1 (在外日本人研究)		山本 英政	月4	2	13以降入学養	88
歴史と文化1 (英語圏の文化)	歴史と文化1 (英語圏事情)	山本 英政	木2	2	英・養	89
歴史と文化1 (日本文学論・中世 I)		城崎 陽子	水3	1	13以降入学養	90
	歴史と文化1 (日本事情とコミュニケーション教育)	城崎 陽子	水4	1	養	90
現代社会1 (ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養	91
現代社会1 (地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1 (地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	免	92
現代社会1 (シネマで学ぶ法律学)		新井 剛	火3	1	-	93
	現代社会1 (続・シネマで学ぶ法律学)	新井 剛	火4	1	-	93
現代社会1 (現代の企業経営)		有吉 秀樹	水1	1	経	94
現代社会1 (ドイツ地域論)	現代社会1 (ヨーロッパ地域論)	伊豆田 俊輔	月2	1	独	95
現代社会1 (教育法1)	現代社会1 (教育法2)	市川 須美子	木2	2	法	96
現代社会1 (国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1 (国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月3	1	免	97
	現代社会1 (非正規雇用を考える)	市原 博	水1	1	-	98
現代社会1 (History of International Relations I)	現代社会1 (History of International Relations II)	伊藤 兵馬	月3	1	-	99
現代社会1 (マスメディア法)		右崎 正博	火2	1	-	100
現代社会1 (東南アジアの開発と社会)		江藤 双恵	火1	2	13以降入学養	101
現代社会1 (韓国政治論)		呉 吉煥	金1	2	養	102
現代社会1 (地域メディア論)		岡村 圭子	火3	2	養・13以降入学経	103
現代社会1 (異文化間コミュニケーションa)		岡村 圭子	木3	1	養	104
現代社会1 (社会学a)	現代社会1 (社会学b)	岡村 圭子	土1	1	養・免	105
現代社会1 (民法1)	現代社会1 (民法2)	小川 佳子	月2	1	法	106
現代社会1 (日本国憲法)	現代社会1 (日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法・免	107
	現代社会1 (基礎から学ぶマネジメント)	上坂 卓郎	水1	1	経	108
現代社会1 (地理学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1 (地理学2)(世界の自然環境と文化)	北崎 幸之助	金4	1	養・免	109
現代社会1 (経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1 (経済学2)(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	110
現代社会1 (家族と法)		齋藤 哲	月4	1	-	111

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会1 (政治思想と理論、制度)	現代社会1 (政策と政治過程)	佐藤 俊輔	月5	1	－	112
現代社会1 (歴史の中のメディア)	現代社会1 (メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	－	113
現代社会1 (グローバル化を巡って)	現代社会1 (日本の表象と世界)	柴崎 信三	木2	1	12以前入学経	114
	現代社会1 (NGO論)	清水 俊弘	水2	1	養	115
現代社会1 (中国社会と法)		周 劍龍	木3	1	－	116
現代社会1 (経済活動と犯罪)		関根 徹	月2	1	－	117
現代社会1 (社会科学概論1)	現代社会1 (社会科学概論2)	横濱 竜也	金3	1	法	118
現代社会1 (ビジネス法務)		高橋 均	金2	1	－	119
現代社会1 (市民と刑事司法)		徳永 光	金2	1	－	120
	現代社会1 (ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	水4	1	－	121
	現代社会1 (日本国憲法)	野口 健格	月5	1	法・免	122
現代社会1 (中東の社会空間)	現代社会1 (中東政治と市民社会)	水口 章	月5	1	－	123
現代社会1 (消費生活と法)		湯川 益英	木4	1	－	124
自然・環境・人間1 (数学a)	自然・環境・人間1 (数学b)	東 孝博	月2	1	養	125
自然・環境・人間1 (物理学Ⅰ)	自然・環境・人間1 (物理学Ⅱ)	東 孝博	月4	1	13以降入学養	126
自然・環境・人間1 (宇宙論a)	自然・環境・人間1 (宇宙論b)	東 孝博	火1	1	養	127
自然・環境・人間1 (天文学a)	自然・環境・人間1 (天文学b)	内田 俊郎	木4	1	養	128
自然・環境・人間1 (歴史における科学技術1: 西洋近代科学技術の起源)	自然・環境・人間1 (歴史における科学技術2: 日本の近代化と科学技術)	内田 正夫	木4	1	－	129
自然・環境・人間1 (地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1 (地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	－	130
自然・環境・人間1 (科学技術基礎論Ⅰ)	自然・環境・人間1 (科学技術基礎論Ⅱ)	野澤 聡	月2	1	13以降入学養	131
	自然・環境・人間1 (科学技術と社会b)	野澤 聡	水1	1	13以降入学養	132
自然・環境・人間1 (科学技術の言語文化a)	自然・環境・人間1 (科学技術の言語文化b)	野澤 聡	木2	1	－	133
自然・環境・人間1 (科学史a)	自然・環境・人間1 (科学史b)	野澤 聡	金4	1	養	134
自然・環境・人間1 (スポーツ科学概論)		依田 珠江	水1	1	13以降入学養	135
自然・環境・人間1 (私の自由時間設計)		和田 智	金4	1	13以降入学養	136

全学共通実践科目部門

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	ことばと思想2 (談話論)	浅山 佳郎	木4	2	養	137
ことばと思想2 (日本語口頭表現の実践的研究)		飯島 一彦	水1	1	－	138
	ことばと思想2 (碑文を読む)	飯島 一彦	木4	2	養	138
	ことばと思想2 (日本文学作品研究e)	宇津木 言行	火3	2	13以降入学養	139
ことばと思想2 (日本文学作品研究a)		宇津木 言行	火4	2	養	139
ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2 (日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	－	140
ことばと思想2 (ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2 (ラテン語Ⅰb)	小倉 博行	金2	1	－	141
ことばと思想2 (ラテン語Ⅱa)	ことばと思想2 (ラテン語Ⅱb)	小倉 博行	金3	2	－	142
	ことばと思想2 (韓国の言語文化)	金 秀晶	水3	2	養	143
ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅰb)	櫻井 悠美	月3	1	－	144
ことばと思想2 (書き言葉の問題)	ことばと思想2 (話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	－	145
ことばと思想2 (ロマンス語研究入門1)	ことばと思想2 (ロマンス語研究入門2)	島津 寛	木4	2	－	146
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	－	147
ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	ことばと思想2 (プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	－	147
	ことばと思想2 (心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	養・免	148
ことばと思想2 (意味論)		武田 明子	火2	2	養	149
ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2 (英語通訳)(英語通訳の仕事)	渡部 富栄	火3	1	免	150
ことばと思想2 (生活文化の発見)	ことばと思想2 (生活文化の記述)	林 英一	木2	1	－	151
ことばと思想2 (論文を書く)	ことばと思想2 (口頭発表を行う)	福沢 健	月4	1	－	152
ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅱa)	ことばと思想2 (古典ギリシア語Ⅱb)	古川 堅治	水2	2	－	153
ことばと思想2 (ラカン精神分析入門a)	ことばと思想2 (ラカン精神分析入門b)	若森 栄樹	水2	1	－	154
	ことばと思想2 (日本文学作品研究c)	城崎 陽子	水3	2	養	155
ことばと思想2 (写本を読む)		城崎 陽子	水4	2	養	155
歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part I)	歴史と文化2 (Overview of Japanese History and Culture, Part II)	P. ネルム	月5	2	－	156
	歴史と文化2 (日本文化研究a)	飯島 一彦	水1	2	養・法	157
	歴史と文化2 (日本文化研究d)	飯島 一彦	水2	2	13以降入学養	158

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化2 (世界戦争の時代のドイツの政治と文化(1890-1945))	歴史と文化2 (冷戦と地域統合の中のドイツの政治と文化(1945-2000))	伊豆田 俊輔	水1	1	-	159
	歴史と文化2 (日本文化研究b)	宇津木 言行	火4	2	13以降入学養	160
	歴史と文化2 (日韓比較文化論a)	金 熙淑	火4	2	養	161
歴史と文化2 (楽典 (音楽通論)ー楽譜を読み・書くために)	歴史と文化2 (楽典 (音楽通論)ー楽譜を読み・書くために)	木村 佐千子	金3	1	-	162
歴史と文化2 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田 量介	火3	2	養	163
	歴史と文化2 (英語圏の演劇)	児嶋 一男	月3	2	英・養	164
歴史と文化2 (日韓比較文化論b)		小島 優生	木2	2	養	165
	歴史と文化2 (韓国の宗教)	佐藤 厚	金3	2	養	166
歴史と文化2 (能楽論)	歴史と文化2 (能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	1	-	167
歴史と文化2 (イタリアの音楽史)	歴史と文化2 (イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	-	168
歴史と文化2 (詩と音楽4)	歴史と文化2 (詩と音楽6)	園田 みどり	木2	1	-	169
歴史と文化2 (海から見た歴史)	歴史と文化2 (食の歴史と文化)	野澤 丈二	木3	1	-	170
	歴史と文化2 (パリのイメージと文学)	福田 美雪	水1	1	-	171
	歴史と文化2 (Shakespeareとイギリスの俳優たち)	前沢 浩子	火4	2	英・養	172
	現代社会2 (21世紀の外交秘話)	V.シュタンツェル	水4	1	-	173
	現代社会2 (マスメディア法・実践編)	右崎 正博	水3	1	-	174
	現代社会2 (教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	金3	1	養	175
	現代社会2 (韓国研究情報収集法)	金 熙淑	月4	2	養	176
現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	黒子 葉子	火3	1	独	177
	現代社会2 (家族と法・実践編)	齋藤 哲	火3	1	-	178
	現代社会2 (韓国社会論Ⅰ)	佐藤 厚	金5	2	養	179
	現代社会2 (企業と法)	周 劍龍	木3	1	-	180
	現代社会2 (経済活動と犯罪・実践編)	関根 徹	月2	1	-	181
	現代社会2 (ビジネスで理解しておくべき法律用語)	高橋 均	水2	1	-	182
	現代社会2 (市民と刑事司法・応用)	徳永 光	水2	1	-	183
	現代社会2 (自己表現の技法)	花本 広志	月3	1	-	184
現代社会2 (市民社会と法)		花本 広志	金3	1	-	184
現代社会2 (新聞を読む1)	現代社会2 (新聞を読む2)	半田 滋	木2	1	-	185
現代社会2 (インターンシップ)		森永 卓郎	木2	2	-	186
	現代社会2 (韓国社会論)	柳 蓮淑	月4	2	養	187
	現代社会2 (消費者トラブルと法)	湯川 益英	金3	1	-	188
現代社会2 (英文会計入門1)	現代社会2 (英文会計入門2)	湯田 雅夫	木2	1	-	189
現代社会2 (経理入門1)	現代社会2 (経理入門2)	湯田 雅夫	木3	1	経	190
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経・免	191
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経・免	191
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経・免	191
現代社会2 (コンピュータ入門a)	現代社会2 (コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経・免	191
現代社会2 (ホームページ作成)	現代社会2 (ホームページ作成)	和泉 順子	水2	1	養	192
現代社会2 (ホームページ作成)	現代社会2 (ホームページ作成)	久東 義典	火5	1	養	193
自然・環境・人間2 (サイエンスライティングa)	自然・環境・人間2 (サイエンスライティングb)	東 孝博	木4	2	13以降入学養	194
自然・環境・人間2 (統計と調査法)		安間 一雄	水2	2	養	195
自然・環境・人間2 (基礎生物学実験a)	自然・環境・人間2 (基礎生物学実験b)	飯泉 恭一	月2	2	養	196
自然・環境・人間2 (生物学Ⅰ)	自然・環境・人間2 (生物学Ⅱ)	飯泉 恭一	月3	1	13以降入学養	197
自然・環境・人間2 (科学の方法と実験a)	自然・環境・人間2 (科学の方法と実験b)	内田 正夫	木3	2	養	198
自然・環境・人間2 (体育経営スポーツマネジメント)		川北 準人	月3	2	養	199
自然・環境・人間2 (コンピュータと言語)		呉 浩東	月2	1	外・養	200
	自然・環境・人間2 (コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	200
自然・環境・人間2 (情報検索と加工)		黄 海湘	水3	2	養	201
自然・環境・人間2 (データ構造とアルゴリズム論)		黄 海湘	水4	2	13以降入学養	202
自然・環境・人間2 (マルチメディア論)		田中 雅英	火4	2	養	203
	自然・環境・人間2 (人間活動の自然環境への影響のデータからの理解)	中村 健治	水1	1	-	204
自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学a)	自然・環境・人間2 (スポーツコーチ学b)	依田 珠江/松原 裕	木2/水3	2	養	205
	自然・環境・人間2 (からだの仕組み)	依田 珠江	水1	2	13以降入学養	206
自然・環境・人間2 (生理学Ⅰ)	自然・環境・人間2 (生理学Ⅱ)	依田 珠江	木4	1	13以降入学養	207
自然・環境・人間2 (リーダーシップ論)		和田 智	金2	2	養	208

外国語科目群

英語部門(English)

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English(リーディングI a,b) /(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	250
指定された者のみ	English(リーディングI a,b) /(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田 圭子	月 5 火 5	-	251
環・国・総のみ	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	252
経のみ	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	253
Quest Intro利用クラス	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	254
Quest 1利用クラス	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	255
指定された者のみ	English(リスニング I a,b) /(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 木 5	-	256
独・仏・経(13年度以降 入学者)・法のみ	English(リーディング II a,b) /(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	257
指定された者のみ	English(リーディング II a,b) /(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田 麻里	火 5 木 5	-	258
環・国・総のみ	English(ライティング II a,b) /(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	259
独・仏・経(13年度以降 入学者)・法のみ	English(リスニング II a,b) /(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	260
指定された者のみ	English(リスニング II a,b) /(Academic Listening Strategies II a,b)	鷲麗美知 ゴラナ	火 5	-	261
指定された者のみ	English(リスニング II a,b) /(Academic Listening Strategies II a,b)	中西 貴行/J. ラシーン	木 5	-	262
経のみ	English(リーディング III a,b) /(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	263
環のみ	English(テーマ研究a,b) /(English(Selected Topics in Social Sciences a,b)	各担当教員		-	264

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English(留学生I a,b) /(Basic English Skills for International Students I a,b)	本年度休講			
外国人学生・帰国学生	English(留学生II a,b) /(Basic English Skills for International Students II a,b)	本年度休講			

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	飯島 優雅	火 4	環・国・総	265
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤 朋之	木 2	環・国・総	266
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	石月 正伸	金 2	環・国・総	267
	English(ライティングI a,b) /(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑 哲男	金 3	環・国・総	268
Speaking	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 2	経	269
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	D. R. ギブソン	火 4	経	270
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	R. J. パルカ/J. ラシーン	木1/木3	経	271
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. フォー	金 3	経	272
	English(スピーキングI a,b) /(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. A. フルトン	金 4	経	273
	English(スピーキングII a,b) /(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	松岡 昇	月 3	-	274
	English(スピーキングII a,b) /(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウエイ	木 2	-	275
Reading	English(リーディング III a,b) /(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	中西 貴行	火 4	済・営(13年度以降 入学者)	276
e-learning	English(e-ラーニング) /(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田 圭子	火 4	1年生	277

Content-based	English(コンテンツ ii)	/(English Explorations)	J. ラシーン	火 3	TOEIC450点 未満	278
	English(コンテンツ iii)	/(English Explorations)	飯島 優雅	木 3	TOEIC450点 未満	279
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原 伸一	金 4	TOEIC400点 以上	280
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡 昇	月 4	TOEIC400点 未満	281
	English(資格III)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	飯島 優雅	木 2	TOEIC450点 未満	282
	English(資格IV)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	M.クロフォード	火 4	TOEIC450点 未満	283
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田 麻里	木 4	-	284
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷 裕美	金 4	-	284
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下 圭子	火 4	-	285
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	豊田 宣是	木 1	-	286
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	金 4	-	287

外国語科目群

外国語部門(英語以外)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	288
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	289
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	290
(基礎コース)	ドイツ語(IIa,b 基礎)	辻本 勝好	金 2	独	291
(総合コース)	ドイツ語(IIa,b 基礎)	各担当教員		独	292
(総合コース)	ドイツ語(IIa,b 会話)	各担当教員		独	293
	ドイツ語(IIIa,b 会話)	D.H.マッコイ	木 1	独	294
(基礎コース)	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	295
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	296
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	297
(基礎コース)	フランス語(IIa,b 基礎)	F.X.レット	金 4	仏	298
(総合コース)	フランス語(IIa,b 総合J)	各担当教員		仏	299
(総合コース)	フランス語(IIa,b 総合F)	各担当教員		仏	300
	フランス語(IIIa,b)	F.-A.メール	月 3	仏	301
(基礎コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	302
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	303
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	304
(基礎コース)	スペイン語(IIa,b 文法)	鳥原 亮	火 3	養(*1)	305
(総合コース)	スペイン語(IIa,b 文法)	各担当教員		養(*1)	306
(総合コース)	スペイン語(IIa,b 会話)	各担当教員		養(*1)	307
	スペイン語(IIIa,b 講読)	二瓶 マリ子	木 4	養(*1)	308
	スペイン語(IIIa,b 会話)	M.サンチェス	水 2	養(*1)	309
(基礎コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	310
(総合コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	311
(総合コース)	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	312
(基礎コース)	中国語(IIa,b 会話)	張 継英	火 3	養(*2)	313
(総合コース)	中国語(IIa,b 会話)	各担当教員		養(*2)	314
(総合コース)	中国語(IIa,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	315
	中国語(IIIa,b 会話)	柴田 奈津美	水 2	養(*2)	316
	中国語(IIIa,b 講読・文法)	平野 佐和	火 1	養(*2)	317
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	柳 蓮淑	月 2	養(*3)	318
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	金 熙淑	火 2	養(*3)	319
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	金 熙淑	火 3	養(*3)	319
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	水 1	養(*3)	320
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	水 2	養(*3)	320
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	呉 吉煥	金 2	養(*3)	320
(基礎コース)	韓国語(Ia,b 基礎)	沈 民珪	金 3	養(*3)	321
(総合コース)	韓国語(Ia,b 総合1)	各担当教員		養(*3)	322
(総合コース)	韓国語(Ia,b 総合2)	各担当教員		養(*3)	323
(基礎コース)	韓国語(IIa,b 講読・会話)	沈 民珪	金 4	養(*3)	324
(総合コース)	韓国語(IIa,b 総合1)	金 秀晶	金 2	養(*3)	325
(総合コース)	韓国語(IIa,b 総合2)	金 秀晶	金 4	養(*3)	326
	韓国語(IIIa,b 総合3)	柳 蓮淑	月 1	養(*3)	327
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水 4	-	328
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木 3	-	328
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津 寛	土 1	-	329
	外国語(イタリア語IIa,b 基礎)	島津 寛	土 2	-	330
	外国語(ポルトガル語Ia,b 総合)	牧野 真也	金 3	-	331
	外国語(ポルトガル語Ia,b 会話)	牧野 真也	金 4	-	332
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤 毅	水 2	-	333
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西 昌隆	月 4	-	334
	外国語(ロシア語IIa,b 総合)	齊藤 毅	水 3	-	335
	外国語(ロシア語IIa,b 会話)	小西 昌隆	月 3	-	336
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤 双恵	火 3	-	337
	外国語(タイ語IIa,b 文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	-	338
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリマ・エルサムニー	月 3	-	339
	外国語(アラビア語IIa,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリマ・エルサムニー	月 4	-	340
	外国語(現代ヘブライ語Ia,b 基礎)	阿部 望	金 2	-	341
	外国語(トルコ語Ia,b 総合)	未定	木 3	-	342
	外国語(トルコ語Ia,b 会話)	未定	木 4	-	343
	外国語(トルコ語IIa,b 応用)	未定	木 2	-	344

日本語部門

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IAa,b)	小島 小夜子/福田 紀子	月 3	-	345
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IAa,b)	小島 小夜子/福田 紀子	月 4	-	345
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IBa,b)	岩沢 正子/江添 真紀子	水 3	-	346
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IBa,b)	岩沢 正子/江添 真紀子	水 4	-	346
(外国人・帰国学生)	日本語(総合ICa,b)	福田 紀子/石田 ゆり子	金 3	-	347
(外国人・帰国学生)	日本語(総合ICa,b)	福田 紀子/石田 ゆり子	金 4	-	347
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IIa,b)	石田 ゆり子/桂 千佳子	月 4	-	348
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IIa,b)	丸山 具子/北村 淳子	水 1	-	349
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IIa,b)	丸山 具子/岩沢 正子	水 4	-	350
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IIa,b)	野原 ゆかり	金 2	-	351

スポーツ・レクリエーション部門/カテゴリーⅤ 体育科目

科目名(副題)	開講学期	担当教員	曜 時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa,b)	春・秋	和田 智	火 1	1		210
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	秋	和田 智	土 1	1		210
スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーb)	秋	松原 裕	火 3	1		211
スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門a,b)	春・秋	依田 珠江	水 2	1		212
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	重藤 誠市郎	火 2	1		213
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	重藤 誠市郎	火 3	1		213
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 1	1		214
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa,b)	春・秋	松原 裕	金 3	1		215
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 1	1		216
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa,b)	春・秋	小笠原 慶太	金 2	1		216
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa,b)	春・秋	松原 裕	火 2	1		217
スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニングa,b)	春・秋	山口 知恵	月 2	1		218
スポーツ・レクリエーション(サッカーa,b)	春・秋	大森 一伸	火 2	1		219
スポーツ・レクリエーション(サッカーa,b)	春・秋	西川 誠太	金 3	1		220
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	金 1	1		221
スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックスa,b)	春・秋	齋藤 初恵	金 2	1		221
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 1	1		222
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa,b)	春・秋	萩野 元祐	木 2	1		222
スポーツ・レクリエーション(卓球a)	春	今野 廣隆	木 2	1		223
スポーツ・レクリエーション(卓球a,b)	春・秋	神宮司 親治	金 3	1		224
スポーツ・レクリエーション(卓球a,b)	春・秋	山口 知恵	月 1	1		225
スポーツ・レクリエーション(卓球b)	秋	依田 珠江	木 2	1		226
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a,b)	春・秋	今野 廣隆	木 1	1		227
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門a,b)	春・秋	大森 一伸	火 1	1		228
スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門b)	秋	川北 準人	月 3	1		229
スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツa,b)	春・秋	村山 光義	月 3	1		230
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 1	1		231
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	川北 準人	月 2	1		231
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa,b)	春・秋	依田 珠江	木 1	1		232
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	田中 茂宏	木 3	1		233
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	藤野 和樹	水 1	1		234
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	藤野 和樹	水 2	1		234
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa,b)	春・秋	山口 知恵	月 3	1		235
スポーツ・レクリエーション(バレーボールb)	秋	今野 廣隆	木 2	1		236
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa,b)	春・秋	横矢 勇一	金 1	1		237
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa,b)	春・秋	横矢 勇一	金 2	1		237
スポーツ・レクリエーション(フットサルa,b)	春・秋	神宮司 親治	金 1	1		238
スポーツ・レクリエーション(フットサルa,b)	春・秋	西川 誠太	金 2	1		239
スポーツ・レクリエーション(フットサルa)	春	松原 裕	火 3	1		240
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa,b)	春・秋	村山 光義	月 2	1		241
スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	秋	和田 智	火 2	1		242
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 1	1		243
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa,b)	春・秋	内堀 祐子	水 2	1		243
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa,b)	春・秋	板垣 悦子	金 3	1		244
スポーツ・レクリエーション(マットピラティスa,b)	春・秋	板垣 悦子	金 4	1		244
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	火 3	1		245
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	春	和田 智	夏季集中	1		245
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	水 2	1		246
スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	春	和田 智	夏季集中	1		246
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	和田 智	火 2	1		247
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	春	和田 智	夏季集中	1		247
スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	秋	和田 智	土 2	1		248
スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	秋	和田 智	冬季集中	1		248
スポーツ・レクリエーション(コーディネーショントレーニング)	秋	松原 裕	木 3	1		249
スポーツ・レクリエーション(スキー&スノーボード)	秋	松原 裕	冬季集中	1		249
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	依田 珠江	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	松原 裕	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	和田 智	土 1	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	依田 珠江	土 2	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	松原 裕	土 2	1	外・経・法	*
スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	春	和田 智	土 2	1	外・経・法	*

全学共通授業科目 目次（2003年度から2007年度入学者用）

カテゴリーⅠ 全学総合講座

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について）		青山 愛香	木3	1	－	14
全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）		有吉 秀樹	木2	1	－	15
	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	有吉 秀樹	木2	1	－	16
全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）		市原 博	水2	1	－	17
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	岡村 国和	木2	1	－	18
	全学総合講座（メディア社会とロック）	岡村 圭子	火3	1	－	19
全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）		片山 亜紀	火3	1	－	20
全学総合講座（経営者が語る現代企業論1）		上坂 卓郎	火2	1	－	21
	全学総合講座（経営者が語る現代企業論2）	上坂 卓郎	火2	1	－	22
全学総合講座（教えるという仕事）		川村 肇	木3	1	－	23
	全学総合講座（メディアと私たち）	佐藤 勤治	月5	1	－	24
全学総合講座（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）		高松 和幸	金4	1	－	25
	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松 和幸	金4	1	－	26
	全学総合講座（情報社会とルール）	多賀谷 一照	水3	1	－	27
全学総合講座（環境学1）（環境基礎学－自然を見つめる）		中村 健治	火4	1	－	28
	全学総合講座（環境学2）（環境応用学－環境と社会）	中村 健治	火4	1	－	29
全学総合講座（大学における教養教育）		野澤 聡	月4	1	－	30
	全学総合講座（社会の中の科学）	野澤 聡	月4	1	－	31
全学総合講座（獨協学）		町田 喜義	水3	1	－	32
全学総合講座（スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える）		松原 裕	木4	1	－	33
	全学総合講座（文学の原点を考える）	矢羽々 崇	金3	1	－	34
	全学総合講座（クオリティライフのための健康講座）	和田 智	火4	1	－	35
	全学総合講座（自由時間の達人）	和田 智	金4	1	－	36

カテゴリーⅡ 概論科目

春 科目名（副題）	秋 科目名（副題）	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
倫理学a（倫理の基本について考える）	倫理学b（環境と生命の倫理）	市川 達人	火3	1	養	43
倫理学a（倫理学と人間性）	倫理学b（現代倫理学の諸問題）	松丸 壽雄	木4	1	養	54
社会思想史a（市民的社会像の黎明期）	社会思想史b（市民的社会像の確立期）	市川 達人	火4	1	－	44
社会思想史a（東洋古代から近世まで）	社会思想史b（東洋近世から現代まで）	松丸 壽雄	水2	1	養	52
心理学a（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木1	1	－	48
心理学a（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木2	1	－	48
言語学a（一般言語学）		安間 一雄	火3	1	養	38
言語学b（一般言語学）		安間 一雄	金1	1	養	39
	言語学a（個別言語学－英語）	未定	火3	1	養	40
	言語学b（個別言語学－英語）	未定	火4	1	養	41
言語学a（応用言語学）	言語学b（第二言語習得）	臼井 芳子	水1	2	養	46
文学a（恐怖の日本文学）		佐藤 毅	木1	1	－	70
	文学b（癒しの日本文学）	佐藤 毅	木1	1	養	70
文学a（日本文学－奈良時代の文学を読む）		福沢 健	月5	1	養	82
	文学b（日本文学－平安時代の文学を読む）	福沢 健	月5	1	－	82
歴史学a（ヨーロッパ史1）	歴史学b（ヨーロッパ史2）	上村 敏郎	木3	1	－	58
歴史学a（イスラーム世界の成立と拡大）	歴史学b（イスラーム世界の近代化とその後）	熊谷 哲也	木3	1	－	64
歴史学a（アメリカのエスニック・ヒストリー）	歴史学b（アメリカのエスニック・ヒストリー）	佐藤 唯行	木3	1	－	71
歴史学a（中世の仏教と社会）	歴史学b（中世の「悪党」と民衆）	菅原 正子	水1	1	－	73
歴史学a（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	歴史学b（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	張 士陽	木4	2	養	75
歴史学a（「15年戦争」をどうとらえるか）	歴史学b（戦後史の中の「15年戦争」）	丸浜 昭	水2	2	養	85
文化人類学a（未開文化の理解へ）	文化人類学b（未開文化の理解へ）	松岡 格	金2	1	養	84
現代文化論a（グローバリゼーションを巡って）	現代文化論b（日本の表象と世界）	柴崎 信三	木2	1	経	114
比較文化論b（地域メディア論）		岡村 圭子	火3	2	養	103
比較文化論a（東西の文化を結ぶもの）	比較文化論b（東西文化と近代化）	熊谷 哲也	木4	2	－	65

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
経済学a (はじめての経済学)	経済学b (はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	110
日本国憲法 (憲法と私たち)	日本国憲法 (憲法と私たち)	加藤 一彦	火2	1	法	107
	日本国憲法 (憲法と私たち)	野口 健格	月5	1	法	122
国際法a (国際社会と私たち)	国際法b (国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月3	1	－	97
政治学a (政治思想と理論、制度)	政治学b (政策と政治過程)	佐藤 俊輔	月5	1	－	112
社会学a (他者と自己)	社会学b (現代社会の諸問題)	岡村 圭子	土1	1	養	105
地理学a (自然環境と文化)	地理学b (自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	－	92
地理学a (世界の自然環境と文化)	地理学b (世界の自然環境と文化)	北崎 幸之助	金4	1	養	109
	女性学b (ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	水4	1	－	121
スポーツ・レクリエーション学a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう)		和田 智	金4	1	－	136

カテゴリーⅢ 各論科目

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想 (Ⅲ) (外国語としての日本語教育)		石塚 京子	月3	1	養	42
ことばと思想 (Ⅲ) (日本語教材における学習項目の扱い)		小山 慎治	月2	2	養	209
ことばと思想 (Ⅲ) (科学としての心理学とこころの世界)		田口 雅徳	木2	1	養	49
	ことばと思想 (Ⅲ) (通訳・翻訳論)	永田 小絵	木4	2	－	50
歴史と文化 (Ⅲ) (日本文化論)		宇津木 言行	火3	1	養	59
歴史と文化 (Ⅲ) (英語圏の文学文化)		大熊 昭信	金5	1	養	60
	歴史と文化 (Ⅲ) (日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	養	62
歴史と文化 (Ⅲ) (大衆文化論)		木本 玲一	月5	2	養	63
歴史と文化 (Ⅲ) (韓国文化各論c)		佐藤 厚	木1	2	養	67
歴史と文化 (Ⅲ) (ラテンアメリカ研究入門)		佐藤 勘治	月4	1	養	69
歴史と文化 (Ⅲ) (都市と建築1)	歴史と文化 (Ⅲ) (都市と建築2)	鈴木 隆	月2	1	－	74
歴史と文化 (Ⅲ) (スペイン研究入門)		二宮 哲	月5	1	養	78
歴史と文化 (Ⅲ) (教育の歴史a)	歴史と文化 (Ⅲ) (教育の歴史b)	長谷部 圭彦	木5	2	養	79
歴史と文化 (Ⅲ) (民俗学)		林 英一	木1	1	養	81
	歴史と文化 (Ⅲ) (地域文化)	林 英一	木1	2	養・法	81
歴史と文化 (Ⅲ) (文化史入門)		古川 堅治	木2	1	養	83
歴史と文化 (Ⅲ) (移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化 (Ⅲ) (グローバル化と情報・通信の文化史)	水口 章	月4	1	－	86
歴史と文化 (Ⅲ) (アラブ文化・芸術a)	歴史と文化 (Ⅲ) (アラブ文化・芸術b)	師岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	養	87
	歴史と文化 (Ⅲ) (異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	山本 英政	月2	1	英・養	88
歴史と文化 (Ⅲ) (英語圏の文化)	歴史と文化 (Ⅲ) (英語圏事情)	山本 英政	木2	2	英・養	89
	歴史と文化 (Ⅲ) (日本事情とコミュニケーション教育)	城崎 陽子	水4	1	養	90
現代社会 (Ⅲ) (ブラジル研究)		E. ウラノ	火2	2	養	91
現代社会 (Ⅲ) (教育法a)	現代社会 (Ⅲ) (教育法b)	市川 須美子	木2	2	法	96
現代社会 (Ⅲ) (異文化間コミュニケーション)		岡村 圭子	木3	1	養	104
現代社会 (Ⅲ) (民法a)	現代社会 (Ⅲ) (民法b)	小川 佳子	月2	1	法	106
現代社会 (Ⅲ) (歴史の中のメディア)	現代社会 (Ⅲ) (メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	－	113
	現代社会 (Ⅲ) (NGO論)	清水 俊弘	水2	1	養	115
現代社会 (Ⅲ) (社会科学概論a)	現代社会 (Ⅲ) (社会科学概論b)	横濱 竜也	金3	1	法	118
現代社会 (Ⅲ) (中東の社会空間)	現代社会 (Ⅲ) (中東政治と市民社会)	水口 章	月5	1	－	123
自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論a)	自然・環境・人間 (Ⅲ) (宇宙論b)	東 孝博	火1	1	養	127
自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学a)	自然・環境・人間 (Ⅲ) (太陽系天文学b)	内田 俊郎	木4	1	養	128
自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	－	130

カテゴリーⅣ 実践実習科目

春 科目名 (副題)	秋 科目名 (副題)	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
	ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)	飯島 一彦	木4	2	養	138
ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	-	140
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	-	145
ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門2)	島津 寛	木4	2	-	146
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	-	147
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	-	147
	ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	田口 雅徳	木4	2	養	148
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	渡部 富栄	火3	1	-	150
ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	林 英一	木2	1	-	151
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	福沢 健	月4	1	-	152
ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)		城崎 陽子	水4	2	養	155
	歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火4	2	養	161
歴史と文化(Ⅳ)(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)		倉田 量介	火3	2	養	163
歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論b)		小島 優生	木2	2	養	165
歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	1	-	167
歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)	歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	-	168
歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽4)	歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽6)	園田 みどり	木2	1	-	169
歴史と文化(Ⅳ)(海から見た歴史)	歴史と文化(Ⅳ)(食の歴史と文化)	野澤 文二	木3	1	-	170
	現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	金3	1	養	175
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	黒子 葉子	火3	1	独	177
現代社会(Ⅳ)(新聞を読む1)	現代社会(Ⅳ)(新聞を読む2)	半田 滋	木2	1	-	185
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)		森永 卓郎	木2	2	-	186
	現代社会(Ⅳ)(韓国社会論)	柳 蓮淑	月4	2	養	187
現代社会(Ⅳ)(英文会計入門a)	現代社会(Ⅳ)(英文会計入門b)	湯田 雅夫	木2	1	-	189
現代社会(Ⅳ)(経理入門a)	現代社会(Ⅳ)(経理入門b)	湯田 雅夫	木3	1	経	190
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経	191
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	191
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経	191
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	191
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	和泉 順子	水2	1	養	192
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	久東 義典	火5	1	養	193
自然・環境・人間(Ⅳ)(統計と調査法)		安間 一雄	水2	2	養	195
自然・環境・人間(Ⅳ)(体育経営スポーツマネージメント)		川北 準人	月3	2	養	199
	自然・環境・人間(Ⅳ)(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	200
自然・環境・人間(Ⅳ)(情報検索と加工)		黄 海湘	水3	2	養	201
自然・環境・人間(Ⅳ)(マルチメディア論)		田中 雅英	火4	2	養	203
自然・環境・人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学a)	自然・環境・人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学b)	依田 珠江/松原 裕	木2/水3	2	養	205
自然・環境・人間(Ⅳ)(リーダーシップ論)		和田 智	金2	2	養	208

外国語科目

英語科目

外国語学部英語学科・国際教養学部の学生は、下記の英語科目を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
再履修クラス	English 111-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	250
再履修クラス(国のみ)	English 121-a,b Basic Composition	各担当教員		-	252
再履修クラス	English 141-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	254
再履修クラス	English 211-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	257
再履修クラス(国のみ)	English 221-a,b Basic Composition	各担当教員		-	259
再履修クラス	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	260

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English 110-a,b Introductory Reading Strategies	本年度休講			
外国人学生・帰国学生	English 211-a,b Basic Reading Strategies	本年度休講			

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English 121-a,b Basic Composition	飯島 優雅	火 4	国	265
	English 121-a,b Basic Composition	遠藤 朋之	木 2	国	266
	English 121-a,b Basic Composition	石月 正伸	金 2	国	267
	English 121-a,b Basic Composition	高畑 哲男	金 3	国	268
Speaking	English 131-a,b Basic Communicative English	W. ヘイ	月 2	-	269
	English 131-a,b Basic Communicative English	D. R. ギブソン	火 4	-	270
	English 131-a,b Basic Communicative English	R. J. パルカ/J. ラシーン	木1/木3	-	271
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. フォー	金 3	-	272
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. A. フルトン	金 4	-	273
	English 231-a,b Basic Communicative English	松岡 昇	月 3	-	274
	English 231-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 2	-	275
Reading	English 211-a,b Basic Reading Strategies	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	257
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	中西 貴行	火 4		276
Listening	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	260
e-learning	English 351 Computer-Assisted English Learning	岡田 圭子	火 4	-	277
Basic Grammar	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	垣下 圭子	火 4	-	285
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	豊田 宣是	木 1	-	286
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池 武	金 4	-	287

外国語科目

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 Ia.b(基礎)	各担当教員		独	288
(総合コース)	ドイツ語 Ia.b(基礎)	各担当教員		独	289
(総合コース)	ドイツ語 Ia.b(会話)	各担当教員		独	290
(基礎コース)	ドイツ語 II a.b(基礎)	辻本 勝好	金 2	独	291
(総合コース)	ドイツ語 II a.b(基礎)	各担当教員		独	292
(総合コース)	ドイツ語 II a.b(会話)	各担当教員		独	293
	ドイツ語 III a.b(会話)	D.H.マツコイ	木 1	独	294
(基礎コース)	フランス語 Ia.b(基礎)	各担当教員		仏	295
(総合コース)	フランス語 Ia.b(総合J)	各担当教員		仏	296
(総合コース)	フランス語 Ia.b(総合F)	各担当教員		仏	297
(基礎コース)	フランス語 II a.b(基礎)	F.X.レット	金 4	仏	298
(総合コース)	フランス語 II a.b(総合J)	各担当教員		仏	299
(総合コース)	フランス語 II a.b(総合F)	各担当教員		仏	300
	フランス語 III a.b	F.-A.メール	月 3	仏	301
(基礎コース)	スペイン語 I a.b(文法)	各担当教員		養(+1)	302
(総合コース)	スペイン語 I a.b(文法)	各担当教員		養(+1)	303
(総合コース)	スペイン語 I a.b(会話)	各担当教員		養(+1)	304
(基礎コース)	スペイン語 II a.b(文法)	葛原 亮	火 3	養(+1)	305
(総合コース)	スペイン語 II a.b(文法)	各担当教員		養(+1)	306
(総合コース)	スペイン語 II a.b(会話)	各担当教員		養(+1)	307
	スペイン語 III a.b(講読)	二瓶 マリ子	木 4	養(+1)	308
	スペイン語 III a.b(会話)	M.サンチェス	水 2	養(+1)	309
(基礎コース)	中国語 I a.b(会話)	各担当教員		養(+2)	310
(総合コース)	中国語 I a.b(会話)	各担当教員		養(+2)	311
(総合コース)	中国語 I a.b(講読・文法)	各担当教員		養(+2)	312
(基礎コース)	中国語 II a.b(会話)	張 継英	火 3	養(+2)	313
(総合コース)	中国語 II a.b(会話)	各担当教員		養(+2)	314
(総合コース)	中国語 II a.b(講読・文法)	各担当教員		養(+2)	315
	中国語 III a.b(会話)	柴田 奈津美	水 2	養(+2)	316
	中国語 III a.b(講読・文法)	平野 佐和	火 1	養(+2)	317
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	柳 蓮淑	月 2	養(+3)	318
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	金 熙淑	火 2	養(+3)	319
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	金 熙淑	火 3	養(+3)	319
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	呉 吉煥	水 1	養(+3)	320
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	呉 吉煥	水 2	養(+3)	320
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	呉 吉煥	金 2	養(+3)	320
基礎コース	朝鮮語(Ia.b 基礎)	沈 民珪	金 3	養(+3)	321
総合コース	朝鮮語(Ia.b 総合1)	各担当教員		養(+3)	322
総合コース	朝鮮語(Ia.b 総合2)	各担当教員		養(+3)	323
基礎コース	朝鮮語(II a.b 講読・会話)	沈 民珪	金 4	養(+3)	324
(総合コース)	朝鮮語(II a.b 総合1)	金 秀晶	金 2	養(+3)	325
(総合コース)	朝鮮語(II a.b 総合2)	金 秀晶	金 4	養(+3)	326
	イタリア語 I a.b	園田 みどり	水 4	-	328
	イタリア語 I a.b	園田 みどり	木 3	-	328
	イタリア語 I a.b	島津 寛	土 1	-	329
	イタリア語 II a.b	島津 寛	土 2	-	330
	ポルトガル語 I a.b(総合)	牧野 真也	金 3	-	331
	ポルトガル語 I a.b(会話)	牧野 真也	金 4	-	332
	ロシア語 I a.b(総合)	齊藤 毅	水 2	-	333
	ロシア語 I a.b(会話)	小西 昌隆	月 4	-	334
	ロシア語 II a.b(総合)	齊藤 毅	水 3	-	335
	ロシア語 II a.b(会話)	小西 昌隆	月 3	-	336
	タイ語 I a.b(会話)	江藤 双恵	火 2	-	337
	タイ語 II a.b(文字の読み書き)	江藤 双恵	火 3	-	338
	アラビア語 I a.b(会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	-	339
	アラビア語 II a.b(読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 4	-	340
	現代ヘブライ語 I a.b	阿部 望	金 2	-	341
	古典ギリシア語 I a.b	櫻井 悠美	月 3	-	144
	古典ギリシア語 II a.b	古川 堅治	水 2	-	153
	ラテン語 I a.b	小倉 博行	金 2	-	141
	ラテン語 II a.b	小倉 博行	金 3	-	142

全学共通授業科目以外(外国人学生用科目)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	小島 小夜子/福田 紀子	月 3	-	345
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	小島 小夜子/福田 紀子	月 4	-	345
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	岩沢 正子/江添 真紀子	水 3	-	346
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	岩沢 正子/江添 真紀子	水 4	-	346
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	福田 紀子/石田 ゆり子	金 3	-	347
(外国人・帰国学生)	日本語 I a.b	福田 紀子/石田 ゆり子	金 4	-	347
(外国人・帰国学生)	日本語 II a.b	石田 ゆり子/桂 千佳子	月 4	-	348
(外国人・帰国学生)	日本語 II a.b	丸山 具子/北村 淳子	水 1	-	349
(外国人・帰国学生)	日本語 II a.b	丸山 具子/岩沢 正子	水 4	-	350
(外国人・帰国学生)	日本語 II a.b	野原 ゆかり	金 2	-	351

(春)	全学総合講座(芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割について)	担当者	青山 愛香
講義目的		授業計画	
みなさんにとって、芸術はどのような存在でしょうか。普段意識しないだけで、それは案外身近にあるものかもしれません。 この講義では、芸術を仕事にして、第一線で活躍する講師陣の話を聞きながら、アートがこれまで社会とどのように深く結びつき、展開してきたのか、改めて一緒に考えることを目的としています。		① <u>イントロダクション</u> 青山愛香（本学ドイツ語学科准教授） ② 村田朋泰（映像作家／トモヤスムラタカンパニー） ③ <u>ハンセン療養所における芸術活動</u> 金貴粉（国立ハンセン病資料館 学芸員） ④ <u>旧石器時代洞窟壁画：氷河期ヨーロッパの美術と社会</u> 五十嵐ジャンヌ（東京芸術大学美術研究科非常勤講師） ⑤ <u>アイ・ウェイ・ウェイは謝らない</u>（映画） 青山愛香	
講義概要		⑥ <u>美術館で情報専門職が果たすべき役割とは？</u> 川口雅子（国立西洋美術館アートディレクション） ⑦ <u>獨協大学のみなさんにとってアートが必要なわけ</u> 山本美知子（湘南台画廊 ディレクター） ⑧ <u>カレンダーと西洋絵画</u> 阿部明日香（本学専任講師） ⑨ <u>ゲームとしての芸術</u> 木村太陽（美術家） ⑩ <u>韓国音楽 — 静と動の世界</u> 山本華子（洗足学園大学非常勤講師） ⑪ <u>社会の芸術 — 社会の課題と芸術の関わり</u> 神野真吾（千葉大学准教授） ⑫ <u>個人的なこと＝政治的なこと</u> 山川冬樹（ホーメイ歌手／アーティスト） ⑬ <u>文学と政治的現実</u> 渡部重美（本学教授） ⑭ <u>総括①</u> 青山愛香 ⑮ <u>総括②</u> 青山愛香	
到達目標			
現在日本でアートに関わり、創作活動や教育機関、美術館等において活躍する講師陣に、ご自分の仕事についてお話頂きます。 例えば、美術館やギャラリーについてはこれまで知らなかった現場の様子を知る事になるでしょう。 また、創作活動に携わるアーティストに直に接することで、芸術がより一層身近に感じられはらずです。美術や文学を研究する専門家からは、さまざまな側面から幅広い時代の芸術と社会のあり方についてご講義頂く予定です。			
事前・事後学修の内容			
授業で聞いたことを元に、自分でも関連テーマについて調べることが求められる。			
受講生への要望			
毎回様々なジャンルで活躍しているゲストの方々のお話を聞きます。自分の視野を広げるために、積極的に質疑応答の際には参加して下さい。			
評価方法			
毎回のコメントペーパーと学期末の筆記試験で評価。第一回目のイントロダクションには必ず参加して、詳細を確認すること。			
テキスト、参考文献			
適宜授業中に指示する。			

(春)	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディング I）	担当者	有吉 秀樹
講義目的		授業計画	
本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。 <u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u>		1. ガイダンスと受講上の注意 2～14. 外部講師による講話 15. 確認テスト	
講義概要			
講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
形ばかりの出席ではなく、事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。			
受講生への要望			
学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。			
評価方法			
評価は授業への参加度と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。			
テキスト、参考文献			
有吉秀樹編著 『自分の「軸」を作る セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』 中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。			

(秋)	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉 秀樹
講義目的		授業計画	
本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。 <u>尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。</u>		1. ガイダンスと受講上の注意 2～14. 外部講師による講話 15. 確認テスト	
講義概要			
講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの1年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2年生以上の受講も歓迎する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
形ばかりの出席ではなく、事前に該当講師が執筆した教科書中の章を熟読するなど、主体的・能動的に講義に参加することを強く望む。			
受講生への要望			
学外の方を迎えての講義である以上、礼節と緊張感をもって臨むこと。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。			
評価方法			
評価は授業への参加度と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。			
テキスト、参考文献			
有吉秀樹編著 『自分の「軸」を作る セルフブランディング～経験に学ぶ戦略的キャリアの形成』 中央経済社を使用する。受講決定者は必ず購入すること。各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。			

(春)	全学総合講座(働くための基礎知識—知って得する労働問題)	担当者	市原 博
講義目的		授業計画	
アベノミクスによる景気回復が声高に言われる中でも、雇用をめぐる状況は深刻なままである。雇用が増加したと言っても、増えたのは非正規の人びとだけであるし、最近では「ブラック企業」問題が注目を集めていることに象徴されるように、正社員の厳しい労働の在りかたへの不安から正社員への移行を希望しない非正規社員さえ出現してきていると言われる。 大学生の就職状況は改善してきていると言われるが、企業による選抜は厳しさを増している。 こうした時代に生きて行く学生諸君には、雇用問題への正しい知識が必要不可欠である。本講義では、「働く」ことをめぐる様々な問題に多様な切り口から接近し、これからの産業社会で生きて行く若者に必要な知識を与えるとともに、雇用をめぐる問題が我々の生活にどのように係っているのかを考える。		以下のようなスケジュールを予定しているが、論題や講義の順番は変更する場合がある。 1. ガイダンス 2. 労働法の基礎知識(1) 3. 労働法の基礎知識(2) 4. 少子化対策を考える—共働き社会の課題 5. 労使関係論(1) 経営側からみて 6. 労使関係論(2) 労働側からみて 7. 政策制度への取り組み—政府に対する要求 8. 公務員の世界 9. 労働組合の一年 10. 社会保障制度—高齢化社会を迎えて 11. 労働安全衛生—メンタルヘルスを含む 12. 『全契約社員の正社員化』はなぜ実現したのか—広島電鉄労働組合の事例 13. ILOと労働CSR 14. ブラック企業問題への対応 15. まとめ	
講義概要			
講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合や経営者団体の関係者、弁護士、労働・社会保障研究者等、社会の各方面でご活躍の多様な第一級の講師の方々から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。			
受講生への要望			
社会の各方面でご活躍の高名な先生方にお話いただくので、私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないようにすること。 遅刻・途中退室は認めない。			
評価方法			
原則としてレポートにより評価する。			
テキスト、参考文献			
各回の講義において紹介する。			

(春) (秋)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事)	担当者	岡村 国和
講義目的		授業計画	
この講義の目的は、大学生活4年間を通じて人間形成をどのように考え、進めて行くかについて学ぶことにあります。1年次にその出発点を置き、4年間でどのように実現して行くかを計画することが大切です。 獨協大学の建学の精神「大学とは、学問を通じての人間形成の場である」(天野貞祐先生)に基づいて、学問、部活、交友に、時にはアルバイトにと、メリハリのある大学生活を送っていただきたいと思います。 社会人は「決められた期間内で如何に目的を達成するか」を問われます。自分は大学生活の4年間で何が学べたのか？また何が達成できたのか？を胸を張って言えるようになっていただきたいと思います。 社会には本当にさまざまな就業環境があります。そこで、当面の目標としては、まず働くとは何か？からはじめ、さまざまな業界経験者の貴重な体験談を聞いて自分を深めていくことを目指します。		(春学期) 1 進路を考える時に大切なこと オリエンテーションとお願い 2 1年生の今、なすべきこと 3 OBが語る「キャンパスライフの活かし方」 4 自己理解・自己表現 5 企業で働く 企業が学生に求めるもの 6 社会が求める人材とは？ 7 いのちの大切さについて考える 8 男女共同参画について 9 キャンパスライフと公務員の仕事 10 ジャーナリズムの世界 (海外で働く) 11 プロが語る「笑顔の大切さ」 12 発掘で学ぶ 考古学から見た世界 13 マスコミの世界 (活躍する本学OBに聞く) 14 これまでのまとめ(1) 15 これまでのまとめ(2) 講義は上記のスケジュールで進めて行く予定ですが、講師の先生方のご都合によっては回が前後する場合や講師の先生の変更があることがあります。 (秋学期) 春学期の授業計画と内容はほぼ同じですが、順序が変わる場合があります。 一部講義のテーマが変更になる可能性があります。 講師の先生のご都合により、講師の先生や開講日が替わる場合があります。 以上の点につきご理解下さい。	
講義概要			
自分はどのようなキャンパスライフを送りたいのか。社会に出て働くとは自分にとってどういうことか。自分はどのような職業に就きたいのか、また企業はどのような学生を望んでいるのか、について各講師の先生方のお話を聞いて自分なりに考えて下さい。 多くの場合、答えは各人によって異なると思います。まずは自分の人生観を確立できるようにさまざまな経験を積んで下さい。講師の先生の話から追体験することも大切です。 右の講義スケジュールにあるように、内容的にはバラエティーに富んでいて、貴重なお話がたくさん聞けると思います。毎回の講義の要点をまとめておくと、後で必ず財産になると思いますので、是非実践して下さい。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
自分は今何がしたいのか？どうすれば夢が叶うのか？コミュニケーション能力とは何か？などを考えつつ講義に参加して下さい。また、各講義の論点をまとめておく様に心がけて下さい。			
受講生への要望			
外部の講師の先生のお話を聞くことが中心ですので、獨協大学生としてのマナーを心がけて下さい。			
評価方法			
授業への参加度、毎回の講義に対するレポート、および期末レポートで評価します。			
テキスト、参考文献			
必要な資料は各講義時に配布します。			

(秋)	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村 圭子
講義目的		授業計画	
「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していったほしい。 たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（Jポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。 観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。この機会を十分に活かしてほしい。		1. オリエンテーション 2. メディアの発達とロックの進化1 ——ロック誕生の瞬間から現在まで プロデューサー・作詞家・ミュージシャン サエキけんぞう 3. メディアの発達とロックの進化2 ——ロックの変革者たち 同上 4. アニメが飲み込むロック ——世界を席卷するアニメ文化のグローバル性 音楽評論家 富田明宏 5. J ポップ論 音楽評論家 青木 優 6. 日本のロック・海外進出史 サエキけんぞう 7. ロックフェスティバル考 ——ロックが生み出す消費の現場 同上 8. ロックカルチャーとファッション 同上 9. ワールドクラブカルチャー論 音楽評論家 サラーム海上 10. テクノ音楽と世界 音楽評論家 小暮秀夫 11. グループサウンズ論 ——異形の和製ポップスがもたらしたもの 音楽評論家 中村俊夫 12. ロックとアイドル文化 ミュージシャン 掟ポルシェ 13. ヒップホップ論 ミュージシャン 高木 完 14. 越境する音楽 音楽評論家 北中正和 15. まとめ ！注意！ 上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。	
講義概要			
初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。 講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。 講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
自分の知っている「ロック」文化について調べておく。			
受講生への要望			
1) 自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。 2) 初回オリエンテーションには必ず参加すること。			
評価方法			
授業への積極性（50%） 期末試験（50%）			
テキスト、参考文献			
サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社			

(春)	全学総合講座（ジェンダーで眺めてみれば）	担当者	片山 亜紀
講義目的		授業計画	
この講座では、ジェンダーの視点から、LGBTの人たちと、LGBTの人たちを取り巻く社会について考えます。ジェンダーとは男はこう、女はこうという社会の決まりごとのこと、LGBTとはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人たちの総称で、セクシュアル・マイノリティともいいます。昨年は渋谷区の同性パートナーシップ条例が話題になったので、みなさんもその際にLGBTという言葉を目にしたかもしれません。 LGBTの人たちを取り巻く社会状況は、ジェンダーと深い関係にあり、LGBTの人たちの歴史は、女性解放運動や男性解放運動（メンズリブ）の歴史とときに重なり合い、ときにぶつかりあっています。この講義では、そんな歴史状況を振り返ることからはじめ、現在のLGBTの人たちが直面している問題について学び、これからの社会をどう変えていけばいいのか、LGBTの人たちは何を望んでいるのか、そして「マジョリティ」の側の多数派の人たちはどうしたらいいのかを研究者、作家、活動家の方々を招いて考えます。		1. フェミニズム運動とジェンダーの視点（片山亜紀） 2. フェミニズム運動とLGBT（片山） 3. 男性運動／男性学とジェンダー(1)（加藤敦也さん） 4. 男性運動／男性学とジェンダー(2)（加藤さん） 5. 学校教育の中のLGBT（渡辺大輔さん） 6. LGBT への人々のまなざし（北原みのりさん） 7. 中間まとめ（片山） 8. トランスジェンダーと社会(1)（遠藤まめたさん） 9. 日本近現代文学の中のLGBT (1)（黒岩裕市さん） 10. 日本近現代文学の中のLGBT (2)（黒岩さん） 11. トランスジェンダーと社会(2)（遠藤さん） 12. LGBT とライフスタイル (1) (飯塚信吾さん、藤部荒術さん) 13. LGBT とライフスタイル (2)（飯塚さん、藤部さん） 14～15. 全体まとめ（片山）	
講義概要			
・オムニバス形式で、研究者、作家、活動家の方々を講師としてお招きして、お話を伺います。 ・受講者のみなさんには、各回の講義をメモを取ってまとめつつ、他の回の講義とも結び合わせつつ、聴講していただきます。毎回の講義の最後には、こちらから「問い」を提示するので、その「問い」に答える形でレポートを書いてもらいます。 ・新しい概念は、新しい考え方の枠組みへの入り口。講義で自分の知らなかった概念が出てくるとき、どんな意味なのかをその都度確認してください。学期末試験では、講義中に出てきた概念を正確に理解しているか、概念を使いこなして論述ができるかどうかを評価します。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
関連文献を読んでおくこと。 レジュメをよく理解しておくこと。			
受講生への要望			
講義初回で説明する受講ルールを守ってください。守れない学生には退出していただきます。			
評価方法			
毎回の授業内レポート 3割 学期末試験 7割 ただし5回を越えて欠席した場合、評価対象としません。			
テキスト、参考文献			
講義内で適宜紹介します。			

(春)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	上坂 卓郎
講義目的		授業計画	
この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業を取り上げられる。 講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。 なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、時に専門用語も頻繁に使用される。 春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。		第1回 会社の仕組みとグローバル経営 第2回 地方銀行ビジネスの現状と課題 第3回 医薬品産業の難しさ・面白さ 第4回 家庭用品メーカー 花王の成長戦略 第5回 リースと不動産ビジネスの概要 第6回 食品業界の動向と今後の戦略 第7回 コンビニ業界の成長と今後の課題 第8回 保険ビジネスの現状と課題 第9回 タイヤ産業の世界トップ企業 ブリヂストン強さの秘密 第10回 日本のツーリズム 第11回 出版業界の最近の動向 第12回 広告業界の動向 第13回 情報サービス産業の雄 リクルートの成長の仕組み 第14回 都市銀行業界の現状と今後 第15回 産業構造の変化と職業選択	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。 概ね1年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。		※開講日程、内容は若干変更の可能性はある。	
受講生への要望			
- 遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。 - 授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う4年生は注意すること。 - ノートを必ずとること。試験に不可欠である。 - 真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。			

(秋)	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	上坂 卓郎
講義目的		授業計画	
経営者が語る現代企業論 1 に続く講義である。講師陣は春学期と異なる。秋学期から受講しても支障ない。 この講義は、企業のトップマネジメント経験者が業界事情や企業経営の実務をやさしく講義するものである。広範な業種の企業が取り上げられる。 講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ意義を発見したり、将来の職業選択のヒントを見つける契機となる授業である。 なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっているが、専門用語は頻繁に使われる。 春と秋学期は講師陣、内容が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。		第 1 回 科学の発見とビジネスの創造 第 2 回 生命科学での発見と医薬品開発（再生医療の実用化） 第 3 回 インターネットビジネス（IoT による事業機会の創出） 第 4 回 鉄と社会（地球温暖化への取り組み） 第 5 回 化学技術と素材革命（炭素繊維の開発） 第 6 回 エレクトロニクスと製品開発（半導体、液晶技術） 第 7 回 コンピュータの発達とビジネスの変化 第 8 回 自動車の未来（ハイブリッドと水素自動車） 第 9 回 交通システムとインフラ輸出（鉄道車両、運行システムの輸出） 第 10 回 水と生活（海水の淡水化技術） 第 11 回 世界の食糧と人口問題 第 12 回 エネルギー問題（化石燃料とソフトエネルギー） 第 13 回 電力問題の将来 第 14 回 IT 技術の進展と情報化社会 第 15 回 数理科学の進歩と金融革命（新しい金融商品とリスク管理） ※開講日程、内容は若干変更の可能性はある。	
講義概要			
講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。 概ね 1 年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。 毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。 講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
事前学修としては業界地図や会社四季報などをみること。事後学修としては、配布された資料を基にノートを整理することと専門知識など理解できなかったことを調べる。			
受講生への要望			
・遅刻・途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。 ・授業の性格上独習はできない。特に就職活動を行う 4 年生は注意すること。 ・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。 ・真摯な態度で受講すること。			
評価方法			
定期試験のみで行う。欠席の多い受講者は評価しない。なお追試、レポートは行わないので注意すること。			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。			

(春)	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村 肇
講義目的		授業計画	
教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。 また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。		1 ガイダンス テレビ東京制作「星空の中学生とともに」 2 松崎運之助（元夜間中学教諭） 「学ぶとは何か 夜間中学校を中心に」 3 遠藤芳男（元定時制高校教諭） 「定時制高校の国語 詩の授業」 4 白鳥勲（さいたま教育文化研究所） 「貧困社会の教育（1）子どもを支える」	
講義概要			
教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。 お招きするのは、埼玉県内外の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生、総勢12名の先生方を予定しています。 それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話いただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。 みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。		5 窪岡文男（テレビ・ディレクター） 「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」 6 岩田彦太郎（中学校教諭） 「教師の仕事 教師の労働実態」 7 宮下与兵衛（首都大学東京特任教授） 「生徒の学校参加 三者協議会の取り組み」 8 関口武（小学校教諭） 「小学校の生活指導 一年間の実践構想」 9 菊池恵子（立教大学非常勤講師） 「中学校の教科指導（1）英語を教える」	
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。		10 小堀俊夫（元中学校教諭） 「中学校の教科指導（2）社会科を教える」	
事前・事後学修の内容			
テキストを読んで自分の考えをまとめておいてください。		11 森達（中学校教諭） 「大震災と教育 復興の現状と学校の課題」 12 奈須恵子（立教大学教授） 「多文化教育と学校」	
受講生への要望			
教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。 積極的、意欲的に参加してください。		13 中村悌一（さいたま教育文化研究所） 「中学校の生活指導 いじめと不登校」	
評価方法			
毎回の授業レポート（学んだこと、20行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で3～4枚）と併せて評価します。		14 川村 「体罰を考える」 15 川村 「講義のまとめ」	
テキスト、参考文献			
高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）。その他、配布プリント類によります。 参考文献は、授業中適宜紹介します			

(秋)	全学総合講座（メディアと私たち）	担当者	佐藤 勘治
講義目的		授業計画	
メディアは急速な発展を遂げる一方、メディアに対する政治的な圧力が強まっていることが伝えられています。 そうした中で、私たちはメディアとどう向き合えばいいのでしょうか。また、ソーシャルメディアの発達によって、情報を発信する側にもいる私たちは、どのようにそれを用いていけばいいのでしょうか。 本講義では、メディアと関わりの深いゲスト・ティーチャーにメディアの現場と仕事の実情について語ってもらい、学生間の討論を通じて考えを深めていくことを目的とします。		1. ガイダンス 2. 新聞論説委員（本学非常勤講師／東京新聞・半田滋） 「自衛隊の「軍隊」化が呼び込む報道統制」 3. 元テレビディレクター（元 NHK・永田浩三） 「テレビメディアと政治権力」 4. テレビアナウンサー（日テレ・井田由美） 「女性アナウンサーの仕事の変遷」 5. 学生間討論（1）（国際教養学部・川村肇） 6. ネットニュース（頼和太郎） 「米軍基地情報の発信について」	
講義概要		7. 元テレビディレクター（元日テレ・窪岡文男） 「ドキュメンタリー制作の現場からテレビを考える」 8. 報道局（日テレ・原井聡明） 「テレビ報道と取材の基本」 9. 学生間討論（2）（国際教養学部・川村肇） 10. 新聞記者（朝日新聞・河原理子） 「取材するということ」 11. テレビディレクター（交渉中） 「伝えるということ」	
到達目標		12. 映像クリエイター（笠原衛） 「映像をつくるということ・映像の読み方」 13. 学生間討論（3）（国際教養学部・川村肇）	
事前・事後学修の内容		14. 講義のまとめ（1） 15. 講義のまとめ（2）	
講師が紹介する文献や資料を自主的に集めて読み進めてください。		*講義の順序は変更になることがあります。	
受講生への要望			
活発な意見交換が不可欠の授業です。ただ講義を聴いているだけではあまり参加する意義がありません。			
評価方法			
毎回提出する授業レポート用紙の記述内容と、学生間討論での貢献度、最終レポートにより総合的に判断します。			
テキスト、参考文献			
配付された資料、適宜紹介する文献や資料を読み進めてください。			

(春)	全学総合講座 (NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	担当者	高松 和幸
講義目的		授業計画	
企業の社会貢献や NPO 活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。 解題:「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、その地域のために、今こそ、企業・行政・市民が共働して、課題解決をしなければならない」 そこで企業独自の視点やNPO独自の展開などを、公共的な空間(場)に根ざしたものとして行政も含めて市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。		1. ガイダンス 高松和幸 2. 地域資源を活用！地域イノベーターを生み出すまちづくり NPO 法人 a t a m i s t a 代表理事 市来広一郎 3. ソーシャルプロジェクトをデザインして社会を変える「道のカフェ」の現場より 復興支援プロジェクト「道のカフェ」プロデューサー ベルベット・アンド・カンパニーLLC代表 谷中修吾 4. 歴史に学ぶ～心の壁を打ち破れ！ NHK エンタープライズ プロデューサー 菊池正浩	
講義概要		5. NPO と企業 一般社団法人 CSO ネットワーク 事務局長 黒田かをり 6. ふじみの国際文化センターの活動 ふじみの国際交流センター 理事長 石井ナナエ 7. NPO 活動 出会いとつながり NPO 法人 とよあしはら 事務局長 山本裕隆 8. 異彩を放つ小さな町からのメッセージ NPO 法人オペラ彩 理事長 和田タカ子 9. 環境 NPO とソーシャルビジネス エコアパートプロジェクトチーム プロデューサー 平田裕之 10. 防災分野で社会に、そして世界に挑む NPO 法人プラス・アーツの軌跡 NPO 法人プラス・アーツ 理事長 永田宏和 11. 社会貢献と人生とオペラ 株式会社 M41 代表取締役社長 鈴木寿雄 12. 美しい姿勢や歩き方、オーラの作り方 トータルビューティーアドバイザー 亜耶巴ネッサ 13. 社会的起業紙製飲料容器「カートカン」 森を育む紙製飲料容器普及協議会 チーフプロデューサー 世木田大介 14. 地域の人と人の“きずな”づくりを目的とした参加型 インターネットTV「きずな. TV」 安心安全ネットワークきずな代表理事 上杉真由美 15. 2020 東京オリ・パラ成功に向けて NPO・ボランティアのあり方を考える 観光マーケティング研究所 所長 岡 冬彦	
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
(事前) 社会の様々な出来事・教養・ (事後) NPO等で活躍する現場を理解する			
受講生への要望			
- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。 - 遅刻は認めない。			
評価方法			
質問回数やレポート等の総合評価			
テキスト、参考文献		上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。	
その都度、指示する			

(秋)	全学総合講座（地域活性化システム論ーこれからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松 和幸
講義目的		授業計画	
地域活性化をキーワードに、地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面、社会諸資源の面から取上げる。地域活性化システム論では、地域やまちの置かれている状況やそのまちが持っている潜在力とは何かについて考え、様々な取組事例を紹介する。また講義では分かりやすく行うとともに、各都道府県の市町村が、いずれも地域の創意工夫にあふれた取組みをしており、どのような取組みが地域特性となるかも垣間見ることになる。それを支援するという意味では共通しており、それぞれの地域が相対化されることで、支援枠組みを利用した地域活性化をしようというのが期待されている。 本講義では、こうした取組みについて、講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学ぶ唯一の授業である。		1. ガイダンス 高松和幸 わが国の地域活性の現状と課題 自治体政策リサーチャー 小口進一 2. 食と文化の開運めぐり 絵馬師・和風画家 永崎ひまる 3. 良好な市街地形成を誘導するシステム 横浜市立大学 准教授 中西正彦 4. 地域の誇り・愛着を醸成・発信する 創造都市の視点から 横浜市立大学 教授 鈴木伸治 5. 安全・安心なまちづくり 防災によるまちづくりの視点から 横浜市立大学 准教授 石川永子 6. 災害復旧・復興の原点 日本の十八世紀初頭 日本史学者 日本の災害研究家 北原糸子 7. 持続的に地域に関わり地域の持続性を高めるとのこと 株式会社トビムシ 代表取締役 竹本吉輝 8. 地域プロデューサーがつくる地域ブランド 日本作家協会事務局長 廣川州伸 9. 地域活性を考える アベノミクスと地域創生 国土交通省大臣官房審議官 舘 逸志 10. 自分自身が活性化するために。 新企画「せかい！動物環境会議」プロジェクトの実践 株式会社ヌールエ 代表取締役 筒井一郎	
講義概要			
この科目は様々な機関の協力を得て実施している講義である。 具体的な事例や施策などを取り上げることで、具体例を通して例示しながら講義する。 個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが、わが国の地域活性化の最先端の課題を中心に、テーマ設定を行っている。 この結果、地域の中で起きている様々な事例を通して、地域の実情が理解できると共に、地域の課題についての新たな認識と共に、自分が住んでいる地域や将来住むかもしれない地域の可能性に関して、示唆に富んだ内容が展開される。 この講義を通じて、地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。		11. プロスポーツチームと地域活性化 千葉ジェッツ 執行役員 梶原 健 12. ローカル線は心の栄養剤 いすみ鉄道株式会社 代表取締役社長 鳥塚 亮	
事前・事後学修の内容			
（事前）社会の様々な出来事・教養・ （事後）地域活性の主体者を理解する		13. 地域活性化の動向 元農林水産省大臣官房政策課 企画官 日本事業構想研究所 代表理事 木村俊昭	
受講生への要望			
- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。 - 遅刻は認めない。		14. 世界の食料事情と環境の関係 農林水産省 農村振興局張室 局長 末松広行 15. まとめ	
評価方法			
質問回数やレポート等の総合評価		上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。	
テキスト、参考文献			
その都度、指示する			

(秋)	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	多賀谷 一照
講義目的		授業計画	
インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。		第 1 回 総説 第 2 回 情報社会と違法有害通信 第 3 回 ウイキリークス、盗聴 第 4 回 情報セキュリティと暗号システム 第 5 回 情報社会とルール、倫理 第 6 回 － 第 7 回 通信システムと情報社会 第 8 回 電波と情報空間 第 9 回 放送と情報社会表現の自由 第 10 回 AI 第 11 回 ビッグデータ 第 12 回 著作権と情報（1） 第 13 回 著作権と情報（2） 第 14 回 個人情報保護 第 15 回 まとめ	
講義概要			
情報社会、情報空間について、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。（講義の順番、内容について若干の変更の可能性がある）			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
インターネットやメディアで関連する話題を注視させる。			
受講生への要望			
自分がラインなどでネットアクセスしている場合のあり様と対比してください。			
評価方法			
講義全体の中で、3 回程度レポート提出を求める。			
テキスト、参考文献			
毎回、レジメを原則配布します。			

(春)	全学総合講座 (環境学 1) (環境基礎学-自然を見つめる)	担当者	中村 健治
講義目的		授業計画	
20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・敬愛・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、自然環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		1. 環境とは何か 2. 人類と環境 (1) 3. 人類と環境 (2) 4. 地域と気候変化 5. 地球温暖化 6. 気候と雨 (1) 7. 気候と雨 (2) 8. 水循環と植生 (1) 9. 水循環と植生 (2) 10. モンスーンアジアの人と自然 (1) 11. モンスーンアジアの人と自然 (2) 12. モンスーンアジアの人と自然 (3) 13. 人類と環境 14. 地球環境の観測 15. まとめ	
講義概要			
春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について講義する。 本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。			
受講生への要望			
環境は、学際的に扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。			
評価方法			
定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。			
テキスト、参考文献			
各担当教員より指示される。			

(秋)	全学総合講座 (環境学 2) (環境応用学－環境と社会)	担当者	中村 健治
講義目的		授業計画	
20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホール拡大、酸性雨、熱帯林の減少、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・敬愛・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、雌雄環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を残さないための叡智の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立されている。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨に沿って提供するものである。 本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。		- オリエンテーション - 地球・地域環境問題の諸相 (1) 環境と人間 - 地球・地域環境問題の諸相 (2) 人口と食糧問題 - 地球・地域環境問題の諸相 (3) エネルギー問題 - 地球・地域環境問題の対応 (4) 環境経済・政策 (1) - 地球・地域環境問題の対応 (5) 環境経済・政策 (2) - 地球・地域環境問題への対応 環境と法 (1) - 地球・地域環境問題への対応 環境と法 (2) - 地球・地域環境問題への対応 環境教育 (1) - 地球・地域環境問題への対応 環境教育 (2) - 地球・地域環境問題への取り組み (1) - 地球・地域環境問題への取り組み (2) - 地球・地域環境問題への取り組み (3) - 地球・地域環境問題への取り組み (4) - まとめ	
講義概要			
秋学期は「人間社会の環境問題への対応」を中心に講義する。 本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部教授中村健治がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員ほかが担当する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
事前学習として講義の概要について具体的テーマを考える。事後学習として、講義内容の復習と身近な環境についての自分の意識の変化を認識するようにする。			
受講生への要望			
環境は、学際的に扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得することを望む。			
評価方法			
定期試験と授業参加度を総合的に評価する。また担当教員からレポート等が課せられた場合はこれも加味する。			
テキスト、参考文献			
各担当教員より指示される。			

(春)	全学総合講座（大学における教養教育）	担当者	野澤 聡
講義目的		授業計画	
様々な立場で活躍されている方々から、教養や教養教育について、多様な視点を提示していただくことによって (1) 多様な視点の中で、受講生が自分の考えを自覚し、自分と異なる考えが存在していることに気付く (2) 各自にとっての教養や教養教育に向かう姿勢を主体的に選ぶ取る (3) 人文社会科学系の大学である獨協大学で、自然科学系の知識を学ぶことの意味を考えることを目標とする。		1. オリエンテーション、教養と教養教育の歴史的概観 2. 高校から見た大学の教養教育 3. 教養としての宗教 4. 文学と教養 5. 教養としての言語学習	
講義概要		6. ビジネスから見た教養 7. メディアと教養 8. クリティカルシンキングと教養教育 9. 科学技術リテラシーと教養教育 10. 教養としての哲学 11. 生命に向き合う教養—生殖技術を考える 12. 教養としてのプライバシー 13. インターネットと教養 14. 行政官から見た教養 15. 職業教育と教養教育	
大学で学ぶ意味とは何だろうか。とくに、大学の教養教育にはどんな意義があるのだろうか。現在の大学教育は、日本だけでなく地球規模で生じている大きな変化の真ただ中にあり、大学における教養教育に対しても、その意義の問い直しを求める声が高まっている。とくに、専門教育や卒業後の仕事と直接関係ないように見える教養教育に対しては、しばしば不要論も唱えられている。他方、社会がますます複雑化すると同時に、専門分野が著しく細分化されている現在では、狭い意味での専門分野だけを学んでいたのでは不十分であることは明らかである。では、現在にふさわしい教養あるいは教養教育とはどのようなものであろうか。 この講義では、本学や他大学の大学教員だけでなく、高校教員、書籍編集者、小説家、ジャーナリスト、行政官、ビジネスマンなど、様々な立場で活躍されている方に登壇していただき、ご自身の生き方と関連付けて、教養や教養教育のあるべき姿や現状の問題点についてお話ししていただく。なお、各回の内容や講演者の詳細は第1回の授業で紹介する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
・教養についての自分なりの考えをもって授業に臨む ・各回の授業内容と各自の専門との関係を考える			
受講生への要望			
・授業は静粛に受けること (あまりに悪質な場合は退席を命じることがある) ・授業報告では、要約と考察を明確に分けること			
評価方法			
・獨協大学レポート用紙の記入内容(30%)と学期末に提出する授業報告(レポート)(70%)により評価する ・詳細については、第1回の授業で説明する			
テキスト、参考文献			
・教科書は使用しない ・参考になる文献やWeb資料などを随時紹介する ・【全般的な参考文献】村上陽一郎『あらためて教養とは』新潮文庫、2009年			

(秋)	全学総合講座（社会の中の科学）	担当者	野澤 聡
講義目的		授業計画	
科学技術が社会の中で作動するためには、様々な立場の人々の協働が不可欠である。とくに近年では、いわゆる人文・社会科学の知見を科学技術に活かそうとする試みが注目されている。つまり、社会の中で科学技術を活かすためには、狭い意味での科学技術の専門家だけでは不十分なのであり、人文・社会科学の知見をもった人々との協働が強く望まれるようになりつつあるのだ。 この授業では、科学技術が社会の中で育まれており、つねに変化し続けているということを、様々な具体的な事例を通じて紹介することによって、受講生諸君が科学技術に興味関心をもってもらうことを目標とする。 受講生一人ひとりが学びつつある専門と、科学技術とをどのように関係付け、生かしていくのかを考えるきっかけを提供する。		1. ガイダンス、社会の中で科学を考える 2. 科学・技術・産業と知的財産—基礎的事項と役割 3. アジアの遺伝子検査 4. ICT 分野の政策形成—国際展開をどう応援するか 5. 信仰と学問 6. 文学と科学技術 7. 活字メディアと科学技術 8. 科学技術研究と行政 9. 企業における研究開発 10. 製品開発における消費者の役割 11. 日本の近代化と科学技術教育 12. 高等教育改革と科学技術 13. 医療における市民の役割について 14. 大学における異分野交流の試み 15. まとめ	
講義概要			
様々な分野で科学技術に関わっている人たちに登壇していただき、どのような科学技術に、どのような形で関わっているか、また、科学技術の希望と問題がどのようなところにあると考えているかをお話していただく。 高校までの授業や、大学での日々の勉強とは違った話題に触れることによって、様々な発見や共感や疑問を抱くことができるだろう。 なお、各回の内容や講演者の詳細は第1回の授業で説明する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
・ニュース、書籍、インターネットなどで科学・技術に関する内容に意識的に触れる ・各回の授業内容と各自の専門との関係を考える			
受講生への要望			
・授業は静粛に受けること (あまりに悪質な場合は退席を命じることがある) ・授業報告では、要約と考察を明確に分けること			
評価方法			
・獨協大学レポート用紙の記入内容(30%)と学期末に提出する授業報告(レポート)(70%)により評価する ・詳細については、第1回の授業で説明する			
テキスト、参考文献			
・教科書は使用しない ・参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する ・【全般的な参考文献】中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年(図書館にあり)			

(春)	全学総合講座（獨協学）	担当者	町田 喜義
講義目的		授業計画	
本学は2014年に創立50周年を迎え、約890,000名の卒業生を輩出し、新たな歴史を刻み始めた。本講座はその未来志向の嚆矢の一環として、卒業生に「獨協大学物語」を語ってもらう。		1. 開講にあたって：犬井 正（学長） 履修ガイダンス：町田喜義（名誉教授） 2. 天野貞祐『学生論』を読みましょう：児嶋一男（外国語学部教授） 3. 獨協大学の原風景：橋本克彦（沖電気工業（株）元執行役員・本学同窓会初代会長） 4. 選択的コミュニケーションー私が獨協を選んだ理由：佐々木輝美（外国語学部教授） 5. 私と獨協学園：湯田雅夫（名誉教授） 6. 獨協大学 4 年間でできること：大坪史治（経済学部専任講師） 7. 憲法と選挙ー参議院選挙を前にして：加藤一彦（東京経済大学教授） 8. 獨協大学創設の頃～現在：岡崎 博（ローマ・ハスラーホテル顧問） 9. 獨協の理念についてーなぜ、外国語を学ぶのか？：原 成吉（外国語学部教授） 10. アフリカの国際協力と私：佐野康子（外国語学部専任講師） 11. 獨協大学の UI の継承と新たな価値の創造：米山昌幸（経済学部教授） 12. 学問（国際関係論）との出会い：水本義彦（外国語学部准教授） 13. ホスピタリティ社会をめざして：柳原克忠（京王プラザホテル元支配人・本学第4代同窓会長） 14. 教育（学習）とコミュニケーション：町田喜義（名誉教授） 15. まとめ	
講義概要			
受講生の殆どは新入学生であろうと予測されるので、各担当者のキャンパスライフ、専門分野、その関連分野、あるいは天野理念、政治・経済・社会・文化事象などを分かりやすく講義する。本学の未来を担う諸君のキャンパスライフに資するところが大きいものと確信する。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
・事前学修：天野貞祐記念館内の「獨協歴史ギャラリー」見学。 ・事後研修：ノートを必ず持参し、担当者の講義内容や板書事項を書き留めること。そして配付資料などと照らし合わせて復習すること。そのノートはレポート共に提出のこと。		※事情により講義の順序を変更することがある。	
受講生への要望			
初回の講義には必ず出席すること。また、欠席4回以上は単位を認定しない。			
評価方法			
・学期末レポート1編（60%） ・提出ノート点検（40%）			
テキスト、参考文献			
各担当者が配付する資料、指示する文献など。			

(春)	全学総合講座 (スポーツを通じての大学生からの人間形成について考える)	担当者	松原 裕
講義目的		授業計画	
大学生になり、どのようにして人間形成していくのか？ 大学生からの人間形成ということがテーマの中心になります。その手段のひとつに「スポーツ」というものがあります。しかし、ここで言う「スポーツ」は日常生活からの気晴らしから戦争までを含みます。 チャンピオンスポーツだけでなく、健康や世界といった言葉もキーワードです。視点を変えることで今後の生活や将来の生き方を各自が考え発見していくことへの知的刺激が目標です。		1. ガイダンス・ゲスト一覧紹介 2. ゲスト講義・カード配布 3. ゲスト講義 4. ゲスト講義 5. ゲスト講義 6. ゲスト講義 7. ゲスト講義 8. ゲスト講義 9. ゲスト講義 10. ゲスト講義 11. ゲスト講義 12. ゲスト講義 13. ゲスト講義 14. ゲスト講義 15. ゲスト講義・最終レポート課題配布	
講義概要		毎回ゲストを招いてその講義を受ける形式になります。 毎回200字程度、各自で考え記述したものを提出することになります。 現段階では依頼中のため決定されていないが、参考のため前年度のゲストとベースは下記の通りです。	
到達目標		伊藤慧 サッカー シギー吉田 ラグビー 渡辺律子 体操 加藤信重 生物学 瀧本孝雄 心理学 松野隆史 理学療法 岩嶋孝夫 硬式テニス 河原工 サッカー 福井哲 サッカー 黒田卓志 サッカー 田中重陽 スポーツ科学 矢島鎗司 情報科学 中塚義実 体育社会学	
事前・事後学修の内容			
体調管理をしてベストコンディションで臨むこと。 毎回の授業内容を纏めておくこと。			
受講生への要望			
顔と名前を一致させコミュニケーションをとるために配布したカードに顔写真と必要事項を記入して提出すること。			
評価方法			
授業への参加度、授業で提出した記述内容、最終レポートなどを総合して評価する。			
テキスト、参考文献			
適宜紹介する。			

(秋)	全学総合講座(文学の原点を考える)	担当者	矢羽々 崇
講義目的		授業計画	
「文学」というと、堅苦しいイメージがつきまといます。しかし、その根本には民話やメルヒェンのような単純な形式がありました。あるいは、歌が詩のはじまりだったはず。そして人々は、それらのメッセージが喚起するイメージを心のなかで楽しんでいたはず。また、映画やテレビのドラマは、そうしたイメージの具体化だと言えますし、やはり基本は演劇だったのです。 このように、「文学」は読まれなくなって、遠くなったように語られがちなにもかかわらず、私たちの日常と切り離すことができないほど近くにあります。 そうした「文学」(音楽のように「文楽(ブンガク)」と訳されていたらよかったのに!)の楽しさに親しみ、その奥深さに触れてもらうことが、本講座の目標です。		1. 導入 2. 語りと文学 1 3. 語りと文学 2 4. 語りと文学 3 5. 語りと文学 4 6. 語りと文学 5 7. 歌と詩と文学 1 8. 歌と詩と文学 2 9. 歌と詩と文学 3 10. 歌と詩と文学 4 11. 文学とイメージ 1 12. 文学とイメージ 2 13. 文学とイメージ 3 14. 文学とイメージ 4 15. パネル・ディスカッション	
講義概要		担当者および内容については、第 1 回の授業時に示します。	
「語りと文学」では、まず民話やメルヒェンといった、文学の出発点にある語りを考えます。また、日本の「語り」の典型である「落語」について、落語家の師匠から話していただきます。 「歌と詩と文学」では、「詩」をそのおおもとの歌や祈り、あるいは踊りとのつながりから捉えてみます。「詩のボクシング」など、面白い実践をなさっている詩人にも参加していただきます。 「文学と映像」では、現代の文学にとって不即不離の関係にあるといえる映画やテレビなどでの映像化について考えます。 最終回のパネル・ディスカッションでは、受講学生数名と講師の間で、文学をめぐって話し合います。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
講義で話されたテーマについて、自分なりに文献などを読み、考えを深めるように。			
受講生への要望			
外部からの講師の方は、多忙ななか、時間を割いて担当して下さいます。それに相応しい態度での受講を期待します。			
評価方法			
授業時のコメントシート (40%) および期末試験 (60%) により評価を決定します。 正当な理由がない欠席が 3 回以上となった場合、評価の対象としません。			
テキスト、参考文献			
授業時に指示します。			

(秋)	全学総合講座（クオリティライフのための健康講座）	担当者	和田 智
講義目的		授業計画	
今日、健康を維持し、守ることは個人の幸福のためでもあります。社会的責任ともなっています。健康に関わる問題について、現状、将来の見通し、対策についての知識を獲得することは、良き社会人となるために必須のこととなります。 本講義では、健康について多方面から考え、健康に関わるゲストの方々への報告を聞き、学習することにより、望ましい社会を形成するうえで必要な態度を形成することを目標とします。		1 オリエンテーション 和田 智 コーディネーター 2 QL と健康 獨協学園理事長 3 日本人の疾病と死因の現状 草加市保健センター 4 三大疾病とその対策 草加市保健センター 5 アルコール・薬物依存の現状 草加市薬剤師会 6 健康を創る食生活 農林水産省広報 7 どのような運動が健康を創るのか 日本健康運動研究所 8 精神疾患の増加の原因 草加市保健センター 9 最新医療の現状 医療ジャーナリスト 10 海外に行った時の医療 海外旅行傷害保険担当者 11 健康日本21施策を知ろう 草加市スポーツ振興課 12 健康保険の仕組みと現状 医療保険専門家 13 健康日本21とはなにか 草加市保健センター 14 終活を行う意味 終活普及協会講師 15 まとめ 和田 智 コーディネーター	
講義概要			
学生の現在および将来にわたり最重要課題となる健康を守り、増進するための知識と健康にかかわる社会の仕組みについて考えるきっかけを提供するための講座とします。 多方面から健康問題に関わっておられるゲストの方々からお話を伺います。 google form を用いたライブアンケート、質問、意見をスマートフォンから入力できるよう設置し、双方向授業に生かします。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探究できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
氾濫する健康情報を整理、分別しておくこと。日常生活でゲストから得た情報、考え方を十分役立てることができるよう心掛けること。			
受講生への要望			
質問、アンケート等で情報端末を利用します。場合により通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
評価方法			
授業レポート（20%）、学期末レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（60%）により総合的に評価します。規定回数以上の出席、授業レポート提出が必要です。			
テキスト、参考文献			
必要に応じて配布します。			

(秋)	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田 智
講義目的		授業計画	
みなさんは自由時間の大切さに気づいているでしょうか。自由時間をどのように使っていますか。 私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間の労働時間のための学習や活動が多かったのではないのでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちとそれを実践している人たちを紹介します。 「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。 春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います		1 オリエンテーション 「あなたの自由時間の現状」 和田 智 コーディネーター 2 自由時間の達人① 「農業から新しいライフスタイルを求めて」 島野忠夫 楽遊舎代表 3 自由時間の達人② 「好きなことを続けるということ」 講師未定 フリーダイバー 松元 恵 4 自由時間の達人③ 「好きなことを続けるということ」 谷川育子 いくらサーカス主宰 5 自由時間の達人④ 「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」 多胡光純 本学卒業生 エアーフォトグラファー 6 自由時間の達人⑤ 「生きることの証をもとめて」 服部 文祥 サバイバル登山家 7 自由時間の達人⑥ 「好きなことを続けるということ」 ズッカーマン明子 パントマイムアーティスト 8 自由時間の達人⑦ 「好きなことを続けるということ」 内堀晃太郎 本学卒業生 プロダンサー 9 自由時間の達人⑧ 「高齢者のためのレジャー」 山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役 10 自由時間の達人⑨ 「好きなことを続けるということ」 麻生子八咫 本学卒業生 活弁士 11 自由時間の達人⑩ 「新しい旅行の動向」 福井 善朗 神戸夙川学院大学客員教授 12 自由時間の達人⑪ 「好きなことを続けるということ」 村山恵梨 プロボウラー 13 自由時間の達人⑫ 「好きなことを続けるということ」 指揮者 鈴木彰久 14 自由時間の達人⑬ 「好きなことを続けるということ」 講師未定 15 自由時間を「自由時間をレジャーとするために」 和田 智 獨協大学教授 講師の都合により、予定が変わることがあります。	
講義概要			
第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。 第2回目の授業から、それぞれのゲストがどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。 最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。			
到達目標			
身近な難問や関心を学問に結び付け、現代社会に必要な教養を習得する動機づけとし、将来、様々な知的領域を探索できるようにする。			
事前・事後学修の内容			
各ゲストの活動を著作、ホームページ等で事前に知っておくこと。事後には、授業レポートに十分な時間を取り、ゲストからの課題を良く考えて記述すること。			
受講生への要望			
質問、アンケート等で情報端末を利用しますので準備して下さい。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。			
評価方法			
授業レポート（20%）、学期末レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（60%）により総合的に評価します。規定回数以上の出席、授業レポート提出が必要です。			
テキスト、参考文献			
必要に応じて配布します。			

08 年度以降	ことばと思想 1 (日本語文法形態論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 日本語の文法のうち形態論を取りあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程である。日本語は活用などの融合的な膠着タイプである。よって講義では、日本語における形態素の認定にはじまり、融合的な過程である活用と接辞による派生とをあつかい、さらに自律的な形態素同士の結合である複合と、特殊な問題である漢語の構造をあつかう。 【講義概要】 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 形態素の認定 2. 語の認定 3. 融合的な形態過程(1)～活用の概念 4. 融合的な形態過程(2)～動詞の 1 次的な活用 5. 融合的な形態過程(3)～動詞の 2 次的な活用 6. 融合的な形態過程(4)～その他の活用 7. 膠着的な形態過程(2)～接辞の概念 8. 膠着的な形態過程(3)～接頭 9. 膠着的な形態過程(4)～接尾 10. 複合の形態過程(1)～名詞と名詞 11. 複合の形態過程(2)～名詞と動詞 12. 複合の形態過程(3)～動詞と動詞 13. 複合の形態過程(4)～その他の複合 14. 複合の形態過程(5)～漢語複合 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

08 年度以降	ことばと思想 1 (日本語文法統語論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義目的] 日本語の文法のうち統語論を取りあげる。統語論とは語から文をくみだてるときの、語順に関する構造を決定する過程のことである。この授業では、基本的には生成文法の枠組みから日本語を分析し、その構造的な普遍性を把握することを目的とする。よってまず統語論の基礎的概念をあつかい、種々の構文を各論として概観する。 [講義概要] 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 統語論の基礎(1)～GB 2. 統語論の基礎(2)～MP 3. 句構造 4. 格 5. 束縛 6. かき混ぜ 7. 主題 8. 使役 9. 受動 10. 関係節 11. WH 句 12. 主語と目的語 13. カートグラフィーの概念 14. 複文 15. 談話的要素	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

13 年度以降 08～12 年度 07 年度以前	ことばと思想 1 (言語学概論) ことばと思想 1 (言語学 a) 言語学 a (一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。		1.話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事：言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記 2.動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3.言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学 4.子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程 5.外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論 6.音と音声 (1) ～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7.音と音声 (2) ～音声はどのように聞こえるか？:音響音声学と聴覚音声学 8.統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法、生成文法、その他の文法 9.形と意味 ～発話に意味を込める：形態論、意味論、語用論 10.会話の原則 ～言葉の適切な使い方：談話分析 11.言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12.世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類：歴史言語学 13.言語の進化 ～言語と人類の発達：言語考古学 14.コンピューターと言語 ～近未来の言語研究：人工知能、機械翻訳、コーパス言語学 15.まとめ	
参考文献 David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きになる本』(研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4)			
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、参考文献	教科書 G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		
評価方法	定期試験。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（言語学 b） 言語学 b(一般言語学)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。		1. 形態論（1）形態素の同定（ハンガリー語、スペイン語） 2. 形態論（2）形態素の同定（現代ヘブライ語、マレー・インドネシア語、ペルシア語） 3. 形態論（3）形態素の同定（ラテン語、ラコタ語） 4. 音声学・音韻論（1）発音記号、音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論（2）音韻の同定（ウィチタ語、古典ヘブライ語、ラコタ語） 6. 音声学・音韻論（3）音素の同定（スペイン語、ヒンディー語、日本語） 7. 音声学・音韻論（4）超分節音素の同定（中国語、アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論（5）音韻現象、生成音韻論（トルコ語、英語） 9. 統語論（1）直接構成素分析、句構造規則（英語） 10. 統語論（2）句構造規則（英語、イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論（3）構造成成、語順、格（英語、中国語、ドイツ語、クリンゴン語） 12. 意味論 上位概念・下位概念、同意語・反意語（英語、日本語、ペルシア語） 13. 語用論 新旧情報、言語行為、話題化（英語、中国語） 14. 書記法（英語、イタリア語、ギリシア語、ヘブライ語） 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各授業とも十分な予習と復習を必要とする。特に事前に各分析課題に取り組むことが必須である。		
テキスト、参考文献	Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i> , 5th ed. (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)		
評価方法	定期試験 + 平常授業における課題		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 a) 言語学 a(個別言語学－英語)	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある。それぞれのテーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う。分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる。 参考文献 朝尾幸次郎、『英語の演習 第3巻：語彙・表現』（大修館書店） 高橋作太郎、『英語の演習 第2巻：文法』（大修館書店） 竹林滋・桜井雅人、『英語の演習 第1巻：音韻・形態』（大修館書店） David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)		1. 英語の文法理論（6 章） 2. 音声学（7 章） 3. 音韻論（1）：分節音韻論（8 章） 4. 音韻論（2）：強勢・イントネーション（8 章） 5. 形態論・語形成（9 章） 6. 統語論（1）：構造主義の統語分析（10 章） 7. 統語論（2）：生成文法の統語分析（10 章） 8. 意味論・語用論（11 章） 9. 談話分析 10. 英語史（1）：古英語（4 章） 11. 英語史（2）：中英語（4 章） 12. 英語史（3）：近代英語（5 章） 13. 英語史（4）：現代英語（5 章） 14. 英語史（5）：英語の多様性（12 章） 15. 英語の対象言語学的研究（15 章）	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、 参考文献	使用教科書 龍城正明編、『英語学パースペクティブ』（南雲堂, 2015; ISBN: 978-4-523-30075-5)		
評価方法	定期試験 + 平常授業における課題		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 b) 言語学 b(個別言語学－英語)	担当者	未定 (掲示で確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。 後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる。		1.英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2.英語以前 (1)：印欧語族の成立 3.英語以前 (2)：ゲルマン語族の成立 4.英語の夜明け：古英語とその社会 5.英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6.英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7.英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8.英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9.英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ (地理的変異) 10.英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11.英語使用の現状 (1)：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12.英語使用の現状 (2)：社会・文化と英語使用 13.英語の特徴 (語彙・語源)：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング、(発音と綴り)：大母音推移・発音・文字・正書法 14.英語の特徴 (文法)：語順・修飾・統御、(談話構造)：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15.英語の特徴 (社会的変異)：社会階層・レジスター・ジャンル	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、参考文献	随時プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 x 参加度 + 平常授業における課題		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅰ(日本語教育概説) ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義概要> 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 <講義の目的> 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える		1.講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2.日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3.日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4.日本語教育とは何か(3) 日本語教育の現状 5.外国語教授法の歴史 6.外国語教授法の紹介(1) 7.外国語教授法の紹介(2) 8.異文化接触と日本語教育 9.言語教育と学習観 10.コースデザインとシラバス 11.日本語のしくみと指導のポイント(1) 12.日本語のしくみと指導のポイント(2) 13.教室活動の活動例 14.教師の役割と評価 15.講義のまとめ *進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で出される課題について事前に調べておいてください。 配布したプリント類を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007） *その他は授業中に適宜紹介		
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理の基本について考える） 倫理学 a（倫理の基本について考える）	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識がでてきたりしたとき、この「なぜ」が、つまり倫理的問いかけが生まれるのである。 近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし最近、倫理への関心は急速に高まっている。良識が揺らいできているのである。 講義では、倫理的問いかけの基本を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。		1. 哲学と倫理 2. 非倫理の時代か倫理の時代か 3. 「倫理」の概念 4. 倫理と道徳 5. 規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6. 規範としての倫理(2)……法と倫理 7. 価値としての倫理(1)……四球から善へ 8. 価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9. 行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10. 行為への問い(2)……他者からの問いかけ 11. 行為への問い(3)……動機主義と結果主義 12. 功利主義の倫理(1)……ベンサム 13. 功利主義の今日的展開 14. 自由主義の倫理(1)……カントとミル 15. 自由主義の倫理(2)……現代の自由主義	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
テキスト、 参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。		
評価方法	期末の定期試験で評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（環境と生命の倫理） 倫理学 b（環境と生命の倫理）	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で、人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいはやさしく殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいえるべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。		1. 「倫理問題」とは？……応用倫理について 2. 生命をめぐる状況(1)「医療化社会」批判 3. 生命をめぐる状況(2) 所有的身体観と要素的生命表象 4. 生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5. 生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6. 生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7. 生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8. ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9. 環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10. 環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想 11. 環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12. 環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13. 環境倫理の世界(5) 不正義に関する倫理的言説 14. 環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理 15. 生命と環境とをつなぐ倫理的課題	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。		
評価方法	期末の定期試験で評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史 a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。 前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。		1. 授業の狙いについて 2. 「社会」という思想問題 3. 「市民社会」の原型と近代的再生 4. ルネッサンス思想と古典古代文化 5. マキャベリと『君主論』 6. マキャベリと近代政治理論 7. ユートピアという思想 8. トマス・モアと『ユートピア』 9. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10. ルターの改革運動と神学 11. ルターの政治思想 12. ルターの職業思想 13. カルヴィニズムの宗教思想 14. カルヴィニズムと近代的エートス 15. まとめー主権国家と市場社会	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。		
評価方法	期末の定期試験で評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(市民的社会像の確立期) 社会思想史 b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。		1. 授業の狙いについて 2. 西欧自然法思想の源泉 3. 自然法思想の近代的転回 4. 社会をめぐる自然と作為(1)…ホッブズの利己心 5. 社会をめぐる自然と作為(2)…ホッブズの国家観 6. 個人を守ること(1)…ロックの所有的個人主義 7. 個人を守ること(2)…ロックの政治的自由主義 8. 文明化という課題…フランス啓蒙思想たち 9. 風土と社会…モンテスキューの権力論 10. 個人と社会の一体化(1)…ルソーの歴史認識 11. 個人と社会の一体化(2)…ルソーのデモクラシー 12. 社会は自然に発生する(1)…ヒュームの自然法批判 13. 社会は自然に発生する(2)…スミスの市場社会秩序 14. 社会的に生きる(1)…社会主義の思想 15. 社会的に生きる(2)…マルクスの思想	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを使わない講義ですから、ノートをきちんととり復習をすることが大事です。		
テキスト、参考文献	テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。		
評価方法	期末の定期試験で評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	ことばと思想 1 (混成の英国とグローバル・ヒストリー)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
(混成の英国とグローバル・ヒストリー) 本講義は 2 つのセクションからなる。第 1 セクション "Changing Britannia"(第 1 回～第 7 回) では、まず多人種・多文化社会として公式な自己を定義しようとしている現在のイギリスの姿を確認する。そのうえで、二次世界大戦後、旧植民地からの大量の移民の到来によって、いやおうなく多人種・多文化社会へとになっていったイギリスのここ半世紀の変化を見ていく。第 2 セクション "400Years—Empire, Capitalism and Slavery" (第 8 回～第 15 回) では、第 1 セクションで見てきた混成状態を醸成した帝国の歴史を振りかえる。大西洋世界の形成と英国の覇権、奴隷制と資本主義の発達、国民国家とディアスポラの問題、帝国なき後の英国の苦悩、20 世紀後半からの新しい Britishness の模索などを取り上げる。		1. 混成の英国—オリンピック誘致にみる、公式イメージとしての多様性 2. 1948—混成の英国へ、ひとつの始まり 3. 冷たい歓迎と移民第一世代 4. ホスト社会の戸惑い 5. 第二世代と Black British (1) 6. 第二世代と Black British (2) 7. Marley(1945-1981) と Smith(1975～)のミレニアム 8. 400 Years—混成の必然 9. 資本主義と奴隷制 10. カリブ—西欧近代史の「背中の臍」 11. 帝国のひろがり 12. Mother Country の幻想 13. イギリス人とは誰か 14. 新しい他者 15. 混成の英国—英国史と Britishness の再定義	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布する次回授業のハンドアウトに目をおしておくこと。事後は必要に応じた復習をすること。また授業時に紹介した参考文献に興味に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。		
評価方法	提出物 30%、定期試験 70%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (応用言語学) 言語学 a(応用言語学)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である (言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の 4 領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		1. 概要：応用言語学とは 2. 習得のメカニズム：インプット・アウトプット仮説 3. 言語習得と脳 1 4. 言語習得と脳 2 5. 4 技能の習得：リーディング 6. 4 技能の習得：リスニング 7. リーディング・リスニングまとめ 8. 4 技能の習得：スピーキング・ライティング 9. 口頭発表 1 10. 言語喪失 (社会) 11. 言語喪失 (個人) 12. バイリンガリズム (個人) 13. バイリンガル教育 14. 口頭発表 2 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。		
テキスト、参考文献	配布資料・論文等有り。		
評価方法	期末レポート&課題 (60%)、期末テスト (40%)		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1(第二言語習得) 言語学 b(第二言語習得)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを経験的な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		1. 概要：環境要因・個人要因 2. 環境要因、社会的動機づけ理論 3. 適性、MI 4. 不安 5. 動機づけ 1 6. 動機づけ 2 7. 学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 8. 意欲、WTC 9. グループワーク：言語習得過程モデル 10. 口頭発表 11. 年齢：臨界期仮説、早期英語教育 12. スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 13. グループワーク：初中等教育における英語教育 14. 口頭発表 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。		
テキスト、 参考文献	配布資料・論文等有り。		
評価方法	期末レポート&課題（60%）、期末テスト（40%）		

08 年度以降	ことばと思想 1(言語を使用する—文学・表現編)	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
言語は道具であるという観点から、文学テキストを実践的作業の所産として読む。文学表現の身近な具体例に触れ、音声や書字、編集、異種メディアの合成といった多様な表現手段を紹介する。 講義を通して文学表現を身近な存在として自覚し、またこのような表現を知悉することによって、書物の読解力を増すことを目指す。 扱う文学テキストは、どのようにも読むことができる日本語のテキスト（翻訳も含む）である。紹介した作家のテキストに関心があれば、実際に手に取り、有意義な読書の時間を自分で確保してほしい。そのような意味で積極的な学生を歓迎する。		1. はじめに 2. 物語るとはなにか(1) 3. 物語るとはなにか(2) 4. 物語るとはなにか(3) 5. 話し言葉と活字表現(1) 6. 話し言葉と活字表現(2) 7. 話言葉と活字表現(3) 8. メディアミックスの文学(1) 9. メディアミックスの文学(2) 10. メディアミックスの文学(3) 11. 翻訳文学と近代(1) 12. 翻訳文学と近代(2) 13. 翻訳文学と近代(3) 14. まとめ 15. 授業内試験	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	文学に関する初歩的な知識と関心を持つ者が、修了後には文学テキストの読解力、批評力が増す。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

08 年度以降	ことばと思想 1(言語を使用する一哲学・思想編)	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
大概、哲学や思想の本を一瞥すると、普段目にしない言葉や抽象的な概念の連続に辟易とし、そういったものという印象と偏見だけが残し、敬遠することも多いのではないかと思う。 われわれが哲学書のコーナーにある本のタイトルを見てみると、それは洋の東西を問わずに翻訳書と、その解説がほとんどである。だから身近に感じないのはごくあたり前のことなのだ。 しかし翻訳され輸入されるのは理由がある。まず、その理由から考えてみて、難解な言葉が日常にどのようにして道具として活かせるかを、実践的に考えてみたい。 言語も思想も道具であるという観点から、読まれずに本の中にあるだけならなんの訳にも立たないだろう思想の難解をほぐして、せめて理解のきっかけに導くのがこの目標である。興味のある学生の受講を期待する。		1. はじめに 2. 哲学と比喩(1) 3. 哲学と比喩(2) 4. 哲学と比喩(3) 5. 精神分析と言葉(1) 6. 精神分析と言葉(2) 7. 精神分析と言葉(3) 8. 忘却と想起(1) 9. 忘却と想起(2) 10. 忘却と想起(3) 11. ゲームとルール(1) 12. ゲームとルール(2) 13. ゲームとルール(3) 14. まとめ 15. 授業内試験	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	哲学思想に関心を持ち始めた者が、修了後には思想的なテキストの読解力がつき、思考力が増す。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学)(人間の行動・認知・動機的一般法則) 心理学 a(人間の行動・認知・動機的一般法則)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は心理学の視点から、現代の課題について、幅広いテーマを選び、①心理学の研究成果、②研究方法、③日常生活との関わり、について学びます。 心理学者として学生をみていると、①自己の個性や価値を相互に認め合い、やれば出来るとの効力感（コンピテンシー）を持つ、②友人や異質な人とチーム学習を通じて、相互に支え合う生き方を学んで欲しい、と考えています。 自己を知ることは、心理学の学習目標の1つですが、他者や社会を知ることも重要で、国際化ないしグローバル化は標準化と個性化が求められます。 教科書は7章で構成され、執筆時のトピックスを扱っています。その後の発展は補足資料で補います。 春学期は、①人間の見方・考え方（感覚や認知）、②人間の行動と状況の関係（行動と行動獲得・変容）、③人間の動機や感情（モチベーション）について学び、人間科学（ヒューマン・サイエンス）としての心理学からみた、人間に共通な法則を学ぶ予定です。		1. 導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学とは？ 2. 感じる／考える：感覚受容器と知覚・認知とは？ 3. 感じる／考える：対象の意味づけ、情報処理モデル 4. 感じる／考える：潜在認知、アフォーダンスとは？ 5. 感じる／考える：センサー、ユニバーサル・デザイン 6. 動く／変わる：行動と行動獲得・変容とは？ 7. 動く／変わる：観察学習、進化と人間行動、認知学習 8. 動く／変わる：教わると学ぶ、主体的学習とは？ 9. 動く／変わる：ディープ・アクティブラーニング 10. 動く／変わる：知識基盤社会、キー・コンピテンシー 11. もえる／動かす：モチベーション、動機づけの基礎 12. もえる／動かす：達成動機と対人社会性動機、共感性 13. もえる／動かす：ストレスと学習性無力感とは？ 14. もえる／動かす：内発的動機、コンピテンス 15. 春学期のまとめと残された課題、秋学期のテーマ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前教材は PorTa に掲載し、事後展開学習は教室で指示します。その学習成果はリフレクションペーパー、レポート、試験で確認し、フィードバックします。		
テキスト、参考文献	テキスト：杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版 参考文献：配付資料および授業中に紹介		
評価方法	リフレクションペーパー（25%）、レポート（2テーマ各 25%）、試験（25%）で評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学)(人間の個性・多様性理解) 心理学 b(人間の個性・多様性理解)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は心理学の視点から、現代の課題について、幅広いテーマを選び、①心理学の研究成果、②研究方法、③日常生活との関わり、について学びます。 心理学者として学生をみていると、①自己の個性や価値を相互に認め合い、やれば出来るとの効力感（コンピテンシー）を持つ、②友人や異質な人とチーム学習を通じて、相互に支え合う生き方を学んで欲しい、と考えています。 自己を知ることは、心理学の学習目標の1つですが、他者や社会を知ることも重要で、国際化ないしグローバル化は標準化と個性化が求められます。 教科書は7章で構成され、執筆時のトピックスを扱っています。その後の発展は補足資料で補います。 秋学期は、①正確や知能の多様性（パーソナリティ）、②生涯発達や子ども期から高齢期（発達）、③対人関係と自己（社会）について学び、心理学からみた人間の多様性、可塑性を学ぶ予定です。		1. 秋期の導入：授業ガイダンス、心理学とは何か？ 2. きわだつ／できる：パーソナリティ、そぼく性格観 3. きわだつ／できる：多様な人間のモデル、統合的理解 4. きわだつ／できる：Big Five 性格検査、標準性格検査 5. きわだつ／できる：知能、創造性、社会的スキルとは？ 6. 育つ／育てる：発達理論、生涯発達視点とは？ 7. 育つ／育てる：愛着、アロマザリングとは？ 8. 育つ／育てる：青年期と勤勉性、発達支援とは？ 9. 育つ／育てる：高齢化社会、ポジティブ心理学とは？ 10. かかわる／競う：社会的自己、自己制御とは？ 11. かかわる／競う：自己開示、自己呈示（印象操作） 12. かかわる／競う：集団圧力、権威者への服従 13. かかわる／競う：社会的態度、コミュニケーション 14. かかわる／競う：集団、権限なきリーダーシップ 15. まとめ：各人の違いを認め、健康で幸福な生き方	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前教材は PorTa に掲載し、事後展開学習は教室で指示します。その学習成果はリフレクションペーパー、レポート、試験で確認し、フィードバックします。		
テキスト、参考文献	テキスト：杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版 参考文献：配付資料および授業中に紹介		
評価方法	リフレクションペーパー（25%）、レポート（2テーマ各 25%）、試験（25%）で評価する予定です。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅰ(こころの世界) ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、心の健康とカウンセリングなどのテーマについて、心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. カウンセリングとこころの健康	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習では授業計画に示した各回のテーマについて参考文献をもとに予習する。事後学習では講義内容について文献をもとにまとめ直す。事前・事後学習について授業内レポートにより適宜確認をおこなう。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。事前事後学習用の参考文献については授業にて適宜提示する。		
評価方法	授業における小レポート（20％）と試験（80％）により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅰ(通訳・翻訳論) ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 学期後半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 授業ではパワーポイントのスライドや映像資料を利用して講義を行いますので、欠席しないようにしてください。		1. 全体ガイダンス 2. 日本の翻訳通訳の歴史 1 3. 日本の翻訳通訳の歴史 2 4. 世界の通訳史、国連通訳 5. 翻訳者・通訳者の役割、通訳の種類 6. 会議通訳、ビジネス通訳、放送通訳 7. コミュニティ通訳、司法通訳 8. 医療通訳、手話通訳、通訳案内士 9. 外国語学習と通訳訓練について 10. 職業としての翻訳 11. 出版翻訳と産業翻訳 12. 法務・特許等の翻訳 13. 翻訳と通訳の理論 1 14. 通訳と翻訳の理論 2 15. 全体のまとめ、期末試験に関する説明	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの当該箇所を精読すること。		
テキスト、 参考文献	鳥飼玖美子編著 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房		
評価方法	定期試験の成績によって評価する。		

08 年度以降	ことばと思想 1 (<i>Downton Abbey</i> と Pax Britannica の終焉)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
世界的な大ヒットとなったTVドラマ <i>Downton Abbey</i> を通し、20世紀前半のイギリスの歴史への理解を深める。1912年から1925年というこのドラマの時代設定は、イギリスの大きな転換点だった。それまでの強固な階級制度が崩れ始め、イギリス国内の人々の価値観と社会制度が変化すると同時に、世界の中でイギリスの占める位置にも決定的な変化が起きた。こうした歴史的背景を、作者Julian Fellowesは巧みにドラマの中に取り込んでいる。そうした歴史が具体的なセリフの英語表現の中にどのように書き込まれているかを見ながら、イギリス現代史への理解を深めることを目的とする。		1. イントロダクション 2. タイタニック号の沈没 3. 貴族階級と相続制度 4. 階級社会と社会的流動性 5. 婦人参政権運動と働く女性たち 6. 第一次世界大戦の勃発 7. 化学兵器、塹壕、シエルショック 8. 志願兵と徴兵制度 9. スペイン風邪 10. アイルランド独立運動 11. 労働党政権の誕生 12. Pax Britannica の終焉 13. Real Downton Abbey とイギリスの文化遺産 14. まとめ(1) 15. まとめ(2)	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取り上げるドラマのスク립トからの抜粋（英文）を精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	教材はプリントを配布する。参考文献は下記のもの以外は授業内で随時紹介する。Fellowes, Julian. (2012). <i>Downton Abbey: The complete Scripts</i> . Harper Collins. ISBN: 978-0-00748739-4		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(東洋古代から近世まで) 社会思想史 a(東洋古代から近世まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、日々の行動を決定している。だが、それぞれの文化圏に特有の、慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を反省するきっかけにする。 古代と中世の主にインド・中国における諸思想を扱うことになる。 本講義の到達目標は、古代・中世の東洋思想の全般的な基礎知識の獲得、知識獲得のための調査研究の方法の自覚および実践、東洋の古代中世の思想的文化的遺産の活用とその吟味にある。		1. (インド) アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド) ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド) ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド) ウパニシャッド哲学のまとめ 5. (インド) 原始仏教 6. (インド) 原始仏教 7. (インド) 原始仏教とヒンドゥー教の思想 8. (中国) 孔子と論語 I 9. (中国) 孔子と論語 II 10. (中国) その他の古代中国思想 I 11. (中国) その他の古代中国思想 II 12. (中国) その他の古代中国思想 13. (中国) 老荘思想 14. 古代・中世の東洋思想のまとめ 15. 古代・中世の東洋思想のまとめと質問	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 70%、授業への積極的貢献（発言と質問） 10%、授業への参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(東洋近世から現代まで) 社会思想史 b(東洋近世から現代まで)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、日々の行動を決定している。だが、それぞれの文化圏に特有の、慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を反省するきっかけにする。 近世と近代のインド・中国・日本における諸思想を扱うことになる。 本講義の到達目標は、近世・近代の東洋思想の全般的な基礎知識の獲得、知識獲得のための調査研究の方法の自覚および実践、東洋の古代中世の思想的文化的遺産の活用とその吟味にある。		1. (インド) 仏教哲学 (説一切有部) I 2. (インド) 仏教哲学 (説一切有部) II 3. (インド) 仏教哲学 (説一切有部と経量部) 4. (インド) 仏教哲学 (中観派) 5. (インド) 仏教哲学 (唯識派) 6. (インド) 仏教哲学のまとめ 7. (中国) 宋学 I (周濂溪) 8. (中国) 宋学 II (程明道) 9. (中国) 宋学 III (程伊川) 10. (中国) 宋学 IV (張横渠) 11. (中国) 宋学 V (朱子学) 12. (中国) 宋学のまとめ 13. (中国) 現代と中国思想の関係 14. (日本) 本居宣長の思想 15. 東洋思想史の現代的意義	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 70%、授業への積極的貢献 (発言と質問) 10%、授業への参加度 20%		

08 年度以降	ことばと思想 1(フランス・ドイツ哲学入門 1)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
哲学とは何か？ この問いを根本問題として解明迫及するために、ドイツ・フランスの哲学者、文学者、科学者の諸思想を手がかりにする。触れることになる主な哲学者のみを挙げれば、デカルト、ライプニッツ、カント、ヘーゲル、ベルグソン、ハイデッガー、ウィットゲンシュタイン、レヴィナス等の独仏の哲学者に加え西田幾多郎などの日本の哲学も参照する。 「哲学とは何か」の思索展開途上で問題になるのは、存在とその意味、自己の在り方とその意味、知ることの意味とその限界、宗教と哲学の間に存する諸問題、有限と無限の関係、超越と事実存在、科学と人間との関係、自然の意味、自然と人間との関係、「世界」の意味と人間との関わり、真理と人間の関わり合いなどである。 本講義の到達目標は、創造的思索を体験し、自ら人生上の問題を見い出す能力、それに果敢に取り組む論理的態度と真摯で粘り強い解明への意志的努力を養うことにある。		1. 哲学とは何か？ 2. 哲学とは何か？の問いと人間 3. 存在 4. 存在の意味 5. 存在の意味と人間の位置 6. 人間の位置と自己 7. 自己と存在の意味 8. 自己の範囲 9. 自己存在と無限の問題 10. 有限と無限 11. 無限を知る 12. 知ることの限界 13. 知の限界と論理 14. 知の限界と宗教 15. 春学期のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て配るハンドアウトを授業前によく読むこと。 授業中に指示された参考文献を精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 70%、授業中の思索への寄与(問いとその探求に参加すること)20%、授業参加度 10%		

08 年度以降	ことばと思想 1(フランス・ドイツ哲学入門 2)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
哲学とは何か？ この問いを根本問題として解明迫及するために、ドイツ・フランスの哲学者、文学者、科学者の諸思想を手がかりにする。触れることになる主な哲学者のみを挙げれば、デカルト、ライプニッツ、カント、ヘーゲル、ベルグソン、ハイデッガー、ウィットゲンシュタイン、レヴィナス等の独仏の哲学者に加え西田幾多郎などの日本の哲学も参照する。 「哲学とは何か」の思索展開途上で問題になるのは、存在とその意味、自己の在り方とその意味、知ることの意味とその限界、宗教と哲学の間に存する諸問題、有限と無限の関係、超越と事実存在、科学と人間との関係、自然の意味、自然と人間との関係、「世界」の意味と人間との関わり、真理と人間の関わり合いなどである。 本講義の到達目標は、創造的思索を体験し、自ら人生上の問題を見い出す能力、それに果敢に取り組む論理的態度と真摯で粘り強い解明への意志的努力を養うことにある。		1. 哲学とは何か？を問う意味 2. 問うことの構造 3. 問いによって露わになる存在 4. 存在と意味との関係 5. 言語ゲーム 6. 意味了解の多層性 7. 多層なる意味と有限 8. 有限なる無限 9. 弁証法 10. 科学と人間 11. 自然と科学 12. 自然と人間 13. 「世界」の意味 14. 真理と人間 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て配るハンドアウトを授業前によく読むこと。 授業中に指示された参考文献を精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 70%、授業中の思索への寄与(問いとその探求に参加すること)20%、授業参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理学 a） 倫理学 a（倫理学と人間性）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、倫理学の全体像を概説する、 教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようになる。同時に他者に自分の考えを伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方と言語表現が出来るようになる基礎を得る。 この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。		1. 概要説明 2. 西洋古代の倫理 1 3. 西洋古代の倫理 2 4. 徳を原理とする倫理と現代問題 1 (discussion) 5. 徳を原理とする倫理と現代問題 2 (discussion) 6. 東洋古代の倫理 1 7. 東洋古代の倫理 2 8. 儒教的性善説と現代問題 1 (discussion) 9. 儒教的性善説と現代問題 2 (discussion) 10. 西洋近代の倫理 11. 西洋・東洋近代の倫理 12. 東洋近代の倫理 13. 功利主義的倫理と現代問題 1 (discussion) 14. 功利主義的倫理と現代問題 2 (discussion) 15. 春学期のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理学 b） 倫理学 b（現代倫理学の諸問題）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、倫理学の全体像を概説する、 教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようになる。同時に他者に自分の考えを伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方で言語表現が出来るようになる基礎を得る。 この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。		1. 概要 2. カント・ヘーゲルの倫理 1 3. カント・ヘーゲルの倫理 2 4. Kant, Hegel 的道德原理と現代問題 1 (discussion) 5. Kant, Hegel 的道德原理と現代問題 2 (discussion) 6. 和辻哲郎の倫理 7. 東洋近現代の倫理 8. 東洋近現代倫理と現代問題 1 (discussion) 9. 東洋近現代倫理と現代問題 2 (discussion) 10. 生命倫理 11. 医療倫理 12. 技術倫理 13. 現代の倫理的諸問題 1 (discussion) 14. 現代の倫理的諸問題 2 (discussion) 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

08 年度以降	歴史と文化 1 (ドイツ語圏のメディア文化 a)	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
＜国家ブランディング競争の時代＞ 近年、国家の「ブランディング」競争がますます激しさを増している—そんな点にみなさんは注目したことがあるでしょうか？ この講義では、さまざまな国際紛争や外交問題の背景に“国家をブランディングする”という視点と競争があるということを考察していきます。 今日、グローバル化により国家間の境目が低くなったかのように見える一方で、それぞれの国家のブランディング戦略とアイデンティティ形成は、ヒト・モノ・情報の移動が加速化、グローバル化するにつれ、ますます先鋭化・緻密化されています。各国の用いる手法・政策にはそれぞれに特徴がありますが、その手法の違いには、各国の政治文化や文化へのまなざしが反映されています。ニュースや国際イベントを 1 つの「メディア」としてとらえ、近隣国の事例を参照としつつ、ドイツを中心に考察していきます。		1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. 国際社会における戦後「ドイツ」の位置づけ 3. 戦後ドイツにおける文化と政治① 4. 戦後ドイツにおける文化と政治② 5. パブリックディプロマシーの時代① 6. パブリックディプロマシーの時代② 7. ドイツの対外文化政策① 8. ドイツの対外文化政策② 9. フランスの対外文化政策① 10. フランスの対外文化政策② 11. 英国の対外文化政策① 12. 日本の国際交流① 13. 日本の国際交流② 14. 講義のまとめ 15. 授業内試験	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に関連する参考文献や新聞記事などを読み、授業で理解を深めてください。授業後には、授業資料などで復習をし、学習したことを定着させ、自らテーマについて考えを深めてください。		
テキスト、参考文献	伊藤 裕夫・藤井 慎太郎（編）『芸術と環境—劇場制度・国際交流・文化政策』論創社、2012 年		
評価方法	学期末の試験（80％）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20％）も評価対象となります。		

08 年度以降	歴史と文化 1 (ドイツ語圏のメディア文化 b)	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
＜映画を通してドイツ社会を「読む」＞ この講義では、映画を通してドイツ語圏の歴史的事象を分析することを目的とします。 歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知るとは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。 講義でとりあげる作品には、比較的良好に知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。 ※ ゼミの専攻では春・秋学期にこの講義を履修済みかどうかとも考慮の対象になります。 ※ 春学期・秋学期ともに、受講者の関心によって、内容や順番を変更する可能性もあります。 ※ 両学期ともに、ドイツ語圏の歴史に関する事前知識は必要としません。		1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス？ ① 6. 好ましいナチス？ ② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへ 9. 監視国家—東西ドイツの心の壁① 10. 監視国家—東西ドイツの心の壁② 11. 現代ドイツにおける多文化共生 12. 近代国家としてのドイツの成立と「文化国家ドイツ」の歪み① 13. 近代国家としてのドイツの成立と「文化国家ドイツ」の歪み② 14. 講義のまとめ 15. 授業内試験	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に関連する文献を読み、授業で理解を深める準備をしてください。授業後には配布資料で復習をし、学習したことを定着させ、自らテーマについて考えを深めてください。		
テキスト、参考文献	授業時にプリントを配布します。		
評価方法	学期末の試験（80％）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20％）も評価対象となります。		

08 年度以降	歴史と文化 1（日本文学論・中世Ⅱ）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を探る。 講義概要：鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言っても過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期はいかにも中世らしい雰囲気を感じず『諏訪明神縁起』（甲賀三郎の物語）を読み解いていくことでそれらを確認する。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（日本の「お話」の歴史） 3. 概説②（「お伽草子」とは何か？） 4. 概説③（説話と「お伽草子」） 5. 講読①『諏訪明神縁起』 6. 講読②『諏訪明神縁起』 7. 講読③『諏訪明神縁起』 8. 講読④『諏訪明神縁起』 9. 講読⑤『諏訪明神縁起』 10. 講読⑥『諏訪明神縁起』 11. 講読⑦『諏訪明神縁起』 12. 講読⑧『諏訪明神縁起』 13. 講読⑨『諏訪明神縁起』 14. 講読⑩『諏訪明神縁起』 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時にプリントを配布する。 参考文献：授業中に一覧をプリントして配布する。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績による。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 1 (日本研究概論Ⅱ)	担当者	生田 守
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語・日本人・日本文化について、トピックごとに研究や課題を紹介し、日本研究の視点を涵養する。 日本語は世界言語の中で、どんな位置を占め、どんな特徴を持っているかを、従来言われてきたことと照らし合わせて検討する。 日本人・文化論については、代表的な論を紹介しながら、トピックごと授業を進める。 ※右授業計画詳細については、変更の可能性もある。講義のはじめに詳細を紹介する予定である。		1. 講義概要 2. 日本語とはどんな言語か 3. 日本語の特徴 (1) 4. 日本語の特徴 (2) 5. 文法的特質(1)統語論 6. 文法的特質(2)時間 7. 文法的特質(3)待遇表現 8. 日本人・文化論(1)日本人の異文化観 9. 日本人・文化論(2)コミュニケーションスタイル 10. 日本人・文化論(3)社会と文化 11. 日本人・文化論(4)美意識 12. 日本人・文化論(5)伝統芸能 13. 日本人・文化論(6)空間論 14. 日本人・文化論(7)共文化 15. 総括	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	出された課題は翌週提出のこと。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しない。参考文献については授業中に触れる。		
評価方法	レポート 50% (3 回程度)、試験 50%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(ヨーロッパ史 1) 歴史学 a(ヨーロッパ史 1)	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 【講義概要】 最初に、古代ギリシアの歴史家ヘロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20 世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 *本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。		第1回 授業ガイダンス「なぜ歴史を学ぶのか？」 第2回 歴史学の歴史 (I) 歴史学の誕生 第3回 歴史学の歴史 (II) 実証史学への挑戦 第4回 歴史学の歴史 (III) 新しい歴史学：文化史の台頭 第5回 歴史学の方法と対象 (I) 総論 第6回 歴史学の方法と対象 (II) マイクロヒストリー 第7回 歴史学の方法と対象 (III) グローバルヒストリー 第8回 歴史学の方法と対象 (IV) 歴史人類学 第9回 歴史学の方法と対象 (V) 記憶の歴史 第10回 歴史学の方法と対象 (VI) 書物の歴史 第11回 歴史学の方法と対象 (VII) ジェンダー史 第12回 歴史学の方法と対象 (VIII) 語りえぬものの歴史 第13回 歴史学の方法と対象 (IX) ナショナリズム 第14回 まとめ 第15回 まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義に備えて高校で使用した世界史の教科書の特にヨーロッパ史を扱った箇所を読み直すこと。 事後：講義で扱った歴史家や歴史書について自分の関心に応じて実際に手にとって読んでみてください。		
テキスト、参考文献	講義の中で適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題（50%）、期末試験（50%）、詳細は授業ガイダンスで説明する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1(歴史学 2)(ヨーロッパ史 2) 歴史学 b(ヨーロッパ史 2)	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 本講義は「歴史における陰謀論」について、ヨーロッパ史におけるフリーメイソンの歴史を例にして、理解を深め、ヨーロッパの歴史と文化について考えていく。 【講義概要】 オーストリアの歴史家ヘルムート・ラインアルターの『フリーメイソンの歴史と思想』(2016 年刊行予定)をテキストとしながら、フィクション作品でしばしば陰謀論の対象とされる秘密結社フリーメイソンの歴史的展開について、類似する秘密結社にも触れながら、概観していく。 *本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある 正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。		第1回 授業ガイダンス 第2回 フリーメイソンの歴史 (I) フリーメイソンの成立 第3回 フリーメイソンの歴史 (II) 18 世紀の最盛期 第4回 フリーメイソンの歴史 (III) 19 世紀 第5回 フリーメイソンの歴史 (IV) 20 世紀 第6回 フリーメイソンの儀式 (I) 第7回 フリーメイソンの儀式 (II) 第8回 そのほかの秘密結社 (I) 薔薇十字団 第9回 そのほかの秘密結社 (II) イルミナーテン 第10回 そのほかの秘密結社 (III) ドイツ・ユニオン 第11回 そのほかの秘密結社 (IV) カルボナリ 第12回 フリーメイソンと陰謀論 (I) 第13回 フリーメイソンと陰謀論 (II) 第14回 歴史における陰謀論 第15回 まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：ヘルムート・ラインアルター『フリーメイソンの歴史と文化』三和書籍、2016 年 参考文献：講義の中で適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題 (50%)、期末試験 (50%)、詳細は授業ガイダンスで説明する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広くかつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。		1. 講義の概要 2. 網野善彦の歴史学 1 3. 網野善彦の歴史学 2 4. 柳田国男の民俗学 1 5. 柳田国男の民俗学 2 6. 折口信夫の民俗学 7. 仏教一法華経 8. 仏教と文学一宮澤賢治 9. 絵巻物の時空 10. 能 11. 黒澤明の映画 12. 民俗芸能 13. マンガの引用学 14. 戦後少女マンガ史 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	題材についての予備知識の仕入れと、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	定期試験 80%、授業への参加度 20%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏の文学) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文学文化)	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
授業目的 今日グローバル社会と言われ、英語が世界語となっている事態から予想されるように英語を母語とする地域以外でも英語で作品を発表する作家が増えている。それはもはやイギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。そうした英米人ならぬ作家たちの作品を含めて英語圏の文学というのである。この授業ではそうした作家たちの多彩な創作活動を網羅的に紹介する。 講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した作品を紹介する。授業はあらかじめ配信してある授業概要をもとに講義する。		1. 授業概要 2. カナダ 3. オーストラリア、ニュージーランド 4. サモア 5. 日系アメリカ人 6. 中国系、朝鮮系アメリカ人 7. ユダヤ系アメリカ人 8. インディアン系アメリカ人 9. カリブ諸島 10. インド、パキスタン 11. アフリカの英語作家 12. イギリス人作家の植民地体験 13. アメリカ人作家の植民地体験 14. イギリス、アメリカの黒人文学 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前にポータルに配信された授業概要をプリントアウトし目を通しておき、授業中はそれにメモを加え、事後にプリントを精読する。		
テキスト、 参考文献	特にないが、参考文献一覧を配信する。		
評価方法	定期試験 5 0 %、レポート 3 0 %、小テスト 1 0 %、授業での発言 1 0 %		

08 年度以降	歴史と文化 1 (英語圏の文学 II)	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。そのなかで文化はどのように形成されるのか。また異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化受容、異種混合といったタームを導入しながら英語圏の文学を具体例にして検討する。 講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産されている英語圏の文学の作家や作品をとりあげて、それらの移動に焦点を当てて批評的に検討する。		1. 講義概要 2. 多文化社会の形成 3. 多文化社会の在り方 (1) 通文化主義など 4. 多文化社会の在り方 (2) 異種混合など 5. アイデンティティの問題 6. 作家の移動 7. 作品の移動 8. 手法の移動 9. 偽史 10. 翻訳 11. クレオール 12. エクソフォニー 13. 在日、日系移民 14. 世界文学 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にポータルに配信された授業概要をプリントアウトし目を通しておき、授業中はそれにメモを加え、事後にプリントを精読する。		
テキスト、参考文献	特にないが、参考文献一覧を配信する。		
評価方法	定期試験 50%、レポート 30%、小テスト 10%、授業での発言 10%		

08 年度以降	歴史と文化 1 (英語圏の小説)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、文学作品、とくに小説の読み方を、小説『フランケンシュタイン』を例にして勉強します。 参考文献として挙げた本では、『フランケンシュタイン』を例に取り上げながら、「小説技法」と「批評理論」を解説しています。講義ではこの本をベースに、担当者がさらに解説を付け加えながら進めます。 『フランケンシュタイン』は名前ばかり有名ですが、原作は奥の深い、面白い小説です。女性が書いたというところも興味深いところです。受講者には翻訳でひととおり読んでもらいますが、重要なパッセージは原文の英語で読みます。 「技法」や「理論」というと小難しそうに聞こえるかもしれませんが、文学研究の基本でもあり、映画、表象、文化研究全般に応用できるテクニックでもあります。いっしょに勉強してみましょう。		『フランケンシュタイン』とは？ - 小説技法(1) - 小説技法(2) - 小説技法(3) - 批評理論(1): 伝統的批評 - 批評理論(2): ジャンル批評 - 批評理論(3): 読者反応批評 - 批評理論(4): 脱構築批評 - 批評理論(5): 精神分析批評 - 批評理論(6): フェミニズム批評 - 批評理論(7): ジェンダー批評 (クィア批評) - 批評理論(8): マルクス主義批評 - 批評理論(9): 文化批評 - 批評理論(10): ポストコロニアル批評 - 批評理論(11): その他の批評	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された箇所を読んでおくこと		
テキスト、参考文献	テキスト：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』 小林章夫訳（光文社文庫） 参考文献：廣野由美子『批評理論入門：「フランケンシュタイン」 解剖講義』（中公新書）		
評価方法	授業内レポート 30%、中間レポート 30%、定期試験 40% （ただし 5 回を越えて欠席した場合は評価対象としない）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日韓交流史) 歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回講義についてコメントペーパーを書いてください。講義の資料を精読してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：レジュメを配布する。 参考文献： 授業時に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、期末レポート 70%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (大衆文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽、ゲーム、マンガ等のコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化、オタク文化など）、さらにはそれらを売買する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても、重点的に講義する。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化を多角的に見る視点を養う。		1. イントロダクション 2. 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3. 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4. 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5. サブカルチャーとグローバル化 1：日本のロック 1 6. サブカルチャーとグローバル化 2：日本のロック 2 7. サブカルチャーとグローバル化 3：日本のヒップホップ流入期 8. サブカルチャーとグローバル化 4：その後 9. 産業と文化 1：文化産業論 10. 産業と文化 2：市場の動態 11. ヤンキー文化 12. オタク文化 13. 複合メディア社会とサブカルチャー 14. 予備 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で指示する課題に取り組むこと		
テキスト、参考文献	随時指示する		
評価方法	試験で評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。		1.イスラームにの基本事項について説明する。 2.イスラーム教の誕生以前の世界について。 3.預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、時代背景。 4.最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について。 5.ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6.アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7.イスラーム教の聖典コーラン、預言者の言行録であるハディースとその解釈。 8.アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9.アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開。 10.マムルーク朝について。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点。 11.同 その2 12.ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13.同 その2 14.歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会。 15.まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
テキスト、参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。		
評価方法	レポートの評価（70％）と平常点（30％）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2) (イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) イスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。 なお、毎回出席をとる。		1.オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2.欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3.「西洋の衝撃」によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4.さまざまなイスラーム改革運動について考える。 5.パレスチナ問題とエジプトの近代化について。 6.トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 7.近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8.知識人階層であるウラマー、イスラーム法、宗教的寄進（ワクフ）などと近代化との関係について検討する。 9.近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10.20 世紀のイスラーム世界について考える。 11.現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 12.同その 2 13.同その 3 14.今日のイスラーム主義の主張と展開。 15.まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
テキスト、参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。		
評価方法	レポートの評価（70％）と平常点（30％）。レポートの表紙は授業で配布するので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (東西の文化を結ぶもの) 比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) アジア史的な観点を中心に「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい。「東洋」という概念は、「西洋」側の主観の産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが最初の目標である。 (講義概要) 最初はセム系の一神教の理解を歴史に沿ってすすめ、やがてキリスト教が西洋世界の形成とつながることを理解し、次に東洋におけるイスラーム教や仏教やヒンドゥー教などを考察し、最後に大航海時代がもたらした「世界の一体化」の意味を検証する。		- ユダヤ教・キリスト教の広がりアジア世界。 - 同その 2 - 同その 3 - イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 - 同その 2 - 同その 3 - 十字軍・レコンキスタとその時代。 - 同その 2 - 同その 3 - 仏教・ヒンドゥー教とその世界。 - 同その 2 - 日本への仏教の伝播とその性格。 - 同その 2 - 大航海時代とその後。 - まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
テキスト、参考文献	(参考書) 高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』(中公新書)		
評価方法	レポートによる評価 (100%) レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (東西文化と近代化) 比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義の目的) 秋学期ではとくに、東洋における近代化が事実上の「西洋化」であった点を考察し、それが生み出すさまざまな現実を検討しながら、現代の世界のしくみを理解するための橋渡しとなることが目的である。 (講義概要) アジア地域について近代化の問題を広く考察する。とくに近代化にともなってオスマン帝国が解体し、広範な地域で宗教や民族意識にかかわる問題があらわれるが、それらが現在の国際情勢と結びついている点を検討したい。		1. 中東におけるさまざまな近代化。 2. 同その 2 3. 同その 3 4. 帝国主義とイスラーム世界 5. 同その 2 6. 同その 3 7. オスマン世界の近代化と民族・宗教意識のゆくえ。 8. 同その 2 9. 同その 3 10. ヨーロッパのオスマン世界、とくに旧ユーゴスラヴィアにおける民族意識の形成。 11. 同その 2 12. 同その 3 13. 旧ソ連諸国の民族意識。 14. 同その 2 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。		
テキスト、参考文献	(参考書) 高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』(中公新書)		
評価方法	レポートによる評価 (100%) レポートの表紙を授業で配布するので注意すること。		

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 1)(文明史研究 a)	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 文明は世界中に残されていますが、私たちが知ることのできる文明はほんの一部でしかありません。多くは滅んでしまったり、遺跡も失われたため存在の証を知る手がかりすら無いものもあるからです。ですから、現在残されている文明を大切に維持し、次世代に正確に伝えていかなければならないのです。 本講義ではヨーロッパ文明の源流となったギリシア、ローマ文明に焦点を当て、政治的対立を超えた文明の交流について考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 文明とは何かという本質的な問題からはじめます。文明が栄えていく時期にはその文明を担う英雄も現れ、また滅んでいく過程では自然災害や気候変動といった要素はもちろん、病気や人類が引き起こした戦争、紛争などの対立がありました。 本講義では文明に対する理解を深めるため、図像資料やビデオ、DVD といった映像を使用することにより、文明の多くの課題を皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。		1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、クレタ文明 3、ミケーネ文明 4、トロイア戦争 5、ギリシア文明（アテナイ） 6、ギリシア文明（スパルタ） 7、ペルシア文明 8、ペルシア戦争 9、ペロポネソス戦争 10、マケドニアとアレクサンドロス 11、ヘレニズム文明 12、ローマの対内外戦争 13、ローマ文明（共和政まで） 14、ローマ文明（帝政以後） 15、講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

08 年度以降	歴史と文化 1 (歴史学 2)(文明史研究 b)	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> ヨーロッパは第一次世界大戦、第二次世界大戦を経て EU の統合がなされました。まさにグローバル化によって、ヨーロッパの国々では国境の壁は低くなっています。 本講義ではシュペングラーやトインビーらの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明をとりあげます。ギリシア・ローマ文明はその後どのように伝播がなされていったのかについて考察したいと思います。 <講義概要> ヨーロッパの語源となったエウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明がどのようにして全世界に伝播され、受容されていったかを検証したいと思います。ヨーロッパの視点からだけではなく、アジアやアフリカ、新大陸といわれたアメリカなどの視点では、どのようにヨーロッパは映るのかといった双方向の視点から検討します。春学期と同様に図像資料や映像も使用し、理解を深めたいと思います。 難民等の問題が生じている現代社会についての現状も考えなければなりません。		1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、ヨーロッパとは何か 3、ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、ローマ帝国の意味 6、中世フランク王国 7、イタリア・ルネサンス 8、大航海時代 9、植民地を求めて 10、植民地の争奪 11、第一次世界大戦 12、大戦後のヨーロッパ 13、ヨーロッパ統合の思想 14、ヨーロッパの現状と課題 15、講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（韓国文化各論 c） 歴史と文化（Ⅲ）（韓国文化各論 c）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国を理解するためには、その歴史を知る必要がある。とくに朝鮮時代は、現在の韓国文化の基盤となっていると同時に、韓国人の習慣や考え方の基礎となっている。本講義では韓国の前近代史、とくに朝鮮時代を講義することにより、その知識を得、韓国の歴史、文化に対する理解を深めることを目標とする。 講義ではガイダンスのあと、歴史と地理を概観した後に、国王と王妃、王朝の組織などを解説し、食事、服飾、建築などを各論に入る。テキストとプリントに基づいて講義をする。講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお人数によっては課題レポートの作成と発表を行うこともある。		1. ガイダンス 2. 歴史と地理（1） 3. 歴史と地理（2） 4. 歴史と地理（3） 5. 国王と王妃 6. 朝鮮王朝の組織 7. 服飾 8. 食事 9. 建築 10. 芸能・音楽（1） 11. 芸能・音楽（2） 12. 美術（1） 13. 美術（2） 14. 世界遺産 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしていくこと。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト> 橘洗次、姜基洪『朝鮮王朝 500 年の秘密』（二見書房） <参考資料等> 授業時に指示する。		
評価方法	授業内レポート、課題レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 1（韓国史）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなった。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思われ。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大切なことである。 このことをふまえ、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義する。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をする。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。		1. ガイダンス 2. 古代から統一新羅へ（1） 3. 古代から統一新羅へ（2） 4. 高麗時代（1） 5. 高麗時代（2） 6. 朝鮮時代（1） 7. 朝鮮時代（2） 8. 朝鮮時代（3） 9. 植民地時代（1） 10. 植民地時代（2） 11. 現代（1）1945 年から 1960 年 12. 現代（2）1960 年から 1980 年 13. 現代（3）1980 年から 2000 年 14. 現代（4）2000 年以後 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしていくこと。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト>水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007 年、1800 円）。 参考文献は授業時に指示する。		
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (ラテンアメリカ研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校までの地理や世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。		1 導入① ラテンアメリカの多様性：ステレオタイプについて 2 導入② ラテンアメリカの食文化 地理・気候 3 導入③ メキシコ食文化とグローバル化 4 人種・民族① 先住民とメスティーソ、ヨーロッパ系 5 人種・民族② アフリカ系とアジア系 6 歴史① 先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7 歴史② 植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8 文化と社会① 宗教と祭り、家族、女性 9 文化と社会② 文学と造形芸術 10 歴史③ ラテンアメリカの独立と 19 世紀 11 歴史④ 米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ 12 経済と社会・政治① 開発主義と独裁から民主化へ 13 経済と社会・政治② ラテンアメリカの挑戦 14 米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15 まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。		
テキスト、参考文献	授業内で指示する。		
評価方法	数回の小テスト 3 割および期末テスト 7 割		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (恐怖の日本文学) 文学 a (恐怖の日本文学)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わい、恐怖の構造の理解まで到達させる。		1. 恐怖の現代文学のアウトライ 2. ①伝統的手法による恐怖の造形、荒俣宏「帝都物語」 3. ② 同上 京極夏彦「魍魎の匣」 4. ③ 同上 坂東眞砂子「死国」 5. ①超自然的事象からの造形 「二重螺旋の悪魔」 6. ② 同上 鈴木光司「リング」 7. ③ 同上 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8. ①心理学的な題材からの造形 9. ② 同上 貴志祐介「黒い家」 10. ③ 同上 桐野夏生「OUT」 11. ①社会派ミステリーの造形 宮部みゆき「模倣犯」 12. ② 同上 東野圭吾「容疑者 X の献身」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ（総集編）	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文学現代) 文学 b (癒しの日本文学)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察し、現代文学思潮論まで理解させる。 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫り、癒しの構造を分析する。		1. ガイダンス 2. ①人間関係からの癒し 重松清「ビタミン F」 3. ② 同上 恩田陸「夜のピクニック」 4. ③ 同上 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 5. ①時間からの救い 浅田次郎「地下鉄に乗って」 6. ② 同上 北村薫「スキップ」 7. ③ 同上 佐藤正午「Y」 8. ①笑いの持つ救い 奥田英朗「インザプール」 9. ② 同上 佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 10. ①美しい生き方 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11. ② 同上 有川浩「阪急電車」 12. ③ 同上 天童荒太「悼む人」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ (総集編)	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1) (アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期前半には近現代の日本に対して、資本導入、技術移転、学術指導、法制定等を通して多大な恩恵を及ぼした米・英を中心とするユダヤ系の働きかけについて学ぶ。ユダヤ人と日本人の著名人が力を合わせて偉業を成し遂げる心温まるgood storyを中心に授業は進められる。ユダヤ人史と日本史、異質な情報が交錯するスリリングなおもしろさに満ちていることを約束しよう。 後半ではユダヤ系が超大国アメリカの地で、パワー・エリートに成りあがる以前、中世から現代の英国で負け犬として「下積み」をすごした自体を概観する。		1. 日露戦争の資金調達に協力した米英系ユダヤ人。 2. 日本人ビジネスマン、ユダヤ商人と出会う。 3. 「日系ユダヤ人」、ソニーの盛田昭夫 4. 明治憲法の助言者、モッセ 5. 亡命ユダヤ系音楽家の楽園、日本 6. 服部良一を育てたユダヤの恩師 7. P. エールリッヒと秦佐八郎の師弟コンビ 8. ノーベル化学賞受賞日本人とユダヤの恩師 9. 中世英国のユダヤ人金融 10. 中世英国からユダヤ人追放 11. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290~1656 12. 千年王国とユダヤ人再入国 13. 17~18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 14. 英国人地主貴族社会への同化現象 15. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』日新報道 15 年刊行、1500 円 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』（1995 年講談社選書）1600 円		
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可 出席はとらない。評価は定期試験のみによって決定。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2) (アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。 公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ・イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。 後半は、在米ユダヤ系の「下積み時代」における苦難の足跡を歴史的に学ぶ。		1. アメリカ政治とユダヤ人 2. 移民・マイノリティの政党、民主党との同盟成立 3. 在米イスラム教徒の政治力 4. 共和党支持の中核、キリスト教福音派 5. ヒスパニック社会に対する福音派の宣教活動 6. キリスト教シオニストの圧力団体 7. 新パレスチナに傾く主流派教会 8. 2016 年大統領選とエスニック・マイノリティ 9. 欧州極右とユダヤ・ロビーの急接近 10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 蘇る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、 参考文献	佐藤唯行『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（電子書籍版：ダイヤモンド社）、1280 円 佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000 年 集英社新書）740 円		
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。		

08 年度以降	歴史と文化 1 (韓国文学史)	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 文学とは、その国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国の原風景を巨視的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 (講義概要) 1) 前近代：古代から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを世界観を中心に考察する。庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 2) 近現代：近代国民国家作りが殖民地化とともに進行されざるをえなかった近代文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、経済発展期、新自由主義時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。		1. 文学とは何か、世界文学の流れ 2. 建国神話、古歌謡 3. 新羅の歌と仏教説話 4. 高麗の流行歌 5. 朝鮮時代の詩と歌 6. 朝鮮時代の小説：映画「春香伝」鑑賞 1 7. 映画「春香伝」鑑賞 2 8. 中間テスト 9. 韓国近代史：最初の近代小説「無情」 10. 植民地体験とは：「万歳前」「蕎麦の花咲くころ」など 11. 韓国の近代詩「つつじの花」「服従」 12. 青年尹東柱の生涯と詩：「序詩」 13. 産業化の影：映画「三浦へ通ずる道」 14. ネット文学：映画「オオカミの誘惑」「猟奇的な彼女」 15. まとめ (＊場合によって差し替えの可能性あります)	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ネット検索などを通して、各テキストに関する事前調査を行ってください。 授業後にポイントとなる箇所を文章として整理し、記述式の問題の出題に備えてください。		
テキスト、参考文献	沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト』(冊子) 配布		
評価方法	中間・期末テスト：70%、課題 15%、授業への参加度：15%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(中世の仏教と社会) 歴史学 a(中世の仏教と社会)	担当者	菅原 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の平安時代から戦国時代にかけて（11～16世紀）、 荘園は朝廷・公家・大寺社・幕府等の重要な経済的基盤で あり、朝廷（天皇家）も幕府（将軍家）も基本的には荘園 からの収入で運営されていました。この講義では、中世の 荘園と「家」の経済との関係を中心に話します。 具体的には、朝廷の内蔵寮（天皇の装束・食料等を調達 した官庁）の長官である内蔵頭を世襲した山科家の場合を 主に取り上げ、荘園のしくみと経営、荘民たち、「家」の 家族と家僕、内蔵頭の職掌である装束調達、内蔵寮に関わ る商人や織手職人の活動などから、中世の「家」と社会の 経済のあり方について検討します。		1. 講義の概要 2. 「家」の成立と経済 3. 荘園公領制とは 4. 荘園に関する諸史料 5. 荘園の伝領 6. 山科家の京都近郊荘園 7. 荘民たちの自治活動 8. 山科家の地方荘園 9. 荘園収入と「家」の経済 10. 内蔵寮領の関所と商人 11. 山科家の天皇装束調達 12. 内蔵寮の織手たち 13. 荘園に在国した公家 14. 荘園の消滅—織田信長による所領再編 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、 今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前には、日本史の時代区分（古代・中世・近世・近代、平安時代・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代・ 戦国時代）、政府と支配者（朝廷と天皇、鎌倉幕府・室町幕府と将軍）について確認しておいてください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：菅原正子『中世公家の経済と文化』（吉川弘文館、1998 年）、同『中世の武家と公家の「家」』 （吉川弘文館、2007 年）。そのほか授業でその都度紹介します。		
評価方法	定期試験 90%、授業への参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(中世の「悪党」 と民衆) 歴史学 b(中世の「悪党」 と民衆)	担当者	菅原 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の戦国時代（16 世紀）には、各地で戦国大名が中央政府からなかば独立した領国を形成して支配していました。この講義では、彼らがどのようにして領国を形成して彼らの「家」と領国を運営していたのかをみていきます。 領国の運営のあり方は、その領国の大名や地域的事情などによって異なっていました。この講義では、戦国大名の北条氏と武田氏の領国について取り上げ、経済面に重点を置いて検討し、両者の領国支配の違いについても明らかにします。		1. 講義の概要 2. 戦国大名と領国 3. 北条氏の一族と大名領国の形成 4. 北条氏康の『小田原衆所領役帳』 5. 北条氏の税制 6. 北条氏の徳政令 7. 小田原城の落城 8. 武田信玄の一族と領国 9. 武田信玄の法典『甲州法度之次第』 10. 武田信玄の税制 11. 戦国時代の撰銭令 12. 武田氏の訴訟制度 13. 川中島の合戦 14. 武田信玄の学問と易占い 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前には、戦国時代の時代的位置づけ（中世末期）、関東・甲信越のおおまかな地図、小田原・甲府等の位置を確認しておいてください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：永原慶二『戦国時代』（上)(下)（小学館ライブラリー、2000 年）、柴辻俊六編『新編武田信玄のすべて』（新人物往来社、2008 年）。そのほか授業でその都度紹介します。		
評価方法	定期試験 90%、授業への参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（都市と建築 1） 歴史と文化(Ⅲ)（都市と建築 1）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ingことを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。		1. 講義概要の説明 2. 古代エジプトの建築（1） 3. 古代エジプトの建築（2） 4. 古代メソポタミアの建築（1） 5. 古代メソポタミアの建築（2） 6. 古代ペルシャの建築 7. エーゲ海建築 8. 中間のまとめ 9. 古代ギリシャの建築（1） 10. 古代ギリシャの建築（2） 11. 古代ギリシャの建築（3） 12. 古代ローマの建築（1） 13. 古代ローマの建築（2） 14. 古代ローマの建築（3） 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に事典などを活用して講義の主題に関するある程度の予備知識を得ておくことが望ましい。事後には、講義で得た知見と問題意識をもって改めて建築遺産を見直してみる。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。		
評価方法	試験の結果によって評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（都市と建築 2） 歴史と文化(Ⅲ)（都市と建築 2）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ingことを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。		1. 講義概要の説明 2. 初期キリスト教建築 3. ビザンチン建築 4. イスラム建築 5. プレ・ロマネスク建築 6. ロマネスク建築（1） 7. ロマネスク建築（2） 8. ロマネスク建築（3） 9. 中間のまとめ 10. ゴシック建築（1） 11. ゴシック建築（2） 12. ゴシック建築（3） 13. ルネサンス建築（1） 14. ルネサンス建築（2） 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に事典などを活用して講義の主題に関するある程度の予備知識を得ておくことが望ましい。事後には、講義で得た知見と問題意識をもって改めて建築遺産を見直してみる。		
テキスト、 参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。		
評価方法	試験の結果によって評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 a) 歴史学 a (中国近代史概説・清朝国家の黄昏)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1. 講義の概要 2. 清朝皇帝支配体制 3. 清朝の科举と社会 4. 清朝体制下の国際関係 5. アヘン戦争 6. 南京条約と東南沿海地域の秩序再編 7. 太平天国の成立 8. 清朝の反撃と太平天国の滅亡 9. 回民の反乱 10. 洋務運動と洋学の受容 11. 開港場の社会と経済 12. 周辺地域の宗主権の創出 13. 台湾事件と台湾出兵 14. 清仏戦争と台湾の近代化 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22－19）中央公論新社，2008 年。参考文献：授業中に紹介。		
評価方法	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 b) 歴史学 b (中国近代史概説・近代国家創成の試み)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 また 19 世紀後半になって「纏足」が問題として認識されるようになった過程について検討し、近代中国の女性の社会状況の変化を理解します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1. 講義の概要 2. 朝鮮をめぐる日中関係 (1) 3. 朝鮮をめぐる日中関係 (2) 4. 日清戦争 5. 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 6. 変法改革 7. 戊戌の政変 8. キリスト教布教と仇教運動 9. 義和団の蜂起 10. 義和団戦争 11. 清末の女性の地位と纏足問題 12. 天足運動の展開 13. 革命派の台頭 14. 光緒新政と地方自治の試み 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。参考文献：授業中に紹介。		
評価方法	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%		

08 年度以降	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの文学)	担当者	中井 博康
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語で書かれた文学テキストについて、主要な作家や作品を取り上げながら、通時的に概説します。文学史や文化史の知識を身につけることも大切ですが、受講者にはむしろできるだけ多くの文学テキストを実際に読んでもらい、新たな作家や作品に出会う機会にしたいと思っています。		01 中世のイベリア半島：<El Cid>, Arcipreste de Hita, Don Juan Manuel 02 ルネサンスに向けて：Jorge Manrique, <La Celestina>, Romancero 03 1492 とクロニカ：Colón, Las Casas, Garcilaso de la Vega, Ercilla 04 16 世紀：神秘主義、ピカレスク小説、モーロ小説 05 17 世紀の散文と詩：Cervantes, Góngora, Quevedo, Gracián 06 17 世紀の演劇：Lope de Vega, Tirso, Calderón, Ruiz de Alarcón 07 18 世紀：Moratín 08 19 世紀(1)：ロマン主義 09 19 世紀(2)：写実主義, 自然主義 10 19 世紀(3)：モデルニスム, 98 年の世代など 11 20 世紀(1)：27 年の世代, Cela, Sender, Delibes, Buero Vallejo 12 20 世紀(2)：Borges, Asturias, Carpentier, Rulfo, Neruda 13 20 世紀(3)：Paz, Cortázar, García Márquez, Fuentes, Vargas Llosa 14 現代 15 総論	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課外学習として、ブックリストの本を数冊読み、それぞれレポートを作成してもらいます。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しません。レポートのためのブックリストを配布します。		
評価方法	授業時のレスポンスカード（平常点 40%）とレポート（課題点 60%）により、総合的に評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 1 (カリブ海域研究)	担当者	中村 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、カリブ海域の歴史・文化・社会について一定の知識を得るとともに、受講者のみなさんがこの地域への関心を深めることを目的とします。 カリブ海にはたくさんの島がありますが、とくにフランス領の島々（マルティニク、グアドループ、ハイチ）や、ジャマイカを題材にして、奴隷制、（新）植民地主義、同化、独立などのテーマについて考える予定です。また、ネグリチュードや、クレオールなどのカリブ海思想にも触れる予定です。 授業は基本的に講義形式ですが、配布資料の読解や、ディスカッションといった作業も時おりおこなう予定です。		1. オリエンテーション カリブ海の基本情報 2. グローバル・ヒストリーとしてのカリブ海史（1） 3. グローバル・ヒストリーとしてのカリブ海史（2） 4. マルティニク島とグアドループ島について 5. 「海外県」という問題 6. エメ・セゼールとネグリチュード（1） 7. エメ・セゼールとネグリチュード（2） 8. フランツ・ファノンとは誰か 9. クレオール化の思想 10. キンケイド『小さな場所』を読む（1） 11. キンケイド『小さな場所』を読む（2） 12. レゲエと抵抗文化 13. ジャマイカ映画の観賞と分析（1） 14. ジャマイカ映画の観賞と分析（2） 15. まとめと小論文	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取りあげたり、言及する作品をできるだけ手にとるよう心がけてください。		
テキスト、参考文献	テキストは特になし。参考文献については講義中に紹介します。		
評価方法	各回のリアクションペーパー（60％）、授業最終週の小論文（40％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(スペイン研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究概論」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19 世紀のスペイン 12. 18、19 世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。		
評価方法	定期試験によって評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (教育の歴史 1) 歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史 a)	担当者	長谷部 圭彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、「教育の世界史」を構築し、それを、教育に関する様々な問題を世界史的な観点から考察する際に、「参照体系」として活用できるようになることである。 春学期開講の「教育の歴史Ⅰ」では、いわゆる欧米を対象とする。具体的には、12世紀から20世紀までの同地域の教育を概観し、義務教育や大学といった、我々がその存在を自明視している制度や組織の歴史的経緯を検討する。 他方、バランスのとれた世界史を構築するためには、いわゆるアジアについても十分に検討する必要がある。絶対的な義務ではないが、秋学期開講の「教育の歴史Ⅱ」もあわせて受講することが望ましい。 なお、講義は講義形式で行う。毎回レジュメを配布する。		1. 講義の概要－文字・宗教・教育 2. 修道院と大学 3. 人文主義と宗教改革 4. 新思想の登場 5. 義務教育の法制化 6. 大革命とナポレオン 7. 教育思想の展開 8. プロイセンの台頭とベルリン大学 9. パブリック・スクールとオックス・ブリッジ 10. 新大陸のエリート教育 11. ラテン・アメリカの独立と大学 12. 身分制のなかの学校 13. 社会主義と教育 14. 新教育運動の展開 15. 講義の総括	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前：高等学校の世界史教科書の関連箇所を適宜読むこと。 事後：レジュメに記載されている参考文献を適宜読むこと。		
テキスト、 参考文献	テキスト：使用しない 参考文献：長尾十三二『西洋教育史』第二版（東京大学出版会、1991 年）など		
評価方法	定期試験 70%、講義への参加度 30%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (教育の歴史 2) 歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史 b)	担当者	長谷部 圭彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、「教育の世界史」を構築し、それを、教育に関する様々な問題を世界史的な観点から考察する際に、「参照体系」として活用できるようになることである。 秋学期開講の「教育の歴史Ⅱ」では、いわゆるアジアを対象とする。具体的には、12世紀から20世紀までの、中東、南アジア、東南アジア、日本を含む東アジアにおける教育を概観し、各地域の伝統的な教育システムと、西洋型教育の受容について検討する。 他方、バランスのとれた世界史を構築するためには、いわゆる欧米についても十分に検討する必要がある。絶対的な義務ではないが、春学期開講の「教育の歴史Ⅰ」もあわせて受講することが望ましい。 なお、講義は講義形式で行う。毎回レジュメを配布する。		1. 講義の概要－文字・宗教・教育 2. イスラームの信仰と教育 3. オスマン帝国の改革と教育 4. 植民地と教育 1－インドネシア 5. ヒンドゥー教の信仰と教育 6. 植民地と教育 2－インド 7. 仏教の信仰と教育 8. タイの改革と教育 9. 社会システムとしての科举 10. 朝鮮とベトナムへの科举の伝播 11. 日本における朱子学の受容 12. 明治政府の教育政策 13. 日本における新教育運動 14. 獨逸学の隆盛と獨協学園 15. 講義の総括	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：高等学校の世界史教科書の関連箇所を適宜読むこと。 事後：レジュメに記載されている参考文献を適宜読むこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：使用しない 参考文献：毎回のレジュメに記す		
評価方法	定期試験 70%、講義への参加度 30%		

08 年度以降	歴史と文化 1 (日本における死生学)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
人は必ず死ぬ、人は「死」と直面したときに「死」だけではなく「生」も意識する。このような生死に関わる観念を考えるのが死生学である。本講座では、旧来の葬送儀礼やその後の儀礼を通して、先人がどのように「死」と向き合い、「死」と「生」を捉えてきたかを見る。また近年、葬送儀礼の形が大きく変わった。その変化は死生観をも変えてきたのだろうか。さらに感情を持ち、人間とコミュにーションをとることができるロボットが出回っている。かつて、犬型ロボットがペット同様の扱いを受け、動かなくなってしまうたら葬儀があげられている。今後の「死」や「生」のあり方を考えるための授業である。		1. ガイダンス 2. 「死」を目前にして／葬法とその意味 3. 日本の葬法とその変化 4. 葬送儀礼次第 1 5. 葬送儀礼次第 2 6. 墓地・墓石の意味／両墓制 7. 近代以降の葬法の変化 1（政策的問題として） 8. 近代以降の葬法の変化 2（火葬受容の問題として） 9. 近代以降の葬法の変化 3（火葬受容の問題として） 10. 現代の葬儀とその意味 11. 葬儀にみる「生」と「死」の観念 12. 「先祖」とは何か 13. 雨乞いと空葬礼（雨乞いに葬儀が行われる理由） 14. 葬送儀礼と誕生儀礼の類似性／ペット・ロボットの死 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布。テキストは授業の中で適宜指示する。		
評価方法	試験 100%であるが、授業参加度を加味する。		

08 年度以降	歴史と文化 1 (日本における世間学)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
日本における共同体研究 (社会研究) は進んでいるが、我々はこのような共同体とは別に、「世間」と呼ばれる観念的世界の中にも生きている。それが甘えや恥の文化を生み出している。近年「世間」研究が文化研究の一環として行われてきている。本講座ではまず「世間」を構造的に捉え、日本人の生活行動様式や意識のあり方を明らかにし、日本における排他性や差別意識、また責任の所在が曖昧な風潮捉える。またメディア・ネットの発達で「世間」は変化しているが消失している訳ではない。自分の中や回りにある「世間」(「世間体」) というものがどのようなものであるか知り、「個」としてどのように生きるかを考える礎になるような授業展開をしていきたい。		1. ガイダンス 2. 「ウチ」なる世界 1 (私とは何か) 3. 「ウチ」なる世界 2 (私と「ウチ」との関係) 4. 「ウチ」と「ソト」との関係 5. 「世間」とは何か 6. 「世間」の特質 1 7. 「世間」の特質 2 8. 「世間」の特質 3 9. 「世間話」にみる「世間」 10. 祭祀組織構造を「世間」から読み解く 11. 「世間」と「社会」の違い 12. 「世間」と「社会」の構造的関係 13. 交通・メディアの発達と「世間」 14. 現代における「世間」の様相 15. 「社会人」として「世間」とどのように向き合うか	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布。テキストは授業の中で適宜指示する。		
評価方法	試験 100%であるが、授業参加度を加味する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (民俗学) 歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの生活は、先祖から受け継がれることで成り立っている。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探ることを目的とする。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることにつながるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。		1. ガイダンス 2. 民俗学の研究対象 3. 民俗学の成立 4. 日本の祭り 5. 日本の祭りの意味 6. 異界の問題 1 (妖怪・幽霊とは何か) 7. 異界の問題 2 (『東海道四谷怪談』) 8. 異界の問題 3 (妖怪と神との関係) 9. 昔話にみる「日本」 10. 災害伝承 11. 年中行事 1 (年中行事とは。正月行事) 12. 年中行事 2 (盆を中心に) 13. 人の一生 14. 日本人の死生観 (西洋との比較) 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考文献は最初の授業で一覧を配布。		
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（地域文化） 歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、「地域文化」の在り方と現在の実態を中心に話を進める。「地域」とはどのようなものであり、そこにどのような「文化」を捉えることができるのであろうか。また「文化」とはどのようなものであるのか。 これらを理解した上で都市化と過疎化、そして高齢化や I T の発達がどのように我々の地域文化に影響を及ぼしているか、伝統的社会での「地域文化」の在り方から、現代の「地域文化」の様相を考えて行きたい。 「地域文化」は、生活そのものであるが、「伝統」という価値を付加することで、自己アイデンティティの形成のために用いられることもあり、また他者に対してアピールすることで、町おこしにも利用される。「地域文化」は単なる現象ではなく、我々が価値づけすることによって、成り立つ側面もある。「価値づけ」の意味についても本講座では問うてみたい。		1. ガイダンス 2. 地名の成立ちと「地域」 3. 地域と生活構造 1（周囲論の問題） 4. 地域と生活構造 2（結など互助組織の問題） 5. 白川郷の「結」 6. 地域認識の問題（地名と地域の関係） 7. 地域文化としての祭り 1（地域と祭りの関わり） 8. 地域文化としての祭り 2（文化伝播の問題） 9. 地域の重層的構成 10. 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域を事例にして） 11. 伝統的祭りの方向性 2（都市部を事例にして） 12. フォークロリズムの問題 13. 新興の祭りと地域 14. ボーダレス社会と地域文化 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考文献は最初の授業で一覧を配布。		
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文学古典) 文学 a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①神話とは何かを説明できる。 ②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。		1. 神話とは何か 2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3. 日本人逢かな旅 4. 同時発生説・伝播説 5. エリアーデの神話論 6. バルトの神話作用 7. ヤマタノオロチ退治神話の意味 8. 日本神話ともののけ姫 9. アシタカの神殺し 10. エボシのタタラ場の近代性 11. 前近代と近代の労働観 12. エボシの神殺しと近代合理主義 13. ギルガメシュ叙事詩ともののけ姫 14. もののけ姫と環境思想 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
テキスト、 参考文献	プリントを配布		
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (平安時代の文学を読む) 文学 b(日本文学－平安時代の文学を読む)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。		1. 原質神話とは何か 2. 根の国訪問神話 3. 主人公の特徴 4. 魔女の宅急便と原質神話 5. 在原業平の犯した二つの罪 6. 業平像の変容 7. 源氏物語第一部のあらすじ 8. 須磨・明石の巻と原質神話 9. 桐壺帝と父親との対決 10. 千尋の越境生・非対称性 11. 援助者としてのハク・カオナシ 12. カオナシと貨幣 13. カオナシと移行対象 14. ヒーローとヒロインの飛翔 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化史入門) 歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的>グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。<講義概要>授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもありますのでその際には積極的に参加しましょう		1. はじめに (講義の目的、概要、その他) 2. 技術文化 (1) 動力とエネルギー源 (奴隷労働の意義) 3. 技術文化 (2) 水の供給と農・牧業 (ローマ水道橋) 4. 運送手段 (1) 船と海上輸送 (三段櫓船と商船) 5. 運送手段 (2) 陸上輸送 (一般道と高速道) 6. 造形芸術: 建築と彫刻 (アルカイックスマイルの謎) 7. 文学の世界: 叙事詩と演劇 (ギリシア悲劇の普遍性) 8. 宗教と祭祀 (神々と人間): ギリシア神話とは何か? 9. 性愛の諸相 (1) 男と女: 同性愛 10. 性愛の諸相 (2) 男と女: 結婚と異性愛 11. 競技的 (アゴン) 人間類型: 理想的人間とは? 12. クリエンテラ・パトロネージ関係 13. 民主政の中の人間関係 (1) 14. 民主政の中の人間関係 (2) 15. まとめ (総括と展望)	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。また、毎回出される課題に答えて授業後あるいは次回に提出して下さい。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際、追加の参考文献を紹介することがあります。		
評価方法	定期のレポート 70%、毎回の課題 20%、授業への参加度 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 a) 文化人類学 a(未開文化の理解へ)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 未開とは何か 3. 文化と文明 4. 言語と文字 5. 日常と非日常 6. 通過儀礼 7. 年齢と分類 8. タブー 9. 宗教と人類学 10. ジェンダーと人類学 11. 家族・親族 12. 贈与と交換 13. 伝統の創造 14. 文化の書き方 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題等に反映させること。		
テキスト、参考文献	テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード 改訂版』(有斐閣)とする。その他のものは授業内で指示する。		
評価方法	平常点 (授業への参加度等) [30%]、小課題・調査課題 [70%] を評価対象とする。小課題・調査課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (文化人類学 b) 文化人類学 b(未開文化の理解へ)	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を実践的に学ぶことを目的とする。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもら。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 自然とは何か 5. 可視化・単純化 6. 調査実習 1 7. 可視化：再説 8. 調査実習 2 9. 可視化と地域知 10. 調査実習 3 11. 地域知と実践知 12. 調査実習 4 13. 地域の中の多様なアクター 14. 政策への多様な評価 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	教材は教員が用意するが、調査用に二種類のノートを用意してもらう必要がある（詳しくは授業内で指示する）。春学期にテキストとして使用した『文化人類学キーワード』は参考文献とする。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、調査課題と小課題〔70%〕を評価対象とする。調査課題・小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化1（歴史学1）（「15 年戦争」をどうとらえるか） 歴史学 a（「15 年戦争」をどうとらえるか）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945年に敗戦を迎えた戦争は、アメリカとの戦争だったと思われがちだが、これを見直す必要がある。アメリカやイギリスとの開戦の前に、泥沼化した日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った相手は中国である。中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などが印象に残ることが多いようだが、日本は被害を受けただけではない。戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、映像資料をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。 日本にとって、中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます重要になる中で、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。日本国憲法が生まれる背景を探ることにもなる。 なお、なるべく秋学期もあわせて受講して欲しい。		1. 1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2. 1941 年 12 月 8 日—真珠湾からコタバルから 3. 被害の問題①—空襲は何を示すか 4. 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5. 日中戦争をとらえる①—満州事変から日中戦争へ 6. 日中戦争をとらえる②—対米英戦争とのかかわり 7. 加害の問題①—731 部隊とは何か 8. 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9. 治安戦としての日中戦争—「尽滅掃討」作戦 10. 日本の戦争と植民地朝鮮 11. 日本軍隊の特徴をみる 12. 戦時下の社会—戦争への動員・女性と戦争他 13. 敗戦をめぐって①—本土決戦体制の構築と沖縄 14. 敗戦をめぐって②—ポツダム宣言とその受諾 15. 「15 年戦争」を振り返る	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	示されている次のテーマがどのような事実に関わるものか、各自で調べておいてください。 レジュメ・資料また各自で調べたことをもとに、今時テーマが持つ意味を考察してください。		
テキスト、 参考文献	講義の中で紹介する		
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（歴史学 2）（戦後史の中の「15 年戦争」） 歴史学 b（戦後史の中の「15 年戦争」）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
沖縄の問題をはじめ、中国や韓国・朝鮮との関係、日本人の戦争認識など、1945 年 8 月に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）の残した課題が、70 年を超えた今日の日本に残る。そして、その全てに、占領・講和などを通しての戦後のアメリカと日本の関わり方が絡んでくる。現代の課題を考えるために、こうした戦後史の事実にも目を向けていきたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進み、やっとそういう論議ができるようになった。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 また、2011 年 3 月 11 日を経て、あらためて「核」「原発」の問題に目をむけることも不可欠になった。 なお、なるべく春学期もあわせて受講して欲しい。		1. 「15 年戦争」の終わり方をふりかえる。 2. 「民主化」と日本国憲法 3. 東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4. 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5. 日本の国内での補償をめぐって 6. 日本のアジアへの補償をめぐって 7. 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8. 日中国交回復を考える 9. 原発をめぐって①—「ビキニ被曝」と原子力平和利用 10. 原発をめぐって②—3.11 から何を学ぶか 11. 「戦後」の沖縄の歩み 12. ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 13. 米軍基地問題と日本の安全保障を考える 14. 戦後 50 年の国会決議をめぐって—政治家の戦争認識 15. 「戦後 70 年」を超えて	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	示されている次回のテーマがどのような事実に関わるものか、各自で調べておいてください。 レジュメ・資料また各自で調べたことをもとに、今時テーマが持つ意味を考察してください。		
テキスト、 参考文献	講義の中で紹介する		
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (移民・交易に見る文化変容) 歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業では、交易や人の移動によって生じる社会変化を知 ることを到達目標とする。 そのため、(1) 東西交易、(2) 国際移民の歴史を理解し、 人びとのアイデンティティについて理解を深める。 そのことで、国際社会を理解するための能力を高めること ができるようになる。 授業の進め方は講義形式で、授業を二つに区分する。各区 分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブ レインストーミング）を行う。		1. ガイダンス（「共生」について考える） 2. 古代交易 3. 海上交易の変化 4. ヨーロッパの台頭と商人・商品 5. 大航海時代の物・人の移動 6. 環大西洋世界の物・人の移動 7. まとめ 1：交流と文化変容 8. 産業革命と物・人の移動 9. 移民過程とエスニック・マイノリティ 10. 戦後の高度成長期の移民と経済発展 11. ドイツの移民について 12. イギリスの移民について 13. アメリカの移民について 14. ヨーロッパとイスラムについて 15. まとめ 2：グローバル化とアイデンティティ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、 今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：授業で紹介する書籍・プリントを読んでください。 事後学習：授業に出て来たキーワード、理論に関し、内容を十分に把握してください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：(1)『国際移民の時代』 S・カスルズ/M・J・ミラー、名古屋大学出版会、(2)『華麗なる交易』 ウ ィリアム・バーンスタイン、日本経済新聞出版社		
評価方法	学習態度（10%）、課題（40%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化Ⅰ(グローバル化と情報・通信の文化史) 歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業では、メディアの発達史を通して、情報と社会の関係性について知ることの到達目標とする。 そこで、古代からの通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたかについて学ぶ。 また、情報を取り扱うメディアについて概観することで、現代の経済活動や国民生活と情報がどのように関係しているかについて、理解を深めることができるようになる。 授業の進め方は講義形式で、授業を二つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。		1. ガイダンス（情報化時代について考える） 2. 古代王国と駅制 3. 新聞の創業 4. 帝国の通信ネットワーク 5. 通信社の誕生 6. ラジオ・テレビ時代 7. まとめ1：メディアと社会構造 8. 情報資料の収集と分析 9. 冷戦期の情報処理 10. 冷戦後の情報処理 11. 情報とビジネス 12. 情報と国家 13. グローバルメディア誕生 14. 双方向・同時通信の社会 15. まとめ2：情報と文化・社会の変化	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：授業で紹介する書籍・プリントを読んでください。 事後学習：授業に出て来たキーワード、理論に関し、内容を十分に把握してください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：(1)『エッセンシャル・マルクハーン』エリック・マルクハーン&フランク・ジングローン、NTT 出版局、(2)『情報化社会研究』柏倉康夫、放送大学大学院教材		
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 a) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。		1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門Ⅰ 7. アラブ音楽入門Ⅱ 8. パレスチナ問題と芸術 1) ドキュメント 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション 9. パレスチナ問題と芸術 2) 演劇 「アライヴ・フロム・パレスチナ」鑑賞 10. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 11. パレスチナ問題と芸術 3) 記録映画 12. パレスチナ問題と芸術 4) 小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに帰って」 読後レポート提出・ディスカッション 13. パレスチナ問題と芸術 5) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 14. パレスチナ問題と芸術 5) 映画 15. イスラーム報道・アラブ報道を考える	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ガッサーン・カナファーニの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。		
テキスト、 参考文献	スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）		
評価方法	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (アラブ文化・芸術 b) 歴史と文化(Ⅲ)(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。		1. 後期イントロダクションーアラブの日常 2. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 3. アラブの芸能界と歌謡曲 4. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 5. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 6. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 7. マルコ・ポーロよりすごいアラブの旅行家 8. イスラームというファクターを正しく理解する 9. 「アラブ革命の春」を考える 10. アラブ文化は詩の文化（１）：概観 11. 詩の文化（２）：中世ヒップホップ 12. ノーベル賞作家ナギーブ・マフフーズの世界とエジプト近代史 13. 小説「バイナルカスライン」(新訳タイトル:「張り出し窓の街」) 読後レポート提出 14. 続き（ディスカッション） 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。		
テキスト、参考文献	スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）		
評価方法	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）		

08 年度以降	歴史と文化 1 (在外日本人研究)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270 万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。		1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム― 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
テキスト、参考文献	参考文献:『ハワイの日本人移民』山本英政 明石書店		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (異文化間コミュニケーション b) 歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行ふは難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題を取り上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。		1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実とは？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従 ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
テキスト、参考文献	参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		
評価方法	学期末試験レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏の文化) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ (WASP<White Anglo-Saxon Protestant>) 社会を創造した。19 世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。		1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャーⅠ 10. カウンターカルチャーⅡ 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする		
テキスト、参考文献	授業時で紹介する		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏事情) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていく。キーワードは「力の支配」である。 ① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。 ② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか ③ テロの横行のはじまりは2001年の911である。人々を震撼させたあの事件がいったい何によってひきおこされたのだろうか イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。		1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. 911 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの911 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする		
テキスト、 参考文献	『米兵犯罪と日米密約』明石書店		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください		

08 年度以降	歴史と文化 1 (日本文学論・中世 I)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
古今集の世界—中世和歌文学史と古今伝授— わが国の勅撰集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されています。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の様態をいくつかの文献を読み解き、中世から近世にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。		1. ガイダンス—勅撰集とは・八代集の成立— 2. 古今集仮名序の世界—『古今和歌集』仮名序を読む— 3. 『古今和歌集』の注釈—その 1・『俊頼髄脳』— 4. 『古今和歌集』の注釈—その 2・『奥義抄』— 5. 『古今和歌集』の注釈—その 3・『古今集注』— 6. 六条藤家の登場—柿本人麿影供— 7. 御子左家の登場—藤原俊成『古来風体抄』— 8. 藤原定家—『頭注密勘』— 9. 御子左家の分裂—二条家・『六卷抄』— 10. 二条家の流れを汲む—頼阿・『頼阿序注』 11. 反御子左家の誕生—為頭流・『古今和歌集聞書三流抄』 12. 為頭流からの展開—謡曲への影響— 13. 古今伝授の世界—その 1・御所伝授の成立— 14. 古今伝授の世界—その 2・地下伝授への展開— 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、提示される課題に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。		
評価方法	授業時試験 70%、課題を含めた授業への参加度 30%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本事情とコミュニケーション教育) 歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の年中行事 日本の文化の基点ともいえるべき「年中行事」を中心に文学作品にうかがえる様々な行事を通史的に追いつつ、日本文化について学び、各国の文化との比較を通じてそれぞれの文化への理解を深めることを本講義の目的とします。 特に、「五節供」とその周縁の行事を概説し、それらの行事に関する現代の様態をレポートしたり、各国の行事を紹介したりする時間をとり、ディスカッションする場面を設けます。		1. ガイダンス—一年中行事とは— 2. 日本文化の基点—暦の概念— 3. 日本文化の基点—儀式書の概説— 4. 年中行事—正月行事・その 1— 5. 年中行事—正月行事・その 2— 6. 年中行事—正月行事・その 3— 7. 年中行事—上巳の儀礼・その 1— 8. 年中行事—上巳の儀礼・その 2— 9. 年中行事—端午の儀礼・その 1— 10. 年中行事—端午の儀礼・その 2— 11. 年中行事—七夕の儀礼・その 1— 12. 年中行事—七夕の儀礼・その 2— 13. 年中行事—重陽の儀礼— 14. 年中行事—新嘗祭・大嘗祭— 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、授業中に提示された課題に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業時間内に紹介します。		
評価方法	テーマに沿った課題レポート 60 %、リアクションペーパー等を含めた授業への参加度 40 %		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（ブラジル研究） 現代社会（Ⅲ）（ブラジル研究）	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 講義の目標は、受講生がブラジルについて積極的に考え、授業の内容において独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 講義概要 ブラジルは、2014 年にワールドカップを開催し、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。昨年のワールドカップの開催の際におこったデモンストレーションの背景には、どのような要因があったのか。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 受講生への要望 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される		1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて：新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備 10. BRICs、南南関係：多極的外交の展開 11. 学生のプレゼンテーション 12. 学生のプレゼンテーション 13. ワールドカップより教育・医療の充実： 2013－2014 年のデモを考える 14. 新たな経済政治危機：また「鶏の羽ばたき」に終わってしまうのか 15. オリンピックイヤーから見えてくるブラジル ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について考えること		
テキスト、 参考文献	堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書		
評価方法	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、授業内ペーパー、プレゼンテーション等も加味した評価とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 1）（自然環境と文化） 地理学 a（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。		1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素（1） 地球の特質 4 環境の諸要素（2） 地形環境 5 環境の諸要素（3） 気候環境 6 環境の諸要素（4） 植生と土壌 生態系 7 熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 8 熱帯地域（2）―アジアの稲作 9 熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 10 熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 11 砂漠地域（1）―自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域（2）―イスラムの世界 13 砂漠地域（3）―石油資源と近代化 14 砂漠地域（4）―アラブとイスラエル 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的な視点から読み解く。		
テキスト、参考文献	授業中に示す		
評価方法	定期考査		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 2）（自然環境と文化） 地理学 b（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。		1 温帯地域（1）自然的特質 2 温帯地域（2）地中海森林地域 3 温帯地域（3）温帯混交林地帯（ヨーロッパ） 4 温帯地域（4）温帯混交林地帯（アジア） 5 温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6 温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7 温帯地域（7）そのほかの温帯地域 8 冷帯地域 9 冷帯地域・寒帯地域 10 山地地域 11 世界の環境問題（1）人口 12 世界の環境問題（2）食料 13 世界の環境問題（3）酸性雨と公害問題 14 世界の環境問題（4）地球の温暖化 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	該当地域の自然・人文・社会について高校レベルの内容を復習する。今日のその地域のニュースを地理的な視点から読み解く。		
テキスト、 参考文献	授業中に示す		
評価方法	定期考査		

08 年度以降	現代社会 1（シネマで学ぶ法律学）	担当者	新井 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
法律学というと、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。 しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。 同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。		1. 「依頼人」－法の世界の登場人物 1 2. 「依頼人」－法の世界の登場人物 2 3. 「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義 1 4. 「禁じられた遊び」－国民主権・平和主義 2 5. 「レオン」－契約は守らなければならない 1 6. 「レオン」－契約は守らなければならない 2 7. 「エリン・ブロボッチ」－不法行為 1 8. 「エリン・ブロボッチ」－不法行為 2 9. 「レインマン」－相続問題 1 10. 「レインマン」－相続問題 2 11. 「それでもボクはやってない」－刑事裁判 1 12. 「それでもボクはやってない」－刑事裁判 2 13. 「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論 1 14. 「デッドマン・ウォーキング」－死刑廃止論 2 15. 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。学んだ法律問題をまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	〔参考文献〕 野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（2014 年、有斐閣）		
評価方法	定期試験 100%		

08 年度以降	現代社会 1（続・シネマで学ぶ法律学）	担当者	新井 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
法律学という、何か堅苦しいイメージを持つ学生が多いように思う。確かに、法律学は、説得の学問であり、論理的な整合性を重視する。 しかし、人間が社会において生活していく上で、切っても切り離せないのが、法律というものである。したがって、法学部の学生のみならず、外国語学部や国際教養学部、経済学部の学生も、大学時代に法律学のエッセンスを学んでおくべきであろう。 それでは、いかにして学ぶか。本講義は、シネマを鑑賞しながら、そこに出てきた法律問題を素材に、法律学のエッセンスを紹介するという方法を採用する。 同時に、本講義は、名作シネマを鑑賞してもらうことで、文化的教養を培うことも目的としている。 なお、本講義は、春学期に開講した「現代社会 1（シネマで学ぶ法律学）」の続編であるが、本科目のみの受講でも一向に差し支えない。		1. 「緑色の髪の少年」－基本的人権の尊重 1 2. 「緑色の髪の少年」－基本的人権の尊重 2 3. 「評決」－医療過誤 1 4. 「評決」－医療過誤 2 5. 「最高の人生の見つけ方」－インフォームドコンセント 1 6. 「最高の人生の見つけ方」－同 2 7. 「チャイナ・シンдрーム」－不法行為等 1 8. 「チャイナ・シンдрーム」－不法行為等 2 9. 「真実の行方」－罪と罰 1 10. 「真実の行方」－罪と罰 2 11. 「ショーシャンクの空に」－冤罪・死刑廃止論 1 12. 「ショーシャンクの空に」－冤罪・死刑廃止論 2 13. 「この自由な世界で」－労働問題 1 14. 「この自由な世界で」－労働問題 2 15. 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者同士で鑑賞したシネマについて意見を述べ合うこと。学んだ法律問題をまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	〔参考文献〕 野田進・松井茂記編『新・シネマで法学』（2014 年、有斐閣）		
評価方法	定期試験 100%		

08 年度以降	現代社会 1（現代の企業経営）	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。企業経営の面白さと難しさを体感できるとともに、グループワークを通じてとことん考え抜く力もつくと思われる。		1. オリエンテーション 2. ビジネスプラン作成（初期投資額の算出） 3. ビジネスプラン作成（初期投資額の算出） 4. ビジネスプラン作成（企業理念と事業内容） 5. ビジネスプラン作成（企業理念と事業内容） 6. ビジネスプラン作成（企業理念と事業内容） 7. ビジネスプラン作成（企業理念と事業内容） 8. ビジネスプラン作成（企業理念と事業内容） 9. ビジネスプラン作成（広告宣伝方法の考察） 10. ビジネスプラン作成（広告宣伝方法の考察） 11. ビジネスプラン作成（資金調達額と方法） 12. ビジネスプラン作成（資金調達額と方法） 13. ビジネスプラン作成（レポートまとめ） 14. ビジネスプラン作成（レポートまとめ） 15. ビジネスプラン作成（レポートまとめと提出）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義時間はあくまでもグループワークが優先であり、グループワークがスムーズに進むように事前事後に下調べが必要となる。		
テキスト、参考文献	ケーススタディと参考資料を配布する		
評価方法	グループワークへの参加度・貢献度と期末レポートにより評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ドイツ地域論) 現代社会(Ⅲ)(ドイツ地域論)	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ地域論 本講義では、ドイツ語圏と EU について、ドイツ・ヨーロッパがどのように統合されていったのかを歴史的な背景から考察します。 春学期では、ヨーロッパ統合にとって、二つの世界大戦と「ドイツ」をめぐる問題、そして冷戦が決定的な役割を果たしたことに留意し、歴史的な側面を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合の始まりから現在の EU に至るまで、中心的役割を果たしているドイツの歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。特に 19 世紀末の世界のグローバル化から、二つの世界大戦と冷戦を経て、現在のヨーロッパ統合の形が出来あがるまでを、基本的に時系列を追う形で考えていきます。		1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 導入ー現在の EU とドイツ（政治・経済的の制度概説） 2. ドイツ帝国と世界の一体化 3. ドイツ帝国と第一次世界大戦 4. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 5. ナチズムの台頭と第二次世界大戦 6. 占領時代のドイツと冷戦 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進 9. 西ドイツの「長い 60 年代」と 西欧社会 10. ブランツの東方外交とヨーロッパの緊張緩和 11. 70 年代の西ドイツと統合の地理的拡大 12. 80 年代の西ドイツと経済統合の深化 13. 冷戦終結と 1989 年の東欧革命 14. 東西ドイツの統一 15. EC から EU へ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。		
テキスト、 参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ヨーロッパ地域論) 現代社会(Ⅲ)(ヨーロッパ地域論)	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ地域論 本講義では、ドイツ語圏と EU について、ドイツ・ドイツ語圏諸国と EU は現在どのような特徴を備えているのか、また、現在どのような課題を抱えているのかをテーマに分けて考察します。 第三回目までの講義では、ドイツ・オーストリア・スイスが EU の中に占める位置・役割について概説します。4-6 回では、現在のヨーロッパにおける、広い意味での文化的統合 (=「ソフト」な統合) を扱います。7-9 回では、ヨーロッパ・ドイツ語圏における「市民権」の歴史と、現在の教育政策を通じて、「EU 市民権」について考えます。10-12 回では、EU の拡大とそれに伴う危機について考察します。13-15 回では、現在の EU が直面している「危機」について、欧州憲法条約の失敗、通貨危機、「反ヨーロッパ」と言われる政治運動と難民問題を通じて見ていきます。		1. シラバスに基づいた授業ガイダンス ー現在の EU とドイツ (政治・経済的の制度概説) 2. EU 中のドイツー①ドイツの「大国化」 3. EU 中のドイツー②オーストリア・スイスと EU 4. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー①教育 5. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー②記憶 6. ドイツ・ヨーロッパの「ソフト」な統合ー③科学技術 7. 市民権をめぐる問題ー①「市民権」の系譜 8. 市民権をめぐる問題ー②多重市民権と EU 市民権 9. 市民権をめぐる問題ー③ドイツの移民国化 10. EU の東方拡大ー①東ドイツ問題 11. EU の東方拡大ー②東ヨーロッパ諸国の加盟 12. EU の東方拡大ー③EU とトルコ 13. 現在の EU の「危機」ー①「統合」の終焉？ 14. 現在の EU の「危機」ー②ユーロ危機 15. 現在の EU の「危機」ー③「反ヨーロッパ意識」の台頭と難民問題	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育んでください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 1) 現代社会 (Ⅲ) (教育法 a)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析・解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされていたいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。		1. 学校における子どもの人権侵害 2. 学校事故裁判と学校教育裁判（子どもの人権裁判） 3. 体罰裁判とその特徴 4. 体罰事件最高裁判決 5. 生活指導とその限界（指導死事件） 6. いじめ裁判とその論点 7. いじめ自殺と予見可能性 8. いじめ調査・報告義務訴訟 9. 丸刈り校則訴訟 10. パーマ校則裁判 11. 都立高校原級留め置き訴訟 12. 信教の自由と学校教育——神戸市立高専事件 13. 指導要録開示訴訟 14. 学力結果公開請求事件 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。		
テキスト、参考文献	指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。		
評価方法	試験		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 2) 現代社会 (Ⅲ) (教育法 b)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
教育法の現代的法状況の把握（教育法 a）を前提に、教育法のより体系的理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成過程をフォローしながら、教育と国家の基本的な関係の在り方を考察します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育の自由、教師の教育に自由、住民の教育権を、順次教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正以降の教育法制の展開を分析します。		1 戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2 逆コースの教育改革 3 教科書裁判（1） 4 教科書裁判（2） 5 最高裁学テ判決 6 障害児の学習権——特殊学級入級処分取消訴訟 7 子どもの市民的自由——内申書裁判 8 親の教育権——日曜日訴訟 9 親の教育権——七尾養護学校事件 10 教師の教育の自由——伝習館高校事件 11 教師の教育の自由と日の丸・君が代強制 12 新任教師と分限処分 13 教育委員会制度と地方教育行政法改正 14 教育基本法改正と教育法制 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	講義で取り上げる判例を事前または事後に読んでほしい。		
テキスト、 参考文献	指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。		
評価方法	試験		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（国際法 1）（国際社会と私たち） 国際法 a（国際社会と私たち）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、国際法規範の構造、国際法主体としての国家、国家責任、外交関係法、海洋法などをとりあげる。		1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件 9 国家責任の追及 10 外交関係法 11 外交特権免除 12 国家領域としての海洋 13 沿岸国の海洋管轄権の拡大 14 国際公域としての海洋 15 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
テキスト、 参考文献	テキスト：横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（国際法 2）（国際紛争を考える） 国際法 b（国際紛争を考える）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際法が、国際社会のさまざまな分野にどのようなかたちで発展しつつあるのかを概観するとともに、そこに生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。		1 講義の概要 2 国際法と戦争の違法化国連の集団安全保障 3 国連の集団安全保障 4 国連のもとでの武力行使に関する諸問題 5 平和的紛争解決と仲裁裁判 6 国際司法裁判所 7 国際機構・国際連合 8 国際機構の構造 9 国籍・外国人 10 難民・国際犯罪 11 国連による人権保障 12 人権条約 13 国際環境保全の諸原則と条約 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
テキスト、 参考文献	テキスト：横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年		
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1（非正規雇用を考える）	担当者	市原 博
講義目的、講義概要		授業計画	
近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めているのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊後の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。最近の雇用情勢の好転によってもこの問題は解決されておらず、むしろ、中高年となった非正規の方々の貧困問題＝格差拡大が注目されるようになっていきます。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようなになっており、どのような改正が求められているのかを考察します。 また、非正規雇用とともに近年関心を集めている「ブラック企業」問題も取り上げます。 非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのがこの授業の目的です。		1. イントロダクションー正社員と非正規とは何か 2. パート労働ー基幹パート 3. パート従業員の活用策 4. パート労働法による規制とその変化 5. フリーターの増加とその理由 6. フリーターになりやすい属性 7. フリーターから正社員への移行の条件 8. 派遣労働の法的規制とその変化 9. 派遣労働の実態 10. 派遣労働者の属性 11. 男女雇用機会均等法の変化 12. 女子社員の職務配分と均等処遇 13. 女子社員の活用策 14. ブラック企業の見分け方 15. ブラック企業への対処法	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料を事前・事後によく読んでください。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定せず、資料をプリントして配ります。 参考文献はたくさんありますので、項目ごとに授業中に指示します。		
評価方法	おおよそ、授業への参加度 10%、小テスト・レポート 10%、定期試験 80%で評価します。		

08 年度以降	現代社会 1 (History of International Relations I)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the 16th century to the end of World War II. <u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.		1. Introduction 2. The Rise of Sovereign States and Europe 3. Revolutions and the Congress of Vienna 4. The Age of Pax Britannica 5. The Emergence of Imperialism 6. Emerging New Alliances and Imperialism 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Path to World War I 10. The End of World War I 11. The Resurgence of Peace and Stability 12. The Path to World War II 13. The Outbreak of World War II 14. The End of World War II 15. Course Review	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).		

08 年度以降	現代社会 1 (History of International Relations II)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed for students to learn the history of international relations. Students will enhance the knowledge and the understanding of international relations through the studies of key events that occurred from the beginning of the Cold War to the early 21st century. <u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn history of international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.		1. Introduction 2. The Beginning of the Cold War 3. The Outbreak of the Korean War 4. The Cold War in Europe 5. The Cold War in the Middle East 6. The Vietnam War and the Bipolar Structure 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War in South Asia 10. The End of the Cold War 11. The Post-Cold War World 12. The End of Pax Americana 13. Changing Global Order I 14. Changing Global Order II 15. Course Review	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%).		

08 年度以降	現代社会 1 (マスメディア法)	担当者	右崎 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
高度情報通信社会の到来とともに、われわれが生きている社会の情報環境は大きく変化し、マスメディアの活動をめぐっても、これまで想定されなかったような新しい問題が提起され、解決が求められている。これらの問題のなかには、従来の法理論の枠組みに収まらないものも多いが、その解決に向けて、基盤になる価値はいまでもなく表現の自由である。ここではマスメディアの活動にかかわって提起される法的問題を考えるとともに、高度情報通信社会に生きる市民に必要とされるメディア・リテラシーを身につけていただくことを目指したい。 講義で取り上げる予定の主要なトピックとしては、マスメディアをめぐる現代的状況を念頭に置きながら、メディア規制の動向と表現の自由の理論、国家秘密の保護と情報の公開、報道・取材の自由をめぐる諸問題、性表現の自由と規制、差別的表現、表現の自由と名誉・肖像・プライバシーの権利、図書館の自由、放送の自由などを予定している。		1. 講義の進め方、表現の自由の理論 2. マスメディア規制の動向 3. 国家秘密の保護 4. メディアと情報公開 5. 報道・取材の自由と取材源の秘匿 6. 報道取材の自由と取材資料の証拠利用 7. 法廷取材・裁判報道の制限 8. 少年事件報道と青少年の保護 9. 性表現の自由と規制 10. 差別的表現 11. 名誉の保護と報道の自由 12. 肖像の保護と報道の自由 13. プライバシーの保護と報道の自由 14. 図書館の自由 15. 放送の自由	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞・テレビ等を通してメディアと法をめぐる動向をウォッチし、フォローしてほしい。人前で読むのがはばかられるような新聞や雑誌もあるが、マスメディアの現状を理解する手がかりとして、それらにも関心を払ってほしい。		
テキスト、参考文献	テキストはとくに指定しない。参考文献は、以下のもののほか、適宜紹介する。田島泰彦＝右崎正博＝服部孝章編『現代メディアと法』（1998 年、三省堂）、長谷部恭男ほか編「メディア判例百選」別冊ジュリスト（2005 年、有斐閣）、松井茂記「マスメディア法入門（第 5 版）」（2013 年、日本評論社）		
評価方法	レポート 40%、定期試験 60%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 さまざまな発展状況にある地域の特徴を理解し、自らの生活との関連づけて考察する。東南アジアの開発／発展と社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。 講義概要 東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から紹介し、望ましい発展とは何かを考える。また、主としてタイを事例に、1、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、2、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。		第1回：地域研究的な思考方法について 第2回：東南アジアの地域的特徴 第3回：東南アジア地域研究の課題 第4回：東南アジア社会の多様性 第5回：東南アジアの地誌と地域研究的課題 第6回：東南アジアにおける都市と農村 第7回：東南アジアにおける開発政策 第8回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第9回：東南アジアにおける開発／発展と宗教 第10回：東南アジアにおける開発／発展と環境 第11回：東南アジアにおける開発／発展と労働力 第12回：東南アジアにおける開発／発展と家族・子ども 第13回：東南アジアにおける開発／発展と女性 第14回：東南アジアにおける社会保障／福祉 第15回：試験	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。		
テキスト、参考文献	『地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1（2005 年 6 月発行） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社（2006 年） 大泉啓一郎著『老いてゆくアジア』中公新書（2007 年）		
評価方法	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1 (韓国政治論)	担当者	呉 吉煥 (オ・ギルハン)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国の政治と政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島においてはそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だがその根幹となるものはすでに前近代に形成されており、政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討することが重要である。 講義では、朝鮮半島の政治を前近代から時代順に概観しつつ、各時期における政治の様子と政治文化の特徴を明らかにしていく。		1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2. 高麗の建国と展開 3. 支配体制の変動と高麗の滅亡 4. 朝鮮王朝の成立と両班支配体制の確立 5. 両班支配体制の展開と再編 6. 開国と近代社会の形成 7. 大韓帝国と植民地化 8. 日本の植民地時期 9. 米軍政と「分断体制」の成立（第 1 共和国） 10. 「4.19 学生革命」と第 2 共和国 11. 「5.16 軍事クーデタ」と軍事政権（第 3 共和国） 12. 「維新憲法」と軍事政権の独裁化（第 4 共和国） 13. 「新軍部」の登場と「光州民主化運動」（第 5 共和国） 14. 民主化と第 6 共和国の成立 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、朝鮮半島の歴史や政治に関する概説書を読んで置くことが望ましい。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、初回の授業時に紹介する。		
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパーの内容など）：50％、期末試験：50％		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地域メディア論) 比較文化論 b (地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティ FM などである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。		1. イントロダクション 2. グローバル化とローカル・コミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア (1) 5. 各地の地域メディア (2) 6. 各地の地域メディア (3) 7. メディアによる地域文化の創造 (1) 8. メディアによる地域文化の創造 (2) 9. 多文化共生と地域メディア (1) 10. 多文化共生と地域メディア (2) 11. 多文化共生と地域メディア (3) 12. 受講者による発表 (1) 13. 受講者による発表 (2) 14. 受講者による発表 (3) 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。		
テキスト、参考文献	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		
評価方法	授業時間内での発表・質問など (50%)、期末試験 (50%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (異文化間コミュニケーション a) 現代社会(Ⅲ)(異文化間コミュニケーション)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
あなたにとってなにが異文化／自文化か？と問われたらどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究とその歴史的背景をふまえたうえで、現代社会の異文化関係について様々な角度から学ぶことがねらいである。とくに、異なる文化の人々が共に社会を築き上げる際に起こりうる問題にはどういったことがあるか、またそれはどういった経緯で起こるのかについて深く考えてもらいたい。授業でとりあげる資料や事例は、慎重に扱わねばならない難しいものもあるが、本講義をとおして、自分なりに異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。		1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化を意識する 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 5. 異文化へのまなざし (1) 6. 異文化へのまなざし (2) 7. 異文化へのまなざし (3) 8. 異文化からのまなざし (1) 9. 異文化からのまなざし (2) 10. 異文化からのまなざし (3) 11. 内なる異文化 (1) 12. 内なる異文化 (2) 13. マルチカルチャリズムについて (1) 14. マルチカルチャリズムについて (2) 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	あなたにとっての「異文化」とはなにか、考えておく。		
テキスト、参考文献	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		
評価方法	授業への積極性 (50%)、期末試験 (50%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 a) 社会学 a(他者と自己)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。		1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）——A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）——E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）——M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）——第一次集団 9. Identity形成と社会（1）——鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）——重要な他者 11. Identity形成と社会（3）——マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）——未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に、私たちはどのようにして自分が自分であることを証明するか考えておく。		
テキスト、参考文献	G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社、E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		
評価方法	授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、期末試験 50%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 b) 社会学 b(現代社会の諸問題)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 予言の自己成就——R.K.マートン 8. 誇示的消費——T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 10. 文化的再生産——P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 12. 現代社会と社会学（1）情報技術とメディア 13. 現代社会と社会学（2）グローバル化 14. 現代社会と社会学（3）ローカル化 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	グローバル化がもたらす光と影について考えておく。		
テキスト、参考文献	E.フロム『自由からの逃走』東京創元社、D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（民法 1） 現代社会(Ⅲ)(民法 a)	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
法とは何か。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接なかかわりを持ちながら生きているが、そもそも法とは何か、何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、今日的な民事事件について説明を行う。なお、講義を通し、との折々の法制度や民法にかかわるニュースについても解説を行う予定である。		1 法とは何か 2 法と裁判 3 生活関係と法 4 民法とはどのような法律か（1）概説 5 民法とはどのような法律か（2）構成 6 民法とはどのような法律か（3）財産編 7 民法とはどのような法律か（4）家族編 8 民事事件：金銭消費貸借 9 民事事件：建物賃貸借 10 民事事件：不動産明渡 11 民事事件：売買 12 民事事件：相続 13 民事事件：夫婦 14 民事事件：親子 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスおよび直前の講義において、テーマとして指定された論点について、考察しておくこと		
テキスト、参考文献	最新版の六法		
評価方法	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（民法 2） 現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるのかについてまず解説し、その後、前期で触れられなかった種類の民事事件につき解説する。		1 民事紛争と民法 2 民事紛争の解決方法：裁判（1） 3 民事紛争の解決方法：裁判（2） 4 民事紛争の解決方法：裁判（3） 5 民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（1） 6 民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（2） 7 民事事件：債権回収 8 民事事件：時効 9 民事事件：保証否認 10 民事事件：労働事件 11 民事事件：損害賠償 12 民事事件：医療関係事件 13 民事事件：交通事故事件 14 民事事件：その他（1） 15 民事事件：その他（2）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスおよび直前の講義において、テーマとして指定された論点について、考察しておくこと		
テキスト、参考文献	春学期に同じ		
評価方法	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目標> 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 <講義概要> 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。最初の講義で「講義予定表」を配布する。 <受講生への要望> 『六法』は、必ず毎回もってくること。		1. オリエンテーション 2. 六法の使い方／憲法概念 3. 人権総論 4. 憲法制定略史 5. 法の下での平等 6. 精神的自由／信教の自由 7. 精神的自由／政教分離 8. 精神的自由／学問の自由 9. 精神的自由／表現の自由（1） 10. 精神的自由／表現の自由（2） 11. 人身の自由 12. 社会権／生存権（1） 13. 社会権／生存権（2） 14. 社会権／教育権 15. 復習	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：当該箇所の教科書通読。事後：「憲法ノート」作成。		
テキスト、参考文献	加藤一彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 3 版]』（北樹出版）、柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）		
評価方法	定期試験 100%.		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目標> 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 <講義概要> 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。最初の講義で「講義予定表」を配布する。 <受講生への要望> 『六法』は、必ず毎回もってくること。		1. オリエンテーション 2. 六法の使い方／憲法概念 3. 人権総論 4. 憲法制定略史 5. 法の下での平等 6. 精神的自由／信教の自由 7. 精神的自由／政教分離 8. 精神的自由／学問の自由 9. 精神的自由／表現の自由（1） 10. 精神的自由／表現の自由（2） 11. 人身の自由 12. 社会権／生存権（1） 13. 社会権／生存権（2） 14. 社会権／教育権 15. 復習	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：当該箇所の教科書通読。事後：「憲法ノート」作成。		
テキスト、参考文献	加藤一彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 3 版]』（北樹出版）、柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）		
評価方法	定期試験 100%.		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業経営」に関する経営学の基礎的知識を学ぶ。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機になるような講義を意図している。講義はテキスト、ハンドアウトを使いつつ進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことを勧める。 出席は不可欠です。また大幅な遅参や途中退出は原則として認めません（交通事情によるものは除く）。		1 変貌する現代企業のビジネス 2 会社制度と企業経営 3 会社の目的と業績評価（1） 4 会社の目的と業績評価（2） 5 会社制度と経営 6 経営戦略の策定（1） 7 経営戦略の策定（2） 8 経営組織 9 マーケティング戦略 10 人的資源戦略（1） 11 人的資源戦略（2） 12 財務戦略（1） 13 財務戦略（2） 14 経営倫理 15 まとめ ※ 講義の進捗にあわせて内容を変更する可能性がある	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修としてテキストの該当章に目を通し当該テーマの概略を理解しておくこと。事後学修としては、講義のノートの整理とポイントを自分が理解できるような形式でまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業開始後に指定する予定（出版事情を確認したのち）。また参考資料を毎回配布する		
評価方法	定期試験による。追試、レポートは行わない（4年生は注意すること）。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 1）（世界の自然環境と文化） 地理学 a（世界の自然環境と文化）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、世界の諸地域を概観し、地理的な見方・考え方を身につけるとともに、人口問題、資源と貿易、そして都市と農村のつながりなどの各分野について考察していく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーションー地理学とは 2. 世界の読み方（1）地域と空間を見る眼 3. 世界の読み方（2）世界地図の錯覚 4. 世界の読み方（3）人と環境から見た世界 5. 世界の読み方（4）世界の経済と貿易 6. 世界の読み方（5）都市と農村の地理 7. 世界の読み方（6）日本の地図を読む 8. 日本の大都市圏（1）東京と首都圏 9. 日本の大都市圏（2）複核構造の近畿圏 10. 日本の大都市圏（3）多核的産業都市・中京 11. 日本の大都市圏（4）大都市圏の回廊地域 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。講義後は配布されたプリントの内容について、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』（原書房、2005 年）		
評価方法	定期試験 75%、レポートの内容・授業での発言等 25%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 2）（世界の自然環境と文化） 地理学 b（世界の自然環境と文化）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、日本の諸地域、そして世界の諸地域について、それぞれの地域的特色を考察する。そして、近年重要性が増す地球環境問題について詳しくみていく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーションー地理学とは 2. 日本の地方圏（1）日本海岸の経済的風土 3. 日本の地方圏（2）東北・北海道地方 4. 日本の地方圏（3）瀬戸内海・四国・九州地方 5. 世界の諸地域（1）中国とアジア諸国 6. 世界の諸地域（2）オセアニア 7. 世界の諸地域（3）アメリカ合衆国 8. 世界の諸地域（4）アフリカ・西アジア 9. 世界の諸地域（5）ヨーロッパ・ロシア 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）今後の方向性 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。講義後は配布されたプリントの内容について、理解を深めてください。		
テキスト、 参考文献	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』（原書房、2005 年）		
評価方法	定期試験 75%、レポートの内容・授業での発言等 25%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（経済学 1）（はじめての経済学） 経済学 a（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の考え方をマクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う。 I. マクロ経済学の基本 II. 公共部門が担う経済的機能 III. 金融システムを理解する IV. 国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第 II 章および下巻の第 VI・VII・IX 章に対応している）。		I 1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か 2. GDP を中心にマクロ経済を考える 3. 需要と供給で考える 4. マクロ経済のコントロール II 5. 財政支出と累進課税 6. 自然独占と公共財 7. 景気対策と日本の財政状況：プライマリーバランス III 8. 貨幣のもつ様々な機能 9. マネーストックと金融政策 10. 資産市場の全体像：バブルの発生と崩壊 IV 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位——国際的な自由貿易の恩恵 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回授業終了時に行う、講義内容の整理と次回の講義箇所の指摘等による、テキストの復習および予習		
テキスト、 参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（上）・（下）』 日本経済新聞社。		
評価方法	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（経済学 2）（はじめての経済学） 経済学 b（はじめての経済学）	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の考え方をミクロ経済学を中心に紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う。 I. ミクロ経済学の基本 II. ゲーム理論の考え方 III. マクロ経済学の考え方 IV. 日本経済の変遷を学ぶ （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅵ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲ章に対応している）。		I 1. ガイダンス——経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する II 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か 8. 出店戦略分析 III 9. GDP と三面等価 10. 需要と供給で考える 11. 財政・金融政策 IV 12. 日本経済の構造変化：石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化：プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回授業終了時に行う、講義内容の整理と次回の講義箇所の指摘等による、テキストの復習および予習		
テキスト、 参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（上）・（下）』 日本経済新聞社		
評価方法	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。		

08 年度以降	現代社会 1（家族と法）	担当者	齋藤 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は世間で話題となっている様々な家族の問題や全く話題になっていない家族の問題に対しても、ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしたりもする授業です		1. 家族法って何なのの件 2. 死刑囚と結婚したいという人がいるけれど何か悪いことあるのか聞かれた件 3. 私、知らない間に夫婦になっていた件 4. 刑務所へ入った夫と離婚したい件 5. 友人Aがストーカーしている件 6. 子供がでちゃった件 7. 薬の上からの養子の件 8. 「助けて下さい、児童虐待をうけています」と小学生から児相に相談の電話があった件 9. 認知症徘徊の列車事故に家族は責任を負わなければいけないかの件 10. フランス人夫が子供をフランスに連れ帰ったまま戻ってこない件 11. 親が失業した件 12. 就活をしていたら親に私たちも終活しているよと言われた件 13. 親父が死んだら仲が良かった兄弟の目つきが変わった件 14. 死んだ親父の兄が葬儀を仕切り葬式費用を請求された件 15. 未成年者の事故に親は責任を負わなければいけないかの件	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回のテーマについて事前に好きな読み物を漁っておくこと		
テキスト、参考文献	レジュメ及び資料を配布予定である テキストは特に指定しない 親族法相続法の教科書であればよいが授業内容は広範囲なので親族法等のテキストだけでは賅いきれない		
評価方法	1 2 回以上出席している受講生を対象に期末試験を行う		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政治思想と理論、制度) 政治学 a(政治思想と理論、制度)	担当者	佐藤 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では政治学への導入として、特に自由民主政治の思想、歴史、制度について基礎的な知識を身に付け、理解を深めることを目指します。 それを通して政治学の基本的な概念や考え方を習得することが第1の目的です。また、これらの概念や考え方を応用し、政治の現状について理解、分析できるようになることがもうひとつの目的となります。 上記の目的のため、本講義では①政治とは何か、権力とは、自由とは、国家とは何かといったやや抽象的な政治学の原論から説き起こし、次に②デモクラシーの思想、歴史と、③現代民主政の主要な政治制度について諸国の事例とともに概観します。④最後に、それらを踏まえたうえで、個人や社会と国家との関係について論じます。		1. イントロダクションー講義の目的と全体像 2. 政治とは何か 3. 権力とは何か 4. 国家とは何か（1）ー近代国家の成立 5. 国家とは何か（2）ー近代国家の役割と変遷 6. 国家とは何か（3）ー福祉国家とその批判 7. デモクラシーとは何か（1）ー民主政治の起源 8. デモクラシーとは何か（2）ー民主政治の変容 9. デモクラシーとは何か（3）ー民主政治と自由主義 10. 政治制度（1）ー自由民主政治の制度像 11. 政治制度（2）ー執政制度の多様性 12. 政治制度（3）ー執政制度の多様性 13. 国家と社会（1）ー民主政治における代表 14. 国家と社会（2）ー市民社会と民主政治 15. 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義の終了後に自分なりのまとめを行い、理解の足りない箇所については参考図書などを用いて補うこと。そのうえで関心があればぜひ講義中に紹介する参考文献へあたり、理解と思考を深めてほしい。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しませんが、初回講義の際に講義全体にとって参考となる概説書を紹介します。また、参考文献については各回の講義の中で適宜紹介します。		
評価方法	定期試験（80％）と不定期のコメントカードなど平常点（20％）により評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政策と政治過程) 政治学 b(政策と政治過程)	担当者	佐藤 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会 1 (政治思想と理論、制度)の知識に基づき、本講義では現代民主政の枠組みのなかで政治が作動し、政策が形成される過程について基礎的な知識を身に付けることを目指します。それにより現実の政治を理解、分析できるようになることがもうひとつの目的です。 上記の目的に照らして、本講義では①政治・政策形成の過程、②その中で活動する諸アクターに焦点をあてて学びます。そのうえで、それら政治・政策過程の枠組みとなっている③政治空間の再編成について、地方自治、グローバル化、地域統合といったイシューから考察し、現代政治の特徴と課題について論じます。		1. イントロダクションー講義の目的と全体像 2. 選挙と投票 3. 議会と立法 4. 政党（1）ー政党の機能と役割 5. 政党（2）ー政党と政党システム 6. 政策過程 7. 官僚制 8. 利益集団 9. 世論とマスメディア 10. 地方自治と分権改革 11. 主権国家とグローバル化 12. 地域統合ーEU の事例 13. 政治空間の再編と現代政治 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義の終了後に自分なりのまとめを行い、理解の足りない箇所については参考図書などを用いて補うこと。そのうえで関心があれば、ぜひ講義中に紹介する参考文献へあたり、理解と思考を深めてほしい。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しませんが、初回講義の際に講義全体にとって参考となる概説書を幾つか紹介することとします。また、参考文献については各回の講義の中で適宜紹介します。		
評価方法	定期試験（80％）と不定期のコメントカードなど平常点（20％）により評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (歴史の中のメディア) 現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
人類の歴史はメディアが取り持つ情報の流れを通して大きな変遷を遂げてきた。コミュニケーションのかたちがその時代の人と社会、企業と国家や国際関係などをめぐるかかわりを変え、新しい価値を創造してきた。 この授業では人の肉声による言葉のやりとりから活字印刷の発明による情報の大量伝達の始まり、電信、映像、電波などの技術革新を通じた伝達速度の飛躍と感覚の拡張など、その発展の歴史を具体的な事例に沿ってたどりながら、インターネットという新たなメディアが登場した21世紀の今日の社会の姿を考える。もとより、メディアは人間と社会を結ぶ伝達の手段であるが、そのネットワークの広がりや人間の知識や感覚の拡張によって、社会システムや価値観を変えてゆく仕組みでもある。 いまメディアの歴史のなかにそれを問うことは、民主主義や市場経済といった現代社会の普遍的なシステムの成り立ちと発展、そしてその行方を問うことでもある。		1. はじめに 2. グーテンベルクの革命 3. ピュリツァーと〈新聞戦争〉 4. ロイターと大英帝国 5. 視覚の 20 世紀 6. プロパガンダとメディア 7. 戦争と国民国家とメディア 8. グローバリゼーションと情報 9. メディア複合体のゆくえ 10. テレビとネット 11. エンターテインメントとメディア 12. 民主主義とメディアモデルの揺らぎ 13. 情報は有償か無償か 14. メディアのなかの人間 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点の整理を求める。		
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』(柏書房)を参考文献とする。		
評価方法	定期試験の成績(80%)にくわえて、通常の授業のなかで課すりポートの実績(20%)を勘案して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (メディアと現代社会) 現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞、雑誌、放送、出版など「マスメディア」と呼ばれてきた媒体は、民主主義と市場経済という社会の仕組みのなかで国民の「公共性」に奉仕する固有の役割を担ってきた。情報の伝達と世論の形成などを通して人々の権利の擁護や権力の監視など、言論表現の自由という近代国家における人間の基本権を足場にして発展してきたジャーナリズムはその中心として、民主主義の下での言論の働きを飛躍させ、社会的な影響力の大きさから三権に並ぶ「第四の権力」とも呼ばれた。国民の要求を代行する議会を補完し、それ以上に「民意」の形成と「公益」の形成に大きな力を及ぼしてきたこの機能が近年弱まっているのはなぜか。インターネットという、個人が国境を越えて自在に情報のやりとりができる新たなメディアがグローバル化する情報社会を揺るがせる一方、民主主義や市場経済という近代システムの疲弊で曲がり角に立つマスメディアの問題点を、具体的な事例を通して多様な角度から検証する。		1 はじめに 2 ジャーナリズムの誕生 3 調査報道と「知る権利」 4 「表現の自由」と現代社会 5 誤報・虚報はなぜ生まれるのか 6 「世論」とメディア 7 情報操作はなぜ行われるのか 8 メディアの倫理と「公益性」の行方 9 放送と通信の融合とテレビ 10 外交と情報摩擦 11 メディアの再編と市場 12 国家機密保護と情報漏洩 13 メディアと文化 14 ネット社会と「公共圏」 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を事前に読んでおくとともに、各回のキーワードを事後調べなおして論点の整理を求める。		
テキスト、参考文献	各回資料を配布する。佐藤卓己『メディア社会』(岩波新書)を参考文献とする。		
評価方法	定期試験の成績(80%)にくわえて、通常の授業のなかで課すりポートの実績(20%)を勘案して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（グローバル化を巡って） 現代文化論 a（グローバル化を巡って）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
近代社会の成立と発展を歴史のなかにたどりながら、そこで「情報」が果たした役割をさまざまな時代、地域に探ります。近代を特徴づける資本主義という経済システムと民主主義という政治の仕組みは、なぜ西欧など特定の地域に発達し、文明が先行する社会と遅滞する社会を分け隔てていったのか。そこでは人々を合理的な行動に向かわせる社会基盤が、科学技術と情報伝達の広がりによって形成され、成長を目指した市場の競争や個人の自由な権利の行使を通して今日の「豊かな社会」が実現されたのである。 「情報」を運ぶ乗り物としての情報技術は、例えば活字印刷によるメディアから映像や電気通信、そして今日のコンピューターへと進化を重ね、人とモノとお金がいやすやすと国境を超えて行き交う、いわゆるグローバル化を促進させた。こうした質と量の両面で「情報」が果たす役割の変化を通して、人と社会や文化、そして国家や世界とのかかわりを考え、新たなありようを展望したい。		1. はじめに 2. 文化と文明 3. 三つの波 4. 情報と近代社会①ルネサンスと科学技術 5. 情報と近代社会②プロテスタントと富の蓄積 6. 情報と近代社会③産業革命と大英帝国 7. 情報と近代社会④米国と市場経済の発展 8. 情報と近代社会⑤冷戦と豊かな社会 9. 情報と近代社会⑥米国の覇権と揺らぎ 10. 情報と日本の近代①キャッチアップ 11. 情報と日本の近代②孤立と破綻 12. 情報と日本の近代③成長とその罅り 13. 情報とグローバル化① 14. 情報とグローバル化② 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各自参考文献の通読とともに、授業で扱ったキーワードを調べなおして論点整理を各回心がけたい。		
テキスト、 参考文献	各回配布する資料で授業をすすめる。佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）を参考文献とする。		
評価方法	定期試験の実績（80%）にくわえて、授業時間内で行うレポート（20%）を勘案して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本の表象と世界） 現代文化論 b（日本の表象と世界）	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
情報社会は国際競争や企業システムから民主主義や法など統治の仕組み、社会の「公」と「私」の関係や固有の文化のありようなど、「近代」が自明としてきたさまざまなシステムや制度、ルール、価値観を大きく変えている。 米国の一極支配に覆われてきた前世紀の経済社会がその覇権の凋落と新興国の著しい台頭へ局面を転換させ、文明の正統性を担ってきた欧州が混迷する一方で異文化のイスラムが激しい反抗を広げているのも、情報化によるグローバル化がもたらした負の一断面であろう。 空洞化する代議制民主主義の傍らでネット世論が高まり、ビットコインに代表される仮想通貨が貨幣システムを揺るがす。知的財産の価値が企業の秩序を変える一方、グローバル化はローカルな文化の反発も呼び起こす、情報技術によって激しい変化の波に洗われている近代社会のシステムや価値観をさまざまな領域に探り、これからの社会が共有すべき新たな秩序形成の条件を探る。		1. はじめに 2. ソフトパワーの時代 3. 「表現の自由」の二律背反 4. 選挙と「炎上」－民主主義の逆説 5. フラットな企業と尖った人材 6. ビットコイン－貨幣とは何か 7. 社会リスクネットワーク犯罪と安全 8. 知的財産 保護と利用－著作権・特許権 9. 国際分業と競争力 10. レクサスとオリーブの木 11. 規制緩和と派遣労働 12. エンロン破綻－金融化と市場の失敗 13. ニューエコノミーと「成長」の神話 14. フェアとシェア－互酬社会と格差社会 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各自参考文献の通読とともに、授業で扱ったキーワードを調べなおして論点整理を各回心がけたい。		
テキスト、 参考文献	各回配布する資料で授業を行う。公文俊平『情報社会学序説』（NTT 出版）を参考文献とする。		
評価方法	定期試験の実績（80%）にくわえて、授業時間内で行うレポート（20%）を勘案して評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (NGO 論) 現代社会(Ⅲ)(NGO 論)	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。		1.NGO 論オリエンテーション 2.～3.「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／アフガニスタンの現状と NGO の活動 4.～5.「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／イラクの現状と NGO の活動 6.パレスチナ問題とNGOの取り組み 7.NGO の安全対策（講義と演習） 8.東アジアの平和と市民交流 9.ミレニアム開発目標（MDGs）と持続的開発目標（SDGs）。ラオスにおける森林保全から考える。 10.アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み 11.NGO の組織運営と人材、資金について 12.～13.非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク 14.非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 15.理解度の確認	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。		
テキスト、参考文献	参考文献：日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』めこん 2005 年 参考文献：清水俊弘著 『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年		
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはレポート）の結果（70%）を評価対象とする。		

08 年度以降	現代社会 1（中国社会と法）	担当者	周 劍龍
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 受講生が法という視点から現代中国を正確に認識し、現代中国に関する涵養を身につけることは本講義の目的である。 講義概要 近年、中国は、その巨大化に伴い、その政治、経済、軍事を中心にさまざまな分野が世界から注目されている。「中国とは何か」については、それがいまさまざまな視点や側面から問われている。本講義では、法という視点から現代中国を捉えることとする。具体的に、本講義では、主として憲法と民法に基づいて、国家の性質、公民の基本的権利および義務、中国の基本的な政治制度と経済制度、国家機関、司法制度と財産制度などについて説明し、現代中国を正確に理解するための法知識を提供する。		1. イントロダクション、中国の国家性質 2. 国家機関 3. 公民の基本的権利および義務（その 1） 4. 公民の基本的権利および義務（その 2） 5. 公民の基本的権利および義務（その 3） 6. 公民の基本的権利および義務（その 4） 7. 中国の政治制度と経済制度 8. 中国の司法制度 9. 中国の民族と法 10. 中国の財産制度（その 1） 11. 中国の財産制度（その 2） 12. 中国の財産制度（その 3） 13. 中国の財産制度（その 4） 14. 中国の財産制度（その 5） 15. 中国の財産制度（その 6）、授業のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の学修については、テキストの関連部分や配布した関連資料を予習する。事後の学修については、授業の内容を復習する。		
テキスト、参考文献	西村幸次郎編著『現代中国法講義〔第 3 版〕』法律文化社、2008 年		
評価方法	100%筆記試験により、成績を評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1（経済活動と犯罪）	担当者	関根 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞やテレビなどで毎日のように犯罪について報道されています。その報道において、犯罪を行った人が主婦やサラリーマンなど、ごく一般人の人であることも珍しくありません。これは、犯罪を行うのは、特別な人だけではないということを意味します。皆さんも、これから社会人になり、会社などの業務を行う中で、思わぬ犯罪に巻き込まれてしまうという事態にもなりかねません。本授業では、会社などの業務活動の中で起こりうる犯罪について見ていき、今後皆さんが就職するうえで役立つ知識を身に付けてもらいたいと思います。本授業は、経済活動の中で行われる犯罪について、実際に発生した事件を題材にして、どのようなことが問題となったのか、実際に裁判所は事件をどのように解決したのかということを見ることを内容とし、講義形式で行います。なお半分（8 回目）が終わったところに、復習レポートを課します。詳細については授業の中で説明します。		1. 講義の概要 2. 刑法の基礎 1 3. 刑法の基礎 2 4. 詐欺 5. 電子計算機使用詐欺 6. 横領及び業務上横領 7. 背任及び特別背任 8. 贈収賄罪 9. 産業スパイ 10. 相場操縦 11. インサイダー取引 12. ねずみ講及びマルチ商法 13. 商標権侵害 14. 著作権侵害 15. 講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に授業で必要な法律の条文を読んでください。授業後に問題となる条文を読みながら、事件がどのように解決されているのかということを確認してください。		
テキスト、参考文献	復習レポート（40％）学期末試験（60％）		
評価方法	テキストは特に指定しません。資料を配布し、それに基づいて授業を進めます。参考文献については、授業で必要に応じて紹介します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 1) 現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a)	担当者	横濱 竜也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の主目的は、社会科学（法学、政治学、経済学、社会学等）の学習を進めていくうえで基礎的な素養を身に付けることです。春学期の社会科学概論-1 では、憲法学の比較入門的な著作を手がかりにして講義を行います。 具体的には、長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（ちくま新書、2004年）を丹念に読みながら、立憲主義と民主主義の関係、多数決の意味、人権の根拠、平和主義などをどうとらえるべきか、ともに考えていくことにします。さらにテキストを読み終えたところで、本書が提示する問題について踏み込んで議論します。 憲法9条をめぐる政治的論争については、学生の皆さんのなかにも新聞やニュースなどで見聞きした方が少なくないでしょう。しかし本講義が狙いとするのは、その論争に対して特定の立場を示すことではありません。上記の問題群に取り組むなかで、具体的な問題に対して社会科学的に応答するとはどういうことか、習得することです。		1. ガイダンス——本講義の概要・目標 2. 憲法と平和主義をめぐる——テキストへの導入 3. なぜ多数決なのか？ 4. なぜ民主主義なのか？ 5. 比較不能な価値の共存 6. 公私の区分と人権／公共財としての憲法上の権利 7. 近代国家の成立 8. ホッブズを読むルソー 9. なぜ、そしてどこまで国家に従うべきなのか 10. 国家のために死ぬことの意味と無意味 11. 穏和な平和主義へ 12. 民主主義はどこまで信頼できるか 13. 公私をなぜ区分すべきか 14. 正しい戦争は存在するか 15. 憲法 9 条をめぐる論争	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	（事前）各回授業前にテキストの該当箇所を精読しておいてください。（事後）毎回の授業に関連する「お題」を発表しますので、それに答える小レポートを作成し提出してください。		
テキスト、参考文献	（テキスト）長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』（ちくま新書、2004 年）。（参考書）初回、また各回の授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 70%、小レポート 20%、授業での発言 10%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会科学概論 2) 現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b)	担当者	横濱 竜也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の第一の目的は、社会科学（法学、政治学、経済学、社会学等）の学習のための基礎的な素養を身に付けることです。秋学期の社会科学概論-2 では、春学期に引き続き、法哲学の比較入門的な著作を手がかりにします。 具体的には、大屋雄裕『自由とは何か―監視社会と「個人」の消滅』（ちくま新書、2007 年）を丹念に読みながら、法や政治のあり方をめぐる（法）哲学的思考と、いまある社会のあり方に関する社会科学的知見とをどのようにして結びつけていくか、ともに考えていくことにします。それを通して、私たちが「常識」と考えがちなことがいかにそうでないかに気づき、あらためて考え直していくことが、本講義のもう一つの目的です。 本書で扱われている題材のなかには、学生の皆さんにとっても身近なものも少なくありません。そのような話題を通して、皆さんが社会のあるべき姿を主体的に考えていくようになること、それこそが本講義の最終目標です。		1. ガイダンス―本講義の概要・目標 2. 自由がなぜ問題か―テキストへの導入 3. 「個人」の自己決定と法・政治 4. 自由への障害 5. 二つの自由―バーリンの自由論／交錯する自由 6. 見ることの権力／強化される監視 7. ヨハネスブルク・自衛・監視／監視と統計と先取り 8. 監視・配慮・権力／「配慮」の意味 9. 衝突する人権？ 10. 事前の規制・事後の規制／規制手段とその特質 11. 刑法における責任と自由 12. 自己決定のメカニズム 13. 責任のための闘争 14. 主体と責任 15. 自由がなぜ問題か、ふたたび―結語にかえて	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	（事前）各回授業前にテキストの該当箇所を精読しておいてください。（事後）毎回の授業で関連する「お題」を發表しますので、それに答える小レポートを作成し提出してください。		
テキスト、参考文献	（テキスト）大屋雄裕『自由とは何か―監視社会と「個人」の消滅』（ちくま新書、2007 年）。（参考書）大屋雄裕『自由か、さもなくば幸福か？―二一世紀の〈あり得べき社会〉を問う』（筑摩選書、2014 年）、他（他は授業内で紹介）。		
評価方法	期末試験 70%、小レポート 20%、授業での発言 10%		

08 年度以降	現代社会 1（ビジネス法務）	担当者	高橋 均
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 講義目的 株式会社の仕組みや特徴、企業活動の内容の学修を通じて、ビジネス法務として最も重要な会社法の理解を深めます。また、企業戦略として、近年その重要度を増している企業買収や合併・分割についても、実際の企業間の攻防の実例を通して、知見を深めます。 就職前若しくは企業に入社後、又は将来、起業化する場合にも役立つ内容となります。 2. 講義概要 講義形式ですが、双方向の授業を行います。また、DVD鑑賞後の小グループ討論なども取り入れる予定です。		1. 導入（授業の進め方、会社組織について） 2. 会社の種類と会社の利害関係者 3. 会社機関と企業自治 4. 欧米の会社の機関設計とその特色 5. 会社の資金調達 6. 会社役員の法的責任 7. 企業買収 8. 敵対的買収への防衛（経営者の決断） 9. 買収戦略の是非 10. 会社の合併と分割 11. 会社の設立と準備 12. 倒産・会社更正 13. コーポレート・ガバナンスの概念と対応 14. 企業不祥事の防止と内部統制システムの整備 15. 企業の社会的責任と企業価値の向上	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の学修としては、レジュメに予め目を通しておくこと、事後の学修としては、個別企業に関するマスコミ報道に関心を持つことにより、授業との関連を意識すること		
テキスト、参考文献	テキストは、毎回、オリジナルのプリントを使用します。 参考文献としては、近藤光男『会社法の仕組み（第2版）』日本経済新聞社（2014 年）、企業法学会編『企業責任と法～企業の社会的責任と法の役割・在り方～』文眞堂（2015 年）。		
評価方法	定期試験 100%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 1 (市民と刑事司法)	担当者	徳永 光
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的）新聞やテレビあるいは小説やドラマの中では、頻繁に犯罪や捜査、刑事裁判の話が取り上げられます。犯罪と刑罰は、それだけ人々の関心を惹くテーマなのでしょう。しかし一方で、日常の暮らしに関係ないと敬遠され、実はよく知られていない分野でもあります。この講義では、日々報じられるニュースの背景にある犯罪や捜査・裁判手続についての基本的なルールと実態を学び、どのような課題があるのかを考えて頂きたいと思います。 （講義概要）「刑事法」分野には、刑法、刑事訴訟法、刑事政策（受刑者処遇、少年法等）が含まれます。この講義では、3 つの領域それぞれから話題を拾い、検討していきたいと思います。受講者に発言を求めますので、積極的に参加してください。		1. ガイダンス 2. 犯罪と刑罰 3. 日本の犯罪動向（1） 4. 受刑者処遇と社会復帰支援 5. 日本の犯罪動向（2） 6. 日本型刑事司法（1） 7. 日本型刑事司法（2） 8. 再審事件と冤罪原因 9. 刑事裁判の諸原則 10. 裁判員裁判 11. 捜査の諸原則 12. 新たな捜査手法 13. 被害者支援 14. 死刑制度 15. 刑事司法制度改革	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回翌週のテーマに関する簡単な課題を示しますので、各自検討してきてください。		
テキスト、参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。		
評価方法	授業レポート等（30％）と期末試験（70％）により評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ジェンダーとメディア表象) 女性学 b (ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山 千恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 テレビや新聞、ラジオ、雑誌、インターネットなど、私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての知識を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。私たちはメディアの影響から完全には自由になれません。 この講義では、ジェンダー概念を理解したうえで、ジェンダーの視点からメディアを批評的に読み解く力をはぐくむことを目的とします。 講義概要 講義の前半はジェンダー概念の基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、さまざまな映像素材を用いながら、メディア・テキストをジェンダーの視点で検討していきます。また既存の固定的な男女のイメージに対抗する表現についても考察していきます。授業の終わりにはコメントカードの提出があります。		1. イントロダクション 現代日本の男女の統計 2. 国連の「男女平等」に向けての動き 3. 日本の「男女平等」に向けての動き 4. 日本のジェンダーに関わる諸問題 5. ジェンダーとジェンダーの周辺概念 6. セクシュアル・マイノリティの主張・運動 7. セクシュアル・マイノリティとメディア表現 8. ジェンダー視点のメディア・リテラシー 9. 広告における性表現とジェンダー 10. 映画における女性・男性 11. ポルノメディアとジェンダー 12. 「表現の自由」とジェンダー 13. 映画とセクシュアル・マイノリティ 14. 「芸術」とジェンダー 15. まとめ 一部、性的表現や暴力的表現を含む映像等もありますので、ご了承ください。 *その時々々の時事問題に応じてトピックに若干変更を加えることがあります。また、講義内容の性質上、一部、性的表現や暴力的表現をふくむトピック、映像もありますので、ご了承ください。	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業後、配布したプリントやノートを確認し、講義内容を復習すること。また日常接するメディアに描かれた男女について、「作られた男女イメージ」などの観点から意識して見直して見ること。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に指示します。		
評価方法	学期末試験 100 % 特にすぐれたコメントはこれを加点要素とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (日本国憲法) 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	野口 健格
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】：まず始めに、一人一人が自らも法の対象であることを自覚し、法に対する正しい認識が持てるようにすることが目的である。現代社会では、集团的自衛権に関する諸問題をはじめ一般市民が憲法に関わる頻度も高まっているため、各自が、憲法、そして政治に対して適切に向き合うことができるようにすることをも目標とする。 【講義概要】：講義では、受講生の日常生活に存在する憲法問題を素材として語ることで、憲法を身近に感じることができるよう工夫する。履修者が、正義・衡平・権利・義務・人権・自由・平等などの憲法的価値を理解し、具体的事例について憲法的検討を加えることができる能力を養ってもらいたい。 【注意事項】：私語厳禁、講義中は教員の指示に従うこと。 【六法】：必携、出版社は問わない（ただし最新のものを用意すること）		1. ガイダンスー法と常識、法の価値、法とは何か？ 2. 正義の実現と法的安定性 3. 権利と義務 4. 三大原理（人権尊重主義、国民主権主義、平和主義） 5. 基本原理（権力分立主義、法治主義と法の支配） 6. 人権の重要性一人間の尊厳とは？ 7. 自由で平等な社会は実現可能か？ 8. 天皇制ー 9. 憲法 9 条、自衛隊、国防と平和主義 10. 立法ールールは国民の代表がつくるもの 11. 行政ー総理大臣と大統領の違いとは？ 12. 司法ー一人を裁くということはどういうことか？ 13. 地方自治ー市民として何ができるか？ 14. 憲法改正ー護憲？改憲？決めるのは国民！ 15. まとめ （授業計画はあくまで目安である）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	教科書の該当箇所をよく読み、実社会で起こる様々な問題に目を向けるようにすること。「事前」もしくは「事後」であることは問わない。		
テキスト、 参考文献	【テキスト】：齋藤康輝・高畑英一郎編著『Next 教科書シリーズ 憲法』（弘文堂、2013 年）		
評価方法	基本的には学期末試験によって評価する。ただし、小テストやレポートを実施する場合（20％程度）、これらも加味する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東の社会空間) 現代社会(Ⅲ)(中東の社会空間)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業では、中東地域の理解に必要な同地域の社会システムを知ることを到達目標とする。 そこで、本授業では、まずイスラム、キリスト教、仏教の比較を通して中東地域の人々の価値観について理解を深める。 その上で、中東地域の人々の行動、思考と社会構造の関係について考察を深めることができるように講義を進めていく。		1. ガイダンス (社会空間とは) 2. 中東地域の多様性 (民族、宗教) 3. イスラムの基礎知識 4. 信仰と日常生活 5. 「愛」についての比較 6. 生死間についての比較 7. まとめ 1 : イスラムの他の宗教に対する考え方 8. イスラム法と統治 9. 科学・技術とイスラム社会 10. 教育問題と中東社会 11. ジェンダー問題と中東社会 12. 紛争と中東社会 13. 都市化と若者に見る社会変化 14. 経済・産業から見る中東と国際社会 15. まとめ 2 : 中東の社会空間の特性	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：授業で紹介する書籍・プリントを読んでください。 事後学習：授業に出て来たキーワード、理論に関し、内容を十分に把握してください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：『中東を理解するー社会空間論敵アプローチ』水口章、日本評論社		
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (中東政治と市民社会) 現代社会(Ⅲ)(中東政治と市民社会)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業では、グローバル社会における中東地域の政治運動を理解するための知識を修得することを到達目標とする。そのためには、中東域内各国および地域全体の動向、そして国際情勢について考察する力を高める必要がある。その力を身につけるために、授業は、イラン革命以降の中東情勢について、講義形式と各国担当グループ研究を組み合わせ進めていく。その上で、近未来の中東情勢をテーマにシミュレーションを行う。 なお、第 1 回目の授業でグループ分けを行うため、必ず出席すること。		1. ガイダンス（市民社会における統治とは） 2. 国際介入と平和構築 3. イラン革命と市民運動 4. ソ連のアフガニスタン介入 5. 湾岸戦争 6. イスラム過激派の台頭・9.11 テロ事件 7. イラク戦争 8. 中東和平問題の動向 9. 「アラブの春」と市民社会 10. チュニジアの政変と市民 11. エジプトの政変と市民 12. リビアの政変と市民 13. シリアの政変と市民 14. シミュレーション「近未来の中東情勢」 15. まとめ：中東地域の市民社会の安定性	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：授業で紹介する書籍・プリントを読んでください。 事後学習：授業に出て来たキーワード、理論に関し、内容を十分に把握してください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：『中東を理解する－社会空間論敵アプローチ』水口章、日本評論社		
評価方法	学習態度（10%）、課題（30%）、最終レポート（60%）で総合的に評価する。		

08 年度以降	現代社会 1 (消費生活と法)	担当者	湯川 益英
講義目的、講義概要		授業計画	
学生諸君の身近にある、具体的な消費者紛争の事例を概観しつつ、その原因と解決のための法的手段について考察する。 この作業を通じて、法理論と法実践の連携の在り方について学び、問題解決能力の向上を図る。 あわせて、学生生活ひいては社会生活において直面する可能性がある、具体的な法的トラブルへの対応を学ぶ。 授業は講義形式で行う。		1. ガイダンス 2. 消費者の保護と、事業者の責任 3. 消費者紛争と法規範 4. 民法と消費者紛争①－錯誤、詐欺、強迫など 5. 民法と消費者紛争②－債務不履行責任 6. 民法と消費者紛争③－瑕疵担保責任 7. 民法と消費者紛争④－不法行為責任 8. 民法と消費者紛争⑤－契約締結上の過失責任 9. 特別法と消費者紛争①－製造物責任法 10. 特別法と消費者紛争②－消費者契約法 11. 具体的な事案への対応①－クレジット・カード 12. 具体的な事案への対応②－訪問販売 13. 具体的な事案への対応③－不動産取引 14. 具体的な事案への対応④－消費者金融 15. 総括－分業社会と市民法	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各授業の終了時に次回授業の内容を告知するので、関連するデータを概観しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：オリジナルの教材を逐次配布する。なお、必携ではないが、小型の六法があると便宜。 参考文献：『判例プラクティス民法Ⅱ』（信山社）『ナニワ金融道』（講談社）、他ガイダンスの際に指示する。		
評価方法	試験 5 0 %，ふたつの小レポート課題 4 0 %（各 2 0 %），平常点 1 0 %		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 a)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。		- はじめに - 命題と論理式 - 真理表と命題の同値 - 条件文 1 - 条件文 2 - 推論と証明 - 論理式と代数 1 - 論理式と代数 2 - 論理と集合 1 - 論理と集合 2 - 推論の応用 1 - 推論の応用 2 - 推論の応用 3 - 問題演習 - まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）		
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (数学 b)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」とその「平均」や「分散」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げます。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。		- はじめに - 場合の数と集合 - 順列・組合せ - 標本空間と事象 - 確率 1 - 確率 2 - 条件付確率と事象の独立 - 確率変数と確率分布 1 - 確率変数と確率分布 2 - 確率分布の平均 - 確率分布の分散 - 二項分布 - 正規分布 - 問題演習 - まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）		
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (物理学 I)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも 20 世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。		- はじめに - 力と運動 1－物体の運動 - 力と運動 2－物体に働く力 - 力と運動 3－運動の法則 - 力と運動 4－万有引力 - 熱 1－温度と熱 - 熱 2－熱と分子運動 - 波動 1－媒質の振動と波 - 波動 2－音波と光波 - 電磁気 1－電気と磁気 - 電磁気 2－電流と磁場 - 電磁気 3－電磁誘導 - 電磁気 4－電磁波 - 問題演習 - まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (物理学Ⅱ)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、20 世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。		- はじめに - 時間と空間 1－電磁気学と相対性原理 - 時間と空間 2－ローレンツ変換 - 時間と空間 3－4 次元不変量 - 時間と空間 4－等価原理 - 時間と空間 5－時空の歪み - 時間と空間 6－ブラックホール - 物質の究極像 1－元素と原子 - 物質の究極像 2－原子の構造 - 物質の究極像 3－前期量子論 - 物質の究極像 4－量子力学 - 物質の究極像 5－素粒子論 - 物質の究極像 6－統一理論 - 問題演習 - まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 a) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 a)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。		1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートンの宇宙観 6. ニュートンの宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートンの宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりや宇宙の均一性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (宇宙論 b) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 b)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論 a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。		1. はじめに 2. 宇宙論が対象とする宇宙 3. 宇宙の階層構造 4. 物質の階層構造 1 5. 物質の階層構造 2 6. 膨張宇宙の観測 7. 膨張宇宙の理論 8. ビッグバン理論 9. 宇宙の構造形成 10. 宇宙の進化 11. ビッグバン理論の問題点 12. インフレーション宇宙 13. 宇宙の特異点と量子宇宙論 14. 超ひも理論と膜宇宙 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 a) 自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学 a)	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、肉眼で見える身近な天文現象から話を始め、広大な宇宙の中でも我々に身近な太陽系とはどのような天体なのかを理解することを目標とする。 太陽や惑星のみかけの運動の説明から始め、次いで、惑星の運動を表すケプラーの法則を説明する。 太陽系に属する様々な天体を紹介し、惑星の形成過程などを学ぶ。		1. 講義内容の紹介 2. 天球の考え方 3. 太陽の年周運動 4. 惑星の見かけの運動 5. ケプラーの法則 1 第一法則 6. ケプラーの法則 2 第二法則 7. ケプラーの法則 3 第三法則 8. ニュートンの万有引力の法則 9. 太陽系の広がり 10. 太陽系の姿 惑星と小惑星 11. 太陽系の姿 彗星や太陽系外縁天体 12. 太陽系の形成 1 原始惑星系円盤と微惑星 13. 太陽系の形成 2 木星型惑星、地球型惑星の形成 14. 系外惑星 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。 参考書：大金要次郎著 新版地学教育講座 11『星の位置と運動』（東海大出版会）、 小森長生著 新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』（東海大出版会）		
評価方法	試験 100%		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (天文学 b) 自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学 b)	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することを目標とする。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点の 1 つは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。		1. 講義内容の紹介 2. 星の見かけの明るさ 3. 星までの距離 4. 星の光度と絶対等級 5. 星のスペクトルと表面温度 6. HR 図 7. 星の半径と質量 8. 星のエネルギー源 9. 星の進化 1 星の誕生から主系列星へ 10. 星の進化 2 主系列以後の星の進化 11. 高密度星 白色矮星と中性子星 12. ブラックホール 13. 超新星 14. 元素の起源 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。参考書：米山忠興著『教養のための天文学講義』（丸善）、中嶋浩一著『天文学入門 星とは何か』（丸善）		
評価方法	試験 100%		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 1 : 西洋近代科学技術の起源)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そこで、「科学技術とはなにか」ということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 この授業では、西洋のルネサンスから近代社会の形成と、その中で近代科学が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。		1. イントロダクション "科学革命"の時代 2. 旧世界と新世界(1) 中世からの流れ ルネサンス 3. " (2) 印刷術 大航海 4. 繋がりのあった世界(1) 世界の連関・学問の連関 5. " (2) 自然魔術 6. 天上世界(1) 惑星の見かけの運動 地動説 7. " (2) 宇宙の調和 望遠鏡 地球の運動 8. 地上世界(1) 地球 地上の物体の運動 水と空気 9. " (2) 錬金術 原子とメカニズム 10. 生き物の世界(1) 医学 解剖 11. " (2) 新しい医薬 動植物 12. 新しい科学と技術の体制(1)建築・鉱山冶金・時計 13. " (2)科学技術情報の流通システム 14. 啓蒙主義(Enlightenment)と科学・技術 15. 講義のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書を学習すること。授業で示した参考文献を学習すること。		
テキスト、参考文献	Lawrence M. Principe, <i>The Scientific Revolution: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press 2011) (必要に応じて担当者による日本語訳を配布)。		
評価方法	定期試験 (60%)、中間小レポート (40%)		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (歴史における科学技術 2: 日本の近代化と科学技術)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そこで、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 西洋において近代科学が生み出されてきた 17 世紀初めから 19 世紀半ば過ぎまで、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきた。とはいえ、その間にも蘭学という形でそれを取り入れる過程を持ち、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしていった。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。		1. 洋学の時代(1)日本の伝統技術と伝統的自然観 2. " (2)蘭学の興り 3. " (3)幕末の洋学 4. 明治維新から帝国大学まで(1)殖産興業と科学技術政策 5. " (2)社会インフラの整備、帝国大学の設立 6. "自立"から敗戦まで (1)理化学研究所の設立 7. " (2)大正～昭和初期の科学 8. " (3)戦争と科学技術 9. 戦後復興と高度成長 (1)産業と科学の戦後復興 10. " (2)技術革新と高度成長 11. 現代科学技術の諸問題 (1)先端科学技術の特性 12. " (2)公害・環境問題の歴史① 13. " (3)公害・環境問題の歴史② 14. " (4)核エネルギー利用の歴史① 15. " (5)核エネルギー利用の歴史②	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で示した参考文献を学習すること		
テキスト、参考文献	テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法	定期試験 (60%)、中間小レポート (40%)		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間Ⅰ(地球環境の変化とその要因) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史（Ⅰ） 4 地球環境の歴史（Ⅱ） 5 地球環境の構造等：地球という惑星について 6 地球環境と地球システム（Ⅰ）：物質圏の相互関係 7 地球環境と地球システム（Ⅱ）：炭素循環など 8 地球環境と資源（Ⅰ）：資源の特性 9 地球環境と資源（Ⅱ）：エネルギー 10 地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは 11 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 12 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 13 環境と共生：人間活動・物質循環との関係 14 地球環境問題概論 15 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。 また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		
評価方法	基本的には定期試験の結果（100％）による。		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (地球環境問題と環境保全) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。		1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論 (Ⅰ)：地球温暖化 (a) 3 地球環境問題各論 (Ⅰ)：地球温暖化 (b) 4 地球環境問題各論 (Ⅰ)：オゾン層破壊 (a) 5 地球環境問題各論 (Ⅰ)：オゾン層破壊 (b) 6 地球環境問題各論 (Ⅱ)：酸性雨 7 地球環境問題各論 (Ⅱ)：海洋汚染 8 地球環境問題各論 (Ⅱ)：有害廃棄物の越境移動 9 地球環境問題各論 (Ⅲ)：砂漠化 10 地球環境問題各論 (Ⅲ)：森林減少 11 地球環境問題各論 (Ⅲ)：野生生物（種）の減少 12 地球環境問題各論 (Ⅲ)：開発途上国等の環境（公害）問題など 13 地球環境の保全 (Ⅰ)：環境と開発 14 地球環境の保全 (Ⅱ)：文化・経済・社会等との関係 15 まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある。	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	配布資料等の指定した箇所について事前に精読しておいてください。 また、受講後は講義内容を整理し、まとめるようにしてください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		
評価方法	基本的には定期試験の結果（100％）による。		

08 年度以降	自然・環境・人間 1（科学技術基礎論 I）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家ですえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。		1. ガイダンス、生命とは何か 2. いつから生命か 3. タームペーパーの書き方について 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. 進化・遺伝・優生学 8. 病気とは何かー正常と異常を考える 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何かーオゾンホール問題を例に 14. 環境の持続可能性と不確実性 15. 先端の科学技術と生命	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて生命に関する科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1（科学技術基礎論 II）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家ですえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する。		1. ガイダンス、科学と不確実性 2. 科学的予測の原理と実態 3. タームペーパーの書き方について 4. 事故と科学技術 5. 「情報」とは何か 6. プライバシーと科学技術 7. デジタルディバイドと科学技術 8. 科学技術における安全 9. 科学技術とリスク 10. 科学技術と確率 11. 科学技術と統計 12. 物質とは何か 13. 物質が存在するとはどういうことか 14. 物質とエネルギー 15. 物質から見た環境	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて物質や情報に関する科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 1（科学技術と社会 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵に対する遺伝子診断のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。		1. ガイダンス、科学・技術・社会とは 2. 科学技術とイノベーション 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学技術の発達とは人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係 15. 科学技術政策	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術と社会との関わりに関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (科学技術の言語文化 a)	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学や技術はどのような文化なのだろうか。科学も技術も人間活動の産物である以上、文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学技術の成果ばかりに目を奪われて、科学技術が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、映像資料などを活用しながら、科学技術における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げ、科学技術に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学技術の言語と文化についての理解を深めることを目的とする 春学期は、主として人間に関する科学技術の言語と文化を取り上げる。		1. ガイダンス、人間機械論とは何か 2. 人間機械論の誕生と展開 3. タームペーパーの書き方について 4. 文学の中の人間機械論 5. 知性—人間と機械を分けるもの？ 6. なぜ人間には知性があるのか—近代以前の知性論 7. 知性は人間の本質？—近代における知性論 8. 考える機械？—計算機の登場 9. 機械は考えることができるか？ 10. 「人工知能」の誕生と展開 11. ゲノム—生命の設計図？ 12. 遺伝子からゲノムへ—分子生物学の展開 13. ゲノム編集時代の到来 14. 科学的人間観と価値観 15. 科学技術と人間	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術の言語と文化に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (科学技術の言語文化 b)	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学や技術はどのような文化なのだろうか。科学も技術も人間活動の産物である以上、文化としての内実を備えているはずである。だが、ともすればわれわれは科学技術の成果ばかりに目を奪われて、科学技術が人間によって生み出されたものであり、それ自体が文化なのだということをなかなか実感できないのではなかろうか。 この講義では、映像資料などを活用しながら、科学技術における基本的で重要ないくつかの概念（考え方）を取り上げ、科学技術に関わる人々の人生や考え方を知ることによって、科学技術の言語と文化についての理解を深めることを目的とする。 秋学期は、主として自然に関する科学技術の言語と文化を取り上げる。		1. ガイダンス、「万物の理論」とはなにか 2. 「万物の理論」を探求した人々 3. タームペーパーの書き方について 4. 「万物の理論」と宇宙 5. 「万物の理論」と人間 6. 未解決問題への挑戦と挫折 7. 未解決問題の発見と解決への苦闘 8. 未解決問題への挑戦がもたらしたもの 9. 和算とは何か—近世日本の数学文化 10. 和算とその時代—芸事としての数学研究 11. 研究と孤独—ある数学者の栄光と失踪 12. 研究と研究者コミュニティ 13. 古代の数学に挑む人々—アンティキテラ島の機械 14. 誰がアンティキテラ島の機械を作ったか 15. 科学研究に潜む魅力と危険	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術の言語と文化に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1（科学史 a）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿り、人間が科学とどのように関わってきたのかを知ることによって、科学が人間によって作られてきたものであることを理解し、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのかを考えることを目的とする。 春学期は、古代から 17 世紀の科学革命を経て、「科学者 (scientist)」という言葉が登場した 19 世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。		1. ガイダンス、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方の始まり（古代） 3. タームペーパーの書き方について 4. 古代世界の宇宙観 5. 地中海世界からアラビア世界へ 6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 7. 宇宙観の転換—天動説から地動説へ 8. 魔術と科学 9. 機械論的自然観の登場 10. ニュートンと科学革命 11. 科学アカデミーの誕生と展開 12. 科学史における女性 13. 産業革命と科学 14. フランス革命と科学 15. 「科学者 (Scientist)」の誕生	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1（科学史 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿り、人間が科学とどのように関わってきたのかを知ることによって、科学が人間によって作られてきたものであることを理解し、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのかを考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した 19 世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。		1. ガイダンス、「科学者（Scientist）」とはだれか 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開 15. 科学の過去・現在・未来	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民にふさわしい 概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 1 (スポーツ科学概論)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介する。またビデオ映像を適宜視聴する。		1. ガイダンス 2. スポーツ科学とは 3. スポーツの起源と歴史 4. 世界のスポーツ 5. 筋の科学① 6. 筋の科学② 7. 持久力の科学① 8. 持久力の科学② 9. スポーツテクノロジー 10. 競技スポーツの科学（陸上） 11. 競技スポーツの科学（サッカー） 12. 競技スポーツの科学（野球） 13. メンタルトレーニング 14. 障害者のスポーツ 15. 運動のススメ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞やメディアなどで取り上げられるスポーツ科学の情報を収集し、講義で得た知識をもとに分析すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない		
評価方法	授業内小テスト（40％）と定期試験（60％）により評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計) スポーツ・レクリエーション学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。		1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その 1 6 自由時間「三つの意味」その 2 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15 まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に応じ利用しますので、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民にふさわしい概括的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習として、身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。		
テキスト、 参考文献	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	ことばと思想 2 (談話論)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 談話についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、前世紀の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで、談話とはなにか、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なかを学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 談話論概説 2. 談話の構成要素 3. 指示 4. 省略 5. 主題 6. 接続 7. 結束性分析 8. 語順 9. 動詞の文法範疇の談話分析 10. 文の種類 11. 各種の文の機能 12. 文章の談話構造 13. 会話談話構造 14. 応答と問投 15. 談話論と言語教育	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

08 年度以降	ことばと思想 2 (日本語口頭表現の実践的研究)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的:現代の日本社会で日本語による真摯なコミュニケーションを実現させる方法と理論を会得し、より豊かな言語生活を獲得するための基礎力を養う。 講義概要:日本では「読む・書く」に比べると日本語の「聞く・話す」の訓練はほとんどなされていない。学校教育には「読む・書く」のみが期待され、「聞く・話す」は「世間」(会社などの働く場も含む)や「家」での訓練で充分と考えられてきたからである。しかし、グローバル化を迎えた現代は「世間」や「家」でのみ通じる日本語(聞く・話す)だけでは通用しない。かといってディベートやプレゼンテーション等の技術が万能なわけでもない。この授業では、「聞く・話す」に関する基礎的訓練を、講義と課題と実践を毎回組み合わせる。課題が多く、毎回参加しないと意味がないので、そのつもりで履修すること。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説①(「話す・聞く」の理論、意思疎通のサイクル) 3. 概説②(私達はなぜ「話す」のか?なぜ「聞く」のか?) 4. アイ・コンタクトの重要性、「向い合い」の意味 5. 「私は〇〇です」を伝える、受け止める 6. 「本当に伝えたいこと」とは何か? 7. 「本当に伝えたいこと」を伝える、受け止める 8. 伝わるように伝える、受け止める 9. 聞いたことをそのまま書く① 10. 聞いたことをそのまま書く② 11. 書いてあることを話す、表現する、受け止める① 12. 書いてあることを話す、表現する、受け止める② 13. 書いてあることを話す、表現する、受け止める③ 14. 書いてあることを話す、表現する、受け止める④ 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修: 毎回課題を出すので、それを忘れずに実施すること。 事後学修: 課題は「振り返り」を含むので、課題を忘れずに実施すること。		
テキスト、参考文献	テキスト: 特になし 参考文献: 特になし		
評価方法	課題の提出 60%、後半に予定されているグループ実習での成果 40%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(碑文を読む) ことばと思想(IV)(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は草加周辺の旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを増やし、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. フィールドワーク、草加宿 4. フィールドワーク、草加市民俗資料館 5. フィールドワーク、大学周辺 6. フィールドワーク、草加茶屋町周辺 7. フィールドワーク、蒲生茶屋町周辺 8. 道標・講中碑を読む 9. 日本漢文体の読解、梵字の読解 10. 墓碑銘・供養碑を読む 11. 学生諸君の報告と検討① 12. 学生諸君の報告と検討② 13. 学生諸君の報告と検討③ 14. 学生諸君の報告と検討④ 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：自宅周辺の石碑に注意を払っておくこと。事後：調査報告書の内容の充実に努めること。		
テキスト、参考文献	授業中に示す。		
評価方法	フィールドワーク参加 20%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 40%。		

08 年度以降	ことばと思想 2 (日本文学作品研究 a)	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。 とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。 神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。		1. 授業の概要 2. 西行桜 1 3. 西行桜 2 4. 実方 5. 西行塚 6. 遊行柳 1 7. 遊行柳 2 8. 江口 1 9. 江口 2 10. 雨月 11. 松山天狗 12. 人丸西行 13. 初瀬西行 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントの精読と、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度 20%。		

08 年度以降	ことばと思想 2 (日本文学作品研究 e)	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。 昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取りこんだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。 口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。		1. 授業の概要 2. ざしき童子のはなし 1 3. ざしき童子のはなし 2 4. とっこべとらこ 5. 雪渡り 1 6. 雪渡り 2 7. 祭の晩 8. 山男の四月 1 9. 山男の四月 2 10. 種山ヶ原 1 11. 種山ヶ原 2 12. 風の又三郎 1 13. 風の又三郎 2 14. 風の又三郎 3 15. 講義のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントの精読と、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度 20%。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅱ(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり更に「聴いて判断する」「察する力」も必要である。本講義では、各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。 話し手・聴き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する解釈や認識も異なる。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないし、相手の心に響くとは限らない。この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく、実践によってコミュニケーションの方法論を考える。 毎時間「話す」「読む」「説明する」「察する」などの実践を行い、それが評価に繋がる。従って、出席し参加することが最低条件となる。秋学期を履修した者も、実践を積みむ場として活用できる講義になる。		1. オリエンテーション「日本人とことば」 2. 自然な発声・発音「発声発音トレーニング」 3. 実践スピーチⅠ「人前で話す(自己紹介)」 4. 実践スピーチⅠ「人前で話す(自己紹介)」 5. 伝わる文章と音声表現「言葉の選択・構文」 6. 実践・説明Ⅰ「具体的な説明」・適格な言葉と表現 7. 実践スピーチⅡ「テーマに即した話をする」 8. 実践スピーチⅡ「テーマに即した話をする」 9. 実践・説明Ⅱ「抽象的な説明」・察することを学ぶ 10. 若者言葉と曖昧表現と方言 11. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」 12. 実践スピーチⅢ「聴き手を納得させる」 13. 敬語の基本「用法と実践」 14. 敬語応用篇Ⅰ・ミニテスト 15. 敬語応用篇Ⅱ・ミニテスト	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください。(毎回、確認します) 毎回の実践スピーチでは、事前に内容を準備してください。(事前指導に沿った構文であることが重要)		
テキスト、参考文献	参考資料のプリントを配布します。		
評価方法	授業参加度(毎回の音声トレーニング) 50%、実践スピーチ 30%、ミニテスト 20%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅱ(日本語音声表現のトレーニング表現篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津 正樹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語と日本語音声表現の特質を知り、そこからコミュニケーション能力を高めるための基礎と応用を学ぶ。 音声表現には「話して伝える」と「読んで伝える」があり更に「聴いて判断する」「察する力」も必要である。 本講義では、各人の個性に合ったコミュニケーション力が身につくよう、実践を重視した講義を行う。 話し手・聴き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する解釈や認識も異なる。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないし、相手の心に響くとは限らない。この講義では「言葉の力」と「言葉の空しさ」を体験しながら、理論ではなく、実践によってコミュニケーションの方法論を考える。毎時間、実践を伴うので、春学期を履修した者には実践を積み場となる。 初めて参加する者には、基本から始めるので問題ない。 また、基本的な言葉遣いや敬語、話し方についても具体的に説明するので、就職試験の面接にも参考になる。		1. オリエンテーション「ことばと人間」 2. 自然な発声・発音「発声発音トレーニング」 3. 実践スピーチⅠ「自己PR」 4. 実践スピーチⅠ「自己PR」 5. 読んで伝えるⅠ「意味通りのイントネーション」 6. 読んで伝えるⅡ「話し口調と読み口調」 7. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」 8. 実践スピーチⅡ「聴き手を説得する」 9. 簡潔に伝えるためのスピーチ文 10. 言葉ゲーム「他人の感性を察する」 11. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」 12. 実践スピーチⅢ「想いを伝える」 13. 敬語の基本と応用Ⅰ・ミニテスト 14. 敬語の基本と応用Ⅱ・ミニテスト 15. まとめ「社会人としての言葉の使い方」	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	個々に指摘された音声表現の注意点を改善するよう努力してください。(毎回、確認します) 毎回の実践スピーチでは、事前に内容を準備してください。(事前指導に沿った構文であることが重要)		
テキスト、参考文献	参考資料のプリントを配布します。		
評価方法	授業参加度(毎回の音声トレーニング) 50%、実践スピーチ 30%、ミニテスト 20%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(ラテン語 I a) ラテン語 I a	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語とは今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。		1:第一課 文字と発音・音韻組織・音節 2:第一課 アクセント・母音の長音化と短音化 3:第一課 直説法現在能動相・接続詞の例 4:第二課 第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 5:第二課 第二変化名詞・er で終わる第二変化男性名詞 6:第三課 第一・第二変化形容詞・前置詞・sum と eo の合成動詞 7:第三課 人称代名詞・再帰代名詞 8:第四課 未完了過去・未来 9:第四課 第三変化名詞 10:第五課 完了・過去完了・未来完了 11:第五課 第三変化形容詞・場所の表現 12:第六課 指示代名詞・idem と ipse 13:第六課 直説法受動相未完了系三時称・受動文 14:第七課 疑問代名詞と疑問形容詞・関係代名詞 15:第七課 第四変化名詞・第五変化名詞・ローマ人の名前	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めしておきます		
テキスト、参考文献	中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社）		
評価方法	課ごとのラテン語作文を提出してもらい、20 点満点で平均 12 点以上を合格とします。		

08年度以降 07年度以前	ことばと思想Ⅱ(ラテン語Ⅰb) ラテン語Ⅰb	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。ただし、秋学期から受講するという場合は、春学期で学ぶ内容を終えている必要があります。		1:第八課 目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞・直説法受動相完了系三時称 2:第八課 命令法能動相・命令法受動相・形容詞からの副詞・述語的同格 3:第九課 不規則動詞・形容詞の比較 4:第九課 副詞の比較・部分を表す述語的同格 5:第十課 形式受動相動詞・分詞 6:第十課 接合分詞・絶対的奪格 7:第十一課 不定法 8:第十一課 対格＋不定法 9:第十二課 代名詞型形容詞・不定代名詞・nemo と nihil 10:第十二課 二重否定・動名詞・動形容詞 11:第十三課 非人称動詞・属格の用法 12:第十三課 与格の用法 13:第十四課 対格の用法・奪格の用法 14:第十五課 接続法の活用 15:第十五課 主文の接続法	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習復習をお勧めします		
テキスト、参考文献	春学期と同じです。		
評価方法	春学期と同じです。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(ラテン語Ⅱa) ラテン語Ⅱa	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。		Ⅰ『ガリア戦記』教材プリント配布、ガイダンス。 Ⅱ 第 1 巻第 1 章 Ⅲ 第 3 巻第 1 章 Ⅳ 第 3 巻第 2 章 Ⅴ 第 3 巻第 3 章 Ⅵ 第 3 巻第 4 章 Ⅶ 第 3 巻第 5 章 Ⅷ 第 3 巻第 6 章 Ⅸ 第 3 巻第 7 章 Ⅹ 第 3 巻第 8 章 Ⅺ 第 3 巻第 9 章 Ⅻ 第 3 巻第 10 章 Ⅼ 第 3 巻第 11 章 Ⅽ 第 3 巻第 12 章 Ⅾ 第 3 巻第 13 章	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習は必須です		
テキスト、 参考文献	テキストはプリントを配布します。初級で使った教科書を参考書とします。		
評価方法	平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(ラテン語Ⅱb) ラテン語Ⅱb	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。		春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 Ⅰ 第 3 巻第 13 章 Ⅱ 第 3 巻第 14 章 Ⅲ 第 3 巻第 15 章 Ⅳ 第 3 巻第 16 章 Ⅴ 第 3 巻第 17 章 Ⅵ 第 3 巻第 18 章 Ⅶ 第 3 巻第 19 章 Ⅷ 第 3 巻第 20 章 Ⅸ 第 3 巻第 21 章 Ⅹ 第 3 巻第 22 章 Ⅺ 第 3 巻第 23 章 Ⅻ 第 3 巻第 24 章 Ⅼ 第 3 巻第 25 章 Ⅽ 第 3 巻第 26 章 Ⅾ 第 3 巻第 29 章	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習が必須です。		
テキスト、 参考文献	春学期と同じです。		
評価方法	春学期と同じです。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08年度以降	ことばと思想2(韓国の言語文化)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国語の文法体系をより深く勉強していく受講生は、テキストの内容を理解し、韓国語についてテーマを決め、グループでプレゼンテーションを行う。 毎回精読の上、サマリーを必ずやってくること。		1. 全体ガイダンス、テキストの紹介 2. 第1章 総論 3. 第2章 文字 4. 第3章 音韻 5. 第4章① 単語と品詞 6. 第4章② 造語と借用語 7. 第5章① 文構造① 8. 第5章② 文構造② 9. 第5章③ 文構造③ 10. 第6章 敬語法 11. 中間テスト 12. プレゼンテーション発表 13. プレゼンテーション発表 14. プレゼンテーション発表 15. プレゼンテーション発表	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	李翊燮他『韓国語概説』大修館書店 油谷幸利『日韓対照言語学入門』		
評価方法	中間テスト、プレゼンテーション発表、サマリー提出		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(古典ギリシア語 I a) 古典ギリシア語 I a	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的>春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきます。<講義概要>授業は毎回各単元 1 ～ 2 つずつ学習するペースで進みますが、途中10分間ほどの中休みを入れて、古代や現代のギリシアの情勢等を映像を交えて紹介しながら、和やかな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。また、この講座の学修後、Ⅱabにステップアップをして古典ギリシア語の理解を深めて、ギリシア古典を原文で読んで味わい深い教養に親しむことをお勧めします。		1. 字母・発音・音韻などの分類（自分の名前を書く） 2. 音節・アクセント・句読点（ギリシア語単語が読める） 3. 動詞の変化・直説法能動相現在（単文の理解が可能） 4. 名詞の第一変化（名詞の格変化の理解が可能） 5. 動詞の変化・直説法能動相未来（未来形の文章理解） 6. 動詞の変化・直説法能動相未完了過去（3 時制の理解） 7. 名詞の第二変化 8. 形容詞の第一・第二変化 9. 前置詞（格支配をする前置詞の理解） 10. 動詞の変化・直説法能動相アオリスト（過去時制理解） 11. 動詞の変化・現在完了と過去完了（加音と量音の理解） 12. 指示代名詞と強意代名詞（『新約聖書』が読める） 13. 直説法能動相本時称の人称語尾 14. 直説法能動相副時称の人称語尾 15. 春学期まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に予習をして、練習問題をやっておき、授業中にその正誤を確認し、授業後は単語帳や文法事項を整理しておいて、次回に提出して下さい。ノートはその場で確認し返却します。		
テキスト、 参考文献	<テキスト>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』（岩波書店、2012 年）（2200 円＋消費税）<参考文献>なし。適宜、プリントを配布します。		
評価方法	平常点 5 0 %、授業への参加度 3 0 %、小テスト 2 0 %		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(古典ギリシア語 I b) 古典ギリシア語 I b	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1. εἶμι (ある) 動詞および φημι (言う) 動詞 2. 疑問代名詞と不定代名詞 3. 動詞の変化・直説法中動相の各時制 (1) 4. 動詞の変化・直説法中動相の各時制 (2) 5. 人称代名詞とその代用表現 6. 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 7. 第二アオリストの用法 (動詞の不規則変化) 8. 動詞の変化・直説法受動相 9. 名詞の第三変化 (名詞の不規則変化) (1) 10. 名詞の第三変化 (名詞の不規則変化) (2) 11. 能相如動詞と約音動詞 12. 形容詞の第三変化 13. 不定法 (1) 14. 不定法 (2) 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	同上		
テキスト、 参考文献	同上		
評価方法	同上		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(書き言葉の問題) ことばと思想(IV)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
S N Sの進歩はその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングして、心を打つ文章を意識的に考える。 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。		1. ガイダンス 2. 文章によるコミュニケーション 3. ポジティブ言語とネガティブ言語 4. 手紙文の約束 拝啓—時候の挨拶—本文—敬具まで 5. 6. 時候の挨拶と季節感① 1月～12月 7. 8. 著名人の手紙鑑賞、解説①、② 9. 10. 手紙を題材にした小説の鑑賞①② 11. 12. メール作成の出し方、メール作成の問題点 13. 14. 添削指導 15. まとめ（総集編）	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題出題→課題提出→添削指導→完成のサイクルを守って、事前事後学修をする。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	課題及び添削指導 20%。定期レポート 80%。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(話し言葉の問題) ことばと思想(IV)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を理解する。		1. ガイダンス 2. コミュニケーション能力について 3. 日本型コミュニケーションについて 4. 流行語の変遷（流行語大賞の分析） 5. 若者言葉の問題（世代語についての考察） 6. ポジティブ言語とネガティブ言語 7. 話材集めのテクニック① 8. 話材集めのテクニック② 9. スピーチの実践（スピーチ原稿の添削開始） 10. 心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い 11. 3 分間スピーチの実践① 全員から講評 12. 3 分間スピーチの実践② 全員から講評 13. 3 分間スピーチの実践③ 全員から講評 14. 3 分間スピーチの実践④ 全員から講評 15. まとめ（総集編）	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題を提示し、その都度添削指導を行うので、①課題を受ける→②課題を提出→③添削返却→④完成の流れを事前事後に入れながら、受講すること。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	添削指導歴 20%。プレゼン 30%。レポート 50%。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(ロマンス語研究入門 1) ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門 1)	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(対象となる受講者) 仏語、西語、葡語、伊語(以下「主要ロマンス語」と呼びます)のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方(以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます)を対象とします。 (目的) 非専攻ロマンス語に関する幅広い知識、および専攻ロマンス語に関するより深い知識・理解の獲得とします。 (概要) 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表(ノート)の作成を目指します。同時にテキストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テキスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます。 授業は受講者の専攻ロマンス語歴を考慮して班をつくり発表形式で進めます。		1) ガイダンス 2) 発音 3) 発音 4) 名詞、形容詞、冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 6) 不定詞形、現在形(1) 7) 現在形(2) 8) 過去形(1) 9) 過去形(2) 10) 過去形(3) 11) 再帰代名詞、代名(再帰)動詞 12) 分詞形、完了形、進行形、受動形 13) 未来形、条件法(過去未来形) 14) 接続法(1) 15) 接続法(2)	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト読解の予習復習、発表の準備、ノート作成		
テキスト、参考文献	教科書に相当する資料を講義支援システムを通じて配布します。参考書はガイダンスの際に案内します。		
評価方法	平常点(発表、ノート作成等)50%、課題提出 50%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (ロマンス語研究入門 2) ことばと思想(IV)(ロマンス語研究入門 2)	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
(概要) コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テキストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます。		1) ガイダンス 2) テキスト分析 3) テキスト分析 4) テキスト分析 5) テキスト分析 6) テキスト分析 7) テキスト分析 8) テキスト分析 9) テキスト分析 10) テキスト分析 11) テキスト分析 12) テキスト分析 13) テキスト分析 14) テキスト分析 15) テキスト分析	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト読解の予習復習、発表の準備		
テキスト、参考文献	教科書に相当する資料を講義支援システムを通じて配布します。参考書はガイダンスの際に案内します。		
評価方法	平常点(発表)40%、課題提出 40%、レポート 20%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (プレゼンテーション実習) ことばと思想(IV)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各3~4人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。		1. イントロダクション 2. 大学で学ぶ目的 1 3. 大学で学ぶ目的 2 4. 大学で学ぶ目的 3 5. 第2-4回目までのまとめ 6. 「幸せ」の定義 1 7. 「幸せ」の定義 2 8. 「幸せ」の定義 3 9. 第6-8回目までのまとめ 10. 感性と理性 1 11. 感性と理性 2 12. 感性と理性 3 13. 第9-12回目までのまとめ 14. 講義総まとめ1 15. 講義総まとめ2	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振り返り、改善点等を確認しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	講義内で配布します。		
評価方法	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (プレゼンテーション実習) ことばと思想(IV)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
毎回の講義では、与えられたテーマをパワーポイントにまとめて発表します。発表チームのメンバーは各 3~4 人です。発表時間やパワーポイントのシート枚数にも規定があります。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。プレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に伝える能力を磨きます。また他者と効果的なコミュニケーション能力獲得します。		1. イントロダクション 2. 大学で学ぶ目的 1 3. 大学で学ぶ目的 2 4. 大学で学ぶ目的 3 5. 第 2-4 回目までのまとめ 6. 「幸せ」の定義 1 7. 「幸せ」の定義 2 8. 「幸せ」の定義 3 9. 第 6-8 回目までのまとめ 10. 感性と理性 1 11. 感性と理性 2 12. 感性と理性 3 13. 第 9-12 回目までのまとめ 14. 講義総まとめ 1 15. 講義総まとめ 2	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義テーマについて考え、メモにして発表準備をしておいて下さい。 事後：自身の発表を振り返り、改善点等を確認しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	講義内で配布します。		
評価方法	平常点(20%)、授業への参加度(20%)、最終レポート(60%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (心理検査法と自己理解) ことばと思想(IV)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査①（Y－G） 4. 質問紙による性格検査②（Y－G） 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. EQS 9. 職業興味 10. 性格 5 因子 11. TEG 12. グループ・ワークによる自己理解① 13. グループ・ワークによる自己理解② 14. テスト・バッテリーに基づく自己理解 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあつては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。		
テキスト、参考文献	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう		
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。		

08 年度以降	ことばと思想 2(意味論)	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> コミュニケーションには意味の理解が欠かせない。「意味の理解」には意味論と語用論がある。前者では個々の語(句)や文などが表す意味内容を分析し、後者ではコンテキストによって変わってくる意味内容を分析する。 日本語を分析材料として使用し、それがどのように意味を伝達するのかを理解し、日本語教育への応用も考えることを目的とする。 <u>講義概要</u> 授業は講義形式で行い、初回日に渡す詳細な授業進行表に従って行う。毎回自作のプリントを配布し、特に用意するテキストは指定しない。毎回理解度を確認する小テストを実施する。また、受講者の独創性を発揮してもらうため、必要に応じて課題を与え、小レポート形式での提出を求める。		1. 日本語の特徴 2. 形態・意味・語用 3. 語の役割 4. 語の類別 5. 語の構成 6. 構成語の意味役割 7. 意味の場 8. 連語 9. 意味の意味 10. 文の意味 11. モダリティ 12. メタファー 13. 名詞句 14. 有標と無標 15. 意味論・語用論の実践的活用	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを参照しながらの毎回の小テストで時間内理解を深め、次回提出の課題では自分なりの考えを深めるよう、「熟考」してもらう。		
テキスト、参考文献	授業は毎回配布する自作のプリントで行い、必要に応じて授業内で参考文献を紹介する。		
評価方法	定期試験 50%、レポート 20%、小テスト 10%、授業参加 20%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(IV)(英語通訳の仕事)	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：ビジネスや政治経済分野の題材を使い、通訳スキルを学び、習熟させること、また、よい通訳に必要な要素を検討して、それを実践することを目指します。 講義概要：通訳とは何かをしっかりと理解した上で、通訳の演習を集中的に行います。サイトトランスレーションを習熟させ、頭からの情報処理がスムーズにできるようにします。システムティックなノートテキングのスキルを身につけ、効率的かつ効果的に話者の論理を反映した逐次通訳ができるようにします。ペアワークによる模擬通訳を通じて、学んだ通訳スキルを実践します。そして、質の高い通訳にするために必要なことを検討していきます。 注意：通訳スキルの演習は段階的に行います。欠席することなく、意欲的に取り組むことを期待しています。		1. オリエンテーション、通訳とは？ 2. リプロダクション、メモリーレッスン 3. 頭からの訳からサイトトランスレーション 4. サイトトランスレーションの続き、原稿付き同時通訳 5. 同時通訳 6. 逐次通訳演習① ノートテキングの理論とスキル 7. 逐次通訳演習② 逐次通訳の習熟 8. 逐次通訳演習③ 9. 逐次通訳演習④ 10. ご挨拶表現 11. 通訳倫理 12. 振り返り：さらにより通訳にするために必要なこと 13. 模擬通訳演習（ペアワーク） 14. コミュニケーションとして成功するための通訳 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習をしっかりとってください。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しません。授業では資料を配布します。		
評価方法	通訳演習でのパフォーマンス（40%）、授業中に行うテスト（20%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（20%）		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(IV)(英語通訳の仕事)	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：地域社会の中で医療通訳の重要性と課題を理解し、診療場面の逐次通訳ができることを目指します。 講義概要：コミュニティ通訳（コミュニケーション手段がなく不利益を被る地域の外国人への通訳）のなかでも、医療通訳は必要性が極めて高く、正確で信頼でき、高い倫理性をもった質の高い通訳が強く求められます。クラスでは、保健医療の専門用語を学ぶと同時に、基本的な診療場面の逐次通訳を訓練します。並行して、医療通訳の歴史と現状の課題、倫理および行動規範、医療通訳者の役割、医療通訳者に必要な対人コミュニケーションスキルを学びます。保健医療制度の国際比較を通じて、外国人が日本で医療を受ける場合に注意すべきことも考察します。医療用語については段階的に提示しますので、難しく考えなくていいです。興味を持って取り組むことを期待しています。		1. コミュニティー通訳、医療通訳とは 2. 医療通訳の歴史と現状 3. 医療通訳の倫理規定と行動規範 4. 医療通訳一対話と相互作用 5. 医療通訳者の役割 6. 文化の仲介、アドボカシー 7. 診療場面の逐次通訳① ノートテキング 8. 診療場面の逐次通訳② 9. 診療場面の逐次通訳③ 10. 医療通訳の場面のロールプレイ 11. 振り返り 12. 医療通訳者に必要な対人コミュニケーションスキル 13. 日本の保健医療制度 14. 保健医療制度の国際比較 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習をしっかりとってください。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しません。授業では資料を配布します。		
評価方法	通訳演習でのパフォーマンス（40%）、授業中に行うテスト（20%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（20%）		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(生活文化の発見) ことばと思想(IV)(生活文化の発見)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
何気ない日常生活も、我々の先人たちが築き上げてきた文化の中で営まれている。しかし、このような文化は常に流動的である。 本講義では、先人たちの生活を振りかえり、それが何を背景にして成り立っているのか、そしてそれが現在に至る過程において、どのように変化し、またその要因は何かを学ぶ。先人たちの生活は、生活の知恵に満ちているが、我々はそれを失いかけているのも事実であるが、その「変化」が「現在」に繋がるのである。特に、高度経済成長期を経て、近年ではメディア・ネットなどの発達により、生活のあり方が大きく変貌した。生活の実態だけではなく、意識の問題にまで踏み込んで、現在の我々の「生活文化」を見つめ直していきたい。		1. ガイダンス 2. 「生活文化」とは何か 3. 「生活文化」の地域差 4. 地域差が生まれる地勢的背景 5. 地域差が生まれる歴史的背景 6. 「家」空間を中心とした生活様式 7. 「社会組織」のあり方 8. 「社会システム」の機能 9. 「社会システム」の機能と生活文化 10. 明治維新による生活文化の変化 11. 生活改善運動による生活文化の変化 12. 高度経済成長がもたらした生活文化の変化 13. I T 革命による生活文化の変化 14. 「生活文化」における、意識下の実態 15. 講義のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	授業最初に一覧表を配布		
評価方法	定期試験 100%とするが、授業の参加度を加味する。		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2 (生活文化の記述) ことばと思想(IV)(生活文化の記述)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
古来さまざまな記録が残されてきているが、「当たり前」の生活を記録したものはあまりない。それがみられるようになるのは江戸時代後期からである。 生活を記録したものとしては、旅行記や日記という個人的なものがあり、また主に自治体が編纂する民俗誌というものがある。これらがどのような理由で記述され、またそれにどのような意味があるのか、さらに民俗誌には文書化されたものと映像化されたものがある。本講義では、人々が自分のために書き残したメモを始め、さまざまな意味を持つ日記、そして文書化された記録や映像記録を見ることにより、記録することの意味や問題点を考える。そしてこのような記録の究極は伝統文化の保存である。最後には保存とは何かその意味と問題点について考えていきたいと思っている。文字記録や映像を見て、それをどのように読み取ったか議論しながら授業を進める。		1. ガイダンス 2. 実生活や行事の覚としての記述 3. 自分のための日記 4. 備忘録としての日記 5. 日記の意味 6. 情報としての生活記録 7. 民俗誌に記録されたもの 8. 民俗誌を読む 9. 民俗誌の意味と問題点 10. 映像記録を見る 1 (「ふるさとの伝承」) 11. 映像記録を見る 2 「日本は森の国」) 12. 映像記録を見る (「日本の原風景を訪ねる」) 13. 映像記録の意味と問題点 14. 民俗文化財保存の意味と問題点 15. 講義のまとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読してください。授業の中で発表をもとめます。授業後にはこれらをまとめてください。それが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリント。各自治体刊行の『市史 民俗編』		
評価方法	定期試験 70%、授業での発言 30%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想Ⅱ(論文を書く) ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
本科目は、大学生活において、学習・調査・発表・レポート作成を行うのに必要な日本語の基礎的な能力の習得を目指す。 ①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③論題に対する基本的な調査ができる。 ④調べた詳しい内容を、分かりやすいかたちで発表することができる。 ⑤論文の基本的な構成ができる。 ⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。		1. はじめに 2. 社会貢献活動の基本的概念を知る。 3. 発表① 4. 論文を読む① 5. 発表② 6. 発表③ 7. 論点の整理 8. 三角ロジック 9. 論文の構成 10. 資料の検索 11. 発表③ 12. 発表④ 13. 論文作成① 14. 論文作成② 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学修 リサーチ・発表の準備 事後学修 発表内容を基に論文の作成		
テキスト、 参考文献	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容 60% ②授業への積極的参加： 40%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(口頭発表を行う) ことばと思想(IV)(口頭発表を行う)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
本科目では、日本語の基礎能力を、具体的な発表などを通して、さらに高いレベルで身につけるをねらいとする。 ①基本的な語彙力についての問題を解くことができる。 ②簡単な論文を読んで、内容を要約し、自分の言葉で発表することができる。 ③論題に対する基本的な調査ができる。 ④調べた詳しい内容を、効果的な方法で発表することができる。 ⑤論文の基本的な構成ができる。 ⑥論文の構成に従って、分かりやすい論文を書くことができる。		1. はじめに 2. 論文を読む① 3. 論文を読む② 4. 発生・発音 5. 発表① 6. リサーチ 7. 発表② 8. プレゼンテーションの理論① 9. プレゼンテーションの理論② 10. 発表③ 11. 発表④ 12. 論文の構成 13. 論文作成① 14. 論文作成② 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学修 リサーチ・発表の準備 事後学修 発表内容を基に論文の作成		
テキスト、 参考文献	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	①発表、リサーチ、論文、最終レポートの内容 60% ②授業への積極的参加： 40%		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(古典ギリシア語Ⅱa) 古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的>本講座は、1 年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的とします。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会と文化にも触れることにしたいと考えます。<講義概要>毎回、楽しい読み物のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識(中・受動相、分詞の用法など)、裏話やエピソード、関連する映像などを交えて授業を進めます。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわられません。		1. はじめに(辞書の引き方、ノートの作り方の指導) 2. 『イソップ物語』の教訓:にわとりと泥棒(その1) 3. にわとりと泥棒(その2) 4. きつねと鶴(その1) 5. きつねと鶴(その2) 6. かめとそのねぐら(その1) 7. かめとそのねぐら(その2) 8. おおかみの叫び(その1) 9. おおかみの叫び(その2) 10. 猿の物まね上手(その1) 11. 猿の物まね上手(その2) 12. 最古のギリシア語文を読む(ネストールの杯文)より 13. ギリシア大理石碑文(その1:民会決議碑文)より 14. クセノポン『ソクラテスの思い出』より 15. 春学期まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習をして自分で理解できる部分とそうでない部分を確認しておき、授業後は正しい日本語の訳を付け、単語帳や文法事項を整理しておいて、次回提出してください。		
テキスト、 参考文献	市販のテキストは使用せず、こちらで用意したプリント(テキスト、語彙集、文法一覧表付)を使用します。なお、参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	平常点50%、授業への参加度50%		

08年度以降 07年度以前	ことばと思想2(古典ギリシア語Ⅱb) 古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1. 『人さまざま』(テオフラストスの鋭い人間観察の妙) 2. おべっか使い(その1) 3. おべっか使い(その2) 4. 不平たらたらの人(その1) 5. 不平たらたらの人(その2) 6. 他人を信じられない人(その1) 7. 他人を信じられない人(その2) 8. 田舎者(その1) 9. 田舎者(その2) 10. プラトン『ソクラテスの弁明』より 11. プラトン『饗宴』より(その1) 12. プラトン『饗宴』より(その2) 13. アリストテレス『政治学』より 14. ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より 15. 秋学期まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	同上		
テキスト、 参考文献	同上		
評価方法	同上		

08 年度以降	ことばと思想 2（ラカン精神分析入門 a）	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はジークムント・フロイトが始めた精神分析という新しい理論＝実践をさらに深めたフランスの分析家ジャック・ラカン（1901-1981）の理論を紹介する授業です。昨年は「欲求・要求・欲望」を巡ってお話しましたが、今年の春学期は有名な「盗まれた手紙」についてのセミナー」を扱います。このテキストはラカンの主著である『エクリ』の冒頭に置かれていて、ラカンの精神分析の基本となるものです。難解で知られたこの文章にはラカンの全てが要約されていると言っても言い過ぎではありません。それを細かく読みとくことでラカン理論の全体を概観するのがこの授業の目的です。 なお学生諸君の要望により内容を変更することがあります。		1. ポーの「盗まれた手紙」の紹介 1 2. 同 2 3. 同 3 4. ラカン理論概説 1 5. 同 2 6. 同 3 7. 同 4 8. テキストの読解 1 9. 同 2 10. 同 3 11. 同 4 12. 同 5 13. 同 6 14. 質疑応答 1 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布した資料をあらかじめ読んでおくこと。		
テキスト、参考文献	ポーの短編「盗まれた手紙」は必読です。ラカンについては授業の際、指示します。		
評価方法	授業への参加度および期末レポート		

08 年度以降	ことばと思想 2（ラカン精神分析入門 b）	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はジークムント・フロイトが始めた精神分析という新しい理論＝実践をさらに深めたフランスの分析家ジャック・ラカン（1901-1981）の理論を紹介する授業です。昨年は「欲求・要求・欲望」を巡ってお話しましたが、今年の春学期は有名な「盗まれた手紙」についてのセミナー」を扱います。このテキストはラカンの主著である『エクリ』の冒頭に置かれていて、ラカンの精神分析の基本となるものです。難解で知られたこの文章にはラカンの全てが要約されていると言っても過言ではありません。それを細かく読みとくことでラカン理論の全体を概観するのがこの授業の目的です。 なお学生諸君の要望により内容を変更することがあります。		1. 「論理的時間」とは何か 1 2. 同 2 3. 同 3 4. 「否定」、「抑圧」、「排除」について 1 5. 同 2 6. 同 3 7. 同 4 8. 精神分析の空間 — 「転移」について 1 9. 同 2 10. 同 3 11. エディプス・コンプレックスとは何か？ 1 12. 同 2 13. 同 3 14. 同 4 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布した資料をあらかじめ読んでおくこと。		
テキスト、参考文献	ジャック・ラカン『エクリ』およびその解説書（具体的には授業のときに指示します）		
評価方法	授業への参加度および期末レポート		

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2(写本を読む) ことばと思想(IV)(写本を読む)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
版本で読む『小倉百人一首』 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授され、『応永抄』『宗祇抄』など数多くの注釈書が著され、近世期に入っても、北村季吟の『百人一首拾穂抄』、契沖の『百人一首改観抄』、賀茂真淵の『宇比麻奈備』、香川景樹の『百首異見』など本格的な注釈書が数多く記されました。 江戸時代中期ころから、特に女子の古典入門書として普及し古典教材のほかに、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、架蔵の『百人一首一話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ことを目的とします。		1. ガイダンスー『百人一首』の成立ー 2. 天智天皇ー私の袖は露に濡れたよー 3. 持統天皇ー香具山に夏が来たー 4. 柿本人麿ー長き夜を独りで寝るのかー 5. 山部赤人ー富士の高嶺に雪が降っているー 6. 猿丸太夫ー鳴く鹿の声を聞くとー 7. 中納言家持ーカササギの橋に霜が置くよー 8. 安倍仲麿ー三笠の山に月がー 9. 喜撰法師ー宇治山の庵に住むー 10. 小野小町ー花の色は移ろうものー 11. 蟬丸ー行く人も帰る人も逢坂の関ー 12. 僧正遍昭ー乙女の姿をとどめておくれー 13. 陽成院ー恋は積もって淵となるよー 14. 光孝天皇ー君がために若菜摘むー 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストとして配布されるプリントのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。		
テキスト、 参考文献	テキスト：版本を用いた、プリントを配布します。 参考文献：児玉幸多編『くずし字解説辞典』東京堂出版		
評価方法	授業時試験 70%、課題も含めた授業への参加度 30%		

08 年度以降	ことばと思想 2 (日本文学作品研究 c)	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさ、雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山」を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。		1. ガイダンスーパワースポット「富士山」ー 2. 富士に抱く思いー『万葉集』『古今和歌集』ー 3. 富士山の伝説ーその 1・『富士山記』ー 4. 富士山の伝説ーその 2・『更級日記』ー 5. 富士山の伝説ーその 3・『竹取物語』ー 6. 伝説のクライマーーその 1・『日本霊異記』ー 7. 伝説のクライマーーその 2・『聖徳太子伝暦』ー 8. 富士山の神ーその 1・『人穴草子』ー 9. 富士山の神ーその 2・『富士山縁起』ー 10. もう一つのかぐや姫伝説ー『皇国地誌』ー 11. 室町将軍富士を見るー『覧富士記』ー 12. 富士信仰の歴史と伝承ーその 1・古代から中世ー 13. 富士信仰の歴史と伝承ーその 2・中世から近世ー 14. 富士信仰の歴史と伝承ーその 3・近世ー 15. まとめ	
到達目標	ことばと思想に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、提示される課題に取り組んでください。 事後学習としては、時間内に提出するリアクションペーパーによって、自身の補習点を認識してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業時間内に紹介します。		
評価方法	授業時試験 70%、課題も含めた授業への取り組み 30%		

08 年度以降	歴史と文化 2 (Overview of Japanese History and Culture, Part I)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years through to the Meiji Restoration of 1868: prehistoric and ancient Japan (to 538), classical Japan (538-1185), medieval Japan (1185-1600), Edo period (1660-1868). Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary. Assessment will be made according to the criteria below. There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.		1. Introduction 2. Prehistoric and ancient Japan 3. Prehistoric and ancient Japan 4. Classical Japan 5. Classical Japan 6. Classical Japan 7. Medieval Japan 8. Medieval Japan 9. Medieval Japan 10. Medieval Japan 11. Edo period 12. Edo period 13. Edo period 14. Edo period 15. Final overview (Course schedule tentative, can change at any time)	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Books, readings to be announced in class.		
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

08 年度以降	歴史と文化 2（Overview of Japanese History and Culture, Part II）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is an introductory course to Japanese history and culture, focusing on the years following the Meiji Restoration of 1868: Meiji period (1868-1912), Taisho period (1912-26), Showa period (1912-89), Heisei period (1989-present). Students will be asked to read various scholarly and general writings, watch related documentaries, listen to lectures, and discuss them in class. The course will be conducted largely in English, so no advanced knowledge of Japanese is necessary. Assessment will be made according to the criteria below. There is the possibility of a field trip to Tokyo one weekend, either to a cultural venue (kabuki, bunraku or Noh), sports event (sumo or baseball), or festival.		1. Introduction 2. Meiji period 3. Meiji period 4. Meiji period 5. Meiji period 6. Taisho period 7. Taisho period 8. Showa period 9. Showa period 10. Showa period 11. Showa period 12. Heisei period 13. Heisei period 14. Heisei period 15. Final overview (Course schedule tentative, can change at any time)	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Books, readings to be announced in class		
評価方法	Class Participation (1/3), Short Essays (1/3), Final Report (1/3) Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (日本文化研究 a)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 民俗芸能を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 講義概要： 日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。		1. オリエンテーション・導入 2. 日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3. 神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4. 神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5. 異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6. 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 9. 稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 10. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 11. 年齢階梯と芸能②…福島県の成人儀礼「幡祭」 12. 年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座 13. 境界領域の時空①…異人の出現する領域と年齢階梯 14. 境界領域の時空②…日常とは別の時間・空間・社会 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に使わない。 参考文献：授業中にプリントで配布して示す。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (日本文化研究 d)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：「歩く」ことに表現される文化的価値観を理解する。 講義概要：<u>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。</u> 人々は普段何気なく歩いているが、実は「歩き方」には、その人が属する集団の文化的価値観が表現されている。つまり、日本人と中国人、あるいは男性と女性というような対比をすることで「歩き方」の違いが浮き彫りになり、それぞれの文化の持つ独自性が見えてくる。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（「文化」とは何か？） 3. 概説②（「身体」と「文化」） 4. 「歩く」とは何か？①（四足歩行から二足歩行へ） 5. 「歩く」とは何か？②（「歩く」と「立つ」） 6. 「歩く」とは何か？③（様々な「歩く」場面） 7. 「歩く」とは何か？④（軍隊の行進と「歩く」） 8. 「歩き方」の比較文化①（日本の諸相①） 9. 「歩き方」の比較文化②（日本の諸相②） 10. 「歩き方」の比較文化③（ノルウェーの儀仗兵） 11. 「歩き方」の比較文化④（北朝鮮・韓国・中国） 12. 「歩き方」の比較文化⑤（アメリカ・イギリス） 13. 「歩き方」の比較文化⑥（自衛隊と旧日本軍） 14. 「歩き方」の比較文化⑦（ヒンディーとグルカ） 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：毎時間に示す課題に取り組むこと。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績による。		

08 年度以降	歴史と文化 2 (世界戦争の時代のドイツの政治と文化 (1890-1945))	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、19 世紀末から 1945 年までの「ドイツ」(帝政⇒共和政⇒ナチ独裁)の歴史をテーマとしています。 春学期では、1) 帝国主義と世界の一体化(グローバル化)、2)二つの世界戦争、3) 世紀転換期からの政治文化・芸術の変容、この三つを軸にしながら、ドイツの政治史と文化史について学んでゆきます。受講人数に応じて、一人一回の報告、あるいは課題提出を義務付けます。		1. 導入 2. ドイツ帝国と「遅れてきた」帝国主義 3. ドイツ帝国と第一次世界大戦(1) 4. ドイツ帝国と第一次世界大戦(2) 5. ヴァイマル共和国(1) 6. ヴァイマル共和国(2) 7. ナチ・ドイツの成立と編成 8. ナチ・ドイツと第二次世界大戦(1) 9. ナチ・ドイツと第二次世界大戦(2) 10. ホロコースト 11. 第二次世界大戦の残したもの 12. 発表・課題添削(1) 13. 発表・課題添削(2) 14. 発表・課題添削(3) 15. 授業内試験	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に出される課題に取り組んで下さい。授業中に指示した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	課題（発表か小レポート）50%、授業内試験 50%をもとに総合的に判断する。		

08 年度以降	歴史と文化 2 (冷戦と地域統合の中のドイツの政治と文化(1945-2000))	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、1945 年から 2000 年代までの「ドイツ」(四か国による占領⇒二つのドイツ⇒統一ドイツ) の歴史をテーマとしています。 秋学期では 1) 東西冷戦、2) 地域 (ヨーロッパ) 統合と国民国家化の進展、3) 戦後処理 (「過去の克服」)、この三つを軸にしながら、ドイツの政治史と文化史について学んでゆきます。受講人数に応じて、一人一回の報告、あるいは課題提出を義務付けます。		1. 導入 2. 占領から二重の建国へ 3. 文化の冷戦 4. 西ドイツの発展と「長い 60 年代」 5. 東ドイツの発展と「長い 60 年代」 6. 新東方外交と西ドイツ 7. ホーネッカー時代の東ドイツ 8. 西ドイツの「過去の克服」 9. 東ドイツの崩壊 10. ドイツとヨーロッパ統合 11. 統一ドイツの「過去の克服」 12. 発表・課題添削(1) 13. 発表・課題添削(2) 14. 発表・課題添削(3) 15. 授業内試験	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に出される課題に取り組んで下さい。授業中に指示した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	課題（発表か小レポート）50%、授業内試験 50%をもとに総合的に判断する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (日本文化研究 b)	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を説明することを目的とします。 鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴染んだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。 日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。		1. 授業の概要 2. 鬼の基礎知識 1 3. 鬼の基礎知識 2 4. 追儼の鬼 1 5. 追儼の鬼 2 6. 鬼の杖と宝物 1 7. 鬼の杖と宝物 2 8. 鬼の杖と宝物 3 9. 中世の神と鬼 1 10. 中世の神と鬼 2 11. 中世の神と鬼 3 12. タマの去来と季節風 1 13. タマの去来と季節風 2 14. タマの去来と季節風 3 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読し、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度 20%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (日韓比較文化論 a) 歴史と文化(IV)(日韓比較文化論 a)	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力 1 回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化講義の概要 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の伝統遊び 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回講義についてコメントペーパーを書いてください。講義の資料を精読してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：適宣プリントを配布する。 参考文献：授業中に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、課題レポート 60%		

08 年度以降	歴史と文化 2 (楽典(音楽通論)—楽譜を読み・書くために)	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人やバンド活動をやっている人、耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。 具体的には、『改訂 音楽通論』（教育芸術社）を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。書いてもらった楽譜を授業中に個別に添削するなどして進めていきます。また、短い楽譜を見て歌ってもらったり、リズム打ちをしてもらったりすることもあります。 教室では、ピアノの近くに座ってください。積極的に参加する方の受講を期待しています。 ＊初開講となる2016年度は、春学期・秋学期ほぼ同一内容で行います（重複履修不可）。		1. ガイダンス、レベルチェック 2. 音の長さ（1） 3. 音の長さ（2） 4. 音の高さ（1） 5. 音の高さ（2） 6. 記号 7. 音程（1） 8. 音程（2） 9. 音程（3） 10. 音階（1） 11. 音階（2） 12. 和音（1） 13. 和音（2） 14. 授業内試験 15. まとめ ＊理解度等に応じて、変更することがあります。	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の復習。宿題を出すこともあります。		
テキスト、参考文献	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009 年（本体 934 円）を購入すること。また、五線ノートを準備してください。		
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%		

08 年度以降	歴史と文化 2 (楽典(音楽通論)—楽譜を読み・書くために)	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
多くの実習を行い、楽譜の読み方・書き方の基本を学んでいきます。音楽を学びたい人のみならず、音楽を聴くのが好きな人やバンド活動をやっている人、耳の感覚に注意を向けてみたい人などにも参加してもらいたいと考えています。 具体的には、『改訂 音楽通論』（教育芸術社）を教材として、音の長さ、音の高さ、記号、音程、音階などについて学びます。書いてもらった楽譜を授業中に個別に添削するなどして進めていきます。また、短い楽譜を見て歌ってもらったり、リズム打ちをしてもらったりすることもあります。 教室では、ピアノの近くに座ってください。積極的に参加する方の受講をお待ちしています。 ＊初開講となる 2016 年度は、春学期・秋学期ほぼ同一内容で行います（重複履修不可）。		1. ガイダンス、レベルチェック 2. 音の長さ（1） 3. 音の長さ（2） 4. 音の高さ（1） 5. 音の高さ（2） 6. 記号 7. 音程（1） 8. 音程（2） 9. 音階（1） 10. 音階（2） 11. 和音（1） 12. 和音（2） 13. 授業内試験 14. 復習 15. まとめ ＊理解度等に応じて、変更することがあります。	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の復習。宿題を出すこともあります。		
テキスト、参考文献	教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社、2009 年（本体 934 円）を購入すること。また、五線ノートを準備してください。		
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化 (IV) (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインとその旧植民地ラテンアメリカのパフォーミングアーツ (音楽・ダンス・演劇) および映像ほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本の事情と比較することで、背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから、まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混雑がキーワードとなるため、まず個別の構成要素を検討します。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例中心です。次にジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け、ドキュメンタリーを観ながら、クラブカルチャーの源流を探ります。終盤では、ローカルな民俗芸能が舞台に乗り、国民文化として戦略的に広報されていく経緯を追います。流行には40年周期説があり、芸術の多くはサブカルチャーから生じます。ルーツとは何か。学術の視点で議論しましょう。		1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混雑 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&レスポンス 5. フォルクローレと民謡・歌劇・風刺劇の相関関係 6. 民俗文化 (芸能) をめぐる身体技法とグローバル化 7. メインストリームとオブジェクティフィケーション (対象化) 8. マス対象の文化産業論と移民社会のマーケティング 9. 世界を席卷するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 10. カット&ミックス、ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ... 11. クラブカルチャーのラップから里帰りのなレゲトンへ 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリヤや農民の祝宴 13. オルタナティブメディア、クールジャパン、市場細分化 14. 日本の「大衆演劇」、創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため、特に事前学修は必要ないが、関心を抱いたジャンルや実践者については、事後に自分で PV ほかのコンテンツを検索するなどして、最終レポートの下準備につなげること。		
テキスト、参考文献	適宜プリント配布し、参考書を紹介するが、地域文化的な各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)		
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢 (35%) と期末レポート (65%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (英語圏の演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考察する。 英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。 実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知り、演劇文化への理解を深める。 講義概要 なるべく実際の上演を観られる戯曲を取りあげ、台本抜粋を精読する。映像化された作品がある場合は、冒頭部分を上映する。 日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施する。		1. 導入 2. 戯曲作品 1 3. 戯曲作品 2 4. 戯曲作品 3 5. 戯曲作品 4 6. 戯曲作品 5 7. 戯曲作品 6 8. 戯曲作品 7 9. 戯曲作品 8 10. 戯曲作品 9 11. 戯曲作品 10 12. 戯曲作品 11. 13. 戯曲作品 12 14. 戯曲作品 13 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英米の劇作品の台本抜粋（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 50%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 （日韓比較文化論 b） 歴史と文化（IV）（日韓比較文化論 b）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、韓国の学校教育に関して基礎的な情報を得、韓国社会を理解する一助とすることを目的とする。またこれを通して日本社会や学校教育を再検討する機会となることもまた、目的のひとつである。 具体的には、歴史、教育熱、改革、多様性と 4 つのトピックをさらに 2 ～ 3 回に分けて講義する。講義形式を中心とするが DVD などの資料を活用したり、授業レポートなどを活用して双方向型の方法も部分的に取り入れる。 内容としては初中等教育（日本での小学校・中学校・高等学校段階）の学校や教育制度を主な対象とする。また韓国の状況や制度を解説するだけでなく、必要に応じて日本の制度も説明し、比較しながら検討していきたいと考えている。		1. ガイダンス 2. 歴史（1）植民地支配期まで 3. 歴史（2）「解放」後から現在まで 4. 歴史（3）現行システムの概要 5. 教育熱（1）メディアから見る教育熱 6. 教育熱（2）受験と早期留学 7. 教育熱（3）要因は何か 8. 改革（1）学校運営委員会 9. 改革（2）教育自治と教育監督選挙 10. 改革（3）改革の効果と意味 11. 多様性（1）メディアから見る代案学校 12. 多様性（2）代案学校 13. 多様性（3）異文化を受け入れる学校教育 14. 多様性（4）少年少女家長と教育福祉 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必要文献を事前に読んでくこと、講義後に授業レポートシステムを利用してまとめをすることなど。		
テキスト、参考文献	各回の講義後に指示する。		
評価方法	発言・質問など授業への積極的な貢献（20％）、授業レポート（30％）、学期末レポート（50％）を評価の対象にする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2（韓国の宗教）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっています。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とします。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。		1. ガイダンス 2. 韓国宗教の構造 3. 民間信仰 4. 仏教（1）仏教略史 5. 仏教（2）仏教概要 6. 仏教（3）韓国史の中での仏教 7. 仏教（4）現代韓国の中の仏教 8. 儒教（1）儒教略史 9. 儒教（2）韓国史の中の儒教 10. 儒教（3）現代韓国の中の儒教 11. キリスト教（1）キリスト教略史 12. キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 13. キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 14. 現代韓国と宗教 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくること。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	＜テキスト＞プリントを使用。参考文献は授業中に指示。 参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2（能楽論） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
古典芸能「能楽」は、舞台芸術として鎌倉室町時代から各時代に受け継がれ、現代では世界遺産に指定され、日本や世界各地で上演されています。とはいえ、一般には難しいものとして捉えられがちです。外国に留学し、その国の人に日本文化として質問され、答えに窮した経験談も聞きます。この能楽の全体像を、現役能楽師の視点から、ビデオ鑑賞と併せてミニ舞台を設定し実技・実演を交えながら、解りやすく解説していきます。 能楽の理解度を深めるため、能楽堂での鑑賞をレポート課題の一つとします（チケット代自己負担・2000～3000円）。 秋期と併せて受講も可能。		1. 能楽の紹介 2. 能楽の概説 3. 能楽の流れ 4. 能を演じる各役 5. 能舞台についてⅠ 6. 能の実技についてⅡ（実演・能の見方） 7. 能の演目Ⅰ 8. 能の演目Ⅱ（実演・神男女狂鬼） 9. 現在能「土蜘蛛」Ⅰ 10. 現在能「土蜘蛛」Ⅱ 11. 伊勢物語と在原業平について 12. 夢幻能「井筒」Ⅰ 13. 夢幻能「井筒」Ⅱ 14. 能装束着付実演 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日本史 平安時代から明治維新に至るまでの概要を予習しておく。伊勢物語の概要を予習しておく。		
テキスト、参考文献	関連資料のコピーを配布		
評価方法	課題レポート 50％・能楽鑑賞レポート 20％・平常講義関連事項レポート 30％		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2（能楽における中世武士の諸像） 歴史と文化(IV)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
源平合戦の花形・「源義経」は、貴種流離譚の主人公として数奇な人生をおくり、日本人には悲劇のヒーローとして、平家物語・義経記など物語・伝説に登場し、人口に膾炙してきました。そのエピソードは、いろいろな芸能にも作品化されています。室町時代に誕生した「能」ではどのように描かれているか、その生涯を辿りながら、能「舟弁慶」の曲を題材にして、「源義経」像を解き明かしていき、世界遺産に指定された日本の芸能「能楽」について、ビデオ鑑賞、ミニ舞台による実演などを取り入れ、現役能楽師としての視点から解説します。 春期からの通年受講も可能です。能楽の理解度を深めるため、能楽堂での鑑賞をレポート課題といたします（チケット代各自負担 2000～3000 円）。		1. 古典芸能について（能・歌舞伎・文楽） 2. 能「舟弁慶」の詞章を読む（能の概説） 3. 能「舟弁慶」の作品解説Ⅰ（能を演じる役） 4. 能「舟弁慶」の作品解説Ⅱ（能の歴史） 5. 能「舟弁慶」の作品解説Ⅲ 6. 能「舟弁慶」のビデオ鑑賞 7. 源義経の生涯・能が描く義経像 8. 能「舟弁慶」の構成（能の演技・能舞台） 9. 能「舟弁慶」の構成の実演 10. 歌舞伎の「舟弁慶」 11. 現在能と夢幻能 12. 夢幻能の作品ビデオ鑑賞 13. 能の扮装（能装束の着付実演） 14. 五番立て（神男女狂鬼）について 15. 五番立ての実演	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	「保元・平治の乱」・「源氏と平家の争い（平家物語・義経記を参考に）」の概要を予習しておく		
テキスト、 参考文献	関連資料のコピーを配布。参考書「能と義経」 櫻間金記著・光芒社（平成 12 年刊）「能と文学」第 24 回 獨協大学公開講座（平成 6 年刊）		
評価方法	課題レポート 50％・能楽鑑賞レポート 20％・平常講義関連事項レポート 30％		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (イタリアの音楽史) 歴史と文化(IV)(イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。		1. ガイダンスと導入 2. 古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3. グレゴリオ聖歌 4. グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5. 「イタリア音楽」の誕生 6. メディチ家の芸術後援活動 7. 宗教改革と音楽 8. バロック音楽の誕生 9. ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 10. ヴィヴァルディとヴェネツィア 11. パガニーニと超絶技巧 12. ヴェルディとイタリア国家統一運動 13. レスピーギと古楽復興運動 14. イタリア映画と音楽 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。		
テキスト、参考文献	参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）		
評価方法	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%）。小テストの時期は授業中に指示する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2(イタリアの声楽曲) 歴史と文化(IV)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。		1. オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2. オペラ誕生の経緯 3. フィレンツェにおける初期の試み 4. バロック・オペラの台本 5. バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6. オペラ・セリアとオペラ・ブッフア 7. バロック・オペラと劇場 8. ロッシーニの世界 9. ベッリーニ 10. ドニゼッティ 11. ヴェルディ 12. イタリア・オペラの国際化（1） 13. イタリア・オペラの国際化（2） 14. プッチーニ 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内容をまとめたノートを各自工夫して作成すること。		
テキスト、参考文献	プリントを配布する。		
評価方法	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）の結果によって評価する（100%）。小テストの時期は授業中に指示する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 4) 歴史と文化(IV)(詩と音楽 4)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
ジュゼッペ・ヴェルディ (1813～1901) は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中から彼の代表作の 1 つであり、また今日でも抜群の人気を誇る傑作オペラ《リゴレット》(1851) を採り上げる。 授業期間の前半では、まず《リゴレット》を注意深く鑑賞し、劇の内容を把握する。オペラ台本と、ヴィクトル・ユゴーによる原作戯曲『王様は放蕩三昧』(1832) との違いも確認する。授業期間の後半では、ヴェルディが《リゴレット》を題材として取り上げた意図について、実現しなかったオペラ《リア王》(シェイクスピア原作) も視野に入れながら多角的に考察する。 なお、本講義は「詩と音楽4」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽5」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。		1. ガイダンスと導入 2. 《リゴレット》第 1 幕前半 3. 《リゴレット》第 1 幕前半と、原作との違い 4. 《リゴレット》第 1 幕後半 5. 《リゴレット》第 1 幕後半と、原作との違い 6. 《リゴレット》第 2 幕 7. 《リゴレット》第 2 幕と、原作との違い 8. 《リゴレット》第 3 幕 9. 《リゴレット》第 3 幕と、原作との違い 10. 《リゴレット》の独自性 11. 『リア王』とヴェルディ (1) 12. 『リア王』とヴェルディ (2) 13. 『リア王』とヴェルディ (3) 14. 『リア王』とヴェルディ (4) 15. まとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2 回目の授業時に《リゴレット》のオペラ台本の翻訳を配布するので、あらかじめよく読んでおくこと。図書館には《リゴレット》の DVD や CD があるので、それらも積極的に活用することが望ましい。		
テキスト、参考文献	プリントを配布する。ただし、シェイクスピアの『リア王』については、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること (松岡和子訳「ちくま文庫」を推奨)。		
評価方法	期末レポート (50 点満点) の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各 5 点) を集計して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2 (詩と音楽 6) 歴史と文化(IV)(詩と音楽 6)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
ジュゼッペ・ヴェルディ (1813～1901) は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中でもとりわけ愛されているオペラ《トラヴィアータ》(1853) を採り上げる。 このオペラは、アレクサンドル・デュマ・フィスが処女作として発表した小説『椿姫』(1848) を、作家本人が舞台化した戯曲『椿姫』(1852 初演) に基づいて、制作されたものである。 授業では、まずオペラ《トラヴィアータ》を注意深く鑑賞した上で、オペラ台本とデュマ・フィスの戯曲『椿姫』との比較を試みる。また、小説および戯曲『椿姫』の中で重要な役割を果たすアベ・プレヴォの小説『マノン・レスコー』についても学ぶ。 なおオペラとは直接関係ないが、デュマ・フィスの小説『椿姫』は、20 世紀にノイマイヤーというクラシック・バレエの振付師がバレエに翻案している。授業ではそれも採り上げ、『椿姫』の物語の広がりも併せて確認したい。 なお、本講義は「詩と音楽 6」であるので、授業開始までに「詩と音楽 1」「詩と音楽 2」「詩と音楽 3」「詩と音楽 4」「詩と音楽 5」の単位を取得した学生も履修できる。		1. ガイダンスと導入 2. 《トラヴィアータ》第 1 幕の聞きどころ 3. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 1 幕の違い 4. 《トラヴィアータ》第 2 幕前半の聞きどころ 5. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 2 幕前半の違い 6. 《トラヴィアータ》第 2 幕後半の聞きどころ 7. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 2 幕後半の違い 8. 《トラヴィアータ》第 3 幕の聞きどころ 9. 戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 3 幕の違い 10. 『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』(1) 11. 『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』(2) 12. 小説『椿姫』との比較／バレエ『椿姫』(1) 13. バレエ『椿姫』(2) 14. 《トラヴィアータ》: 作曲の舞台裏と「色合い」 15. 《トラヴィアータ》: 1853 年稿と 1854 年稿	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2 回目の授業時に《トラヴィアータ》のオペラ台本の翻訳を配布するので、あらかじめよく読んで授業に臨むこと。小説『椿姫』についても、できるだけ早い段階で読了するように心がけること。		
テキスト、参考文献	デュマ・フィスの小説『椿姫』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。戯曲『椿姫』およびピアヴェによるオペラ台本については、プリントを配布する。		
評価方法	学期途中に課すレポート (50 点満点) の他、授業終了時に提出してもらう「まとめ」(各 5 点) を集計して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2（海から見た歴史） 歴史と文化(Ⅳ)（海から見た歴史）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この講義では、日本史・東洋史・西洋史という枠組みによって隔てられてきた歴史を、海という視点から捉え直し、互いに連関しながら動いてきた世界の諸地域を、よりグローバルな視点から考えてみます。現代の一体化した世界はどのような過程を経て形成されてきたのでしょうか。 【講義概要】 フランスの歴史家フェルナン・ブローデルの大著『地中海』が邦訳として刊行されたことをひとつの契機として、とりわけ1990年代以降、海から見た歴史が日本でも盛んに論じられるようになりました。陸地の視点から国ごとに考えられてきた従来の歴史を海洋から眺めるとはどういうことなのでしょうか。主に10世紀から18世紀までを対象として、中世の地中海世界から北西ヨーロッパ、そして近世のアジア海域へと視点を移しながら、最終的には日本の歴史を海の視点から改めて考えてみます。		1. 講義の概要 2. 歴史学の歴史と海 3. アジアの海の交易路 4. ヴァイキングの時代 5. 中世の地中海世界 6. ハンザ「同盟」 7. 「大航海時代」 8. 近世フランスの港町 9. 東インド会社 10. 海域アジア世界 11. 海から見た日本 12. 海賊 13. 奴隷 14. 船と航海 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	高校世界史 B の教科書を再読しておくことが望ましい。 個人的に関心を持った港町の歴史について、関連図書を一冊選び、通読する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業の際に指示します。		
評価方法	平常授業における提出物など（30%）、期末レポート（70%）		

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 2（食の歴史と文化） 歴史と文化(Ⅳ)（食の歴史と文化）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 食品偽装、和食の世界遺産化、TPP への参加など、食に対する関心は近年ますます高まっています。この講義では、食をテーマとした具体的な研究事例などをわかりやすく紹介しながら、人間にとって欠かすことのできない営みである「食べる」ことについて、さまざまな角度から考えてみます。 【講義概要】 フランスのアナール学派が開拓した「食」の歴史学をひとつの手がかりとして、人文社会系のさまざまな分野（社会学、文化人類学、民俗学、経済学、地理学、言語学、哲学など）で領域横断的に広く扱われている食について考えます。「食べる」ことを切り口に、現代の社会が直面する問題（資本主義、環境、アイデンティティ、グローバリゼーションなど）について検討します。時事的なトピックスも随時取り上げる予定です。 ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。		1. 講義の概要 2. 歴史学の歴史と食 3. コロンブスの交換 4. フランスの食文化 ① 5. フランスの食文化 ② 6. 日本の食文化 ① 7. 日本の食文化 ② 8. 日本の食文化 ③ 9. 食とソフトパワー 10. 食とグローバリゼーション 11. 食と宗教 12. 食とメディア 13. 食と移動 14. 食と安全保障 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞をはじめとするメディアで、食についてどのようなテーマが話題になっているかに目を配る。個人的に関心のあるテーマについて、関連図書を一冊選び、通読する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業の際に指示します。		
評価方法	平常授業における提出物など（30%）、期末レポート（70%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (パリのイメージと文学)	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
パリのさまざまなモニュメントを出発点として、それに関連する文化的事象を紹介し、フランス文化の豊かさを理解することが本講義の目的です。そのために、それぞれのモニュメントが映る風景を描いた小説を抜粋し、パリがどのように文学において表象されてきたのかを学びます。 教科書は『フランス文化読本』を使用します。講義の前半では、モニュメントや街並みの特徴を概観し、後半ではそのモニュメントを描いた文学テキストを読みます。たとえば、「シャンゼリゼ通り」ではブルーストの『失われた時を求めて』を、「オルセー美術館」ではゾラの『制作』を参照することになるでしょう。 試験では、毎回の講義の内容を踏まえた論述をしてもらいます。パリの街の奥行きを教えてくれる文学を通して、まるで風景を眺めているような感覚が味わえるでしょう。		1. イントロダクション 2. ノートルダム・ド・パリ 3. パリの橋 4. ルーヴル美術館 5. カルチエ・ラタン 6. バスティュー 7. 凱旋門 8. オペラ座 9. シャンゼリゼ通り 10. オルセー美術館 11. モンマルトル 12. エッフェル塔 13. メトロ 14. モスク 15. 講義のまとめ	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業計画のタイトルは教科書の章題に対応しています。事前に該当する章を読んでくること。		
テキスト、参考文献	教科書：『フランス文化読本』 田村毅・鈴木雅生編、丸善、2014 年。		
評価方法	授業内コメント（30%）、期末試験（70%）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	歴史と文化 2 (Shakespeare とイギリスの俳優たち)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
20 世紀以降のイギリスにおけるシェイクスピア上演を、何人かの俳優と演出家に焦点を当てながら考察する。本講義の目的は二つ。ひとつはシェイクスピアの戯曲の複雑で豊かな言葉が、俳優の肉体を通してどのように表現され、それがどのような意味と面白さを持つのかを理解することである。名優とされるイギリス俳優たちの音声や映像に触れながら、シェイクスピアと英語の持つ表現力への理解を深めることを目指す。演劇を「自然を映す鏡」とシェイクスピアは呼んだが、シェイクスピア劇の上演はそれぞれの時代の相を映し出す。この 100 年ほどの間にシェイクスピア上演はダイナミックに姿を変えてきた。20 世紀以降のイギリスあるいは世界の変化が、シェイクスピア劇の上演にどのように反映してきたかを理解することがもうひとつの目的である。		1. Introduction 2. Olivier and Gielgud (1) 3. Olivier and Gielgud (2) 4. Olivier and Gielgud (3) 5. The Director's Shakespeare (1) 6. The Director's Shakespeare (2) 7. The Director's Shakespeare (3) 8. Shakespearean Actresses (1) 9. Shakespearean Actresses (2) 10. Shakespearean Actresses (3) 11. After Branagh (1) 12. After Branagh (2) 13. After Branagh (3) 14. Course summary 15. Wrap-up	
到達目標	歴史と文化に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取り上げるシェイクスピアの戯曲の引用箇所を精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	教材はプリントを配布する。参考文献は Wells, Stanley. (2015). <i>Great Shakespeare Actors</i> . Oxford University Press. ISBN: 978-0198703297		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2 (21 世紀の外交秘話)	担当者	客員教授 V. シュタンツェル
講義目的、講義概要		授業計画	
Lecture in English The Secrets of Diplomacy in the 21st Century Diplomacy has deep roots in human history: we find in ancient Japan as well as in India, China, Egypt and Europe. It has gradually adapted to the challenges of globalization of communication, and the rise of new powers. We will analyze the unchanging parameters of diplomacy, and find our way to understanding and defining the prerequisites of diplomacy today and in the future. Reader with short texts Henry Kissinger: Diplomacy, Raymond/Westbrook: Babylonian Diplomacy, Kishan S. Rana: Inside Diplomacy, Berridge/Keens-Soper: Diplomatic Theory, Hamilton/Langhorne: The Practice of Diplomacy		 	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2 (マスメディア法・実践編)	担当者	右崎 正博
講義目的、講義概要		授業計画	
「現代社会 1（マスメディア法）」で得た基礎知識をベースにして、マスメディアの取材や報道、国民の知る権利にかかわって提起され、あるいは提起されるであろう問題について、実践的な観点から解決を探ることを課題としたい。それらの問題のなかには、従来の法理論の枠組みに収まらないものも多い。したがって、従来の法理論を発展させるとともに、その理論枠組みを組み変える必要も出てきている。 この実践編では、情報流通と世論形成の中心的役割を担うマスメディアの活動に焦点を当て、国家とメディアおよび市民とメディアという二つの関係から検討、考察する。ただ、マスメディアの活動が提起する問題の多くは、法による強制的な解決を図るよりもメディア内部の自律と自主規制に委ねる方が、表現の自由にとって望ましい場合も少なくない。その意味で、法的観点だけでなく、報道倫理の問題や我々自身がマスメディアの提供する情報にどう接するべきかというメディア・リテラシーの問題にも相当の関心を払いたい。		1. 特定秘密の保護と国民の知る権利 2. メディアのための情報公開制度の活用 3. 取材源の秘匿と報道の信ぴょう性 4. 取材源の開示・暴露の法的責任追及の是非 5. 取材資料やモニター・ビデオの証拠利用の拡大 6. 法廷取材と裁判報道の意義とその制限 7. 少年事件報道の意義と青少年の保護・更生の課題 8. 差別的表現の規制の是非と課題 9. 名誉権の保護と報道の自由との調整の法理 10. 批判封じのための名誉毀損訴訟が提起する問題 11. 肖像権の保護と報道の自由との調整の法理 12. プライバシーを侵害する報道の限界 13. プライバシー保護のための報道の差止めの可否 14. 図書館の自由と住民の知る権利 15. 放送の自由・自律と公平・公正	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞・テレビ等を通してメディアと法をめぐる動向をウォッチし、フォローしてほしい。人前で読むのがはばかれるような新聞や雑誌もあるが、マスメディアの現状を理解する手がかりとして、それらにも関心を払ってほしい。		
テキスト、参考文献	テキストはとくに指定しない。参考文献は、以下のもののほか、適宜紹介する。田島泰彦＝右崎正博＝服部孝章編『現代メディアと法』（1998 年、三省堂）、長谷部恭男ほか編「メディア判例百選」別冊ジュリスト（2005 年、有斐閣）、松井茂記「マスメディア法入門（第 5 版）」（2013 年、日本評論社）		
評価方法	レポート 50%、定期試験 50%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(教育の現場：教師と語る b) 現代社会(IV)(教育の現場：教師と語る b)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、研究会合宿に必ず参加して下さい(参加費は9000円程度)。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、hkawamura@dokkyo.ac.jp です。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。		1. 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2. 生活指導とは何か（1） 3. 生活指導とは何か（2） 4. 実践記録を読む（1） 5. 実践記録を読む（2） 6. 実践記録を読む（3） 7. （合宿参加） 8. （合宿参加） 9. （合宿参加） 10. （合宿参加） 11. （合宿参加） 12. （合宿参加） 13. （合宿参加） 14. （合宿参加） 15. 授業のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト及び実践記録を読んで、疑問点や意見をまとめる。合宿で学んだことをまとめる。		
テキスト、参考文献	高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）		
評価方法	研究会と講義への参加度と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2 (韓国研究情報収集法)	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3－4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 ＊韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。		1. ガイダンス 2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 3. ハングルのタイピング練習① 4. ハングルのタイピング練習② 5. ハングルのタイピング練習③ 6. ハングルのタイピング練習④ 7. インタネット検索 8. インタネット検索 9. 調査発表① 10. 調査発表② 11. 調査発表③ 12. 調査発表④ 13. 現地調査発表⑤ 14. 現地調査発表⑥ 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ハングルのタイピングしたものを毎回提出してください。グループ分けし発表日程が決まったら、研究テーマ、資料収集方法、調査方法等について毎回相談してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：適宣プリントを配布する。 参考文献：授業中に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、課題レポート 60%。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会 (IV) (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、ビブリオバトル（知的書評合戦）の手法に則り、受講生の皆さんにドイツ語圏の国々に関する書籍を紹介してもらいます。それによって、ドイツ語圏の成り立ちや文化的特徴について理解を深め、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を培うことを目的とします。 ビブリオバトルでは、受講生自身が紹介する本を選択しプレゼンを行い、受講生全員がプレゼンを評価します。毎回、6 名程度の受講生にそれぞれ5 分のプレゼンをしてもらう予定です。最終的にはビブリオバトルを公開して開催することが目標です。 詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。また、受講者の人数に応じて、複数回発表してもらうことも考えられますので、本をたくさん読むことは覚悟してください。		1. オリエンテーション 2. ドイツ語圏の基本情報 3. 本の探し方 4. ビブリオバトルの練習 5. ビブリオバトルの練習 6. ビブリオバトル 7. ビブリオバトル 8. ビブリオバトル 9. ビブリオバトル 10. ビブリオバトル 11. ビブリオバトル 12. ビブリオバトル 13. 公開ビブリオバトル 14. 公開ビブリオバトル 15. 展示物作成	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で紹介したい本を探し、限られた時間の中でその本の魅力を説明できるよう、準備してください。		
テキスト、参考文献	授業内で指示します。		
評価方法	ビブリオバトルへの参加、授業への貢献度に基づいて評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会 (IV) (ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、ビブリオバトル（知的書評合戦）の手法に則り、受講生の皆さんにドイツ語圏の国々に関する書籍を紹介してもらいます。それによって、ドイツ語圏の成り立ちや文化的特徴について理解を深め、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を培うことを目的とします。 ビブリオバトルでは、受講生自身が紹介する本を選択しプレゼンを行い、受講生全員がプレゼンを評価します。毎回、6 名程度の受講生にそれぞれ5 分のプレゼンをしてもらう予定です。最終的にはビブリオバトルを公開して開催することが目標です。 詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。また、受講者の人数に応じて、複数回発表してもらうことも考えられますので、本をたくさん読むことは覚悟してください。		1. オリエンテーション 2. ドイツ語圏の基本情報 3. 本の探し方 4. ビブリオバトルの練習 5. ビブリオバトルの練習 6. ビブリオバトル 7. ビブリオバトル 8. ビブリオバトル 9. ビブリオバトル 10. ビブリオバトル 11. ビブリオバトル 12. ビブリオバトル 13. 公開ビブリオバトル 14. 公開ビブリオバトル 15. 展示物作成	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で紹介したい本を探し、限られた時間の中でその本の魅力を説明できるよう、準備してください。		
テキスト、参考文献	授業内で指示します。		
評価方法	ビブリオバトルへの参加、授業への貢献度に基づいて評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2（家族と法・実践編）	担当者	齋藤 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は世間で話題となっている様々な家族の問題や全く話題になっていない家族の問題に対して、ちょっとだけ首を突っ込んだり、突っ込まなかったり、深入りしたりもする授業です		少人数の授業が予定されているので、前期に行った授業をベースにこれを深めていきます。毎回授業では10分程度のレポートを数人をお願いする予定です。テーマについては受講者の関心事を中心に協議していきます。	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えたレポート報告を課す予定のため、準備作業が必要になる		
テキスト、参考文献	事前に予告したテーマに沿って適宜探すこと		
評価方法	12 回以上出席している受講生のレポート報告		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2（韓国社会論 I）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
日韓関係が抱える大きな問題の一つに「過去の歴史の清算に関する問題」および「歴史認識問題」がある。ここ10年ほど、インターネットなどでは「右寄り」の「嫌韓」が増えていることはみなさんも感じていると思う。こうした状況の中、私たちはこうした問題をどのように考えていけばよいのか。本講義ではやや「左寄り」とされるであろうテキストを用いながら、それぞれの問題のベースと、それをどのように考えていけばよいのかについて一緒に考えていきたい。この講義は韓国社会論であるが、同時に日本社会論、そして私たち個人の考え方の問題でもある。 授業の進め方は、基本は講義形式で行うが、人数によっては発表をしてもらう場合もある。		1. ガイダンス 2. <嫌韓流>現象を読み解く 1 3. <嫌韓流>現象を読み解く 2 4. 韓国併合は朝鮮人が望んだものか 5. 植民地支配は韓国を豊かにしたか 6. 日本人と韓国人は平等だったか 7. 日本人はハングルを広めたか 8. 創氏改名とは何だったか 9. 朝鮮人強制連行はなかったのか 10. 慰安婦問題 11. 戦後の日韓関係をどのように考えるべきか 12. 日韓条約で植民地支配は清算されたか 13. 竹島問題はどうか考えたらよいか 14. 韓国の「過去清算」はどうなっているのか 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくること。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト>田中宏、板垣竜太『日韓新たな始まりのための 20 章』（岩波書店、2007 年）、プリント。 <参考資料等>授業時に指示する。		
評価方法	授業内レポート、課題レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2（企業と法）	担当者	周 劍龍
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この講義は受講生が企業をめぐる法的な仕組みに関する涵養を身に付けることを目的とする。 講義概要 現代社会の人間生活は多く企業に依拠している。企業は、財やサービスのほか、仕事の間をも提供する。企業とは何か、企業の法的な仕組みとは何かなどを知ることは現在社会に生きるわれわれにとって重要な意味を有する。本講義は、商法・会社法をベースにして、企業の法的な仕組みを解明する。		1. イントロダクション、商法における会社法の位置づけ、企業の諸形態 2. 会社とは（営利性、法人性、社团性、法人格否認の法理、会社の能力など） 3. 会社の種類、株式会社の特色（株主有限責任の原則、譲渡自由の原則など） 4. 株式会社の運営（その 1、株主総会） 5. 株式会社の運営（その 2、取締役会①） 6. 株式会社の運営（その 3、取締役会②） 7. 株式会社の運営（その 4、監査役（会）、会計参与、会計監査人など） 8. 株式会社の運営（その 5、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社） 9. 株式会社の資金調達（株式、社債とは、資金調達の仕組み） 10. 企業会計 11. 会社の誕生と消滅 12. 組織再編（その 1） 13. 組織再編（その 2） 14. 持分会社 15. 国際会社法、講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の学修については、テキストの関連部分や配布した関連資料を予習する。事後の学修については、授業の内容を復習する。		
テキスト、参考文献	神田秀樹『会社法〔第 17 版〕』弘文堂、2015 年、関連資料を随時配布する。		
評価方法	100%筆記試験により、成績を評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2（経済活動と犯罪・実践編）	担当者	関根 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞やテレビなどで毎日のように犯罪について報道されています。その報道において、犯罪を行った人が主婦やサラリーマンなど、ごく一般人な人であることも珍しくありません。これは、犯罪を行うのは特別な人だけではないということを意味します。皆さんも、これから社会人になり、会社などの業務を行う中で、思わぬ犯罪に巻き込まれてしまうという事態にもなりかねません。本授業では、実際に起こった事件を題材にした問題を考えながら、会社の業務の中で、どのようなことをすると犯罪になってしまうのか、ということを皆さんと一緒に考えたいと思います。 授業は演習形式で行い、2 回 1 セットで 1 つのテーマを検討することになります。2 回のうち、1 回目は担当教員が問題のとらえ方、問題に対する解決方法などを解説し、2 回目に皆さんに問題の解決方法について考えてもらうことにします。なお、問題について考えた結果を簡単なレポートにまとめて提出してもらいます。		1. 講義の概要・刑法の基礎 2. 詐欺 1 3. 詐欺 2 4. 電子計算機使用詐欺 1 5. 電子計算機使用詐欺 2 6. 横領及び背任 1 7. 横領及び背任 2 8. 営業秘密に対する犯罪 1 9. 営業秘密に対する犯罪 2 10. インサイダー取引 1 11. インサイダー取引 2 12. ねずみ講及びマルチ商法 1 13. ねずみ講及びマルチ商法 2 14. 知的財産権侵害 1 15. 知的財産権侵害 2	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	1 回目の解説を聞いて自分で問題について考えてみてください。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しません。解説のプリントを配布します。 参考文献については、必要に応じて紹介します。		
評価方法	授業課題のレポート（50％）学期末試験（50％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2（ビジネスで理解しておくべき法律用語）	担当者	高橋 均
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 講義目的 ビジネスの現場では、契約書の作成、顧客との商談など色々な場面で法律用語を使用することがあります。法律用語は、企業法務部門担当者に限らず、営業や購買部門等に配属となっても、使用する場面が多くなります。 また、アルバイトや日常生活でも一定の法律用語を理解しておくことは、有益なことが多くあります。 そこで、本講義では、類似の用語をまとめた上で、意味の相違について、具体的な使用例での検討を通じて理解を深めます。 2. 講義概要 基本的には、演習方式で行います。すなわち、受講生は一定の予習をした上で、授業では具体的な使用方法の検討を受講生全員で検討する予定です。毎回、15 用語前後を扱います。		1. 導入（授業の進め方・目的・獲得目標等） 2. 期間・日時関連用語（期間・期限・期日・時期等） 3. 前後関係を表す用語（係る・関する等） 4. 接続を表す用語（及び・かつ・並びに等） 5. 文末での用語（当てる・当たる・充てる等） 6. 当事者関連用語（後見人・保佐人・補助人等） 7. 概念を表す用語①（悪意・故意・作為等） 8. 概念を表す用語②（合法・正当・相当・適法等） 9. 行為を表す用語①（委任・委託・請負等） 10. 行為を表す用語②（釈明・弁明、申告・報告・申出） 11. 文書・規程の用語（印鑑・印章、記名・署名等） 12. 業務に関する用語（解任・辞任・退任等） 13. 金銭に関する用語（違約金・損害金、財産・資産等） 14. 裁判に関する用語(会社更正・民事再生、棄却・却下) 15. その他注意すべき用語（意思・意志、体制・態勢等）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習としては、次回の授業で扱う用語についての一定の予習、事後としては、具体的な場面で使用していることの確認		
テキスト、参考文献	毎回、オリジナルのプリントを使用します。参考文献については、授業中に都度、紹介します。		
評価方法	授業参加意欲(予習の度合い等)50%、定期試験 50%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2 (市民と刑事司法・応用)	担当者	徳永 光
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 裁判員裁判の導入後、刑事裁判に関心を持つ人は増えました。また、冤罪に関心のある人もいれば、被疑者・被告人への権利保障に疑問を感じる人がいるかもしれません。刑事手続における人権保障のレベルは、その国の人権意識を示すバロメーターとも言えます。この講義では、刑事法分野の基本的な考え方を示しつつ、具体的な問題について参加者と共に検討していきたいと思います。 (講義概要) 現在社会 1 (市民と刑事司法) の内容を踏まえ、少し法律学的な議論も交えつつ、刑事法分野の基本原則や市民が刑事裁判に参加することの意味、「日本型刑事裁判」の特色、冤罪の発生原因、現在検討されている法改正の内容などを解説します。受講者に発言を求めますので、積極的に参加してください。		1. ガイダンス 2. 犯罪と刑罰 3. 捜査手続きの諸原則 4. プライバシーと科学捜査 5. 取調べと自白 6. 刑事弁護の役割 7. 刑事裁判の流れと基本原則 8. 証拠 9. 冤罪と救済 10. 市民の司法参加 11. 裁判員裁判の運用状況と課題 12. 少年司法 13. 受刑者処遇 14. 刑事司法制度改革 15. まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回翌週のテーマに関する簡単な課題を示しますので、各自検討してきてください。		
テキスト、参考文献	適宜、資料を配付します。六法は不要です。		
評価方法	授業レポート等 (30%) と期末試験 (70%) により評価します。		

08 年度以降	現代社会 2 (市民社会と法)	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが生きるこの社会は「市民社会」です。「民法は、「市民社会の基本法だ」と言われます。そのことの意味をこの授業では、具体的な民事紛争事例を解決するための活動を通じて学んでいきたいと思います。そのために、「民法の意義と機能」、「契約の自由とその限界」、「所有権とその限界」、「過失責任主義とその限界」の4つのテーマを取り上げ、各テーマに関する具体的な紛争事例の解決に向けて、受講者がグループで活動しながら、協動的・自立的に学習することを目指します。 その結果、受講者が、『民法は市民社会の基本法である』ということの意味を、家族・友人など民法を学習したことのない人が理解できるように分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書300字程度）説明できる」ようになってほしいと思います（それがこの授業の獲得目標ということになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、第1回目のオリエンテーションに必ず出席するようにしてください。		1. オリエンテーション 2. 民法の意義と機能（1） 3. 民法の意義と機能（2） 4. 民法の意義と機能（3） 5. 契約の自由とその限界（1） 6. 契約の自由とその限界（2） 7. 契約の自由とその限界（3） 8. 所有権とその限界（1） 9. 所有権とその限界（2） 10. 所有権とその限界（3） 11. 過失責任主義とその限界（1） 12. 過失責任主義とその限界（3） 13. 過失責任主義とその限界（3） 14. 口頭発表会 15. まとめと振り返り（予備を兼ねる）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に受講者各自が事例について検討して学習課題を抽出、授業では、グループで議論・検討して学習課題を決定、授業後には、抽出した課題について各自で調査・検討、その結果をさらに授業で検討するというサイクルになります。		
テキスト、参考文献	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのを基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布することもあります。		
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。		

08 年度以降	現代社会 2 (自己表現の技法)	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
大学では（ひいては社会人となれば）、客観的な事実や信頼できる情報に基づいて主張を展開するタイプの文章を作成することが要求されます。ところが、そのような論証型のレポートの作成方法や、口頭発表の方法について、キチンと学習する機会はこれまであまり多くなかったのではないのでしょうか？そこで、この授業では、論証型レポートの作成方法と（それを基にした）口頭発表の方法を仲間同士の協力的な活動（ピア活動）を通じて学んでいきたいと思います。その結果、①論証型レポートの作成と口頭発表を協力して1人でできるようになること、②「自ら問いを発し、自ら学び、議論を通じて理解を深めていくこと」ができるようになること、③互いに学びあう仲間と学びあう学習環境を作ることの3つの目標を受講者には獲得してほしいと思います。 授業の対象としては、レポート作成を初めて体験する大学1年生を念頭に置いています、「レポートの作成方法がいまいちよく分からなくて困っている」という2年生以上の人でも遠慮なく！ なお、第1回目の授業では、授業の内容や運営方法、成績評価の方法などについてより詳しく説明するのと、グループの編成をしますので、受講希望者はできるだけ出席してください。		1. この授業で何を学ぶかを知る。 2. レポートの形を知り、アイデアを練る。 3. 構想を練り、情報を調べる。 4. テーマを絞り込み、目標を規定する。 5. 文章を組み立てる。 6. 組み立てを再検討する。 7. パラグラフを書く。 8. 本文を書き込んでいく。 9. 引用しながら書く。 10. 文章・表現・形式を点検する。 11. 発表を準備する。 12. 口頭発表をする。 13. 学んだことを振り返る。 14. ラーニング・ポートフォリオのピア評価（兼予備）。 15. 授業全体のまとめ（兼予備）	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内ではピア・レスポンスの活動が中心となりますので、事前には、授業での活動の前提となるような宿題・課題が、事後には、授業で学習したことを確認・練習するための課題やレポート作成に向けての課題などが、毎回課されます。		
テキスト、参考文献	大島弥生ほか『ピアで学ぶ大学生の日本語表現〔第2版〕』（ひつじ書房）＊授業で提出してもらう「課題シート」は、本テキストに付録の「課題提出用シート」に限りますので（コピー不可）、受講者は必ず購入してください。		
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (新聞を読む 1) 現代社会(IV)(新聞を読む 1)	担当者	半田 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞は「社会の公器」と呼ばれています。情報の発信源であり、知識の供給源でもあるからです。ネット社会とはいえ、ネットニュースの多くは新聞記事を情報源としており、新聞の重要性はいささかも揺らいでいません。記事や社説を通じて、知識や判断力を養うのは社会人として欠かせないことです。 新聞記者として 35 年のキャリアを持つ現役ジャーナリストが新聞の読み方と記事の書き方を指導します。授業は新聞そのものが教科書です。例えば前の授業で示すキーワード(「参院選」「原発事故」など)が新聞にどのように取り上げられたか、その記事から何を考えたのか、毎回、何人かの方に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞いていきます。		1. ガイダンス／授業の進め方を説明 2. 新聞を読んでみよう①／新聞のキーワードの論考 3. 新聞を読んでみよう②／同上 4. 新聞を読んでみよう③／同上 5. 新聞を読んでみよう④／同上 6. 新聞を読んでみよう⑤／同上 7. 社説を読んでみよう／配布する社説の論考を発表 8. 中間まとめ 9. 新聞は真実を伝えているか①／示したテーマの論考 10. 新聞は真実を伝えているか②／同上 11. 新聞は真実を伝えているか③／同上 12. 新聞は真実を伝えているか④／同上 13. 新聞記者の取材とは／一線記者の講話と感想文作成 14. 記事を書いてみよう／模擬会見を受けて記事作成 15. まとめ／前回作成した記事の論評、授業の総評	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が発表します。		
テキスト、 参考文献	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の 5 紙から選び、最低 1 紙を講読する。新聞の電子版は不可。 必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。		
評価方法	レポートの発表 50%、記事、感想文の作成 30%、授業への参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2(新聞を読む 2) 現代社会(IV)(新聞を読む 2)	担当者	半田 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞はさまざまな情報を提供してくれます。「1 面トップ」という言葉があるように新聞にとっての「売り」はその日の第 1 面です。きょうの 1 面トップはなぜ、この記事なのでしょう。あなたにとってこの記事は重要ですか。これらの点を掘り下げることにより、新聞の役割と必要な読み方がはっきり見えてきます。 記者はどのように記事を書いているのか、新聞社はどのように記事に優劣をつけているのか、あなたが編集者だったら、どの記事が 1 面トップですか。 授業は日々の新聞が教科書です。例えば、指定した日の朝刊の中からあなたにとって有用な 1 面記事とは何か、何人かの方に発表してもらいます。これを論評し、みなさんの意見も聞いていきます。		1. ガイダンス／授業の進め方を説明 2. 第 1 面を読んでみよう①／朝刊 1 面の論考 3. 第 1 面を読んでみよう②／同上 4. 第 1 面を読んでみよう③／同上 5. 第 1 面を読んでみよう④／同上 6. 第 1 面を読んでみよう⑤／同上 7. 社説を読んでみよう／配布する社説の論考を発表 8. 中間まとめ 9. 新聞ができるまで①／新聞制作の現場を紹介 10. 新聞ができるまで②／政治や行政の会見と取材 11. 新聞ができるまで③／事件取材について 12. 新聞ができるまで④／調査報道について 13. 新聞記者の取材とは／一線記者の講話と感想文作成 14. 記事を書いてみよう／模擬会見を受けて記事作成 15. まとめ／前回作成した記事の論評、授業の総評	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指名された方は次の授業までに新聞を読み込み指定したキーワードやテーマについてレポートにまとめ、発表してください。他の方には発表を聞いて、見解を述べてもらいます。全員が発表します。		
テキスト、参考文献	新聞。朝日、毎日、読売、産経、東京の 5 紙から選び、最低 1 紙を講読する。新聞の電子版は不可。必要に応じ、記事、社説などのプリントを配布します。		
評価方法	レポートの発表 5 0 %、記事、感想文の作成 3 0 %、授業への参加度 2 0 %		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (インターンシップ) 現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 インターンシップを単に「プレ就活」ととらえる傾向がありますが、本講座の真のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではありません。履修者の皆さんが、狭義のキャリア（＝職業）をどのように獲得し、広義のキャリア（＝人生）をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、事前指導（春学期の授業）、夏休みに実施する約2週間のインターンシップ実習、および実習後の報告書作成から構成されています。事前指導の内容はさらに、オリエンテーション（第1回）、自己理解・自己分析（第2～5回）、実習に臨むにあたっての準備（第6回以降）の3段階に分かれています。講義は出欠を記録します。 （下欄に続く）		第1回 オリエンテーション： 本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明していただきます。 第2回 働くということとは何か（講義） 第3回 セカンドベストの選択と職業能力開発（講義） 第4回 コミュニケーションと面接の技術（講義） 第5回 外部講師によるマナー講座① インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第6回 人事担当者によるパネルディスカッション パネルディスカッションの形で、インターンシップ受入れ先である企業や官公庁の人事担当者から、インターンシップの意義、メリット、心構えなどについてお話しします。 第7回 R-CAP の講評・分析：Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向けた職場環境を確認します。（R-CAP の担当者から）	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

	(上欄の続き)	担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 4月4日(月)15:00~16:00 に E-102 教室で開催されるガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は150名です。 2. R-CAP (Recruit Career Assessment Program) 実施費用 (3,200円) が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第2回目の授業に必ず持参して下さい。 3. インターンシップの実習先は、履修者自身が見つけることが原則です。実習先の開拓には単位認定に必要な覚書の締結について、自ら交渉してください。一部、キャリアセンターで選考する大学仲介もありますが、履修者を優先するものではありません。 4. インターンシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合は、たとえ授業(事前指導)に出席したとしても単位は認定されません。 5. インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。 6. 実習の条件: マナー講座受講、保険加入、直前指導の出席、実習日誌+報告書の提出、のすべてが必要です。 7. 実習は1企業・団体で10日以上、もしくは2企業・団体でそれぞれ5日以上。親族の経営する企業や自営業は実習先として不可。		第8回 インターンシップ経験者による体験談: インターンシップ経験者である先輩から貴重な体験談を話していただきます。 第9・10回 時事問題研究: 新聞を教材として、グループ単位で時事問題や業界最新事情に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、時事に対する感性を涵養します。 第11回 グループディスカッションの練習①: グループディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。 第12回 外部講師によるマナー講座②: インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第13回 グループディスカッションの練習② 第14回 プレゼンテーションの技術のブラッシュアップ 特定のテーマに関して、全員の前で発表してもらいます。 第15回 直前指導 インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項(インターンシップ保険、実習後の提出書類等)について説明していただきます。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。 10月をめどにキャリアセンター主催の報告会を実施しますので、出席して下さい。	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の際に配布するプリントを精読して、主体的にインターンシップに取り組んでください。		
テキスト、参考文献	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	実習日誌 40%、報告書 40% 授業での貢献 20%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（韓国社会論） 現代社会（Ⅳ）（韓国社会論）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、変貌する韓国社会をジェンダーの視点から読み解いていきます。現在の韓国社会を知るために、政治・経済、生活文化に対する基本的な知識だけでなく、韓国社会をとりまく国際的情勢を視野に入れつつ、ヒトや文化の国際移動を引き起こす背景や影響についても焦点を当てます。 講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、韓国の市民社会形成の基礎を固めた民主化運動、日本と韓国を中心としたヒトや文化の国際移動に焦点を当てていきます。		1 イン트로ダクション-講義紹介 2 ジェンダーとはなにか 3 韓国社会を見る目：結婚・家族 4 韓国社会を見る目：教育 5 韓国社会を見る目：労働・経済活動 6 変わりゆく「家族」① - 高齢化社会・韓国 7 変わりゆく「家族」② - 少子化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」③ - 「多文化家族」の出現 9 民主化運動・市民社会・ジェンダー① 10 民主化運動・市民社会・ジェンダー② 11 文化の移動とジェンダー① 12 文化の移動とジェンダー② 13 韓国女性の移動からジェンダーを問う① 14 韓国女性の移動からジェンダーを問う② 15 まとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を精読してください。		
テキスト、参考文献	主な参考文献：柳蓮淑『韓国人女性の国際移動とジェンダー』（明石書店、2013 年） 他の参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	レポート（テスト）70%、授業での発言 20%、その他 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	現代社会 2 (消費者トラブルと法)	担当者	湯川 益英
講義目的、講義概要		授業計画	
消費者トラブルに関して、最高裁判所や高等裁判所・地方裁判所が下した判決（判例・裁判例）を追体験し、そこに提示されている問題解決の合理性・合法性について議論する。 具体的には、トラブルのもととなった事実から出発して、そのうちのどのような事実が法的に問題となるのか、それが違法と判断されたときには、どのような法的効果が生じるのかを整理し、受講者個々の道徳観・法感覚と対比しつつ分析する。 授業は、受講者と教員、受講者同士の自由な対話による、双方向の形で行う。 上記作業を通じて、消費者法の市民法からの偏差の必然性を学び、「生ける法」としての消費者法のあり方を追求する。		1. ガイダンス 2. 消費者トラブルの解決方法①ー損害賠償，原状回復 3. 消費者トラブルの解決方法②ー無効，取消，解除 4. 消費者トラブルの解決方法③ークーリング・オフなど 5. 事例研究①ー不動産の売買をめぐるトラブル 6. 事例研究②ー動産の売買をめぐるトラブル 7. 事例研究③ー物の貸し借りをめぐるトラブル 8. 事例研究④ーお金の貸し借りをめぐるトラブル 9. 事例研究⑤ー雇用・アルバイトをめぐるトラブル 10. 事例研究⑥ー訪問販売をめぐるトラブル 11. 事例研究⑦ーマルチ商法・ねずみ講をめぐるトラブル 12. 事例研究⑧ー環境をめぐるトラブル 13. 事例研究⑨ー未成年が関与したトラブル 14. 事例研究⑩ーその他の消費者取引トラブル 15. 総括ー消費者法の現状と今後の課題	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各授業の終了時に次回授業のマテリアルスを配布するので、それを分析し、自身の見解をまとめておくこと。右について、簡単な覚書き（メモ）を作成しておくことが望ましい。		
テキスト、参考文献	テキスト：判例『プラクティス民法Ⅱ』（信山社），小型の六法（有斐閣の「ポケット六法」など） 参考文献：授業の展開に沿って、逐次指示する。		
評価方法	試験 5 0 %，小レポート課題ひとつ 3 0 %，発言・質問等，授業への参加姿勢 2 0 %		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 1) 現代社会(IV)(英文会計入門 a)	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
金融の国際化に伴い現代企業は、アメリカの S E C 基準や国際会計基準にもとづき英文で作成された決算報告を公表する。 決算報告は、企業の財政状態を明らかにする貸借対照表と経営成績を明らかにする損益計算書を中心に構成されている。 これら企業経営の基本を把握するために、英文で作成された貸借対照表ならびに損益計算書を理解することは、国際化社会で活躍するうえで不可欠のスキルである。 本講義は、専門用語としての英語、複式簿記の技法、会計の基礎知識を習得することを目標に、毎回、内容の解説、練習問題、質疑の手順で進めていく。		1. Introduction to Accounting, bookkeeping 2. Basic of Accounting and bookkeeping 3. Accounts list 4. Journal entries 5. Transactions and Journal Entries 6. Transactions and Journal Entries 7. Transactions and Journal Entries 8. Transactions and Journal Entries 9. Journals and Ledgers 10. Journal to Ledger 11. Trial Balance 12. Worksheet 13. Balance sheet 14. Income statement 15. Multiple journal system	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	配布した資料にもとづき予習復習をすること。		
テキスト、 参考文献	毎回、資料を配布する。		
評価方法	小テスト（半期 2 回：配点 2 0 点）と最終試験（授業の 1 5 回目に実施：配点 8 0 点）により評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 2) 現代社会(IV)(英文会計入門 b)	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
金融の国際化に伴い現代企業は、アメリカの S E C 基準や国際会計基準にもとづき英文で作成された決算報告を公表する。 決算報告は、企業の財政状態を明らかにする貸借対照表と経営成績を明らかにする損益計算書を中心に構成されている。 これら企業経営の基本を把握するために、英文で作成された貸借対照表ならびに損益計算書を理解することは、国際化社会で活躍するうえで不可欠のスキルである。 本講義は、専門用語としての英語、複式簿記の技法、会計の基礎知識を習得することを目標に、毎回、内容の解説、練習問題、質疑の手順で進めていく。		1. Introduction to Accounting, bookkeeping 2. Adjusting Entries 3. Matching – Expenses and revenues 4. Evaluation of Bad Debts 5. Depreciation 6. Adjusted Trial Balance 7. Cost of Goods Sold 8. Evaluation of Inventory 9. Closing books process and discloser 10. Closing books process and discloser 11. Financial Statements 12. Financial Statements 13. Accounting concepts 14. Accounting concepts 15. Internal control	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	配布した資料にもとづき予習復習をすること。		
テキスト、 参考文献	毎回、資料を配布する。		
評価方法	小テスト（半期 2 回：配点 2 0 点）と最終試験（授業の 1 5 回目に実施：配点 8 0 点）により評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 1) 現代社会(IV)(経理入門 a)	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。		1. イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第 1 章 簿記の意義と役立ち；第 2 章 資産・負債・純資産・収益・費用 4. 第 3 章 取引；第 4 章 勘定科目と勘定記入の法則 5. 第 5 章 仕訳と転記 6. 第 6 章 貸借平均の原理と試算表 7. 第 7 章 精算表（6 桁） 8. 第 8 章 簿記一巡の手続；第 9 章 帳簿 9. 小テスト 10. 第 10 章 現金・預金 11. 第 11 章 商品売買 12. 第 11 章 商品売買 13. 第 12 章 有価証券 14. 第 13 章 売掛金と買掛金 15. 春学期のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	例題ならびに Training の解答をノートに書き取り、毎週予習復習を実行すること		
テキスト、参考文献	渋谷・湯田編著『ベーシック簿記教室』中央経済社 2011 年		
評価方法	小テストと期末試験		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 2) 現代社会(IV)(経理入門 b)	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。		1. 第 14 章 受取手形と支払手形 2. 第 15 章 その他の債権・債務 3. 第 16 章 貸倒れと貸倒引当金 4. 第 17 章 固定資産と減価償却；第 18 章 純資産（資本）； 第 19 章 税金 5. 第 20 章 収益・費用の見越・繰延、消耗品 6. 第 21 章 伝票会計 7. 第 22 章 決算予備手続 8. 小テスト 9. 第 23 章 精算表（8 桁） 10. 第 24 章 決算本手続（帳簿の締め切り） 11. 第 25 章 決算報告手続（財務諸表の作成） 12. 復習① 13. 復習② 14. 復習③ 15. 講義のおわりにひとこと	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	例題ならびに Training の解答をノートに書き取り、毎週予習復習を実行すること		
テキスト、参考文献	渋谷・湯田編著『ベーシック簿記教室』中央経済社 2011 年		
評価方法	小テストと期末試験		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（コンピュータ入門 a） 現代社会(Ⅳ)（コンピュータ入門 a）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでの調査研究において必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なる操作ではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 毎回のレポート提出は、ポータルサイトを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分について は、担当教員によって異なることがある。		1. 講義概要とログイン、ログアウト、利用環境設定 2. OS とシステム概要、コンピュータの構造 3. インターネットの基礎 4. 情報検索の基礎と応用 5. ワードプロセッサの機能 6. レポート作成のための項目と簡単なレポート作成 7. 関数を使った計算基礎（合計、平均、標準偏差、相対参照 と絶対参照） 8. 関数を使った計算応用（IF 関数、AND、OR） 9. 関数の応用（VLOOKUP、IF 関数との組み合わせ） 10. データの再集計（ピボットテーブル） 11. データの並び替えと目的データの抽出、操作の記録 12. 適切なグラフの作成 13. プレゼンテーションソフトの基礎と利用 14. プレゼンテーションのための調査資料作成 15. 効果的な発表方法と評価	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。また、毎回レポートを PorTa に提出すること。		
テキスト、参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 B P 社、2016		
評価方法	レポート・50%（毎回のレポートも含む）、試験・50%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (コンピュータ入門 b) 現代社会(IV) (コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数について学ぶとともに、経済・経営に関連するプログラミングの基本について学ぶとともに、Web 対応の実際にプログラムを作成する。 表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。 またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。 本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。		1. 複利計算とローン返済計画 2. 年金の積み立て 3. 利子率の計算 (ソルバー、What-if 分析) 4. データの特徴を抽出する (移動平均、ヒストグラム、回帰分析) 5. 効率的な作業配分 6. 限られた資源の有効活用 (線形計画法) 7. Web ページの仕組み 8. 簡単な HTML ファイルの作成 9. 画像の表示とリンクの設定 10. JavaScript と単純なプログラム作成 11. JavaScript の繰り返しプログラム作成 12. JavaScript 場合分けプログラム作成 13. JavaScript の時間関数を使う 14. JavaScript の関数を 2 つ以上作成する 15. Web ページの公開とインターネット利用上の注意点	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。また、毎回レポートを PorTa に提出すること。		
テキスト、参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 B P 社、2016		
評価方法	レポート・50%(毎回のレポートを含む)、試験・50%		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会(Ⅳ)（ホームページ作成）	担当者	和泉 順子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学び、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。		1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	課題（ホームページ作成）のため、理解度に応じて適宜 HTML/CSS/JavaScript の、予・復習が必要です。		
テキスト、 参考文献	授業内で適宜紹介します。		
評価方法	平常点、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（ホームページ作成） 現代社会(IV)（ホームページ作成）	担当者	和泉 順子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要な基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学び、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。		1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	課題（ホームページ作成）のため、理解度に応じて適宜 HTML/CSS/JavaScript の、予・復習が必要です。		
テキスト、 参考文献	授業内で適宜紹介します。		
評価方法	平常点、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。ホームページを公開する前に準備することと公開してから保守することに関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法 (HTML) だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題 (サーバ、IP、ドメイン等) にも触れ、自ら情報収集して、(有償・無償も含め) サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTMLファイルを作成するだけでなく、エクセル (表計算ソフト) と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅でPCに触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講に期待する。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. ホームページの仕組みと公開 4. ブログの開設と運用 5. ホームページ公開と運用 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. ホームページの運用と倫理 (ネチケット)	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。		
テキスト、 参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。		
評価方法	レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価		

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(IV) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、ホームページを作成する上で必要な知識と技術の基礎を取得し、情報社会をより深く考察できることを目的としている。ホームページを公開する前に準備することと公開してから保守することに関する知識を理解しながら、ホームページの表現方法 (HTML) だけでなく、その背景で支えているインターネット技術の話題 (サーバ、IP、ドメイン等) にも触れ、自ら情報収集して、(有償・無償も含め) サーバの選択やインターネット上の脅威を理解し、現代社会の諸問題などの議論に発展できる人材育成をめざしたい。この授業は、メモ帳のようなエディタを使って、HTML ファイルを作成するだけでなく、エクセル (表計算ソフト) と併用して作成することやタイピングを速くするための練習をして、頭だけでなく、技能も高めることが総合評価に含まれるので注意して欲しい。従って、毎日、学内で、もしくは、自宅で PC に触れる機会があることが履修に際して望ましい。意欲ある学生の受講に期待する。		1. ホームページの作成 2. ホームページの運用・管理 3. ホームページの仕組みと公開 4. ブログの開設と運用 5. ホームページ公開と運用 6. HTML の基本 7. CSS の基本 8. HTML と CSS の実践 9. Dynamic HTML サンプル 10. Java Script 入門 11. Dynamic HTML 入門 12. 音楽や動画再生の基礎知識 13. マルチメディア・ドキュメントの利用 14. 音楽や動画再生のドキュメントの作成 15. ホームページの運用と倫理 (ネチケット)	
到達目標	現代社会に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21 世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	適宜、参考にする web サイトの紹介や自習用の電子テキストを配布します。		
テキスト、 参考文献	適宜、熟読する web サイトを紹介します。		
評価方法	レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価		

08 年度以降	自然・環境・人間 2(サイエンスライティング a)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティング a」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。		- はじめに - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 1 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 2 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 3 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 4 - まとめ文の講評 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 1 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 2 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 3 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 4 - まとめ文の講評 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 1 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 2 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 3 - まとめ文の講評	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 2(サイエンスライティング b)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティング b」では、春学期「サイエンスライティング a」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際にかくという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。		- はじめに - 科学に関する講義の解説文を書く 1 - 科学に関する講義の解説文を書く 2 - 科学に関する講義の解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学に関するビデオの解説文を書く 1 - 科学に関するビデオの解説文を書く 2 - 科学に関するビデオの解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学に関する本の解説文を書く 1 - 科学に関する本の解説文を書く 2 - 科学に関する本の解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学エッセイを書く 1 - 科学エッセイを書く 2	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(統計と調査法) 自然・環境・人間(IV)(統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をする事ができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は、自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。		1.統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量、間隔変量、順位変量、名義変量 2.アンケートの取りかた、クイズ問題作成説明 3.度数分布、相対度数、度数分布表 4.量的変数のグラフ表現、質的変数のグラフ表現 5.代表値（平均値、中央値、最頻値）、値の広がり、能力テストと到達度テスト 6.正規分布、散布度（標準偏差）、歪度、尖度、標準得点、偏差値 7.クイズ問題解答集計 8.信頼性係数、項目分析、ロジスティック回帰分析 9.記述統計と推測統計、仮説（帰無仮説、対立仮説） 10.相関散布図、相関係数、回帰直線、欠損値の推定、相関検定 11.対応がない場合の t 検定、分散分析 12.対応がある場合の t 検定、プリテスト・ポストテスト、時系列分析 13.クロス集計、カイ二乗検定 14.多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15.多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	参考文献 内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9		
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (基礎生物学実験 a)	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 科学の基本は実験と観察です。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。プレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は<u>実習費</u>（¥2,000）を支払う必要があります。		1. 海と生命 ー海水を調べるー 2. 細胞分裂の観察 ータマネギの根の細胞分裂を観察ー 3. 微生物の観察 ーカビ（麹）の観察ー 4. 微生物の有用性 ー味噌造りにおける微生物の役割ー 5. 光合成色素の観察 ーペーパークロマトグラフィーー 6. 光合成と糖質 ージャガイモからデンプンを精製ー 7. タンパク質の性質 ー豆腐造りから考えるー 8. 脂質の性質（1） ーバター造りから考えるー 9. 脂質の性質（2） ーマヨネーズと脂質ー 10. 動物組織の観察（1） ーメダカの色素胞を観察ー 11. 動物組織の観察（2） ー魚の脳を解剖ー 12. 動物組織の観察（3） ーイカの神経系を観察ー 13. 原生生物の観察 ーゾウリムシの観察ー 14. 発生の観察 ームラサキウニの発生を観察ー 15. プレゼンテーション	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	各回のレポート（60%）、期末試験の結果（30%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (基礎生物学実験 b)	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 科学の基本は実験と観察です。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。プレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は<u>実習費</u>（¥2,000）を支払う必要があります。		1. 動物の再生 ープラナリアの再生ー 2. 微生物の有用性 ー酵母と発酵ー 3. DNA ーブロッコリーから DNA を抽出ー 4. 刺胞動物 ーヒドラの摂食行動を観察ー 5. 光合成と糖質（1） ーもち米とうるち米の違いー 6. 光合成と糖質（2） ーさとうきびから砂糖をつくるー 7. 寄生生物 ー食べたら痛い!? 魚に潜む寄生虫ー 8. 染色体 ーユスリカ唾腺染色体の観察ー 9. 節足動物 ークルマエビの心臓と神経系を観察ー 10. 魚類 ー魚類の標本を作製ー 11. 軟体動物 ーカキの心臓を調べるー 12. タンパク質の性質 ーうどん作りでグルテンを考えるー 13. 発生の観察 ーバフンウニの発生を観察ー 14. プレゼンテーション 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を得得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	各回のレポート（60%）、期末試験の結果（30%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (生物学 I)	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな課題を生じさせています。クローン人間は許されるのか？遺伝子操作は許されるのか？近い将来、我々は様々な判断を迫られるでしょう。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。新聞やニュースで報道される生命科学の問題に関し、自分自身の頭で判断するための基礎知識を身につけます。 【講義の概要】本講義では細胞レベルの生物学を概説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に実験なども組み込みたいと考えています。		1. はじめに ー履修の注意・キャンパス内の生物の観察ー 2. 生命の誕生 ー生命誕生の謎ー 3. 細胞の特徴 ー細胞膜の性質ー 4. 細胞の特徴 ー細胞小器官とはー 5. 細胞の観察 ー顕微鏡による細胞の観察ー 6. 細胞を構成する物質 ー細胞の生存に必要な物質ー 7. 細胞の分裂 ー細胞が増えるしくみー 8. 染色体 ー顕微鏡による染色体の観察ー 9. 遺伝と遺伝子 ー子はなぜ親に似る？ー 10. 核酸 ーDNA と RNAー 11. DNA を見る ーレバーから DNA を抽出ー 12. タンパク質と酵素 ーホタルの発光と酵素の関係ー 13. プレゼンテーション (1) 14. プレゼンテーション (2) 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：レポートを作成し提出してください（2回）。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	期末試験（70%）、レポート（20%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (生物学Ⅱ)	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学を理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】「生物学Ⅰ」の知識を基礎に、組織や器官レベルの生物学を学習します。講義形式の授業ですが、様々な実験なども組み込みたいと考えています。1 回目の授業で履修の注意点を話しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。「生物学Ⅰ」を履修していない方は注意して下さい。		1. はじめに ー履修の注意ー 2. 身近な生物 ーキャンパス内の生物を観察ー 3. 光る生物 ーウミホタルの観察ー 4. 刺激の受容 ー眼の構造と働きー 5. 刺激の受容 ー耳、舌、皮膚の構造と働きー 6. 神経細胞 ー体の中の情報伝達ー 7. 筋収縮 ー体を動かすしくみー 8. 病原体から体を守るしくみ (1) ー体液性免疫ー 9. 病原体から体を守るしくみ (2) ー細胞性免疫ー 10. 寄生生物 ー寄生性の多細胞生物ー 11. 寄生生物 ー寄生性の単細胞生物ー 12. ウイルス ーインフルエンザー 13. プレゼンテーション (1) 14. プレゼンテーション (2) 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：レポートを作成し提出してください（4 回）。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	期末試験（70%）、レポート（20%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (科学の方法と実験 a)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見える～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。なるべく通年で履修してほしい。		1. イントロダクション 科学的とはどういうことか 2. 記述的科学と論証的科学 定性と定量 3. 「はかる」① 科学における「はかる」ことの意義 4. 「はかる」② 単位のいろいろ 5. 「はかる」③ 精密さ・正確さと大雑把 6. 「はかる」④ 誤差 有効数字 7. 「はかる」⑤ 統計的確からしさ 8. 「ちから」① 力のつり合い 9. 「ちから」② 重力と落下運動 10. 「ちから」③ 力と運動の記述 11. 顕微鏡観察① 微小生物の観察 12. 顕微鏡観察② ブラウン運動 13. 顕微鏡観察③ 単レンズ顕微鏡の製作 14. 光合成① 光とデンプンの生産 15. 光合成② デンプンの分解	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指定した参考文献の学習		
テキスト、参考文献	テキストなし プリントを配布する		
評価方法	実験レポート		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (科学の方法と実験 b)	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についたのだろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見える～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。なるべく通年で履修してほしい。		1. 光と色① 光とはなにか：反射と屈折 2. 光と色② スペクトル 物質の色 3. 光と色③ 分光器を作る 4. 静水力学① 浮力（アルキメデスの原理） 5. 静水力学② 密度・比重 鉄船が浮くのはなぜか 6. 静水力学③ サイフォンはなぜ流れるか 浮沈子 7. 原子と分子① 原子の発見 原子構造 8. 原子と分子② 生物分子 9. 物質とエネルギー① エネルギーの発見 10. 物質とエネルギー② エントロピー増大とはなにか 11. 電気と磁気① ボルタ電池を作る 12. 電気と磁気② 回転子を作る 13. 科学と疑似科学① 14. 科学と疑似科学② 15. 科学と疑似科学③	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指定した参考文献の学習		
テキスト、参考文献	テキストなし プリントを配布する		
評価方法	実験レポート		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(体育経営スポーツマネジメント) 自然・環境・人間(IV)(体育経営スポーツマネジメント)	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。 1980 年から 1990 年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待にきてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。		1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.体育とスポーツ教育学 5.我が国における健康教育のマネジメント 6.北米における学生スポーツの発展 7.プロスポーツとアマチュアスポーツ 8.我が国における学生スポーツのマネジメント 9.ディスカッション 10.プロスポーツのマネジメント 11.メンタル・マネジメント 12.高度競技スポーツにおけるマネジメント 13.スポーツ・マーケティング 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度・貢献度 50% レポート 30% 小テスト 10% 授業での発言 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (コンピュータ構造論) 自然・環境・人間(IV)(コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。(5) コンピュータの最新技術を紹介します。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。		1. 授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム (DBMS) 4. SQL 言語とデータベース演習 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組み 7. インターネットサービス 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータのハードウェア構造 10. マン・マシンインタフェース 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 人工知能とは 14. 総合演習 15. 授業のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指示内容を事前に予習し、毎回出される課題を指示期日に提出してください。		
テキスト、参考文献	最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(情報検索と加工) 自然・環境・人間(IV)(情報検索と加工)	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と実習形式で解説する。 講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本 (1)：パソコンの世界 3. 情報検索の基本 (2)：情報の表現 4. 情報検索の基本 (3)：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理 (1) 9. 情報の整理 (2) 10. 情報の抽出 (1) 11. 情報の抽出 (2) 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください。 また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：必要に応じて資料を配布する 参考文献：原田、江草、小山、澤井共著『情報検索演習』 新・図書館学シリーズ 6, 2007 (樹村房)		
評価方法	授業の参加態度 (20%)、レポート (20%) 及び筆記試験 (60%) により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 2（データ構造とアルゴリズム論）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが、実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである。情報爆発といわれる現代社会において、いかにデータを構造化し、必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である。本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする。 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。講義内容は、文系の学生でも理解できるように、ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 講義の概要、基礎知識、目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート 1 9. ソート 2 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください。 また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。 参考サイト： http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html		
評価方法	授業の参加態度（20％）、レポート（20％）及び筆記試験（60％）により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（マルチメディア論） 自然・環境・人間（IV）（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
マルチメディアというのは、文字だけに限らず画像（写真を含む）や音声もまとめて扱うことを意味しているが、ここでは画像（特に動画）に的を絞る。動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになっているが、それはブログなどでただ単に指定通りに張り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理はパラパラ漫画にも見受けられるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。		1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの政策、保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	特別な準備は必要としないが、静止画については Windows に付録でついているペイントなどで基本を押さえておくことが望ましい。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	制作した作品で評価する。参加度を重視し、欠席回数が多いと不可とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 2（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村 健治
講義目的、講義概要		授業計画	
地球環境は人間活動により大きく変化していると同時に人間社会は自然環境に大きく影響を受けています。この自然環境について講義します。 春期の「環境学」は地球規模の環境問題を主としていますが、秋学期は日本を中心として講義をします。世界の環境問題の一つは水問題ですが、日本は水に恵まれていると言われています。この水についてその量や水質について講義します。また日本が雨の多いモンスーンアジアの中にあることを理解してもらいます。その後、日本各地の気候について述べます。また、量的な感覚を持ってもらうことも目的としています。このため、講義内容に関わる話題について概算の計算練習も入れます。 なお、春学期の講義の履修は前提ではありません。		1. 講義概要 2. 日本の水問題 3. 川と環境 4. 水の管理 5. 水と人の意識 6. 水の浄化 7. アジアモンスーンと日本 8. コメ 9. 世界の気候環境（1） 10. 世界の気候環境（2） 11. 日本の気候（1） 12. 日本の気候（2） 13. 自然災害と防災 14. 衛星リモートセンシング 15. 復習	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	今回のレジュメを配布するので学習してください。講義資料をポータルに載せるので復習してください。		
テキスト、参考文献	なし。		
評価方法	3 回程度行う小テスト（30％）と試験（70％）で評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(スポーツコーチ学 a) 自然・環境・人間(IV)(スポーツコーチ学 a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際にスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆教室以外に、35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので、室内および屋外スポーツ用シューズと運動にふさわしい服装を用意すること。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 運動強度測定（屋内スポーツ） 3. 運動強度測定（屋外スポーツ） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践（グループワーク） 9. 動作分析の解析（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 成果発表① 13. 成果発表② 14. 成果発表③ 15. 春学期のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (スポーツコーチ学 b) 自然・環境・人間(IV)(スポーツコーチ学 b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 [概要] アリーナで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。		1. ガイダンス 2. スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3. バスケットボール① 4. バスケットボール② 5. バレーボール① 6. バレーボール② 7. バドミントン① 8. バドミントン② 9. 卓球① 10. 卓球② 11. フットサル① 12. フットサル② 13. リクエストスポーツ① 14. リクエストスポーツ② 15. テスト	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (からだの仕組み)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 普段、何気なく生活している中では気づかないが、我々のからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が伝えられているが、まずはもっとも身近な私たち自身の体の中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析しまとめることで理解を深める（レポート作成）。		1. ガイダンス、自己紹介 2. 体温調節の基礎－冷え症・低体温、熱中症－ 3. 体温調節実験－寒冷血管拡張反応－ 4. 体温調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 5. 血圧調節の基礎－身近な健康のバロメーター－ 6. 血圧調節実験－様々な姿勢、運動－ 7. 血圧調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 8. 運動調節の基礎－スムーズに動くには－ 9. 運動調節実験－リズム順応－ 10. 運動調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 11. 学習・記憶の基礎－効率よく勉強するには－ 12. 学習効率実験－「ながら」暗記課題－ 13. 学習・記憶－まとめ（グループでデータの解析・討論） 14. 成果発表 15. 総合討論	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各テーマの実験課題を考えてくること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し提出すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）、レポート（40%）、発表（準備を含む：20%）。		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (生理学 I)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。我々のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説する。ここでは呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について、できるだけ身近な題材と組み合わせでわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎ーホメオスタシスって？ー 3. 血液・体液ーからだの中に海？ー 4. 呼吸・循環ー息して生きてる・高血圧低血圧ー 5. 消化・吸収ー食べ物の行方ー 6. 代謝・体温ーからだを温めると健康によい？ー 7. 内分泌ーホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経ー「運動神経」がないひとはいない！ー 9. 感覚ー第6感？ー 10. 筋・骨ーからだの屋台骨ー 11. 「からだ」の情報交換会①（グループ発表） 12. 「からだ」の情報交換会②（グループ発表） 13. 「からだ」の情報交換会③（グループ発表） 14. 「からだ」の情報交換会④（グループ発表） 15. 春学期のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内小テスト（20%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に評価する		

08 年度以降	自然・環境・人間 2 (生理学Ⅱ)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義ではヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期の生理学Ⅱでは私たちのからだの中核である脳機能に焦点を当てて講義する。また、睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定である。できるだけ身近な題材と組み合わせでわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 4. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 6. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 7. 摂食調節ーなぜ食べる？ー 8. 脳・脊髄による運動制御 9. 脳と睡眠ーなぜ眠る？ー 10. 学習と記憶 11. 「脳機能」の情報交換会① 12. 「脳機能」の情報交換会② 13. 「脳機能」の情報交換会③ 14. 「脳機能」の情報交換会④ 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内小テスト（20%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に評価する		

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(リーダーシップ論) 自然・環境・人間(IV)(リーダーシップ論)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって 1 位を決定し、1 位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。		1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレイキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動 1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動 2 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ	
到達目標	自然、環境、人間に関する学問分野について、副題に示したテーマをもとに、21世紀型市民としてふさわしい実践的な知識を習得し、今後の複雑な国内および国際情勢に対処していく方法について、論理的かつ創造的思考を持って対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、小レポート・期末レポート（20%）、企画コンテストを評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。そのうえで受講生には初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 このように、受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。		1. オリエンテーションと教材・教具の概観 2. 言語コミュニケーションと日本語教育 3. 初級教材の作成：教科書の分析 4. 初級教材の作成：会話教材作成 5. 初級教材の作成：漢字教材作成 6. 初級教材の作成：日本事情教材の作成 7. 初級教材作成過程と授業案の発表 8. 初級授業における教材の可能性 9. 中上級教材の作成：教科書の分析 10. 中上級教材の作成：会話教材の作成 11. 中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12. 中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13. 中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14. 中上級教材作成過程と授業案の発表 15. まとめ	
到達目標			
事前・事後学修の内容	教材作成の課題に取り組む際には、日本語教育で使用される教材や教具や、教材に内で扱われる文法項目などの基本的な知識について、事前によく調べた上でクラスに参加すること。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない 参考文献：関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク		
評価方法	クラスでの課題（30%）、クラスへの参加度（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(春)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート a)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標]インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全能力とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目標にします。 [講義概要]実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 足首上までのソックスを必ず着用すること。		第1回：オリエンテーションと用具あわせ (更衣不要ですがソックスを準備して下さい) 立ち方・歩き方・とまり方 第2回：前進ひょうたん型 第3回：後進ひょうたん型 第4回：前進ツイスト 第5回：後進ツイスト 第6回：カーブと体のコントロール 第7回：片足で長く滑る 第8回：インラインホッケーの基本 第9回：インラインホッケーを楽しもう 第10回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第11回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第12回：「後ろ向きになれよう」バックストローク のバリエーション 第13回：「方向転換」カーブの練習 第14回：「方向転換」スリーターン 第15回：総合滑走	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(インラインスケート b)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 [講義概要] インラインスケートの技術の応用技術であるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーを積極的に行います。学生の技術達成度によって、授業計画は変えていきます。		第1回：インラインホッケーの楽しみ方 第2回：パイロンテクニックその1 大きな動き 第3回：パイロンテクニックその2 小さな動き 第4回：ターン スリーターン 第5回：ターン モホークターン 第6回：基本的なストップ 第7回：ストップのバリエーション 第8回：ジャンプ 第9回：フォワードクロッシング 足運びの練習 第10回：フォワードクロッシング 第11回：バックワードクロッシングの初歩 第12回：インラインホッケーリーグ戦 第1回 第13回：インラインホッケーリーグ戦 第2回 第14回：インラインホッケーリーグ戦 第3回 第15回：インラインホッケーリーグ戦 第4回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション(インラインホッケーb)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] インラインホッケーのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネジメント能力の向上を図る。 [概要] 色々なメンバーの組み合わせにより簡易ゲームを行う。 男子20名、女子20名を定員とする		1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. 個人スキル練習 4. 簡易ゲーム練習① 5. 簡易ゲーム練習② 6. 個人スキル練習 7. ゲーム（リーグ戦①） 8. ゲーム（リーグ戦②） 9. 個人スキル練習 10. 2チームでゲーム練習① 11. 2チームでゲーム練習② 12. 個人スキル練習 13. スキル別ゲーム① 14. スキル別ゲーム② 15. テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度設定は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する		1. ガイダンス 2. 自分の「からだ」をチェックしよう 3. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 4. からだをほぐしてリラックス（ストレッチボール） 5. ストレッチングのススメ 6. バランスボールを使ったエクササイズ① 7. バランスボールを使ったエクササイズ② 8. 自分の体重を使って筋力アップ 9. きれいな姿勢のためのエクササイズ 10. 有酸素運動を理解しよう 11. ヨガとは 12. ヨガの基本ポーズ① 13. ヨガの基本ポーズ② 14. ヨガの基本ポーズ③ 15. 春学期のまとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するよう努めること		
テキスト、参考文献	特になし(必要に応じてプリント等を配布する)		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 b)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことである。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的とする。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践する。運動の強度設定は軽～中程度とし、運動やスポーツが苦手でも十分取り組める内容で構成している。主にトレーニングルームで行う。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意し、運動にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。 ☆トレーニングルーム以外で実施する場合は事前に連絡する		1. 夏休みの生活を振り返る 2. 自分の「からだ」をチェックしよう 3. ステップエクササイズ（基本編） 4. ステップエクササイズ（応用編①） 5. ステップエクササイズ（応用編②） 6. バランスボールを使ったエクササイズ① 7. バランスボールを使ったエクササイズ② 8. ヨガの基本ポーズ① 9. ヨガの基本ポーズ② 10. ヨガでリラックス 11. ヨガで元気に 12. 正しいウォーキング 13. 草加松原を散策 14. からだをあたためよう 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日々の自身の体調をチェックし、授業内で学んだ健康管理の方法を実践するよう努めること		
テキスト、参考文献	特になし(必要に応じてプリント等を配布する)		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)_火 2、火 3	担当者	重藤 誠市郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 授業終盤には技術の習熟度を測る実技テストを行う。		1.ガイダンス 2.写真付受講票の作成とアイスブレイク 3.フォアハンドストロークの基本 4.フォアハンドストローク（ドライブ、スライス） 5.バックハンドストロークの基本 6.バックハンドストローク（ドライブ、スライス） 7.サービス&レシーブ 8.ボレー&スマッシュ 9.サーブ&ボレー 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5分ローテ） 11.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5分ローテ） 12.ダブルスゲーム（3ゲームマッチ） 13.ダブルスゲーム（5ゲームマッチ） 14.実技テスト ダブルスゲーム（1セットマッチ） 15.実技テスト（予備日）ダブルスゲーム（1セットマッチ）	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。 マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)_火 2、火 3	担当者	重藤 誠市郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【講義概要】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、シングルス、ダブルスのゲームを数多く行う。 試合を円滑に進めるための、ルールやマナーの理解を深める。 授業終盤に技術の習熟度を測る実技テストを行う。		1.ガイダンス及び実技 2.写真付受講票の作成とアイスブレイク 3.回り込みフォアハンド 4.アングルショット 5.ポーチ、ローボレー 6.スピンサービス、フラットサービス 7.シングルス（リーグ戦①） 8.シングルス（リーグ戦②） 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（3 ゲームマッチ） 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 ゲームマッチ） 11.ダブルス（リーグ戦①） 12.ダブルス（リーグ戦②） 13.ダブルス（リーグ戦③） 14.実技テスト ダブルス（トーナメント①） 15.実技テスト（予備日）ダブルス（トーナメント②）	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	健康的な生活に心がけ、体調を整えて授業に備える。 マッサージやストレッチによる体のケアを行い、疲れを残さないようにする。		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	平常点 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. サービス、ストローク、ボレー等の練習。 4. ルールの確認。 5. " 6. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7. " 8. " 9. " 10. 技術練習。 11. " 12. " 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15. "	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	授業への取り組む姿勢50%、レポートの内容30%、技能の向上20%で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. サービス、ストローク、ボレー等の練習。 4. ルールの確認。 5. " 6. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト 7. " 8. " 9. " 10. 技術練習。 11. " 12. " 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15. "	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	授業への取り組む姿勢50％、レポートの内容30％、技能の向上20％で評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1の目的とする。 次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上とを図ることを第2の目的とする。 [概要] 基本的には、初心者から中級レベルが4面にわかれて練習を行う。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なグループにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。		1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. フォアハンドストローク 4. バックハンドストローク 5. ボレー&スマッシュ 6. サービス&レシーブ 7. サービス&レシーブ&クロスラリー 8. ダブルスゲーム① 9. ダブルスゲーム② 10. ダブルスゲーム③ 11. ダブルスゲーム④ 12. ダブルスゲーム⑤ 13. ダブルスゲーム⑥ 14. ダブルスゲーム⑦ 15. テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 [概要] 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 色々な組み合わせによりゲームを行う。		1. 実技とガイダンス 2. 写真付受講票作成とスキルテスト 3. シングルスゲーム① 4. シングルスゲーム② 5. ダブルスゲーム① 6. ダブルスゲーム② 7. ダブルスゲーム③ 8. ダブルスゲーム④ 9. ダブルスゲーム⑤ 10. ダブルスゲーム⑥ 11. ダブルスゲーム⑦ 12. ダブルスゲーム⑧ 13. ダブルスゲーム⑨ 14. ダブルスゲーム⑩ 15. テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)_金 1、金 2	担当者	小笠原 慶太
講義目的、講義概要		授業計画	
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。春学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。		1. オリエンテーション 2. 学内にてスウィング作り 3. 学内にてスウィング作り 4. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 5. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 6. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 7. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 8. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 9. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 10. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 11. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 12. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 13. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 14. ゴルフ練習場にて実技テスト 15. 学内にてルール学習	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画を見るなど、イメージトレーニングをして下さい。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	実技テスト 40%、技能の向上度 40%、授業態度及び貢献度 20%で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)_金 1、金 2	担当者	小笠原 慶太
講義目的、講義概要		授業計画	
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 民間のゴルフ練習場を使用するため、お金が掛かります。秋学期は、登録時にあらかじめ10,000円（入場料、ボール代）を徴収させていただきます。また危険防止の為、練習中のグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。		1. 学内にてスウィング作り 2. 学内にてスウィング作り 3. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 4. ゴルフ練習場にて実習（アプローチショット） 5. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 6. ゴルフ練習場にて実習（アプローチショット） 7. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイウッド） 8. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 9. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 10. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 11. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 12. ゴルフ練習場にて実技テスト 13. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 14. 学内にて実習（ショートアイアンのミニゲーム） 15. 学内にてルール学習	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ゴルフの動画を見るなど、イメージトレーニングをして下さい。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	実技テスト 40%、技能の向上度 40%、授業態度及び貢献度 20%で評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング a)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は男子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。		1. 授業ガイダンス 2. 写真付登録票の作成 3. 現在のコンディションの評価 4. 二人組骨盤調整と姿勢①&個別トレーニング 5. 二人組骨盤調整と姿勢②&個別トレーニング 6. 二人組骨盤調整と姿勢③&個別トレーニング 7. 二人組操体法①&個別トレーニング 8. 二人組操体法②&個別トレーニング 9. 二人組操体法③&個別トレーニング 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 骨格の位置と動き① 14. 骨格の位置と動き② 15. 自己のコンディションの評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング b)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 良いパフォーマンスを得る為の準備として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち理解すること、身体の良いコンディションを理解し整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。 [概要] 良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、受講は女子学生のみとする。 毎回、授業前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。授業後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し自己評価する。		1. 授業ガイダンス 2. 写真付登録票の作成 3. 現在のコンディションの評価 4. 二人組骨盤調整と姿勢①&個別トレーニング 5. 二人組骨盤調整と姿勢②&個別トレーニング 6. 二人組骨盤調整と姿勢③&個別トレーニング 7. 二人組操体法①&個別トレーニング 8. 二人組操体法②&個別トレーニング 9. 二人組操体法③&個別トレーニング 10. 身体の動きとコンディション① 11. 身体の動きとコンディション② 12. 身体の動きとコンディション③ 13. 骨格の位置と動き① 14. 骨格の位置と動き② 15. 自己のコンディションの評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング a)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
コンディショントレーニングをするにあたって ・トレーニングとその効果について ・筋肉に大切な栄養素は？ ・男性と女性の筋肉の違いについて ・減量のために必要なトレーニングや栄養は？ など様々な疑問を考え、検討していきます。 そして、 ・自分の体力の現状やコンディションを把握する ・トレーニング機器の正しい使用法を理解し、安全なトレーニングを行うことのできる能力を身につける ・正しいトレーニング法を理解し、より効果的なトレーニングを行うことのできる能力を養うことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。		1. ガイダンス 2. トレーニングの基礎知識 3. トレーニング機器の使い方 4. ストレッチ、自重トレーニングの実際 5. トレーニング① 6. トレーニング② 7. トレーニング③ 8. トレーニング④ 9. トレーニング⑤ 10. 体の動きとコンディション① 11. 体の動きとコンディション② 12. 体の動きとコンディション③ 13. 体の動きとコンディション④ 14. 体の動きとコンディション⑤ 15. まとめと評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしていくこと		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%） 協調性（20%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(コンディショントレーニング b)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
コンディショントレーニングをするにあたって ・トレーニングとその効果について ・筋肉に大切な栄養素は？ ・男性と女性の筋肉の違いについて ・減量のために必要なトレーニングや栄養は？ など様々な疑問を考え、検討していきます。 そして、 ・自分の体力の現状やコンディションを把握する ・トレーニング機器の正しい使用法を理解し、安全なトレーニングを行うことのできる能力を身につける ・正しいトレーニング法を理解し、より効果的なトレーニングを行うことのできる能力を養うことを目的とします。 受講は女子学生のみとします。		1. ガイダンス 2. トレーニングの基礎知識 3. トレーニング機器の使い方 4. ストレッチ、自重トレーニングの実際 5. トレーニング① 6. トレーニング② 7. トレーニング③ 8. トレーニング④ 9. トレーニング⑤ 10. 体の動きとコンディション① 11. 体の動きとコンディション② 12. 体の動きとコンディション③ 13. 体の動きとコンディション④ 14. 体の動きとコンディション⑤ 15. まとめと評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしていくこと		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60％） 積極性、実践力（20％） 協調性（20％）		

(春)	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】 1. 好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2. サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。天候等によりグラウンドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。		1. ガイダンス 2. 「楽しくプレーする」を考える① 3. 「楽しくプレーする」を考える② 4. 「シンプルにプレーする」を考える① 5. 「シンプルにプレーする」を考える② 6. 「プレーへの関わり」を増やす① 7. 「プレーへの関わり」を増やす② 8. 攻撃に人数をかける① 9. 攻撃に人数をかける② 10. 動きながらボールを受ける① 11. 動きながらボールを受ける② 12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える① 13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える② 14. 一人で守備はできない① 15. 一人で守備はできない②	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイトルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。ポゼッションサッカー、カウンターサッカー、連動する、前から守備をするなどです。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	トレーニングや試合へ積極的に取り組む姿勢を重要視します。また、他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】 1. 好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっかけにする。 2. サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。天候等によりグラウンドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。		1. ガイダンス 2. 「楽しくプレーする」を考える① 3. 「楽しくプレーする」を考える② 4. 「シンプルにプレーする」を考える① 5. 「シンプルにプレーする」を考える② 6. 「プレーへの関わり」を増やす① 7. 「プレーへの関わり」を増やす② 8. 攻撃に人数をかける① 9. 攻撃に人数をかける② 10. 動きながらボールを受ける① 11. 動きながらボールを受ける② 12. 1 つ 2 つ先のプレーを考える① 13. 1 つ 2 つ先のプレーを考える② 14. 一人で守備はできない① 15. 一人で守備はできない②	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サッカーのプレータイトルや専門用語を事前に理解しておくことが望ましい。ポゼッションサッカー、カウンターサッカー、連動する、前から守備をするなどです。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	トレーニングや試合積極的に取り組む姿勢を重要視します。また、他者への思いやりのある姿勢・プレーを求めます。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 〔受講生への要望〕 サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。		1. ガイダンス 2. 観る（何を）トレーニング① 3. 観る（いつ）トレーニング② 4. ボールを運ぶ技術①（ボールフィーリング、ドリブル） 5. ボールを運ぶ技術②（スクリーン、ターン） 6. ボールを飛ばす技術①（パス、シュート） 7. ボールを飛ばす技術②（ドリブル or パス or シュート） 8. ボールを受ける技術①（コントロール） 9. ボールを受ける技術②（どこで受けるか） 10. ボールを奪う技術①（on the ball の守備） 11. ボールを奪う技術②（off the ball の守備） 12. オーガナイズを考える①（どうすれば全員楽しめる） 13. オーガナイズを考える②（リーグ戦を運営しよう） 14. リーグ戦第1節、第2節 15. リーグ戦第3節、第4節	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しくサッカーに関われるための知識や技能の習得。 2. サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 〔受講生への要望〕 サッカーをより楽しみたいという学生の受講を願います。		1. ガイダンス 2. 基本技術の復習① 3. 基本技術の復習② 4. 攻撃のグループ戦術① 5. 攻撃のグループ戦術② 6. 守備のグループ戦術① 7. 守備のグループ戦術② 8. 攻撃しながら守備を考える 9. 守備しながら攻撃を考える 10. リーグ戦① 11. リーグ戦② 12. リーグ戦③ 13. リーグ戦④ 14. リーグ戦⑤ 15. 決勝トーナメント	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックス a)_ 金 1、金 2	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、エクササイズを行うことにより身体の調整を行い、代謝機能を高めるとともに老廃物をスムーズに排泄できる身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。また、この授業内で行うエクササイズは、いずれも自分自身の心身と向きあったり、楽しんで行うことが目的としています。 ○ ポール＆骨盤調整：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと身体を調整します。また、骨盤をゆるめ→整える運動を行うことで、身体の歪みの調整や体幹のコンディショニングを行います。 ○ ベーシックヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と身体を調和させるとともに、心身のリフレッシュを行います。 【準備するもの】 運動のできるウェア、タオル、水またはお茶		1. オリエンテーション 年間授業計画の説明 実施上の諸注意 2. ポール＆骨盤調整① 3. ポール＆骨盤調整② 4. ポール＆骨盤調整③ 5. ポール＆骨盤調整④ 6. ポール＆骨盤調整⑤ 7. ポール＆骨盤調整⑥ 8. ポール＆骨盤調整⑦ 9. ベーシックヨーガ① 10. ベーシックヨーガ② 11. ベーシックヨーガ③ 12. ベーシックヨーガ④ 13. ベーシックヨーガ⑤ 14. ベーシックヨーガ⑥ 15. ベーシックヨーガ⑦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業開始前に軽くストレッチをしておくことをお勧めします。また、授業で行ったエクササイズを自宅でも実践してみましょう。		
テキスト、参考文献	なし		
評価方法	平常点（90%）、授業への参加度（10%）により評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックス b)_ 金 1、金 2	担当者	齋藤 初恵
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、各種のエクササイズを通して身体の調整を行い、代謝機能を高めるとともに、デトックスしやすい身体づくりを目指します。また、この授業を通して自分に合ったエクササイズを見つけ、自身の生活の中に取り入れていくことを目標とします。 ○ ポール＆骨盤調整：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと身体を調整し体幹のコンディショニングを行います。また骨盤を整える運動により、身体の歪みの調整やデトックスしやすい身体づくりを目指します。 ○ パワーヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心身の調和とともに身体のデトックス機能向上を目指します。また、ポーズを連続的に行うことにより、有酸素運動効果をも取り入れます。 【準備するもの】 運動のできるウェア、タオル、水またはお茶		1. スポーツ型デトックスについて 実施上の諸注意 2. ポール＆骨盤調整① 3. ポール＆骨盤調整② 4. ポール＆骨盤調整③ 5. ポール＆骨盤調整④ 6. ポール＆骨盤調整⑤ 7. ポール＆骨盤調整⑥ 8. ポール＆骨盤調整⑦ 9. パワーヨーガ① 10. パワーヨーガ② 11. パワーヨーガ③ 12. パワーヨーガ④ 13. パワーヨーガ⑤ 14. パワーヨーガ⑥ 15. パワーヨーガ⑦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業開始前に軽くストレッチをしておくことをお勧めします。また、授業で行ったエクササイズを自宅でも実践してみましょう。		
テキスト、参考文献	なし		
評価方法	平常点（90%）、授業への参加度（10%）により評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。		1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。 ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	（事前）ルール、送球、捕球、バッティングなど基本的なことに目を通しておく。 （事後）予習しておいたことと、授業での実践が的確に行われたか確認する。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席3回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールb)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。		1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。 ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング） リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	（事前）ルール、送球、捕球、バッティングなど基本的なことに目を通しておく。 （事後）予習しておいたことと、授業での実践が的確に行われたか確認する。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	授業態度、取り組み、技術の向上などを総合して評価する。欠席3回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 [概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。		1. オリエンテーション 2. 実技授業の開始（用具の準備と片付け方法） 3. ボールの打ち方・スイングの基本 4. サーブ・レシーブの練習（簡易ゲーム） 5. フォアハンド・バックハンドの練習（簡易のゲーム） 6. 上記の復習 7. カット・スマッシュの練習（シングルスゲーム） 8. グループ内でのシングルスリーグ戦 9. 同上 10. 同上 11. 各グループでのダブルスリーグ戦 12. 同上 13. シングルス・ダブルスによる団体戦 14. 同上 15. 技能テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調管理をして、卓球のルールを理解するようにする。又、毎回の実技内容とノートにまとめておくようにする。		
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点を中心に評価し、授業に臨む態度、実技の達成度等を加味する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(春)	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組む、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. 用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類、持ち方、基本姿勢） 3. ボールの打ち方、スイングの基本 4. フォアハンド、バックハンドの練習 5. サービス、レシーブの練習 簡易ゲーム 6. これまでの復習 7. カット、スマッシュ 8. 審判法とゲームの進め方 シングルスゲーム 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームの進め方 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. まとめ①（シングルスゲーム） 15. まとめ②（ダブルスゲーム）	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組む、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。		1. 復習 基本練習 2. 復習 基本練習 3. シングルスゲーム 4. シングルスゲーム・リーグ戦 5. シングルスゲーム・リーグ戦 6. ダブルスゲーム 7. ダブルスゲーム・リーグ戦 8. ダブルスゲーム・リーグ戦 9. シングルス・トーナメント戦 10. ダブルス・トーナメント戦 11. ミックスダブルス 12. ミックスダブルス・リーグ戦 13. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム） 14. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム・ミックスダブルス） 15. 総まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：卓球に関するルールや映像を見て、学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後も卓球に触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。		1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. 試しのゲーム（ルールの習得） 5. シングルスゲーム 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしていくこと		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%） 協調性（20%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、卓球という種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。		1. ガイダンス 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. 試しのゲーム（ルールの習得） 5. シングルスゲーム 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしていくこと		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60％） 積極性、実践力（20％）協調性（20％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 卓球の基本技術を身につけ、ゲームを楽しむことを目標とする。生涯を通して健康を維持し、充実した生活を送る上で自分にあった続けられるスポーツを見つける手がかりとしてもらいたい。 〔講義概要〕 卓球の基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意すること。卓球にふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うこと。		1. ガイダンス 2. 卓球の基本技術（ボールの打ち方、スイングの確認） 3. 卓球の基本技術（サーブ） 4. ゲームの進め方（シングルス） 5. シングルスゲーム① 6. シングルスゲーム② 7. ゲームの進め方（ダブルス） 8. ダブルスゲーム① 9. ダブルスゲーム② 10. チーム対抗戦① 11. チーム対抗戦② 12. チーム対抗戦③ 13. チーム対抗戦④ 14. チーム対抗戦⑤ 15. チーム対抗戦⑥	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	卓球の歴史やルールを調べ、理解を深めること		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕 トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔概要〕 授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為にトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。		1. オリエンテーション 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングプログラムの作成 4. ウォーミングアップの目的と方法 5. 有酸素トレーニングの目的と方法 6. ウェイトトレーニング（上半身） 7. ウェイトトレーニング（下半身） 8. 道具を使わない筋力トレーニング 9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動） 10. 同上 11. 同上 12. サークットトレーニングの実際 13. 同上 14. 競技力向上を目的としたトレーニング 15. フィットネスチェック②	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。		
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕 トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてのトレーニングなどがある。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 〔概要〕 トレーニング入門 a と同じ内容で実施する。授業毎にヘルスチェックと十分な W-up を実施し実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、腰痛及び頸肩腕症候群の予防・改善の為にトレーニング（背そらし、背のばしの運動）、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。		1. オリエンテーション 2. フィットネスチェック① 3. トレーニングプログラムの作成 4. ウォーミングアップの目的と方法 5. 有酸素トレーニングの目的と方法 6. ウェイトトレーニング（上半身） 7. ウェイトトレーニング（下半身） 8. 道具を使わない筋力トレーニング 9. 体幹筋のトレーニング（背そらし、背のばしの運動） 10. 同上 11. 同上 12. サークットトレーニングの実際 13. 同上 14. 競技力向上を目的としたトレーニング 15. フィットネスチェック②	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調と健康管理をしてベストコンディションで授業に望み、毎回の実施内容と課題をまとめておくようにする。		
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点、授業への参加度・貢献度を担当者の観察によって総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。		1. ガイダンス 2. トレーニング前計測・講義① 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. トレーニング後計測とまとめ (ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。)	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。		
テキスト、参考文献	特になし。講義のときには資料を配布します。		
評価方法	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森 一伸
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 【講義の概要】筋力トレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康づくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 【学生への要望】トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウェアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。		1. ガイダンス 2. トレーニング前計測・講義① 3. トレーニング① 4. トレーニング② 5. トレーニング③ 6. トレーニング④ 7. トレーニング⑤ 8. トレーニング⑥・講義② 9. トレーニング⑦ 10. トレーニング⑧ 11. トレーニング⑨ 12. トレーニング⑩ 13. トレーニング⑪ 14. トレーニング⑫ 15. トレーニング後計測とまとめ (ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。)	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	「肥満と疾病」、「運動習慣と健康づくり」などに関連する書籍を読んでおくと、トレーニングに対する意欲が高まります。		
テキスト、参考文献	特になし。講義のときには資料を配布します。		
評価方法	トレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。総授業回数の 1/3 以上欠席すると単位の取得はできません。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
トレーニングの目的は多岐にわたる。例えば、健康維持・増進のため、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上のため、さらにはリハビリテーションとしてトレーニングは目的化される。この授業では、各個人の目標（目的）を達成するためのトレーニング理論と実践を学習する。 授業最初に理論的な説明を行ってから、実技を中心に展開する。具体的にはウォーミングアップの理論から始まり、ストレングストレーニング、スタビライゼーショントレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティートレーニング、サーキットトレーニング、そして有酸素トレーニング等に関する理論を紹介する。さらには、自らがトレーニングプログラムを作成し、生涯にわたって健康的な生活を営むことができる知識の獲得を狙う。		1.オリエンテーション (トレーニングルーム利用者初級講習会) 2.フィットネスチェック① 3 トレーニングプログラムの作成 4.ウォーミングアップの目的と方法 5.有酸素トレーニングの目的と方法 6.ウェイトトレーニング（上半身） 7.ウェイトトレーニング（下半身） 8.道具を使わない筋力トレーニング 9.スタビライゼーショントレーニングの実際 10.コーディネーショントレーニングの実際 11.アジリティートレーニングの実際 12.サーキットトレーニングの実際 13.プライオメトリックトレーニングの実際 14.競技力向上を目的としたトレーニング 15.フィットネスチェック②	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 トレーニング後の体には休養と栄養が必要である。積極的な休養と栄養摂取を心がけること。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、トレーニング記録作成 20%、小テスト 20%		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ a)	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄は問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。		1. イン트로ダクション (各種スポーツの紹介・説明) 2. Flying Disc (フリスビー) を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目 アキュラシー (的通し競技)ほか 4. 〃 集団ゲーム アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ 技術練習 7. 〃 ラウンド 1 8. 〃 ラウンド 2 9. ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール 15. まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術的特徴の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ b)	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄は問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。		1. イン트로ダクション (各種スポーツの紹介・説明) 2. Flying Disc (フリスビー) を使った競技、投法練習 3. 〃 個人種目 アキュラシー (的通し競技)ほか 4. 〃 集団ゲーム アルティメット 5. 〃 ディスクゴルフ ラウンド 6. ターゲットバードゴルフ 技術練習 7. 〃 ラウンド 1 8. 〃 ラウンド 2 9. ペタンク 10. インディアカ 11. フリーテニス 12. ユニバーサルホッケー 13. ソフトバレーボール 14. キンボール 15. まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目の特殊性・技術的特徴の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルール of の把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)_月 1、月 2	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。 バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。		1.オリエンテーション 2.ゲームの特性・ルールの理解 3.オフェンス・ファンダメンタル①（ボールハンドリング） 4.オフェンス・ファンダメンタル②（シュート） 5.オフェンス・ファンダメンタル③（ドリブル） 6.オフェンス・ファンダメンタル④（パス） 7.チーム・オフェンス①（パス及びドリブルからの展開） 8.チーム・オフェンス②（ハーフコート 2 ON 2、3 ON 3 ブレイクダウン） 9.チーム・オフェンス③（ファストブレイク） 10.ディフェンス・ファンダメンタル①（オンボールディフェンス） 11.ディフェンス・ファンダメンタル②（オフボールディフェンス） 12.チーム・ディフェンス①（シェル・ディフェンス） 13.リーグ編成とイベントマネジメント 14.リーグ戦 15.リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に、次回授業の目標を立てる。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、ルール・テスト 20%		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボールb)_月 1、月 2	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つであり、プロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点である“遊び”を踏まえながら、チームスポーツとしての競技特性を体系的に理解し、バスケットボールの楽しさを知る。 授業は初級者以上の経験者を対象に展開する。毎回の授業において、基礎技術の確認を行い、高度な戦略・戦術の習得を目指す。授業はゲームを中心に行うが、コンピューターソフトを用いた情報戦略にも挑戦していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。		1.オリエンテーション 2.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認① 3.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認② 4.パッシング・ゲーム① 5.パッシング・ゲーム② 6.アーリー・オフェンス① 7.アーリー・オフェンス② 8.モーション・オフェンス① 9.モーション・オフェンス② 10.チーム・ディフェンス① 11.チーム・ディフェンス② 12.リーグ編成とイベントマネジメント 13.リーグ戦（ゲームプランの立案） 14.リーグ戦（スカルセッションの実施） 15.リーグ戦（総括）	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 試合貢献度を自己評価する。自己評価を基に、次回授業の目標を立てる。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度・貢献度 60%、試合貢献度自己評価 20%、基礎理論・テスト 20%		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、受講生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意し、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。		1. ガイダンス 2. ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. シュート・パス・ドリブルの基礎① 4. シュート・パス・ドリブルの基礎② 5. シュート・パス・ドリブルの基礎③ 6. 様々なシュート 7. ストップ・ターンの使い方 8. パスのもらい方、動きの中でのシュート 9. ディフェンスの基本 10. 試合への応用 11. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 12. リーグ戦① 13. リーグ戦② 14. リーグ戦③ 15. リーグ戦④	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ルールや歴史などバスケットボールに関する情報を調べ、理解を深めること		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。		

(秋)	スポーツ・レクリエーションⅡ(バスケットボールⅡ)	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 秋学期はゲーム中心。チームの仲間とコミュニケーションを取り、教えあい、バスケットボールのゲームを楽しみつつ、改善点などを見つけてレベルアップしていこう。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意、バスケットボールにふさわしい服装で参加すること。水分補給はこまめに行うようにすること。		1. ファンダメンタルの確認① 2. ファンダメンタルの確認② 3. ゲームを楽しもう（ルールの確認） 4. ゲーム 5. ゲーム 6. ゲーム 7. ゲーム 8. ゲーム（リーグ戦 A①） 9. ゲーム（リーグ戦 A②） 10. ゲーム（リーグ戦 A③） 11. ゲーム（リーグ戦 B①） 12. ゲーム（リーグ戦 B②） 13. ゲーム（リーグ戦 B③） 14. ゲーム（順位決定戦①） 15. ゲーム（順位決定戦②）	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ウォームアップの方法やトレーニングなどバスケットボールに必要な情報を調べ、理解を深めること		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（80%）、技術の向上度（20%）。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. グリップ、スイング等の練習。 4. ルールの確認。ドライブ、ヘアピン等の練習 5. ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6. サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習、技能テスト 7. 基礎技術の総合的な練習 8. " 9. " 10. ゲーム形式の練習 11. " 12. " 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15. "	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	授業への取り組む姿勢50%、レポートの内容30%、技能の向上20%で評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バドミントンb)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、競技未経験者に焦点を当て、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおけるtrial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として、服装・シューズ忘れ、遅刻は認めない。		1. オリエンテーション。 2. 体慣らし 3. グリップ、スイング等の練習。 4. ルールの確認。ドライブ、ヘアピン等の練習 5. ハイクリヤー、ドロップ等の練習 6. サービス、スマッシュ、レシーブ等の練習、技能テスト 7. 基礎技術の総合的な練習 8. " 9. " 10. ゲーム形式の練習 11. " 12. " 13. シングルス、ダブルスのゲーム。 14. シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 15. "	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	種目のルール、戦術の理解が必要。 授業の終わりごとに自己評価を提出する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)_水 1、水 2	担当者	藤野 和樹
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 〔講義概要〕 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。		1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルの総合練習 13. 団体戦の実施 14. テスト 15. 授業全体のまとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	a) 身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b) ルールの理解を深めるために映像を視聴すること		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バドミントンb)_水1、水2	担当者	藤野 和樹
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 〔講義概要〕 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。		1. ガイダンス 2. バドミントン競技の概要解説 試しのゲーム 3. バックハンドドライブの基本練習 4. バックハンドロブの基本練習 5. 各種フットワークの基本練習 6. フォアハンドドライブの基本練習 7. オーバーヘッドストロークの基本練習 8. 様々なサーブの基本練習 9. ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10. シングルのゲーム(ルールの理解) 11. ダブルスの総合練習 12. シングルの総合練習 13. 団体戦の実施 14. テスト 15. 授業全体のまとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	a) 身体・健康・保健について学習し、自己の体調管理に努めること b) ルールの理解を深めるために映像を視聴すること		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	技能の向上度、ルールの理解、コミュニケーションを含めた協調性(70%)を総合的に評価するが、授業への参加度(30%)も評価対象とする。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、バドミントンという種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。		1. ガイダンス 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる 3. クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等のショット練習 4. ロング&ショートサーブとレシーブ 5. 半面でのシングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60%） 積極性、実践力（20%） 協調性（20%）		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	山口 知恵
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツは、健康や体力の維持増進にとって欠かせないものであり、それを継続させるためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが重要です。 また、様々なスポーツを行うことによって自分のことを深く知り、周りを見ることもでき、コミュニケーション能力も養えるようになります。 ここでは、バドミントンという種目を通して、技術の習得やルール、マナーを理解するだけでなく、上記のような目標を達成することを目的としています。		1. ガイダンス 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる 3. クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等のショット練習 4. ロング&ショートサーブとレシーブ 5. 半面でのシングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルス・リーグ戦 8. シングルス・リーグ戦 9. ダブルスゲーム（ルールの習得） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、体調管理をしてくること		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介します		
評価方法	準備、片付け、遅刻、服装、提出物、理解度など授業への参加態度（60％） 積極性、実践力（20％） 協調性（20％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	今野 廣隆
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [概要] バレーボールのルールを理解し、 個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、 ゲームの展開方法を学習する。		1. オリエンテーション 2. 基本技と動き（アンダー・オーバー）パスゲーム 1 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ）パスゲーム 2 4. レシーブとカバーリング（守りの組立）パスゲーム 3 5. サーブ・レシーブから攻撃を組立てたミニゲーム 1 6. スパイクを含んだミニゲーム 2 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） 8. ゲーム、6 チームによるリーグ戦 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から体調管理をして、バレーボールのルールを理解するようにする。又、毎回の実技内容をまとめておくようにする。		
テキスト、参考文献	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点を中心に評価し、授業に臨む態度、実技の達成度等を加味する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)_金 1、金 2	担当者	横矢 勇一
講義目的、講義概要		授業計画	
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。		1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブとトス、サーブ） 3. 基本技術（スパイク、ブロック） 4. 基本技術の確認、ミニゲーム 5. フォーメーションの基本、ゲームⅠ 6. フォーメーションの組立、ゲームⅡ 7. フォーメーションの確立、ゲームⅢ 8. 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 9. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ 10. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ 11. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ 12. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ 13. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ 14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価 15. 総括	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。		
テキスト、参考文献	吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		
評価方法	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。また、遅刻・服装・準備など、学習態度(10%)もチェックします。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)_金 1、金 2	担当者	横矢 勇一
講義目的、講義概要		授業計画	
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。		1. オリエンテーション 2. 基本技術（レシーブとトス、サーブ） 3. 基本技術（スパイク、ブロック） 4. 基本技術の確認、ミニゲーム 5. フォーメーションの基本、ゲームⅠ 6. フォーメーションの組立、ゲームⅡ 7. フォーメーションの確立、ゲームⅢ 8. 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 9. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ 10. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ 11. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ 12. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ 13. リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ 14. ゲームを通して技術および戦術の習得状況の評価 15. 総括	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	バレーボールにおける技術に関するイメージトレーニングを行うことで技能習得に役立てる。		
テキスト、参考文献	吉田 清司 著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院		
評価方法	学習意欲を中心に評価(50%)し、チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(20%)を加味します。また、遅刻・服装・準備など、学習態度(10%)もチェックします。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレイヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリは外すこと。		1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2. ボールに親しむ 簡易ゲーム 3. ボールコントロール ボールタッチ・ドリブル 4. ボールコントロール パス 5. 1対1の攻防 6. GKトレーニング 7. 4対2① 8. 4対2② 9. 4対2③ 10. ルールの理解とゲームの進め方 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	神宮司 親治
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレイヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。		1. 復習 基本技術の確認 2. 攻撃のグループ戦術 3. 守備のグループ戦術 4. 攻守の切りかえ 5. 審判法ならびにゲーム運営 6. チーム練習① 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. チーム練習② 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. チーム練習③ 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：フットサルに関するルールや映像を見て学習しておくこと。 事後学修：生活の中で、今後もフットサルに触れる機会を作る姿勢を持つこと。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	評価方法：平常点 80%、授業への参加姿勢 20%にて評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。 〔受講生への要望〕 フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。		1. ガイダンス 2. ボールフィーリング 3. ドリブル 4. パス 5. コントロール 6. シュート 7. ボールを奪う 8. ゴールキーパー 9. ルール・審判法 10. リーグ戦第1節 11. リーグ戦第2節 12. リーグ戦第3節 13. リーグ戦第4節 14. リーグ戦第5節 15. リーグ戦第6節	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。		
テキスト、参考文献	特になし		
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	西川 誠太
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 1. フットサルを楽しむために、フットサルの基本技術、ルール、審判法を学び、実践できるようになる。 2. フットサルというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術（ドリブル、コントロール、パス、シュート）の習得は、受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、ルールや審判法も学習し、スポーツを支える側の実践力も身につける。 〔受講生への要望〕 フットサルを楽しみたいという学生の受講を願います。		1. ガイダンス 2. 基本技術の復習① 3. 基本技術の復習② 4. 攻撃のグループ戦術① 5. 攻撃のグループ戦術② 6. 守備のグループ戦術① 7. 守備のグループ戦術② 8. 1次リーグ戦 9. 1次リーグ戦 10. 1次リーグ戦 11. 1次リーグ戦 12. 2次リーグ戦 13. 2次リーグ戦 14. 2次リーグ戦 15. 2次リーグ戦	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調を整えてくること。体調不良者は事前に申し出ること。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	実践力（50%）、授業への取組む姿勢（40%）、授業への貢献度（10%）を総合して評価する。欠席が3回を越えた者は評価の対象としない。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] フットサルのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネジメント能力の向上を図る。 [概要] 色々なメンバーの組み合わせによりゲームを行う。 男子30名、女子15名を定員とする		1. ガイダンス 2. 写真付受講票の作成とスキルテスト 3. 個人スキル練習 4. 簡易ゲーム練習 5. ゲーム（リーグ戦①） 6. ゲーム（リーグ戦②） 7. ゲーム（リーグ戦③） 8. ゲーム（リーグ戦④） 9. ゲーム（リーグ戦⑤） 10. 個人スキル練習 11. ゲーム（リーグ戦①） 12. ゲーム（リーグ戦②） 13. ゲーム（トーナメント①） 14. ゲーム（トーナメント②） 15. テスト	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(春)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で250mを越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。		1. イントロダクション フライングディスクとは 2. 基礎投法 技術練習（バックハンド・スロー） 3. 基礎投法 技術練習（サイドアーム・スロー） 4. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的を通し競技） セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5. 集団ゲーム アルティメット 導入 6. 集団ゲーム アルティメット 基礎 7. 集団ゲーム アルティメット 基礎 8. 個人種目 ディスクゴルフ 導入 9. 個人種目 ディスクゴルフ 展開 1 10. アルティメット 発展 11. アルティメット 発展 12. アルティメット 発展 13. 個人種目 ディスクゴルフ 展開 2 14. 個人総合練習 15. 技能記録会 まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルール of の把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	村山 光義
講義目的、講義概要		授業計画	
1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で250mを越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解・吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。		1. イントロダクション フライングディスクとは 2. 基礎投法 技術練習（バックハンド・スロー） 3. 基礎投法 技術練習（サイドアーム・スロー） 4. 技能記録会 遠投 アキュラシー（的を通し競技） セルフコートフライト（滞空時間・距離計測） 5. 集団ゲーム アルティメット 導入 6. 集団ゲーム アルティメット 基礎 7. 集団ゲーム アルティメット 基礎 8. 個人種目 ディスクゴルフ 導入 9. 個人種目 ディスクゴルフ 展開 1 10. アルティメット 発展 11. アルティメット 発展 12. アルティメット 発展 13. 個人種目 ディスクゴルフ 展開 2 14. 個人総合練習 15. 技能記録会 まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	技術面の留意点を振り返るとともに、常に体調管理に努め授業実践に努めること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	技術 20%、理解 20%、態度 20%、平常点 40%で評価します。理解はルールの把握の様子を観察したり、内省報告等で評価します。技術・態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

(秋)	スポーツ・レクリエーション「フリスビーb」	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常生活で友人に教えたり、家族と楽しんだりするための実力をつけることを目標とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 学生の進捗状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。		1 オリエンテーション 2 フリスビーの基本的な技術 3 バックハンドスローとキャッチのドリル練習 4 バックハンドスローを正確に投げよう 5 バックハンドスローを遠くへ投げよう 6 サイドアームスローの投げ方 7 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 8 他の競技種目の紹介と体験（ガッツ） 9 他の競技種目の紹介と体験（ディスクゴルフ） 10 アルティメットのルールと楽しみ方 11 アルティメットの試合（簡単なルールで楽しむ） 12 アルティメットの試合（より高度なルールで楽しむ） 13 アルティメットの試合（チーム戦略を練る） 14 アルティメットの試合（リーグ戦1） 15 アルティメットの試合（リーグ戦2）とまとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義内容】 欧米では、身近にあるボールルームダンス（社交ダンス）。日本でも生涯スポーツとして、ジュニア世代から高齢者まで幅広く踊られています。 目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽によって体を動かすことの楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 【講義概要】 ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び、柔軟な体づくりをします。楽しく踊るための、ステップ・技術を学習します。		1. オリエンテーション・ボールルームダンスとは 2. 正しい立ち方、歩き方 3. 手及び腕の使い方 4. 体の各部分の使い方 5. 回転動作の学習 6. ラテン基礎編①、モダン基礎編① 7. ラテン基礎編②、モダン基礎編② 8. ラテン基礎編③、モダン基礎編③ 9. ルンバ編①、ワルツ編① 10. ルンバ編②、ワルツ編② 11. ルンバ編③、ワルツ編③ 12. サンバ編①、タンゴ編① 13. サンバ編②、タンゴ編② 14. サンバ編③、タンゴ編③ 15. 各種目の総復習	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	ダンス技術取得度 40%、授業への参加度 60%		

(秋)	スポーツ・レクリエーションⅡ(ボールルームダンスⅡ)	担当者	内堀 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 ボールルームダンスⅡの受講の続きとなります。 前学期よりスムーズに踊れることを目標とします。基本の姿勢、動きを復習し、さらに高度なステップを学んでいきます。 【講義概要】 正しい姿勢、柔軟な体、バランスのよい筋肉をつけていきます。相手とのダンスを通じてのコミュニケーションの取り方を学びます。 ボールルームダンス 10 種目のうち、6 種目を踊れるようにします。 また、それ以外のパーティステップも学んでいきます。		1. 春期講座の振り返り 2. ラテン基礎編④、モダン基礎編⑤ 3. ルンバ編④、ワルツ編④ 4. ルンバ編⑤、ワルツ編⑤ 5. サンバ編④、タンゴ編④ 6. サンバ編⑤、タンゴ編⑤ 7. チャチャチャ編①、ヴェニーズワルツ編① 8. チャチャチャ編②、ヴェニーズワルツ編② 9. チャチャチャ編③、ヴェニーズワルツ編③ 10. チャチャチャ編④、ヴェニーズワルツ編④ 11. リードとフォローについて 12. 体の動作の細かい動きと表現方法について 13. 立ち位置の確認、首の使い方 14. 世界におけるボールルームダンス 15. 総まとめ	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習したステップの復習		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	ダンス技術取得度 40%、授業への参加度 60%		

(春)	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス a)	担当者	板垣 悦子
講義目的、講義概要		授業計画	
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体づくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。		1 授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2 呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3 ピラティス初級① 4 ピラティス初級② 5 ピラティス初級③ 6 ピラティス初級まとめ 7 ピラティス中級① 8 ピラティス中級② 9 ピラティス中級③ 10 ピラティス中級まとめ 11 ピラティス上級① 12 ピラティス上級② 13 動きの総まとめ① 14 動きの総まとめ② 15 まとめ及び自己評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習。授業後はポイントをノートに書き留める。		
テキスト、参考文献	参考文献 『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロール』ジョセフ・H・ピラティス（著）ピラティス研究会（訳）現代書林 『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新聞真人（訳）スキージャーナル株式会社		
評価方法	①授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(マットピラティス b)	担当者	板垣 悦子
講義目的、講義概要		授業計画	
呼吸法の重要性を理解し、センターリングの意識（詳細は授業時に説明）による姿勢の改善とともに、特に腹筋群の強化を中心に全身全ての筋肉をバランスよく鍛える。 マットエクササイズの継続により、自身の身体を上手くコントロールする基礎的な方法、身体コンディショニング方法を理解し習得することを目的とする。さらに身体の変化を実感しながら自身が目指す身体づくり、さらには日常的な運動習慣への動機づけを得ることも目的とする。		1 授業概要・姿勢チェック・呼吸法の基礎・センターリングの実践及び自身の身体への気づき。自己目標の設定。 2 呼吸法、腹部の使い方、基礎動作。ピラティス導入 3 ピラティス初級① 4 ピラティス初級② 5 ピラティス初級③ 6 ピラティス初級まとめ 7 ピラティス中級① 8 ピラティス中級② 9 ピラティス中級③ 10 ピラティス中級まとめ 11 ピラティス上級① 12 ピラティス上級② 13 動きの総まとめ① 14 動きの総まとめ② 15 まとめ及び自己評価	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ピラティスとはどのようなエクササイズかを予習。授業後はポイントをノートに書き留める。		
テキスト、参考文献	参考文献 『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロール』ジョセフ・H・ピラティス（著）ピラティス研究会（訳）現代書林 『ピラティス・マスタリー』Amanda Teresa（著）新聞真人（訳）スキージャーナル株式会社		
評価方法	①授業への参加態度：積極的な取り組み。 ②授業内容の理解度：「テーマ」に対する自己チェック表の記入。これらを総合的に評価する。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
レクリエーション活動のうち、レクリエーションスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。		1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレイキングゲーム 3. イニシアチブゲーム 1 4. イニシアチブゲーム 2 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
滞在型のキャンプ活動を行います。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。(運動不足ではハードに感じます) 皆さんには、キャンプ場を中心とした山間地域に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の食事はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。ハイキング用シューズ、ザック（30ℓ以上）、雨具（上下セパレート）を準備して下さい。		合宿について（予定） 場所：栃木県、群馬県、長野県のキャンプ場 期日：2016年8月2日（火）～8月6日（土） 4泊5日 費用：15000円程度（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 第1日目 集合、キャンプ設営 散策 第2日目 ファイヤービルディング、ハイキング 第3日目 アウトドアクッキング 第4日目 お好み活動、パーティー 第5日目 キャンプ撤収、昼頃解散	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	合宿地域の地理、歴史、植生について学習しておくこと。		
テキスト、参考文献	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
レクリエーション活動のうち、レクリエーションスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。		1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレイキングゲーム 3. イニシアチブゲーム 1 4. イニシアチブゲーム 2 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション（ウィンドサーフィン）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
ウィンドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を通じての人間関係の育成も目標としています。 初心者から受講できます。 【受講者への要望】 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。		場所：千葉県館山市（現地集合現地解散） 期日（予定）：2016年9月13日（火）～17日（土） 4泊5日 費用（予定）：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内 11000 円を大学自動発行機で振込、5000 円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 1日目 現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2日目 セイルアップからセイリングポジション 3日目 方向転換 4日目 いろいろな方向へのセイリング 5日目 レース・午後解散	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
レクリエーション活動のうち、レクリエーションスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。教員志望の方はぜひ受講して下さい。クラス経営に役立ちます。		1. 授業の内容と計画についての説明 2. アイスブレイキングゲーム 3. イニシアチブゲーム 1 4. イニシアチブゲーム 2 5. アウトドアクッキングの計画 6. アウトドアクッキングの実践 7. ペタンクの紹介と練習 8. ペタンクの試合 9. フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取り扱っている種目に関する情報を動画サイトなどで学習し、事後にはその経験を生活の中で活かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(夏季集中)	スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング（ナイトダイビングも行います）、シーカヤック、星座観察、釣り、サバイバルクッキング、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを4泊5日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とそこに住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。また、この授業では特徴的なプログラムとして状況適応能力や判断力を養うためのサバイバルプログラムを取り入れています。 この合宿において、主に海浜で行う自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。 【受講者への要望】海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。		合宿について（予定） 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2016年8月16日（火）～20日（土） 4泊5日 費用：32000円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内30400円を大学自動発行機で振込、1600円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春18切符が利用できるスケジュールにしています。） 合宿日程 第1日目 現地集合・開講式 第2日目 スキンダイビング、シーカヤック 第3日目 スキンダイビング、地域研究 第4日目 サバイバルクッキング、海中清掃 第5日目 午前中解散	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	合宿地域の地理、歴史、植生について学習しておくこと。経験、実践したことを日常生活の中で生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。見るだけではなく体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 アイススケート、カーリング初心者の方から受講できます。		1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その1 5 フォアストロークとバリエーション その2 6 パイロンを利用した練習 7 バックストロークとバリエーション その1 8 バックストロークとバリエーション その2 9 ホッケーにチャレンジ その1 10 フォアクロッシング その1 11 フォアクロッシング その2 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 ホッケーにチャレンジ その2 15 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3泊4日で合宿を行います。 アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進捗度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。 秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。		合宿について（予定） 時期： 2016年12月26日（月）～29日（木） 3泊4日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： リゾートイングリーン軽井沢 費用： 27500 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代他） （内、20500 円を自動発行機で振込、7000 円を現地徴収） 1 日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜： 講義「アイススケートの楽しみ方」 2 日目 午前： アイススケート 基本技術と応用 午後： アイススケート 夜： 講義「カーリングの楽しみ方」 3 日目 午前： カーリング基本練習 午後： カーリング実践練習 夜： ミーティング 4 日目 午前： カーリング大会 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	動画サイトなどを利用し道具や種目、動作について概要を把握しておくこと。 受講後は生活の中に生かせるよう心掛けること。		
テキスト、参考文献	必要に応じ資料を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、目標達成度（20%）で評価します。		

(秋)	スポーツ・レクリエーション(コーディネーショントレーニング)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 複数の動き接続してまとめる感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 [概要] 授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、ノルディックウォーキング、アルティメット、バレーボール、卓球を行う予定である。 スキー&スノーボード合宿とのセット履修となる。		1. ガイダンス 2. 写真付受講票作成・トランポリン 3. インラインスケート① 4. インラインスケート② 5. インラインホッケー① 6. インラインホッケー② 7. ノルディックウォーキング① 8. ノルディックウォーキング② 9. アルティメット① 10. アルティメット② 11. バレーボール① 12. バレーボール② 13. 卓球① 14. 卓球② 15. スキー・スノーボード授業ガイダンス	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション(スキー&スノーボード)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。 また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 [概要] アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で徴収し精算する。学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。合宿のみ履修登録する場合には担当教員の許可が必要になる。 (注意) この授業のみを履修したい場合には、E棟1階のスポーツ・レクリエーション教員準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分 18000 円を大学に納入すること。月1回の予定で別途行われる合宿ガイダンスに出席すること。		合宿期間：2017年2月3-6日を予定している。 合宿場所：秋田県たざわ湖スキー場 宿泊場所：秋田県立田沢湖スポーツセンター 合宿費用：宿泊費18000円（3泊9食予定） （大学に履修登録決定次第納入すること） 保険・雑費1000円は現地精算 （注意）リフト代（約6000円）・交通費・レンタル代等は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。秋学期履修登録期間の掲示等に十分注意し確認すること。 ＊リフト代については雪マジ 19（対象期間誕生者無料）が利用できる場合がある。	
到達目標	各種目を通じて健康を維持・促進し、また、学生間の交流を図ることで協調性・社会性のある行動ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	合宿授業への参加度、参加中の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。使用言語は原則とし英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> (大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○ オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。 【重要】リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。		1. オリエンテーション 2. ～15 各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。 毎回 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> を範囲とした語彙小テストを実施する。 年度末(1 月)に全員が TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	○教科書は大学 HP、大学書店の掲示、および第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964” (獨協大学全カリ英語語彙リスト) :HP の MyDOC ページから各自ダウンロード		
評価方法	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修すること。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> (大学HPのMyDOCから各自ダウンロード)を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習 (ALC Net Academy) を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。 【重要】リーディング活動とは英文和訳のことではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。		1. オリエンテーション 2. ～15 各担当教員が指定した教科書に基づく授業。詳細は、各担当教員から配布される個別シラバスを参照すること。 毎回 <i>Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List</i> を範囲とした語彙小テストを実施する。 年度末(1 月)に全員が TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	○教科書は大学 HP、大学書店の掲示、および第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964”（獨協大学全カリ英語語彙リスト）:HP の MyDOC ページから各自ダウンロード		
評価方法	○各担当教員のシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、1 年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科 1 年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。 ○ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の 3 つの活動を行う。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。		1. オリエンテーション 2. Unit 1 Reading 1 We all need a hero. 3. Unit 1 Reading 2 Everyday people changing the world. 4. Unit 1 Wrap-up 5. Unit 2 So much dead space 6. Unit 2 Now on stage: your home! 7. Unit 2 Wrap-up 8. Mid-term exam 9. Unit 3 The good teen 10. Unit 3 Bird by bird 11. Unit 3 Wrap-up 12. Unit 4 Can climate change make us sicker? 13. Unit 4 tips for a greener planet: and a happier, healthier you 14. Unit 4 Wrap-up 15. Spring term wrap-up, Q & A	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して、学習箇所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	・ Q: Skills for Success Book 4 (Oxford University Press) ・ 英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること		
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15% 課題 10%、中間テスト 25% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）30%、原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
○ Academic Listening Strategies I とともに、1 年生の英語科目の中核となる重要な科目である。春学期に引き続き、原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科 1 年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。使用言語は英語。 ○春学期に引き続き様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。大きく以下の 3 つの活動を行う。 1. 担当者が指示したリーディング教科書。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP の MyDOC から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、ディスカッションや、プレゼンテーション、ライティングなども織り交ぜた活動を、英語で行います。		1. オリエンテーション 2. Unit 5 Two styles of songwriting 3. Unit 5 What does it take to be a successful artist? 4. Unit 5 Wrap-up 5. Unit 6 Eating well: less science, more common sense 6. Unit 6 Anatomy of a nutrition trend 7. Unit 6 Wrap-up 8. Mid-term exam 9. Unit 7 From student t employee 10. Unit 7 Making my first post-college decision 11. Unit 7 Wrap-up 12. Unit 8 A tribe is discovered 13. Unit 8 The Kipunji 14. Unit 8 Wrap-up 15. Fall term wrap-up, Q & A 年度末に TOEIC®を全員受験する。計画的に学習すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	・ <i>Q: Skills for Success Book 4</i> (Oxford University Press) ・ 英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること		
評価方法	積極的な授業参加 20%、語彙小テスト 15% 課題 10%、中間テスト 25% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）30%、原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的なトピック・センテンスや サポート・センテンスの書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方 第3回 英文メールの書き方 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming & Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs 第9回 Descriptive Paragraphs 第10回 Process Paragraphs 第11回 Process Paragraphs 第12回 Summary Writing 第13回 Summary Writing 第14回 Summary Writing 第15回 Wrap-up	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。英文メールの書き方の教材は、各自 My DOC よりダウンロードすること。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ My DOC 上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行う場合もあります。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs 第4回 Classification Paragraphs 第5回 Classification Paragraphs 第6回 Cause and Effect Paragraphs 第7回 Cause and Effect Paragraphs 第8回 Cause and Effect Paragraphs 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。MyDOC から補助教材をダウンロードする場合もある。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on a mid-term test, a final exam, and an in-class speaking evaluation. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework.. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – Mid-term exam; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- In-class speaking evaluation	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.		
テキスト、参考文献	Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)		
評価方法	Classroom participation/homework 30%, Mid-term exam 20%, In-class speaking evaluation 20%, Final exam 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2 回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – Mid-term speaking evaluation Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – Final in-class speaking evaluation	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to spend approximately one hour per week previewing or reviewing course content.		
テキスト、参考文献	Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University)		
評価方法	Classroom participation/homework 30%, In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%), Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング Ia) ／(Academic Listening Strategies Ia) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した基礎英語の知識を、大学での学びや仕事で使えるように、実践的なリスニング能力に発展させるのが目的です。状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、身近なテーマに関する様々な会話を聴き、リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、ネイティブの英語だけでなく、世界中で話される様々な英語を聴きます。インターネットやポッドキャストのリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドーイング練習やスピーキング練習も行います。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングⅠとともに通年で履修すること。		1. Course Introduction 2. Unit 1: Pleased to meet you 3. Unit 1: Pleased to meet you 4. Unit 1 Test /Unit 2: What's new? 5. Unit 2: What's new? 6. Unit 2 Test/Unit 3: Where can I catch a taxi? 7. Unit 3: Where can I catch a taxi? 8. Unit 3 Test/Unit 4: I need to reschedule 9. Unit 4: I need to reschedule 10. Unit 4 Test/Unit 5: Do you have a hobby? 11. Unit 5: Do you have a hobby? 12. Unit 5 Test/Unit 6: You need a passport 13. Unit 6: You need a passport 14. Unit 6 Test/Review Unit 1-6 15. Review/TOEIC exercises	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、 参考文献	Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good, Student Book 2</i> . Pearson Longman. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認すること。		
評価方法	授業参加 20% ユニットクイズ 30% (5% x 6 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング Ib) ／(Academic Listening Strategies Ib) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングⅠとともに通年で履修すること。		1. Course introduction/Unit 7: May I see the menu? 2. Unit 7: May I see the menu? 3. Unit 7 Test /Unit 8: Does it hurt? 4. Unit 8: Does it hurt? 5. Unit 8 Test/Unit 9: How much is this watch? 6. Unit 9: How much is this watch? 7. Unit 9 Test/Unit 10: What does it do? 8. Unit 10: What does it do? 9. Unit 10 Test/Unit 11: Who won the match? 10. Unit 11: Who won the match? 11. Unit 11 Test/Unit 12: You're very energetic 12. Unit 12: You're very energetic 13. Unit 12 Test/Review Unit 7-12 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). <i>Sounds Good, Student Book 2</i> . Pearson Longman. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認すること。		
評価方法	授業参加 20% ユニットクイズ 30% (5% x 6 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降	English（リスニング Ia） ／(Academic Listening Strategies Ia)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングⅠとともに通年で履修すること。		1. Course Introduction 2. Chapter 1: Part 2 Social Language 3. Chapter 1: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 4. Chapter 1: Part 5 Academic English 5. Review/Chapter 1 Test 6. Chapter 2: Part 2 Social Language 7. Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 8. Chapter 2: Part 5 Academic English 9. Review/Chapter 2 Test 10. Chapter 3: Part 2 Social Language 11. Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 12. Chapter 3: Part 4 Broadcast English 13. Review/Chapter 3 Test 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	Blass, L. & Hartmann, P. (2006). <i>Quest 1: Listening & Speaking</i> . McGraw-Hill. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
評価方法	授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降	English（リスニング Ib） ／(Academic Listening Strategies Ib)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事のための、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解する、講義を聴いてノートを取る、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、TOEICの聴解問題練習も行い、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。さらに、聴解を支える発音・シャドーイングやスピーキング練習も行います。授業中は実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 ・毎回、教科書とUSBメモリースティックを持参すること。 ・原則としてリーディングⅠとともに通年で履修すること。		1. Course Introduction; Ch.4: Part 2 Social Language 2. Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 3. Chapter 4: Part 5 Academic English 4. Review/ Chapter 4 Test 5. Chapter 5: Part 2 Social Language 6. Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 7. Chapter 5: Part 5 Academic English 8. Review/Chapter 5 Test 9. Chapter 6: Part 2 Social Language 10. Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 11. Chapter 6: Part 4 Broadcast English 12. Review/Chapter 6 Test 13. Review/TOEIC exercises 14. Review/TOEIC exercises 15. Review/TOEIC exercises	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および TOEIC 練習問題。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	Blass, L. & Hartmann, P. (2006). <i>Quest 1: Listening & Speaking</i> . McGraw-Hill. ※教科書購入時には間違いのないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。		
評価方法	授業参加 20% チャプターテスト 30% (10% x 3 回) 課題 10% 統一期末試験 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降	English（リスニング Ia）／(Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them • understand lecture organization • take effective notes while they listen		1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 2 5. Chapter 2 (continued) 6. Chapter 3 7. Chapter 3 (continued) 8. Review 9. Chapter 4 10. Chapter 4 (continued) 11. Chapter 5 12. Chapter 5 (continued) 13. Chapter 6 14. Chapter 6 (continued) 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.		
テキスト、参考文献	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)		
評価方法	Class participation (25%), homework assignments (25%), final exam (50%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English（リスニング Ib）／(Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: • identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them • understand lecture organization • take effective notes while they listen		1. Introduction 2. Chapter 9 3. Chapter 9 (continued) 4. Chapter 11 5. Chapter 11 (continued) 6. Chapter 12 7. Chapter 12 (continued) 8. Review 9. Chapter 13 10. Chapter 13 (continued) 11. Chapter 14 12. Chapter 14 (continued) 13. Chapter 15 14. Chapter 15 (continued) 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside of class, students will be expected to prepare for discussions and write summaries of lectures.		
テキスト、参考文献	Listening and Notetaking Skills (Cengage, 2014)		
評価方法	Class participation (25%), homework assignments (25%), final exam (50%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIa) / (Academic Reading Strategies IIa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
◆ この科目は、1年生で履修した Academic Reading Strategies I (リーディングI)の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 1年次に引き続いて、各自が、MyDOCからダウンロードした Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 ◆ 大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。		第1回 オリエンテーション 第2～14回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List の指定箇所を範囲とする語彙小テスト 第15回 春学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末(1月)に全員 TOEIC® を受験するので、計画的に学習すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	◆ 各担当教員指定教科書を購入して使用する。大学 HP、大学書店の掲示、および担当教員の指示に従うこと。 ◆ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List (獨協大学アカデミック語彙リスト) MyDOC から該当範囲を各自ダウンロードする。		
評価方法	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%となる。 ◆原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意。		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIb) / (Academic Reading Strategies IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
◆ この科目はAcademic Reading Strategies I (リーディングI)の上位科目です。春学期に引き続き、原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 ◆ 春学期には、大きく以下の3つの活動を行います。使用言語は原則として英語です。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 各自が、MyDOCからダウンロードしたDokkyo 1964 Academic Vocabulary List を教室外で学習し、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 3. TOEIC対策の副教材を用いて、授業内に短時間のTOEIC対策を行う。(秋学期のみ実施)		第1回. オリエンテーション 第2～14回 ・各担当教員が指定した教科書での学習 ・ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List の指定箇所を範囲とする語彙小テスト ・共通の副教材を用いて、TOEIC®テスト対策 第15回 春学期のまとめ ◆ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ◆ 年度末(1月)に全員 TOEIC® を受験するので、計画的に学習すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。MyDOC から語彙リストをダウンロードしてテスト準備をする。毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	◆ 各担当教員指定教科書を使用する。 ◆ Dokkyo 1964 Academic Vocabulary List (獨協大学アカデミック語彙リスト) MyDOC から該当範囲を各自ダウンロードする。		
評価方法	◆各担当教員から配布されるシラバスに記載。共通語彙テストは成績の15%となる。 ◆原則として4回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意。		

08 年度以降	English（リーディング II a） ／(Academic Reading Strategies II a)	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2 年次学生対象のクラス指定科目です。1 年修了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう 5 限目に配置されているので、他学部の学生と英語を勉強できる貴重な機会を生かして、積極的に授業に参加してください。 ARS I に引き続き、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Test を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。		1. Course Introduction; Unit 1 Preview 2. Unit 1 The News Media (1) 3. Unit 1 The News Media (2) 4. Unit 1 The News Media (3) 5. Unit 1 Test; Unit 2 Preview 6. Unit 2 Education (1) 7. Unit 2 Education (2) 8. Unit 2 Education (3) 9. Unit 2 Test; Unit 3 Preview 10. Unit 3 The World of Business (1) 11. Unit 3 The World of Business (2) 12. Unit 3 The World of Business (3) 13. Unit 6 Test; Presentation preparation 14. Presentations 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	McEntire, J. & Williams, J. (2013) <i>Making Connections, Level 2</i> . Cambridge University Press.		
評価方法	授業参加 10% 課題 10% 語彙テスト 15% 章末テスト 20% 期末発表 15% 期末試験 30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降	English（リーディング II b） ／(Academic Reading Strategies II b)	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の2年次学生対象のクラス指定科目です。1年修了時のTOEICテストスコアが高かった学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないよう5限目に配置されているので、他学部の学生と英語を勉強できる貴重な機会を生かして、積極的に授業に参加してください。 春学期と同様、リーディングを中心にアカデミックな総合的英語運用力を身につけることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、学術的テーマや社会問題を扱ったテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。授業は全て英語で実施します。 ・毎週授業の初めに Vocabulary Test を行うので準備しておくこと。 ・原則として通年で履修すること。		1. Course Introduction; Unit 4 Preview 2. Unit 4 Population change and its impact (1) 3. Unit 4 Population change and its impact (2) 4. Unit 4 Population change and its impact (3) 5. Unit 4 Test; Unit 5 Preview 6. Unit 5 Design in everyday life (1) 7. Unit 5 Design in everyday life (2) 8. Unit 5 Design in everyday life (3) 9. Unit 5 Test; Unit 6 Preview 10. Unit 6 The brain and behavior (1) 11. Unit 6 The brain and behavior (2) 12. Unit 6 The brain and behavior (3) 13. Unit 6 Test; Presentation preparation 14. Presentations 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習および語彙の練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	McEntire, J. & Williams, J. (2013) <i>Making Connections, Level 2</i> . Cambridge University Press.		
評価方法	授業参加 10% 課題 10% 語彙テスト 15% 章末テスト 20% 期末発表 15% 期末試験 30% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミック・エッセイ（論文）を書けるようになることである。「和文英訳」ではない。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、説得力のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習する。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させる。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてほしい。 ▼ 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行う。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。	
		第1回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第2回 Essay Organization 第3回 Listing-Order Essays 第4回 Listing-Order Essays 第5回 Listing-Order Essays 第6回 Listing-Order Essays 第7回 Comparison and Contrast Essays 第8回 Comparison and Contrast Essays 第9回 Comparison and Contrast Essays 第10回 Comparison and Contrast Essays 第11回 Summarizing and Paraphrasing 第12回 Summarizing and Paraphrasing 第13回 Summarizing and Paraphrasing 第14回 Summarizing and Paraphrasing 第15回 Wrap up	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ 国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 ▼ 本科目の目的は、春学期に学んだアカデミック・エッセイライティングの基礎をさらに発展させ、様々な文章構成法と引用文献を使って、説得力のある英語論文を書けるようになることである。英語論文の典型的な構成と論展開、書き始める前の計画やアウトライン作成法、効果的なthesis statementと各段落のtopic sentenceなどの書き方、一貫性のある論の組み立て方、効果的な接続表現や例の使い方、信頼できる引用文献の探し方、引用する情報の要約と言い換え、適切な引用方法などを練習する。計画から複数回の修正、最終構成までの「プロセス」を経て論文を完成させる。他の英語科目で学んだ語彙や表現もライティングで実際に使ってみる努力をしてほしい。 ▼ 授業では、個人ライティングだけでなく、クラスメートと原稿を読み合ってピアフィードバックを交換したり、グループライティングしたり、学生同士が互いに学ぶ学習活動も行う。		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。	
		第1回 ガイダンス・Review of Essay Organization 第2回 Review of Summarizing and Paraphrasing 第3回 Citing Sources 第4回 Citing Sources 第5回 Definition Paragraphs 第6回 Cause and Effect Essays 第7回 Cause and Effect Essays 第8回 Cause and Effect Essays 第9回 Cause and Effect Essays 第10回 Argumentative Essays 第11回 Argumentative Essays 第12回 Argumentative Essays 第13回 Argumentative Essays 第14回 Argumentative Essays 第15回 Wrap-up	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	担当教員の指示に従うこと。My DOC に補助教材が提示される場合もある。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa) English 241-a / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - paraphrase what they hear orally and in writing - guess unknown words from context		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。 1. Introduction to the course 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week)		
テキスト、参考文献	初回の授業で指示する		
評価方法	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb) English 241-b / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken.		各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。	
<u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to:		1. Introduction	
• understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures		2. Preview of topic 7, pre-listening tasks	
• understand how supporting ideas are related to main ideas		3. Topic 7 passage(s), post-listening tasks	
• take notes effectively as they listen		4. Preview of topic 8, pre-listening tasks	
• paraphrase what they hear orally and in writing		5. Topic 8 passage(s), post-listening tasks	
• guess unknown words from context		6. Preview of topic 9, pre-listening tasks	
		7. Topic 9 passage(s), post-listening tasks	
		8. Midterm exam	
		9. Preview of topic 10, pre-listening tasks	
		10. Topic 10 passage(s), post-listening tasks	
		11. Preview of topic 11, pre-listening tasks	
		12. Topic 11 passage(s), post-listening tasks	
		13. Preview of topic 12, pre-listening tasks	
		14. Topic 12 passage(s), post-listening tasks	
		15. Wrap-up and review for final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（ EGAP = English for General Academic Purposes ）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview and/or review the course content (approximately 1 hour per week)		
テキスト、参考文献	初回の授業で指示する		
評価方法	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa)	担当者	鷺麗美知 ゴラナ
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to help students improve their academic listening and note-taking skills. Students will listen to lectures, radio programs, speeches and interviews on various topics and take notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as topical discussions, vocabulary building exercises and short presentations will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. <u>Main skill objectives:</u> By the end of this course students should be able to: 1) identify the main ideas and supporting points in academic lectures, news broadcasts and interviews 2) take notes effectively as they listen 3) use critical thinking skills to synthesize, analyze and evaluate content from listening sources		1. Course Introduction; Listening to a talk 2. Listening to a radio program 3. Pronunciation / Speaking Skills 4. Listening to a radio program 5. Listening to a podcast 6. Pronunciation / Speaking Skills 7. TEST I: Listening to a lecture 8. Listening to a speech 9. Pronunciation / Speaking Skills 10. Listening to a talk 11. Listening to an interview 12. Pronunciation / Speaking Skills 13. TEST II: Listening to a lecture 14. Listening to a college seminar 15. Pronunciation / Speaking Skills	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class contents and prepare the assigned materials.		
テキスト、参考文献	Q: <i>Skills for Success Listening & Speaking (Level 3)</i> by Miles Craven and Kristin D. Sherman Oxford University Press ISBN-13: 978-0-19-475612-9		
評価方法	Class preparation and participation (20%) Test I (40%) Test II (40%) In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb)	担当者	鷺麗美知 ゴラナ
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to help students improve their academic listening and note-taking skills. Students will listen to lectures, radio programs, speeches and interviews on various topics and take notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as topical discussions, vocabulary building exercises and short presentations will also be undertaken. All class activities will be conducted in English, and students will be expected to participate actively. Main skill objectives: By the end of this course students should be able to: 1) identify the main ideas and supporting points in academic lectures, news broadcasts and interviews 2) take notes effectively as they listen 3) use critical thinking skills to synthesize, analyze and evaluate content from listening sources		1. Listening to a presentation 2. Listening to an interview 3. Pronunciation / Speaking Skills 4. Listening to a talk 5. Listening to a report 6. Pronunciation / Speaking Skills 7. TEST I: Listening to a report 8. Listening to a description 9. Pronunciation / Speaking Skills 10. Listening to a podcast 11. Listening to an interview 12. Pronunciation / Speaking Skills 13. TEST II: Listening to a lecture 14. Listening to a report 15. Pronunciation / Speaking Skills	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class contents and prepare the assigned materials.		
テキスト、参考文献	Q: <i>Skills for Success Listening & Speaking (Level 3)</i> by Miles Craven and Kristin D. Sherman Oxford University Press ISBN-13: 978-0-19-475612-9		
評価方法	Class preparation and participation (20%) Test I (40%) Test II (40%) In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa)	担当者	中西 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.		1. Course outline and Unit1 2. Marketing: Gender and spending habits. 3. Marketing: Gender and spending habits. 4. Marketing: Gender and spending habits. 5. Marketing: advertisements in everyday life. 6. Marketing: advertisements in everyday life. 7. Marketing: advertisements in everyday life. 8. Mid-term Exam 9. Science: Diet 10. Science: Diet 11. Science: Diet 12. Science: The effects of air pollution 13. Science: The effects of air pollution 14. Science: The effects of air pollution 15. Students presentation/Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト、参考文献	Sarosy, P., & Sherak, K. <i>Lecture Ready 2</i> . New York: Oxford University Press.		
評価方法	Active Participation 10% Vocabulary quiz 10% Presentation 30% Midterm exam 20% Final exam 30%		

08 年度以降	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.		1. Course outline and etc 2. Media studies: News and modern technology 3. Media studies: News and modern technology 4. Media studies: News and modern technology 5. Media Studies: Themes on Television. 6. Media Studies: Themes on Television. 7. Media Studies: Themes on Television. 8. Mid-term Exam 9. Linguistics: Slang 10. Linguistics: Slang 11. Linguistics: Slang 12. Linguistics: International English 13. Linguistics: International English 14. Linguistics: International English 15. Students presentation/Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト、参考文献	Sarosy, P., & Sherak, K. <i>Lecture Ready 2</i> . New York: Oxford University Press.		
評価方法	Active Participation 10% Vocabulary quiz 10% Presentation 30% Midterm exam 20% Final exam 30%		

08 年度以降	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として通年履修してください。 ▼ 対象:経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は“Writing to communicate”です。クラスにより、Book 1, Book 2 またはBook 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▼初回授業での説明や資料に注意し、連絡事項を聞き漏らさないようにすること。		第1回 オリエンテーション・コース紹介 - 各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 第2～14回 - 指定教科書 Writing to communicate による授業 - 担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 第15回 春学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	▼ 各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。 ▼ 毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	▼ 指定教科書 Writing to communicate. Book 1, Book 2 または Book 3 (Pearson) 大学書店の掲示に注意して該当する教科書を購入し、準備すること。 ▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。		
評価方法	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降	English(リーディング IIIb) /(Academic Reading and Writing Strategies IIIb)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目です。クラス指定科目ですので、原則として、春学期に続き通年履修してください。 ▼ 対象:経済学部経済学科および経営学科 ▼ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力</u>をつけ、さらに、<u>それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は原則として英語。 ▼ 指定図書は“Writing to communicate”です。クラスにより、Book 1, Book 2 または Book 3 を使用します。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2 年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。		第 1 回 オリエンテーション ・各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 第 2～14 回 ・指定教科書 Writing to communicate による授業 ・担当者が副教材を指定した場合には、それも並行して積極的に学習する。 第 15 回 春学期のまとめ ▼ 教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	▼ 各担当教員から配布される個別シラバスを参照して、学習個所を予習しておく。 ▼ 毎回の授業で担当教員から出される指示に従い、次の授業までに課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	▼ 指定教科書 Writing to communicate. Book 1, Book 2 または Book 3 (Pearson) 春学期に引き続き使用する。 ▼ 担当教員から副教材の指定があった場合には、これも購入して準備すること。		
評価方法	▼ 各担当教員のシラバスに記載。 ▼ 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

13 年度以降	English (テーマ研究 a) / Selected Topics in Social Sciences a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼国際環境経済学科 3 年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1～2 年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼春学期は、主に英語での図表の説明のしかたと表現の基礎を学び、グループごとにテーマを決めてアンケートを使ったミニリサーチを行います。データの分析を行い、適切な図表を使って調査結果を発表します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。		1. Course introduction; What is Social Science? 2-3. Describing graphs and tables 4-5. Preparation for a group presentation 6-7. Group presentations and discussions 8-9. Designing and conducting a group research (topic, research question, survey questions, data collection, data analysis) 10. Designing a graph/table 11. Preparation for a group presentation 12-13. Group presentations 14. Review of group presentations 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。		
テキスト、参考文献	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) <i>Numbers: Data and statistics for the non-specialist</i> . Collins. その他教材は MyDOC で配布。		
評価方法	Active class participation 20%; Quizzes and tests 30%; Project assignments (group presentations x2) 50% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

13 年度以降	English (テーマ研究 b) / Selected Topics in Social Sciences b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
▼国際環境経済学科 3 年生のクラス指定科目です。 ▼日本や世界で起きている事象や問題を、社会科学の切り口で英語を使って調査し考察する、プロジェクトベースの英語科目です。この科目では、 基本的なデータ・図表の説明、ミニリサーチ、ディスカッション、発表、報告書作成などを通して、研究テーマについての理解と知識を深めるとともに、英語でのリサーチスキルも伸ばします。1 ～ 2 年次の英語科目で身につけた、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの力を授業活動ですべて統合して使いますので、さらに高いレベルの実践的な英語アカデミックスキルを習得することができます。 ▼秋学期は、春学期に習得した英語での図表の説明のしかたをさらに発展させ、グループごとに国際的な社会問題に関するテーマを選び、文献研究をもとに問題点を整理し、一次または二次データを使って解決に向けた提案を考察します。ポスター発表と調査報告書を作成します。 ▼原則として授業活動は英語で行います。 ▼資料配布、連絡、学習活動などにMyDOCを活用します。		1. Course introduction 2. Introduction to group research project on controversial social issues 3-6. Reading literature and developing a research question, Preparing for a poster presentation 7. Poster presentations 8-9. Designing a survey study and collecting data 10-14. Analyzing components of a research paper (e.g., abstract, organization, in-text citations, data analysis, references); Writing a research paper 15. Revising and editing a research paper	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教科書・補助教材の指定箇所の学習と、グループプロジェクトの調査・発表準備・論文作成などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。		
テキスト、参考文献	Rogers, L. & Willoughby, D. (2013) <i>Numbers: Data and statistics for the non-specialist</i> . Collins. その他教材は MyDOC で配布。		
評価方法	Active class participation 20%; Quizzes and tests 20%; Project assignments (group poster presentation and research paper) 60% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフ・ライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、効果的なトピック・センテンスや サポート・センテンスの書き方、効果的な接続語の使い方、情報や出来事、自分の考えを分かりやすく説明する文章の書き方を練習します。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけます。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。		第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス・タイピング練習 第2回 英文メールの書き方 第3回 英文メールの書き方 第4回 Punctuation and Capitalization 第5回 Paragraph Organization 第6回 Unity and Coherence 第7回 Brainstorming & Outlining 第8回 Descriptive Paragraphs 第9回 Descriptive Paragraphs 第10回 Process Paragraphs 第11回 Process Paragraphs 第12回 Process Paragraphs 第13回 Summary Writing 第14回 Summary Writing 第15回 Summary Writing	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	坂本・古屋・Hubenthal. (2002). <i>パラグラフ・ライティング入門-Thoughts into Writing</i> . 成美堂. 英文メールの書き方の教材とその他補助教材は、各自 My DOC よりダウンロードすること。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 ▼ 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、文献を引用して説得力のあるパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。 ▼ 課題にきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見を交換することが求められます。 ▼ MyDOC上で、授業に関する連絡、宿題・課題提出、資料配布、グループワークを行います。		第1回目の授業でクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第1回 ガイダンス 第2回 Review of Paragraph Organization 第3回 Classification Paragraphs 第4回 Classification Paragraphs 第5回 Classification Paragraphs 第6回 Cause and Effect Paragraphs 第7回 Cause and Effect Paragraphs 第8回 Cause and Effect Paragraphs 第9回 Comparison and Contrast Paragraphs 第10回 Comparison and Contrast Paragraphs 第11回 Comparison and Contrast Paragraphs 第12回 Opinion Paragraphs 第13回 Opinion Paragraphs 第14回 Opinion Paragraphs 第15回 Wrap-up	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指定される教科書の練習問題またはライティング課題を行って、次の授業に参加すること。		
テキスト、参考文献	坂本・古屋・Hubenthal. (2002). パラグラフ・ライティング入門-Thoughts into Writing. 成美堂. 補助教材は各自 MyDOC からダウンロードすること。		
評価方法	積極的な授業活動への参加、ライティング課題、期末テストなどによる総合評価。 【注】原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
英語を読んで聞いて、それに反応して書く、そしてそのスピードを上げる、ということを目標とする。 授業自体は、 1) 担当者が読み上げる英文を英語でまとめる 2) 担当者が読み上げる英文を日本語でまとめる 3) あらかじめ配布する questions を、担当者が読み上げる英文を聞いて、それに答える 4) その週に読む英文に関して、学生が各々質問を 5 つくらい作ってきて、それに他の学生が答える というような形で進められる。 ひとつの単元が終わった時点で、英作が要求されること、念頭に置いておくこと。		1. Itroduction 2. Chapter 1, “Right Brain, Left Brain” 3. 同上 4. Chapter 2, “Left Brain, Right Brain” 5. 同上 6. Chapter 3, “Live a Little: Eat Potatoes” 7. 同上 8. Chapter 4, “Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes” 9. 同上 10. Chapter 5, “Tihar: Festival of Lights” 11. 同上 12. Chapter 6, “Turning Fifteen” 13. 同上 14. Chapter 7, “Louis Invents Braille 15. 同上	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（ EGAP = English for General Academic Purposes ）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習、復習は前提である。		
テキスト、参考文献	Weaving It Together 2 (Henle Cengage Learning)		
評価方法	英作文（5 点×7）、テスト（65 点）、授業への参加度合い。なお、原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期も、引き続き、上記のような進め方で授業を進めていく。「英語脳」(などといったものはないが、わかりやすいので書かせてもらう)、つまり、英語で input して、日本語に直さず、そのまま英語で output する、という授業を進める。		1. 前期テストの返却 2. Chapter 8, “The World’s Most Unusual Millionaire” 3. 同上 4. Chapter 9, “A Dangerous Light” 5. 同上 6. Chapter 10, “Killer Bees on the Attack” 7. 同上 8. Chapter 11, “A Yahoo Is Born” 9. 同上 10. Chapter 12, “Biotechnology: Changing Living Things” 11. 同上 12. Chapter 13, “Flowers, Dishes, and Dresses” 13. 同上 14. Chapter 14, “What’s in a Name?” 15. 同上	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	春学期同様、予習、復習は前提である。		
テキスト、 参考文献	同上		
評価方法	同上		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「パラグラフ・ライティング」(PW)と呼ばれる内容を中心的な課題とするライティングの選択科目です。従って、この課題に即したテキストを用いて、通年で段階的に、PW のスキル・アップを図ってゆくことを目指します。「和文英訳」とは根本的に異なる授業内容ですが、一方では、「エッセイ・ライティング」の基礎と位置付けることも可能です。かなり<理屈っぽい>内容も含み、理屈なしの実践は不可能なため、実践の前にPWの基礎的な理屈の習得が不可欠です(この理屈は、獨協の「リーディング」との関連性が大です)。テキストとプリント教材で理屈の習得と初歩的な実践までをカバーしてゆく授業です。 《TOEIC のスコアが 300 点を少し超えたくらいから 450 点くらいまでの学生を、授業の対象として想定しています》 【成績に関わる学習内容】 ①テキストの練習問題(発表・努力点) ②プリント教材を用いた(センテンスの数が 10 前後の)PW の実践。ワープロ文字で提出(計4回)。英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしません。 ③小テスト * 詳しくは、「総合ガイダンス」で述べます 【注】 就職活動による欠席は一切認めません		以下の内容は、基本的な進行予定です。 1. 総合ガイダンス (*履修学生未確定) プリント配布 2. Chap. 1 “topic sentence” 3. Chap. 1 (+プリント教材) 4. Chap. 2 “specific details” 5. Chap. 2 (+プリント教材) 6. Chap. 3 “time order” 7. Chap. 3 (+プリント教材)【PW1 提出】次回解説 8. Chap. 4 “space order” 9. Chap. 4 (+プリント教材)【PW 2 提出】次回解説 10. Chap. 5 “process and direction” 11. Chap. 5 (+プリント教材)【PW 3 提出】次回解説 12. Chap. 6 “cause and effect” 13. Chap. 6 (+プリント教材)【PW 4 提出】次回解説 14. プリント教材 15. 【小テスト】 授業のまとめ 【PW 提出】センテンス 10 前後の英文(ワープロ文字、計4回)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語(EGAP = English for General Academic Purposes)」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に、テキストの指定された箇所を精読しておいてください。 毎回、事後に、授業内容の再確認を怠らないようにしてください。		
テキスト、参考文献	Hisatake Jimbo / Richard B. Murto, <i>Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs</i> (Macmillan)		
評価方法	PW(4 回)40%+発表・努力 30%+小テスト 30% 【原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない(遅刻は0.5回欠席)】 【注】就活の欠席は認めない		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「ライティング I a」の続きです。 授業の方針は、原則的に、「ライティング I a」と同じです。 ただし、PW の提出が5回になります。 【秋学期から履修を希望する学生に】 第1回の授業になるべく出てください。授業の進め方とパラグラフ・ライティングの説明があります。 【春学期に履修した学生に】 第2回と第3回目の授業は、前期の復習内容になります。 秋学期から履修する学生がいなくても復習的な内容にします。その場合、テキストにも触れますが、新たなプリント教材も用意します。 * 詳しくは、第1回「総合ガイダンス」で述べます。 【注】 <u>就職活動による欠席は一切認めません</u>		以下の内容は、基本的な進行予定です。 1. 総合ガイダンス（＊履修学生未確定）プリント配布 2. Chap. 1 “topic sentence”（+プリント教材） 3. Chap. 2 “specific details”（+プリント教材） 4. Chap. 7 “example” 5. Chap. 7（+プリント教材）【PW 1 提出】次回解説 6. Chap. 8 “definition” 7. Chap. 8（+プリント教材）【PW 2 提出】次回解説 8. Chap. 9 “classification” 9. Chap. 9（+プリント教材）【PW 3 提出】次回解説 10. Chap. 10 “comparison and contrast” 11. Chap. 10（+プリント教材）【PW 4 提出】次回解説 12. プリント教材 13. プリント教材 【PW 5 提出】次回解説 14. プリント教材 15. 【小テスト】 授業のまとめ 【PW 提出】センテンス 10 前後の英文（ワープロ文字、計5回）	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に、テキストの指定された箇所を精読しておいてください。 毎回、事後に、授業内容の再確認を怠らないようにしてください。		
テキスト、参考文献	Hisatake Jimbo / Richard B. Murto, <i>Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs</i> (Macmillan)		
評価方法	PW(5 回)50%+発表・努力 20%+小テスト 30% 【原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない（遅刻は0.5回欠席）】【注】就活の欠席は認めない		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
Eメールの普及によってライティングの重要性が高まってきた。この授業では、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。まず、パラグラフの構造を学び、さらにさまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。「量の上の水練」という言葉があるように、ライティングもその方法を理解するだけでなく、実際に書くことではじめて技量が向上する。 授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中には数回の課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待しています。		1.ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2.The Topic Sentence of the Paragraph(1) 3. The Topic Sentence of the Paragraph(2) 4. The Topic Sentence of the Paragraph(3) 5. The Specific Details of the Paragraph(1) 6. The Specific Details of the Paragraph(2) 7. The Specific Details of the Paragraph(3) 8. Time Order(1) 9. Time Order(2) 10. Time Order(3) 11. Space Order(1) 12. Space Order(2) 13. Space Order(3) 14. Process and Direction(1) 15. Process and Direction(2)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して英文を作成し、作成した英文をブラッシュアップする。		
テキスト、 参考文献	<i>Points That Communicate 2nd edition</i> (Macmillan Language House)		
評価方法	期末レポート(70%),提出物(15%),板書発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	高畑 哲男
講義目的、講義概要		授業計画	
ライティング Ia に続いて、教科書とその他の実例を使ってエッセイライティングへのステップであるパラグラフライティングのスキルアップを図る。 さまざまな角度からパラグラフを具体的に知り、自ら書くことによって「効果的な」英文を書く力をつけてもらう。 「量の上の水練」という言葉があるように、パラグラフもその方法を理解するだけではなく、実際に書くことではじめて技量が向上することをよく理解してもらいたい。 授業では教科書の英文理解から始めて、プリントも積極的に活用しながら文章の要約、記事の見出し付けも交えてのライティングをおこなう。なお、学期中には数回の課題提出と指名発表を求める。熱意のある受講者を期待しています。		1. ガイダンス（授業内容と進行計画、その他） 2. Cause and Effect(1) 3. Cause and Effect(2) 4. Cause and Effect(3) 5. Examples(1) 6. Examples(2) 7. Examples(3) 8. Definition(1) 9. Definition(2) 10. Definition(3) 11. Classification(1) 12. Classification(2) 13. Classification(3) 14. Comparison and Contrast(1) 15. Comparison and Contrast(2)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の当該箇所を熟読して英文を作成し、作成した英文をブラッシュアップする。		
テキスト、参考文献	Points That Communicate 2nd edition (Macmillan Language House)		
評価方法	期末レポート(70%),提出物(15%),板書発表を含む授業参加、貢献(15%)によって評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	W. へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to build confidence in your conversation and discussion skills through exploring a variety of personal and social issues. By the end of this course, you will be able to: 1. Discuss and understand topics and themes, which relate to everyday life. 2. Share your point of view with other students and the teacher. 3. Feel an improvement in your skills in comprehension, critical thinking and self-expression.		1. Course Orientation 2. Unit 1: Friends 3. Unit 1: Friends 4. Unit 2: Free Time 5. Unit 2: Free Time 6. Unit 3: The Past 7. Unit 3: The Past 8. Midterm Speaking Assessment 9. Unit 4: The Family 10. Unit 4: The Family 11. Unit 5: Work 12. Unit 5: Work 13. Unit 6: City Life 14. Unit 6: City Life 15. Final Speaking Assessment	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to preview the lesson before each class. After the class, students are required to review the content of the lesson and prepare a short talk for the next class.		
テキスト、参考文献	Communication Strategies 1 by David Paul. Cengage Learning		
評価方法	Midterm and Final Speaking Assessments (2 x 20%), Short Presentations (40%), Participation (20%) 「原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.」		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	W. へイ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to build confidence in your conversation and discussion skills through exploring a variety of personal and social issues. By the end of this course, you will be able to: 1. Discuss and understand topics and themes, which relate to everyday life. 2. Share your point of view with other students and the teacher. 3. Feel an improvement in your skills in comprehension, critical thinking and self-expression.		1. Course Orientation 2. Unit 7: Beliefs 3. Unit 7: Beliefs 4. Unit 8: The Future 5. Unit 8: The Future 6. Unit 9: Transportation 7. Unit 9: Transportation 8. Midterm Speaking Assessment 9. Unit 10: Vices 10. Unit 10: Vices 11. Unit 11: Marriage 12. Unit 11: Marriage 13. Unit 12: Animals 14. Unit 12: Animals 15. Final Speaking Assessment	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to preview the lesson before each class. After the class, students are required to review the content of the lesson and prepare a short talk for the next class.		
テキスト、参考文献	Communication Strategies 1 by David Paul. Cengage Learning		
評価方法	Midterm and Final Speaking Assessments (2 x 20%), Short Presentations (40%), Participation (20%) 「原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.」		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking skills course intended to provide students with the opportunity to use the English they have already acquired in challenging and meaningful conversation activities. During the first semester, students will learn and practice conversation and discussion strategies that can contribute to their fluency and increase their confidence in their speaking abilities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and discussion strategies.		1. Class Orientation 2. Discussion Skills- Opinion, Reasons, Support 3. Unit 1: First Impressions- Social Issues 4. Unit 1 (cont.): Unit Quiz; Discussion Activity 5. Unit 2: Traffic Jam- Environmental Issues 6. Unit 2 (cont.): Unit Quiz; Discussion Activity 7. Unit 3: Local Languages: Education Issues 8. Unit 3 (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 9. Unit 4: Getting Ahead- Family Issues 10. Unit 4 (cont) Unit Quiz; Discussion Activity 11. Unit 5: Forever Single- Marriage Issues 12. Unit 5 (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 13. Unit 6: What Are Friends For? Friendship Issues 14. Unit 6 (cont) Unit Quiz; Discussion Activity 15. Review; Final Test Preparation/Practice	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should plan on at least one hour per week for review, preview/preparation and any outside research required for class activities and discussions.		
テキスト、参考文献	Impact Issues 2 Richard Day; Joseph Shaules; Junko Yamanaka Pearson Longman; 2009		
評価方法	Active Participation in class activities:40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a speaking course intended to provide students with the opportunity to add to the conversation and discussion strategies that were introduced in the first semester and use them in a variety of speaking activities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and discussion strategies.		1. Orientation 2. Discussion Skills- Review 3. Unit 7: What's For Dinner^ Nutrition Issues 4. Unit 7 (cont) Unit Quiz; Discussion Activity 5. Unit 8: Cyber Bullying- Social Issues 6. Unit 8 (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 7. Unit 9: Taking Care of Father- Family Issues 8. Unit 9 (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 9. Unit 11:International Relationship- Msrriage 10. Unit 11: (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 11. Unit 12: Too Little Too Late- Environment 12. Unit 12: (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 13. Unit 15: Living Together- Marriage Issues 14. Unit 15 (cont.) Unit Quiz; Discussion Activity 15. Review; Final Test Preparation/Practice	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（ EGAP = English for General Academic Purposes ）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should plan on at least one hour per week for review, preview/preparation and any outside research required for class activities and discussions.		
テキスト、参考文献	Impact Issues 2 Richard Day; Joseph Shaules; Junko Yamanaka Pearson Longman; 2009		
評価方法	Active Participation in class activities:40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. <i>In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.</i>		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	R. J. パルカ
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve.		1. Introduction to course 2. Ch. 1: Meeting your classmates 3. Ch. 1: continued 4. Ch. 2: Talking to your teachers 5. Ch. 2: continued 6. Ch. 3: Personality: knowing yourself 7. Ch. 3: continued 8. Mid-term speaking evaluation 9. Ch. 4: Talking about school 10. Ch. 4: continued 11. Ch. 5: Study strategies and learning goals 12. Ch. 5: continued 13. Ch. 6: Club activities 14. Ch. 6: continued 15. Final speaking evaluation	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students will be expected to complete approximately one hour of homework each week to preview or review course content		
テキスト、 参考文献	Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English language Program, Dokkyo University)		
評価方法	Participation: 40%, Mid-term speaking evaluation: 30%, Final speaking evaluation: 30%		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。		Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – Mid-term speaking evaluation Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – Final in-class speaking evaluation	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to study vocabulary independently outside of class hours, and to review classroom material in preparation for spoken and written evaluations.		
テキスト、参考文献	Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Program, Dokkyo University)		
評価方法	Classroom participation/homework 30%, In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%), Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. フォー
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.		1. Welcome/Introduction 2-3. Friends 4-5. Free time 6-7. The Past 8. Skits/Vocabulary quiz 9-10. Family 11-12. Work 13-14. City Life 15. Skits/Vocabulary quiz	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.		
テキスト、参考文献	Communication Strategies 1 (Cengage)		
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent, Mid-term Speaking evaluations: 30 percent, Final Speaking Evaluation: 30 percent, Class participation: 20 percent. NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. フォー
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to develop communicative competence through Pair and Group Activities on a number of carefully chosen topics that are naturally interesting to young people like you. Emphasis will be placed on using vocabulary, fun language activities and expressions to help you develop interpersonal communication. By the end of the course, I hope you will be able to have more meaningful, fluent and active conversations, void of long and unnecessary silences. In fact, that your conversations will be more attention grabbing.		1. 2. Welcome back/Beliefs 3.4. The Future 4-5. Transportation 6-7. Vices 8. Skits/Vocabulary quizzes 9-10. Marriage 11-12. Animals 13.14. Computers 15. Skits/Vocabulary quiz	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students in groups are expected to spend at least an hour a week to write, rehearse and present a skit after every four lessons, through which they show and understanding of the vocabulary, language and key expressions learned.		
テキスト、参考文献	Communication Strategies 1 (Cengage)		
評価方法	Grading criteria: Vocabulary quizzes: 20 percent, Mid-term Speaking evaluations: 30 percent, Final Speaking Evaluation: 30 percent, Class participation: 20 percent. NB: Four or more absences will automatically result in a grade of 'F'		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.		1. Course introduction; Preparing to speak. 2. Topic 1 3. Topic 2 4. Topic 3 5. Topic 4 6. Topic 5 7. Topic 6 8. Mid-term speaking test 9. Topic 7 10. Topic 8 11. Topic 9 12. Topic 10 13. Topic 11 14. Topic review and test practice 15. Speaking test (in pairs)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students will be expected to choose one current/recent news topic to summarize in class each week		
テキスト、 参考文献	No textbook required – handouts will be provided.		
評価方法	40% - Participation; 30% - Mid-term speaking test (in pairs); 30% - Final speaking test		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S. A. フルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.		1. Course introduction; Preparing to speak. 2. Topic 1 3. Topic 2 4. Topic 3 5. Topic 4 6. Topic 5 7. Topic 6 8. Mid-term speaking test 9. Topic 7 10. Topic 8 11. Topic 9 12. Topic 10 13. Topic 11 14. Topic review and test practice 15. Speaking test (in pairs)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to choose one current/recent news topic to summarize in class each week.		
テキスト、参考文献	No textbook required – handouts will be provided.		
評価方法	40% - Participation; 30% - Mid-term speaking test (in pairs); 30% - Final speaking test		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキングⅡa) / (Speaking in Academic ContextsⅡa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 To develop your practical English skills, especially your skills of speaking and giving formal presentations. 講義概要 You will do three projects: one by individuals; the other two by groups. With each project, you begin with getting your own ideas on a given theme, write them in an organized and logical manners, make PowerPoint slides, prepare handouts and rehearse. Each project is completed by giving a formal presentation to the class. 受講生への要望 Talk a lot. Don't be afraid of making mistakes.		1. Introduction: Basics of a Presentation 2. Project 1: Introducing Yourself (Individual; Descriptive/Listing Speech) , Preparation 1 3. Project 1: Preparation 2 4. Project 1: Preparation 3 5. Project 1: PRESENTATION 1 6. Project 2: News Digest (Group; Narrative Speech), Preparation 1 7. Project 2: Preparation 2 8. Project 2: Preparation 3 9. Project 2: PRESENTATION 2 10. Project 3: Promoting Your Summer Plans (Group; Process/Listing/Persuasive Speech), Preparation 1 11. Project 3: Preparation 2 12. Project 3: Preparation 3 13. Project 3: PRESENTATION 3-1 14. Project 3: PRESENTATION 3-2 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	A lot of homework; refer to the textbook		
テキスト、参考文献	Presentations to Go（松岡昇著、センゲージラーニング）		
評価方法	Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: Four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキングⅡb) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 To develop your practical English skills, especially your skills of speaking and giving formal presentations. 講義概要 The fall semester of this course features “Talking about Japan (Yourself).” You will work on three projects (the first two by groups and the last one by individuals) and you will learn to introduce Japan to the world and also to discuss Japan’s social issues. Through these experiences, you will build your self-confidence in public speaking as well as improve your presentation skills. 受講生への要望 Talk a lot. Don’t be afraid of making mistakes.		1. Introduction: Basics of a Presentation 2. Project 1: Introducing Japan (Group; Descriptive/Comparative) Preparation 1 3. Project 1: Preparation 2 4. Project 1: Preparation 3 5. Project 1: PRESENTATION 1 6. Project 2: Discussing Social Issues (Group; Cause-and-Effect/Opinion) , Preparation 1 7. Project 2: Preparation 2 8. Project 2: Preparation 3 9. Project 2: PRESENTATION 2 10. Project 3: Talking about Your Future Plans (Individual; Dada-Illustration), Preparation 1 11. Project 3: Preparation 2 12. Project 3: Preparation 3 13. Project 3: PRESENTATION 3-1 14. Project 3: PRESENTATION 3-2 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	A lot of homework; refer to the textbook		
テキスト、参考文献	Presentations to Go（松岡昇著、センゲージラーニング）		
評価方法	Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: Four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II a) / (Speaking in Academic Contexts II a: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	J. ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning should be fun. We will use English every day. We will learn how to make our presentations more exciting, more interesting We will watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u>		1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2 nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Present to the class 10. begin 3 rd presentation 11. work on presentation 12. present first draft in groups 13. present to full class 14. final analysis 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.		
テキスト、 参考文献	No text. Please save the papers I give you in class.		
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% Homework 15%Quizzes and examinations 25% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(スピーキング II b) / (Speaking in Academic Contexts II b: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	J. ハサウェイ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning should be fun. We will use English every day. We will learn how to make our presentations more exciting, more interesting We will watch presentations. We will use YouTube, TED talks, etc. Students will do 3 major presentations each semester. We will analyze 3 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning takes practice. <u>To learn, you must come to class.</u>		1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2 nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10. begin midterm presentation 11. practice debating 12. formal debate 13. present to full class 14. present 15. Review	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You will compose presentations, and view professional presentations outside of class. A good presentation requires practice.		
テキスト、参考文献	No text. Please save the papers I give you in class.		
評価方法	Class work (Formal Presentations): 60% Homework 15%Quizzes and examinations 25% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIa) / (Academic Reading and Writing Strategies IIIa) English 311-a (Reading English for Specific Purposes -a)	担当者	中西 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目(選択)です。 ▽ 対象:外国語学部(独・仏)、法学部(法律・総政・国関法)で、<u>TOEICスコアがおおむね500点以上</u>の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。春学期のみ、または通年で履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は英語。 ▽ 指定図書は“Writing to communicate Book 3”です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▽初回授業での説明を聞き漏らさないようにすること。		1. “Writing in English” & Chapter 1 2. Chapter 1 The Process of writing 3. Chapter 1 The Process of writing 4. Chapter 1 The Process of writing 5. Chapter 2 The cause and effect essay 6. Chapter 2 The cause and effect essay 7. Chapter 2 The cause and effect essay 8. Chapter 3 The problem and solution Essay 9. Chapter 3 The problem and solution Essay 10. Chapter 3 The problem and solution Essay 11. Chapter 4 Summarizing and responding 12. Chapter 4 Summarizing and responding 13. Chapter 4 Summarizing and responding 14. Chapter 4 Summarizing and responding 15. Review and Final assignment submission	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト、参考文献	▽指定教科書 Writing to communicate. (Pearson) Book 3		
評価方法	Active Participation 20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam 30%		

08 年度以降 07 年度以前	English(リーディング IIIb) /(Academic Reading and Writing Strategies IIIb) English 311-b (Reading English for Specific Purposes -b)	担当者	中西 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
▽ Academic Reading Strategies IabとIIab を履修した学生が、3年次に履修する、全カリ英語の重要なリーディング上位科目(選択)です。 ▽ 対象:外国語学部(独・仏)、法学部(法律・総政・国関法)で、<u>TOEICスコアがおおむね500点以上</u>の学生を対象とします。 ▽ 選択科目です。秋学期のみ、または通年で履修となります。 ▽ 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠なアカデミックな文章を、<u>効果的かつ批判的に読む力をつけ、さらに、それらの文章を参考にしながら、自分でも書けるようにすること</u>を目的とします。使用言語は原則として英語。 ▽ 指定図書は“Writing to communicate Book 3” です。良い文章を読み、英語の文章の構成を学び、自分でも書いてみる、という一連の活動を通して、良い読み手・書き手を目指すものです。1, 2年次とは一味違う授業内容となります。リーディングは英文和訳ではなく、ライティングは和文英訳ではありません。大学生らしい英語の読み方・書き方を学び、英語でのグループワークやディスカッションにも積極的に参加してください。 ▽初回授業での説明を聞き漏らさないようにすること。		1. Chapter 5 Responding to a travel story 2. Chapter 5 Responding to a travel story 3. Chapter 5 Responding to a travel story 4. Chapter 6 Two sides of an issue 5. Chapter 6 Two sides of an issue 6. Chapter 6 Two sides of an issue 7. Chapter 7 The first draft 8. Chapter 7 The first draft 9. Chapter 7 The first draft 10. Chapter 8 Doing research 11. Chapter 8 Doing research 12. Chapter 8 Doing research 13. Chapter 9 Revising and editing 14. Chapter 9 Revising and editing g 15. Review and Final assignment submission	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストで指定された箇所を読み、課題に取り組む。事後には、修正箇所を見直すこと。		
テキスト、参考文献	▽指定教科書 Writing to communicate. (Pearson) Book 3		
評価方法	Active Participation 20 % Assignments (extensive reading & writing assignments) 50% Final Exam 30%		

08 年度以降 07 年度以前	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。<u>抽選に合格したら必ず履修する覚悟のある方だけ登録してください。</u> 受講条件：・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので学習量は特に多いことを理解すること。 受講希望者は、第1回の授業に参加して下さい。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 (listening), 4. テキスト Day 6 (listening), 語彙実力テスト 1 5. テキスト Days 9-10 (listening), 語彙実力テスト 2 6. テキスト Day 11 (listening), 語彙実力テスト 3 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (reading), 語彙実力テスト 4 10. テキスト Day 5 (reading), 語彙実力テスト 5 11. テキスト Days 7-8 (reading), 語彙実力テスト 6 12. テキスト Day 9 (reading), 語彙実力テスト 7 13. テキスト Day 10 (reading), 14. リーディング実力診断テスト 15. Wrap-up, 自己評価レポート	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	1. シラバスを参照して、学習箇所を予習しておく。2. 毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに e-learning を行うと同時に、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。		
テキスト、 参考文献	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク） 2. ぎゅっと e プログラム（体験版は http://gyutto-e.jp ）		
評価方法	積極的な授業参加 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室外での集中的で継続的な自主学習が必要です。<u>抽選に合格したら必ず履修する覚悟のある方だけ登録してください。</u> 受講条件：・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学期初めに設定した目標のユニット数をクリア ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・毎回の実力語彙テスト ・期末テスト 本科目は半期完結なので、通年受講はできません。また、2 単位科目なので<u>学習量は特に多いこと</u>を理解すること。 受講希望者は、第 1 回の授業に参加して下さい。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 (listening), 4. テキスト Day 6 (listening), 語彙実力テスト 1 5. テキスト Days 9-10 (listening), 語彙実力テスト 2 6. テキスト Day 11 (listening), 語彙実力テスト 3 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (reading), 語彙実力テスト 4 10. テキスト Day 5 (reading), 語彙実力テスト 5 11. テキスト Days 7-8 (reading), 語彙実力テスト 6 12. テキスト Day 9 (reading), 語彙実力テスト 7 13. テキスト Day 10 (reading), 14. リーディング実力診断テスト 15. Wrap-up, 自己評価レポート	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	1. シラバスを参照して、学習箇所を予習しておく。2. 毎回の授業の最後に出される指示に従い、次回の授業までに e-learning を行うと同時に、詳細なジャーナルを作成して次の授業で提出する。		
テキスト、 参考文献	1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』（ロバート・ヒルキ他著、アルク） 2. ぎゅっと e プログラム（体験版は http://gyutto-e.jp ）		
評価方法	積極的な授業参加 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20%、学習プランと 20 時間以上の自習、自己評価レポート 20%、授業内語彙実力テスト 10%、期末テスト 30%。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	English(コンテンツ ii) / (English Explorations)	担当者	J. ラシーン
講義目的、講義概要		授業計画	
Although you will learn many new words in this class, this class is NOT about vocabulary learning. This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, independent research, online and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words: - What is Applied Linguistics? - What is a word? - How many English words are there? - What does it mean to know a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.		Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Applied Linguistics 3. What is a word? 4. Vocabulary Testing (This is not a test. This is a lesson about how to measure the number of words someone knows.) 5. Types of words: Content and function words 6. Types of word knowledge 7. Counting words: Lemmas and lexemes 8. Corpus Linguistics 9. Semantic relations between words 10. Word association 11. Vocabulary learning strategies 12. Vocabulary acquisition 13. Research projects 14. Research projects 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to prepare a research presentation outside of class time, to study vocabulary in preparation for in-class quizzes, and to review class materials for the final exam.		
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Participation: 10%,Research project: 20%,Vocabulary quizzes: 40% ,Final exam: 30% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)		

08 年度以降	English（コンテンツ iii）_選択/ English Explorations (Critical Thinking in English)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1~4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。<u>授業活動はすべて英語</u>です。TOEIC400 点以上を受講生の英語力の目安としますが、積極的に英語を使い授業に参加する努力ができる学生であればその限りではありません。 ▼ English Explorations という科目では、言語や社会に関するひとつのテーマについて 1 学期間「英語で」学ぶことにより、テーマに関する理解を深め、英語力と思考力を伸ばします。 ▼ コンテンツ iii のテーマは「Critical Thinking」です。Critical thinking は毎日の生活でも重要ですが、特に大学での学びと研究、さらに職業生活では不可欠な思考法です。授業では英語で Critical thinking に関する基本用語と概念を理解し、身近な題材を使って、議論や主張とその論拠を批判的に分析する練習をします。次のアカデミック英語スキルを伸ばします。 (1) academic vocabulary, (2) analytical reading and writing (3) listening, (4) discussion, and (5) group presentation. ▼ MyDOC を使って学習活動、資料配布、課題提出をします。		1. Course introduction 2. What is critical thinking? 3. What is critical thinking?: Facts and opinions 4. What is critical thinking?: Putting evaluation into practice 5. Assessing arguments: Recognising strong or sound arguments 6. Assessing arguments: Strong or sound arguments 7. Assessing arguments: Poor argumentation strategies 8. Persuasion through language or pressure 9. Detecting bias: interviews, researchers, sources of funding 10. Detecting bias in research on a controversial issue 11. Group research: Reading and analysing arguments 12. Group research, academic presentation 13. Group research, effective slides and presentation 14. Group presentation & feedback 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。		
テキスト、参考文献	Nukui, C. (2015). <i>Critical Thinking: Student's Book</i> . Garnet. Reading: UK その他教材は MyDOC で配布。		
評価方法	Participation and homework (blogs & discussions on MyDOC) 30%; Group project and presentation 40%; Final exam 30% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。		1. G (文法)、R (読解)、L (リスニング)、W (単語) 2. G, R, L, W 3. G, R, L, W 4. G, R, L, W 5. まとめと確認テスト (1) 6. G, R, L, W 7. G, R, L, W 8. G, R, L, W 9. G, R, L, W 10. まとめと確認テスト (2) 11. G, R, L, W 12. G, R, L, W 13. G, R, L, W 14. G, R, L, W 15. 総括と学習到達度確認テスト	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes) 」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。		
テキスト、参考文献	授業において、指示します。		
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。		

08 年度以降	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原 伸一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、主として語彙を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。		1. G (文法)、R (読解)、L (リスニング)、W (単語) 2. G, R, L, W 3. G, R, L, W 4. G, R, L, W 5. まとめと確認テスト (1) 6. G, R, L, W 7. G, R, L, W 8. G, R, L, W 9. G, R, L, W 10. まとめと確認テスト (2) 11. G, R, L, W 12. G, R, L, W 13. G, R, L, W 14. G, R, L, W 15. 総括と学習到達度確認テスト	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語 (EGAP = English for General Academic Purposes) 」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業において使用したプリントについて、誤った部分を中心に復習する。また、次回の授業の理解を深めるため、単語リストの予習を行う。		
テキスト、参考文献	授業において、指示します。		
評価方法	原則として、4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。		

08 年度以降	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 音声でも文字でも「秒速 3 words で反応できる英語力」 ＝「使える英語」を身に付け、TOEIC で全員が 730 点以上 得点することを目標とする 講義概要 TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを 行う。教材の進度は、1 回の授業で 2 つの章をカバー。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3) 「秒速 3 words の語彙力」の増強 4) Listening/Reading Section の演習と解説 受講生への要望 ディクテーションとチャンク訳の宿題をしっかりとやる		1. 「国際コミュニケーションと TOEIC」について 2. Missions 1, 2: Shopping / At a Restaurant 3. Missions 3, 4: At an Airport / Entertainment 4. Missions 5, 6: At a Hotel / Job Hunting 5. Missions 7, 8: Telephoning / Negotiating 6. Missions 9, 10: Giving a Presentation / Appointments 7. Review 8. Missions 11, 12: At a Bank / On the Street 9. Missions 13, 14: Taking a Trip / Dealing with Troubles 10. Missions 15, 16: Renting an Apartment / Meetings 11. Missions 17, 18: Business Performance / Handling Customer Complaints 12. Missions 19, 20: Advertising / Parties 13. Review 14. 英語独習法 15. TOEIC 模擬テスト	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。		
テキスト、 参考文献	『現スコアから 150 点アップを実現する TOEIC Test 総合演習』（松岡昇、傍島一夫共著、松柏社）		
評価方法	小テスト：5 点 x 10 回＝50 点、模試：50 点 NB: Four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇 nbmatsuoka@ybb.ne.jp
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 音声でも文字でも「秒速 3 words で反応できる英語力」 =「使える英語」を身に付け、TOEIC で全員が 730 点以上得点することを目標とする。 講義概要 TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進度は、1 回の授業で 2 つの章をカバー。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3) 「秒速 3 words の語彙力」の増強 4) Listening/Reading Section の演習と解説 受講生への要望 ディクテーションとチャンク訳の宿題をしっかりとやる		1. 「国際コミュニケーションと TOEIC」について 2. Missions 1, 2: Shopping / At a Restaurant 3. Missions 3, 4: At an Airport / Entertainment 4. Missions 5, 6: At a Hotel / Job Hunting 5. Missions 7, 8: Telephoning / Negotiating 6. Missions 9, 10: Giving a Presentation / Appointments 7. Review 8. Missions 11, 12: At a Bank / On the Street 9. Missions 13, 14: Taking a Trip / Dealing with Troubles 10. Missions 15, 16: Renting an Apartment / Meetings 11. Missions 17, 18: Business Performance / Handling Customer Complaints 12. Missions 19, 20: Advertising / Parties 13. Review 14. 英語独習法 15. TOEIC 模擬テスト	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。		
テキスト、参考文献	『現スコアから 150 点アップを実現する TOEIC Test 総合演習』（松岡昇、傍島一夫共著、松柏社）		
評価方法	小テスト：5 点 x 10 回＝50 点、模試：50 点 NB: Four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	English(資格 III) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
▼ ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1~4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 ▼ TOEFL iBT は、英語圏の大学レベルの英語を理解する能力と、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングスキルを統合して、アカデミックな課題を遂行する能力を評価する試験です。授業では、TOEFL iBT テストの各パートで求められる英語力と基本の test-taking strategies を理解し、テスト問題の実践練習を繰返して行います。さらに、テスト問題練習に加え、様々な学習活動を通してアカデミックな英語コミュニケーションの実践力を伸ばす練習も行います。 ▼ 将来、英語圏大学への留学を考えている学生、TOEFL に関心がある学生、より高度なアカデミック英語を学びたい学生に適した科目です。 ▼ MyDOC を使って連絡、教材・資料配布、学習活動、課題提出などをしますので、毎週定期的に確認できるように設定してください。		1. Course introduction 2. Overview of the TOEFL iBT 3. Listening section 4. Writing: Independent (Q2) 5. Writing Integrated (Q1) 6. Reading section 7. Speaking: independent 8. Speaking: integrated (Q3&5) 9. Speaking: integrated (Q4) 10. Summarizing practice 11. Summarizing practice 12. Practice test 13. Practice test 14. Reviewing, Final exam (Speaking) 15. Final exam (Reading, Listening, Writing)	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、次の授業までに教科書・補助教材の指定箇所の学習と課題提出を行う。		
テキスト、参考文献	ETS (2013). <i>Official TOEFL iBT Test</i> . McGrawHill. その他教材は MyDOC で配布。		
評価方法	Participation 20%; Assignments (e.g Listening/Reading Summary Reports, Writing, Discussion Forum & Blogs on MyDOC) 40 %; Final exam 40% 【注】原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

08 年度以降	English(資格 IV) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will help students to prepare to take the IELTS (International English Language Testing System) exam. Students will first be given an introduction to the contents of the exam. Then, each week they will learn both study strategies and test-taking strategies for improving their performance on the exam. They will have an opportunity to complete a large number of practice questions for all four sections of the test, as well as to take a practice test. Although the course is primarily designed for students who actually intend to take the IELTS, it is also open to students who want to improve their general academic English skills. *This course is designed for students with TOEIC scores of 450 or above.		1. Introduction to the course / IELTS exam 2. Unit 1 3. Unit 1 (continued) 4. Unit 2 5. Unit 2 (continued) 6. Unit 3 7. Unit 3 (continued) 8. Unit 4 9. Unit 4 (continued) 10. Unit 5 11. Unit 5 (continued) 12. Unit 6 13. Unit 6 (continued) 14. Review 15. Final exam	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to do approximately one hour of homework per week in order to preview and/or review the course content.		
テキスト、参考文献	To be announced on the first day of class.		
評価方法	Class participation: 20%, Homework: 30%, Final exam: 50% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.		

08 年度以降	English（発音）／ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期1回のみです。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーション型な授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		1. Course Introduction; Ch.2 Using a dictionary for pron. 2. Ch.3 Consonant sound and spellings 3. Ch.1 Your pronunciation profile (recording) 4. Feedback session 5. Ch.4 Syllables and word endings 6. Ch.5 Stress in words 7. Ch.6 Stress in longer words 8. Midterm speech presentations 9. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 10. Ch.8 Thought groups and focus words 11. Ch.9 Intonation: Falling and rising tones 12. Ch.10 Linking and connected speech 13. Tutorials 14. Final speech presentations; Ch.1 (recording) 15. Review ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	Grant, L. (2010). <i>Well Said, Third Edition</i> . Cengage.		
評価方法	授業参加 30% 課題 10% 中間発表 10% 期末発表 20% 期末試験 30% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降	English（発音）／ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語・フランス語・経済・経営・国際環境経済・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の内容が同一のため、履修は半期1回のみです。 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるよう、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニケーション型な授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 ・母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 ・イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 ・発音記号と辞書の使い方 ・英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。		1. Course Introduction; Ch.2 Using a dictionary for pron. 2. Ch.3 Consonant sound and spellings 3. Ch.1 Your pronunciation profile (recording) 4. Feedback session 5. Ch.4 Syllables and word endings 6. Ch.5 Stress in words 7. Ch.6 Stress in longer words 8. Midterm speech presentations 9. Ch.7 Rhythm in phrases and sentences 10. Ch.8 Thought groups and focus words 11. Ch.9 Intonation: Falling and rising tones 12. Ch.10 Linking and connected speech 13. Tutorials 14. Final speech presentations; Ch.1 (recording) 15. Review ※上記の予定は担当教員により多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習・復習およびスピーチの練習。各週の課題は担当教員の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	Grant, L. (2010). <i>Well Said, Third Edition</i> . Cengage.		
評価方法	授業参加 30% 課題 10% 中間発表 10% 期末発表 20% 期末試験 30% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 a)/(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEICの得点が、<u>300点台後半から400点台半ば程度</u>の学生が受講することが望まれます。		1. オリエンテーション、現在形、現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形 4. 過去形 5. 過去形 6. 未来形 7. 未来形 8. 名詞・冠詞・数詞 9. 名詞・冠詞・数詞 10. 現在完了形・過去完了形 11. 現在完了形・過去完了形 12. 疑問文・熟語 13. 疑問文・熟語 14. 総復習 15. 総復習	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。		
テキスト、参考文献	テキスト： <i>Grammar Form and Function 2A</i> (McGrawHill)		
評価方法	積極的な授業参加 (20%) 課題 (10%) 小テスト(30%) 期末試験(40%)とする。 原則として、 <u>4回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。</u>		

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 b)/(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とします。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてます。単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていきます。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアワークで実際に使用する活動を行います。更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図ります。 TOEIC の得点が、300点台後半から400点台半ば程度の学生が受講することが望まれます。		1. オリエンテーション、動名詞・不定詞 2. 動名詞・不定詞 3. 動名詞・不定詞 4. 比較級・最上級 5. 比較級・最上級 6. 受動態 7. 受動態 8. 接続詞・名詞節 9. 接続詞・名詞節 10. 形容詞節・副詞節 11. 形容詞節・副詞節 12. 間接話法・仮定法 13. 間接話法・仮定法 14. 総復習 15. 総復習	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各単元ごとに行われる小テストには、よく復習をして臨んでください。 また、ライティングの課題が出されるので、指示に従って提出してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Grammar Form and Function 2B (McGrawHill)		
評価方法	積極的な授業参加 (20%) 課題 (10%) 小テスト(30%) 期末試験(40%)とする。 原則として、4回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 a)/(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	豊田 宣是
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、文章を正しく理解し、また自分の考えを正確に伝えるための基盤となる英文法のおさらいをします。発表形式を採用し、毎回、担当の学生に文法事項の説明と、練習問題の解説を行ってまいります。一回の授業で扱う範囲が広いので、全てを取り上げることはできません。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で解決できるように心がけてください。		1. Orientation 2. Module 1: Nouns and articles 3. Module 2: Possessives, pronouns and quantifiers 4. Module 3: Prepositions 5. Module 4: Adjectives and adverbs 6. Module 5: Present tenses 7. Reviews 8. Reviews 9. Module 6: Past tenses 10. Module 7: Present perfect 11. Module 8: Future forms 12. Module 9: Modal verbs 13. Module 10: Conditionals 14. Reviews 15. Reviews	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定された箇所を読み、練習問題を解いておいてください。		
テキスト、参考文献	Mark Foley, Diane Hall, <i>MyGrammarLab Intermediate B1/B2</i> , Pearson.		
評価方法	中間試験（40%）、期末試験（40%）、発表（20%）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象にはなりません。		

08 年度以降 07 年度以前	English (基礎文法 b)/(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	豊田 宣是
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、文章を正しく理解し、また自分の考えを正確に伝えるための基盤となる英文法のおさらいをします。発表形式を採用し、毎回、担当の学生に文法事項の説明と、練習問題の解説を行ってまいります。一回の授業で扱う範囲が広いので、全てを取り上げることはできません。学生は自主的に学習し、わからないことがあれば、授業内で解決できるように心がけてください。		1. Oriantation 2. Module 11: Word order and sentence patterns 3. Module 12: Verbs with -ing forms and infinitives 4. Module 13: Reported Speech 5. Module 14: Relatives, particles and other clauses 6. Module 15: Linking words 7. Reviews 8. Reviews 9. Module 16: Passive forms 10. Module 17: Word combinations 11. Module 18: Word formation 12. Module 19: Formal and Written English 13. Module 20: Spoken English 14. Reviews 15. Reviews	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定された箇所を読み、練習問題を解いておいてください。		
テキスト、参考文献	Mark Foley, Diane Hall, <i>MyGrammarLab Intermediate B1/B2</i> , Pearson.		
評価方法	中間試験（40%）、期末試験（40%）、発表（20%）原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象にはなりません。		

08 年度以降 07 年度以前	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEIC の得点が 400 点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 現在形・現在進行形 3. 過去形・過去進行形 4. 動名詞、so, neither の用法 5. 現在完了形と現在完了進行形 6. 現在完了形と過去形 7. 6 回目の授業までのまとめ 8. 疑問文 9. 過去完了、過去完了進行形 10. 目的語を 2 つ取る動詞、時を表す節 11. 間接話法（1） 12. mustn't と don't have to,の用法、 had better と would rather の用法 13. 推量の表現、so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法 15. 総復習	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外の英語学習に学んだ内容を反映するよう心がけること。		
テキスト、参考文献	Grammar three Third Edition (Oxford University Press)		
評価方法	授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	English(基礎文法 b)/ (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にはそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。また、補助教材を活用し、応用力をつけることを目指す。学部学科の枠を超えた学生が切磋琢磨し、積極的に授業に参加することを求める。 TOEIC の得点が 400 点台半ば以上の学生が受講することが望ましい。		1. オリエンテーション、仮定法過去・不可算名詞 2. 不定詞、使役動詞 3. need+ing ; have/get something done の用法 4. 関係詞 5. 間接疑問文 6. 必要・義務の表現、動詞句 7. 付加疑問・願望の表現（１）、可算名詞 8. 義務の表現 9. 不定詞（２）・動名詞（２） 10. 副詞・願望の表現（２） 11. 受動態（１） 12. 受動態（２） 13. 仮定法過去完了 14. 時制のまとめ 15. 総復習	
到達目標	学生が、「一般学術目的の英語（EGAP = English for General Academic Purposes）」を基盤として、各専攻分野共通の基本的な言語技能と英語を身に付け、また、主体的な「自律英語学習」ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で行う予定の解説を読み、問題を解いておくこと。授業内容を振り返り、教室外の英語学習に学んだ内容を反映するよう心がけること。		
テキスト、参考文献	Grammar three Third Edition (Oxford University Press)		
評価方法	授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース ドイツ語 (Ia 基礎) ドイツ語 Ia (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
テキスト、 参考文献	清野 智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材 恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!）』（朝日出版社）2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース ドイツ語 (Ib 基礎) ドイツ語 Ib (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
テキスト、 参考文献	清野 智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材 恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!）』（朝日出版社）2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (Ia 基礎) ドイツ語 Ia (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得を目指します。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
テキスト、参考文献	清野 智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材 恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!）』（朝日出版社）2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (Ib 基礎) ドイツ語 Ib (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
テキスト、参考文献	清野 智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材 恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!）』（朝日出版社）2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (Ia 会話) ドイツ語 Ia (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。		
テキスト、参考文献	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (Ib 会話) ドイツ語 Ib (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実践的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。		
テキスト、参考文献	佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver：『CD 付き スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース ドイツ語 (IIa 基礎) ドイツ語 IIa (基礎)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験 (独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
テキスト、 参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』(郁文堂) 2012 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース ドイツ語 (IIb 基礎) ドイツ語 IIb (基礎)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (IIa 基礎) ドイツ語 IIa (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験 (独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』(郁文堂) 2012 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (IIb 基礎) ドイツ語 IIb (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (IIa 会話) ドイツ語 IIa (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。		
テキスト、参考文献	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社) 2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース ドイツ語 (IIb 会話) ドイツ語 IIb (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。		
テキスト、参考文献	佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver：『CD 付き スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』（三修社）2007 年		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	ドイツ語 (IIIa 会話) ドイツ語 IIIa (会話)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 <Treffpunkt Berlin> を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実践的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。		1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。		
テキスト、 参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	ドイツ語 (IIIb 会話) ドイツ語 IIIb (会話)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 <Treffpunkt Berlin> を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際の練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。		1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。		
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース フランス語 (Ia 基礎) フランス語 Ia (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週1回の授業で2年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、<i>Tome 1</i> の第 5 課まで進む予定。		1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第 1 課 4. 第 1 課 5. 第 2 課 6. 第 2 課 7. 第 3 課 8. 第 3 課 9. 第 4 課 10. 第 4 課 11. 第 5 課 12. 第 5 課 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	教科書： <i>Tome 1</i> （第三書房）		
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース フランス語 (Ib 基礎) フランス語 Ib (基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週 1 回の授業で 2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、<i>Tome 1</i> の第 6 課から第 10 課まで進む予定。		1. 第 6 課 2. 第 6 課 3. 第 7 課 4. 第 7 課 5. 第 8 課 6. 第 8 課 7. 第 9 課 8. 第 9 課 9. 第 10 課 10. 第 10 課 11. annexe 12. 総合問題 (bilan) 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	教科書： <i>Tome 1</i> （第三書房）		
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (Ia 総合 J) フランス語 Ia (総合 J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で (Ia 総合J) は日本人講師、 (Ia 総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ia 総合F) とのペアでしか受講できない。 この (Ia 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、 参考文献	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (Ib 総合 J) フランス語 Ib (総合 J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で (Ib 総合J) は日本人講師、 (Ib 総合F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ib 総合F) とのペアでしか受講できない。 この (Ib 総合J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、参考文献	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (Ia 総合 F) フランス語 Ia (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際のフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ia 総合J：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ia 総合J) とのペアでしか受講できない。 この (Ia 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision, bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、 参考文献	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (Ib 総合 F) フランス語 Ib (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ib 総合J：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する (ただし再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (Ib 総合J) とのペアでしか受講できない。 この (Ib 総合F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すか、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、 参考文献	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース フランス語 (IIa 基礎) フランス語 IIa (基礎)	担当者	F. X. レット
講義目的、講義概要		授業計画	
週 1 回の授業で、2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の 2 年目。1 年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。		1. Unité 1 2. Unité 1 3. Unité 1 4. Unité 2 5. Unité 2 6. Unité 2 7. Unité 3 8. Unité 3 9. Unité 3 10. Unité 4 11. Unité 4 12. Unité 4 13. Unité 5 14. Unité 5 15. Unité 5	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	教科書： <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）		
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース フランス語 (IIb 基礎) フランス語 IIb (基礎)	担当者	F. X. レット
講義目的、講義概要		授業計画	
週 1 回の授業で、2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の 2 年目。1 年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。		1. Unité 6 2. Unité 6 3. Unité 6 4. Unité 7 5. Unité 7 6. Unité 7 7. Unité 8 8. Unité 8 9. Unité 8 10. Unité 9 11. Unité 9 12. Unité 9 13. Unité 10 14. Unité 10 15. Unité 10	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現・文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、 参考文献	教科書： <i>Bis, amicalement</i> （駿河台出版社）		
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (IIa 総合 J) フランス語 IIa (総合 J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ia/b 総合) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で、(IIa 総合 J) は日本人講師、(IIa 総合 F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (IIa 総合 F) とのペアでしか受講できない。 この (IIa 総合 J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、参考文献	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (IIb 総合 J) フランス語 IIb (総合 J)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ia/b 総合) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合 J) は日本人講師、(IIb 総合 F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (IIb 総合 F) とのペアでしか受講できない。 この (IIb 総合 J) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、参考文献	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (IIa 総合 F) フランス語 IIa (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ia/b 総合) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は<i>Conversation et Grammaire</i>で、(IIa 総合 J) は日本人講師、(IIa 総合 F) はフランス人講師が担当する(再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (IIa 総合 J) とのペアでしか受講できない。 この (IIa 総合 F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、参考文献	教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース フランス語 (IIb 総合 F) フランス語 IIb (総合 F)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とする。フランス語 (Ia/b 総合) に続く講義であり、基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合 J) は日本人講師、(IIb 総合 F) はフランス人講師が担当する (再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語 (IIb 総合 J) とのペアでしか受講できない。 この (IIb 総合 F) では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など (担当教員から指示があります)。		
テキスト、参考文献	教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		
評価方法	平常点、学期末試験など (各担当教員より指示・説明があります)。		

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 (Ⅲa) フランス語Ⅲa	担当者	F. - A. メール
講義目的、講義概要		授業計画	
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		1. Se présenter 自己紹介 2. Présenter quelqu'un, présenter un ami 他己紹介 3. Les chiffres 字・基数 l'heure 時間を言う 4. Pr. interrogatifs 疑問代名詞 questions 質問を聞く 5. テスト 6. Le temps/la date/donner un RV 日付や曜日を言う 7. 代名動詞 8. 直接法複合 9. 直接法複合と否定形 10. 近い未来 11. 近い未来と否定形 Parler de ses projets 12. Révisions 復習 13. Révisions 復習 14. Vidéo 15. テスト	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：課題が出た場合、必ず課題をやること・事後：授業中に行った会話のパターンを復習すること		
テキスト、参考文献	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		
評価方法	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 (Ⅲb) フランス語Ⅲb	担当者	F. - A. メール
講義目的、講義概要		授業計画	
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目標にします。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		1. Parler de ses vacances au passé 複合過去形の復習 2. L'imparfait 半過去形 3. L'imparfait et le passé composé 複合過去・半過去形 4. Exercices pratiques, jeux de rôle 5. テスト 6. Raconter une histoire 1 物語を語る 7. Exercices pratiques, jeux de rôle 8. Vidéo 9. Raconter une histoire 2 物語を語る 10. Les pronoms relatifs QUI et QUE 関係代名詞 11. Résumer une histoire 1 物語をまとめる 12. Résumer une histoire 2 物語をまとめる 13. Révisions 復習 14. Vidéo 15. テスト	
到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前：課題が出た場合、必ず課題をやること・事後：授業中に行った会話のパターンを復習すること		
テキスト、 参考文献	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		
評価方法	授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース スペイン語（I a 文法） スペイン語 I a（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 1 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ ser, estar 動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar 型動詞の用法 ⑭ gustar 型動詞の用法 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース スペイン語（I b 文法） スペイン語 I b（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週1コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞の活用---再帰動詞 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞 ⑧ 再帰動詞の用法 ⑨ 動詞の現在形のまとめ ⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習 ⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（I a 文法） スペイン語 I a（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。 スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 <u>原則としてスペイン語（I a 会話）とペアで履修することとなる。</u>		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ ser, estar 動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar 型動詞の用法 ⑭ gustar 型動詞の用法 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（I b 文法）
--------------------	----------------------------

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（I a 会話） スペイン語 I a（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（I a 文法）とペアで履修することとなる。</u>		学習目標となる文法項目は、スペイン語（I a 文法）の項目と同じであるが、スペイン語（I a 会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（I a 文法）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（I b 会話） スペイン語 I b（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（I b 文法）とペアで履修することとなる。</u>		学習目標となる文法項目は、スペイン語（I b 文法）の項目と同じであるが、スペイン語（I b 会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（I b 文法）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（改訂版）（ピンクの表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的に週 1 コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 <u>基本的に週 1 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。 接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語（Ⅰb 文法）の継続の授業である。 現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱa 会話）とペアで履修すること</u>を要望する。		① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 文法）の継続の授業である。 <u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱ b 会話）とペアで履修すること</u>を要望する。		① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>基本的に週 2 コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）とペアで履修すること</u>を要望する。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa 文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa 会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa 文法）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント。		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08年度以降 07年度以前	総合コース スペイン語（Ⅱb 会話） スペイン語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 会話）の継続の授業である。 <u>基本的に週2コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）とペアで履修すること</u>を要望する。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb 文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb 会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb 文法）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント。		
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	スペイン語（Ⅲa 講読） スペイン語 Ⅲa（講読）	担当者	二瓶 マリ子	
講義目的、講義概要		授業計画		
スペイン語Ⅰ、Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。		
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。			
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。			
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布			
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。			

08 年度以降 07 年度以前	スペイン語（Ⅲb 講読） スペイン語 Ⅲb（講読）	担当者	二瓶 マリ子
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語Ⅲa（講読）の継続の授業である。 スペイン語Ⅰ、Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目指す。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	スペイン語（Ⅲa 会話） スペイン語 Ⅲa（会話）	担当者	M. サンチェス
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ，Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	スペイン語（Ⅲb 会話） スペイン語 Ⅲb（会話）	担当者	M. サンチェス
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲa 会話）の継続の授業である。 スペイン語Ⅰ，Ⅱを既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース 中国語（I a 会話） 中国語 I a（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。		1.（発音編） 声調、単母音、そり舌母音 2. 複合母音、子音、鼻母音 3. 発音のルール、中国語の音節構造 4. 声調の組合せ、あいさつ言葉 等 5. 第1課 人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 6. 第2課 所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7. 第3課 存在・所有の“有”、数の数え方 等 8. 第4課 動詞述語文、反復疑問文 等 9. まとめ、試験 など 10. 第5課 名詞述語文、完了の“了”等 11. 第6課 変化・新事態発生の“了、経験の“过”等 12. 第7課 助動詞“会”、結果補語、可能補語 等 13. 第8課 動作の進行、選択疑問文 等 14. まとめ、試験、補足など 15. まとめ、試験、補足など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『スリム版 表現する中国語』 楊凱栄・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース 中国語（I b 会話） 中国語 I b（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第 9 課 受益の“给”、様態補語 等 3. 第 10 課 主述述語文、助動詞“能”等 4. 第 11 課 方向補語、“把”構文 等 5. 第 12 課 存現文、受け身文 等 6. 第 13 課 動作・状況の持続、動詞の重ね型 等 7. まとめ、試験 など 8. まとめ、試験 など 9. 第 14 課 副詞の“再”、副詞の“就”等 10. 第 14 課 助動詞“要”、前置詞の“跟”等 11. 第 15 課 就要～了”、“打算” 等 12. 第 15 課 仮定の“要是”、等 13. 第 16 課 形容詞＋“地”、“对～感兴趣”等 14. 第 16 課 前置詞の“通过”、持続の“着”等 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『スリム版 表現する中国語』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（I a 会話） 中国語 I a（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。		1.（発音編） 声調、単母音、そり舌母音 2. 複合母音、子音、鼻母音 3. 発音のルール、中国語の音節構造 4. 声調の組合せ、あいさつ言葉 等 5. 第 1 課 人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 等 6. 第 2 課 所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7. 第 3 課 存在・所有の“有”、数の数え方 等 8. 第 4 課 動詞述語文、反復疑問文 等 9. まとめ、試験 など 10. 第 5 課 名詞述語文、完了の“了” 等 11. 第 6 課 変化・新事態の発生の“了、経験の“过” 等 12. 第 7 課 助動詞“会”、結果補語、可能補語 等 13. 第 8 課 動作の進行、選択疑問文 等 14. まとめ、試験、補足など 15. まとめ、試験、補足など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『スリム版 表現する中国語』 楊凱栄・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（I b 会話） 中国語 I b（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などのドリルを行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第 9 課 受益の“给”、様態補語 等 3. 第 10 課 主述述語文、助動詞“能” 等 4. 第 11 課 方向補語、“把”構文 等 5. 第 12 課 存現文、受け身文 等 6. 第 13 課 動作・状況の持続、動詞の重ね型 等 7. まとめ、試験 など 8. まとめ、試験 など 9. 第 14 課 副詞の“再”、副詞の“就” 等 10. 第 14 課 助動詞“要”、前置詞の“跟” 等 11. 第 15 課 就要～了”、“打算” 等 12. 第 15 課 仮定の“要是” 等 13. 第 16 課 形容詞＋“地”、“对～感兴趣” 等 14. 第 16 課 前置詞の“通过”、持続の“着” 等 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『スリム版 表現する中国語』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（I a 講読・文法） 中国語 I a（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。		1. 中国語とは？ 授業の進め方など 2. 第1課 韻母—単母音、複合母音 声母 1 3. 第2課 声母 2、鼻母音、ピンイン、声調変化① 4. 第3課 軽声、変調②③、r 化、声調の組合せ 等 5. 第4課 “是”の文、疑問文～吗、副詞“也”“都” 6. 第4課 人称代名詞 7. 第5課 S + V + O、姓名の尋ね方と言い方 等 8. 第5課 疑問詞疑問文、選択疑問文 等 9. まとめ、試験 など 10. 第6課 名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 11. 第6課・第7課 形容詞述語文、 12. 第7課 比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 13. 第8課 所在の“在”、存在・所有の“有” 14. 第8課 時点と時量、量詞 15. まとめ、試験 など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『中国語への道 ―近きより遠きへ―』内田慶市 他 著 （金星堂）		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（I b 講読・文法） 中国語 I b（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第9課 前置詞、経験の“过”、数量補語 等 3. 第9課 方位詞・第10課 主述述語文、2つの“了” 4. 第10課 “有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5. 第11課 進行の“在” 持続の“着”、連動文 6. 第11課 結果補語、{動/形}を含む連体修飾節 7. 第12課 可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文 8. 第12課 副詞“就”と“才” 9. まとめ、試験 など 10. 第13課 様態補語、二重目的語をとる動詞 等 11. 第13課 受け身文、動詞の重ね型 等 12. 第14課 存現文、方向補語 等 13. 第14課 可能補語、“把”構文 等 14. 第15課 使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『中国語への道 ―近きより遠きへ―』内田慶市 他 著 （金星堂）		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース 中国語（Ⅱa 会話） 中国語 Ⅱa（会話）	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。		1. 復習課 1年次の復習 2. 第1課 打电话 課文、ポイント、ドリル 3. 第1課・第2課 接風 課文、ポイント、ドリル 4. 第2課 5. 第3課 介绍 課文、ポイント、ドリル 6. 第3課・第4課 交通工具1 課文、ポイント、ドリル 7. 第4課 8. まとめ、試験 など 9. 第5課 換钱 課文、ポイント、ドリル 10. 第5課・第6課 吃饭 課文、ポイント、ドリル 11. 第6課 12. 第7課 生病 課文、ポイント、ドリル 13. 第7課 14. まとめ、試験、補足など 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	基礎コース 中国語（Ⅱb 会話） 中国語 Ⅱb（会話）	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第 8 課 交通工具 2 課文、ポイント、ドリル 3. 第 8 課・第 9 課 网上聊天儿 1 課文、ポイント、ドリル 4. 第 9 課 5. 第 10 課 网上聊天儿 2 課文、ポイント、ドリル 6. 第 10 課・第 11 課 买东西 課文、ポイント、ドリル 7. 第 11 課 8. 第 12 課 爱好 課文、ポイント、ドリル 9. まとめ、試験など 10. 第 13 課 坐火车 課文、ポイント、ドリル 11. 第 13 課・14 課 观光(游外滩) 課文、ポイント 12. 第 14 課 13. 第 15 課 送行 課文、ポイント、ドリル 14. 第 15 課 試験など 15. まとめ	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（Ⅱa 会話） 中国語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。		1. 復習課 1年次の復習 2. 第1課 打电话 課文、ポイント、ドリル 3. 第1課・第2課 接風 課文、ポイント、ドリル 4. 第2課 5. 第3課 介绍 課文、ポイント、ドリル 6. 第3課・第4課 交通工具1 課文、ポイント、ドリル 7. 第4課 8. まとめ、試験 など 9. 第5課 換钱 課文、ポイント、ドリル 10. 第5課・第6課 吃饭 課文、ポイント、ドリル 11. 第6課 12. 第7課 生病 課文、ポイント、ドリル 13. 第7課 14. まとめ、試験、補足など 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（Ⅱb 会話） 中国語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第8課 交通工具 2 課文、ポイント、ドリル 3. 第8課・第9課 网上聊天儿 1 課文、ポイント、ドリル 4. 第9課 5. 第10課 网上聊天儿 2 課文、ポイント、ドリル 6. 第10課・第11課 买东西課文、ポイント、ドリル 7. 第11課 8. 第12課 爱好 課文、ポイント、ドリル 9. まとめ、試験など 10. 第13課 坐火车 課文、ポイント、ドリル 11. 第13課・14課 観光(游外滩) 課文、ポイント 12. 第14課 13. 第15課 送行 課文、ポイント、ドリル 14. 第15課 試験など 15. まとめ	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『スリム版 表現する中国語Ⅱ』 楊凱榮・張麗群著 白帝社		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（Ⅱa 講読・文法） 中国語 Ⅱa（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次に中国語Ⅰを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、250字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう。 ・1年次に引き続き発音練習を行う。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。		1. 1年次の復習、ウォームアップ 2. 第1課 首都北京 3. 第1課 4. 第2課 民族和気候 5. 第2課 6. 第3課 人口 7. 第3課 8. まとめ、試験など 9. 第4課 方言 10. 第4課 11. 第5課 泰山 12. 第5課 13. 第6課 节假日 14. 第6課 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『楽しく学ぼうやさしい中国語』 王 武雲 他 著 郁文堂		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	総合コース 中国語（Ⅱb 講読・文法） 中国語 Ⅱb（講読・文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ⅰで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。		1. 春学期の復習、ウォームアップ 2. 第7課 飲食文化 3. 第7課 4. 第8課 药膳 5. 第8課 6. 第9課 体育健身运动 7. 第9課 8. まとめ、試験 など 9. 第10課 动物 10. 第10課 11. 第11課 旗袍 12. 第11課 13. 第12課 大学 14. 第12課 15. まとめ、試験など	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『楽しく学ぼうやさしい中国語』 王 武雲 他 著 郁文堂		
評価方法	中間・期末などの試験 70% 授業への参加度など 30%		

08 年度以降 07 年度以前	中国語（Ⅲa 会話） 中国語Ⅲa （会話）	担当者	柴田 奈津美
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 日本人が中国語学習をする際、文字（漢字）の情報に頼りがちであり、そのため文字情報を使うことができない「聞く」、「話す」能力が「読む」能力と比べて劣りがちである。この授業では、「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち「聞く」「話す」に重点を絞る。「聞く」能力においては、音から意味を瞬時に理解できるようになること、「話す」能力においては、自分の知っている語を最大限に利用して言いたいことを伝えられる能力を身につけることを目標とする。 【講義概要】 この授業は中級以上の中国語能力をもつ学生を対象にする。教科書は、現代中国に生活する15名の中国人の語りによって構成されている。この教科書を用いて聞き取りのトレーニングをするとともに、それぞれの課で扱っているテーマについて自分の意見や経験を述べる練習を行なう。 【受講生への要望】 予習復習をしっかりし、学習意欲を高めて授業に臨むこと。		1. ガイダンス 2. 第1課 就活の経験 3. 第1課 就活の経験 4. 第2課 僕の恋人 5. 第2課 僕の恋人 6. 第3課 メディアの時代 7. 第3課 メディアの時代 8. 第4課 祝祭日の過ごし方 9. 第4課 祝祭日の過ごし方 10. 第5課 日々の憩い 11. 第5課 日々の憩い 12. 第6課 結婚すべきか 13. 第6課 結婚すべきか 14. 第7課 一人っ子の是非 15. 第7課 一人っ子の是非	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業にて指定		
テキスト、参考文献	植屋高史他『中国語中級テキスト 焦点中国』白帝社		
評価方法	定期試験 70%、授業への参加度 30%		

08 年度以降 07 年度以前	中国語（Ⅲb 会話） 中国語Ⅲb （会話）	担当者	柴田 奈津美
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 日本人が中国語学習をする際、文字（漢字）の情報に頼りがちであり、そのため文字情報を使うことができない「聞く」、「話す」能力が「読む」能力と比べて劣りがちである。この授業では、春学期同様、「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち「聞く」「話す」に重点を絞る。「聞く」能力においては、春学期に比べてより難易度の高い文を理解できるようになること、「話す」能力においては、自分の知っている語を最大限に利用して、より複雑な内容を伝えられる能力を身につけることを目標とする。 【講義概要】 春学期同様 【受講生への要望】 予習復習をしっかりし、学習意欲を高めて授業に臨むこと。		1. 第 8 課 就活の経験 2. 第 8 課 就活の経験 3. 第 9 課 僕の恋人 4. 第 9 課 僕の恋人 5. 第 10 課 メディアの時代 6. 第 10 課 メディアの時代 7. 第 11 課 祝祭日の過ごし方 8. 第 11 課 祝祭日の過ごし方 9. 第 12 課 日々の憩い 10. 第 12 課 日々の憩い 11. 第 13 課 結婚すべきか 12. 第 13 課 結婚すべきか 13. 第 14 課 一人っ子の是非 14. 第 14 課 一人っ子の是非 15. 復習	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業にて指定		
テキスト、参考文献	植屋高史他『中国語中級テキスト 焦点中国』白帝社		
評価方法	定期試験 70%、授業への参加度 30%		

08 年度以降 07 年度以前	中国語（Ⅲa 講読・文法） 中国語 Ⅲa（講読・文法）	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、中国の文化と風俗をより深く理解してもらいたいと思います。		1. 第一課 お見舞い（421 現象）読解 2. 第二課 阿福の苦悩（月光族）読解 3. 第一、二課 練習問題、課題 4. 第三課 渡り鳥（渡り鳥現象）読解 5. 第四課 紫竹院の春（父母の見合い会）読解 6. 第三、四課 練習問題、課題 7. 第一～四課まとめ 8. 第五課 小さな仕事（お喋りで介護）読解 9. 第六課 結婚させられた高飛（受身表現）読解 10. 第五、六課 練習問題、課題 11. 第七課 未来の芸術家（北京を漂う）読解 12. 第八課 びっくり仰天のお見合い読解 13. 第七、八課 練習問題、課題 14. 第九課 集まり（家の奴隷）読解 15. 第五～九課まとめ	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に各課のエッセイ（日本語）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。		
テキスト、 参考文献	『新事新説』小島英夫他著 好文出版社		
評価方法	期末試験 60％・平常点（発表・課題・参加姿勢）40％によって評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	中国語（Ⅲb 講読・文法） 中国語 Ⅲb（講読・文法）	担当者	平野 佐和
講義目的、講義概要		授業計画	
読解練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法の定着・発展を図り、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な読解力の養成を目指します。 読解では、急速に発展をしている中国社会の様々な側面、色々な文化現象を体感できる文章を対象に、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。 中国の様々な社会事情・生活習慣についても学べるテキストです。内容を楽しんで読解力を付け、中国の文化と風俗をより深く理解してもらいたいと思います。		1. 第十課 危険な状況（当たり屋）読解 2. 第十一課 内装工事（知り合いを犠牲に）読解 3. 第十、十一課 練習問題、課題 4. 第十二課 携帯電話（海賊版）読解 5. 第十三課 かまどの飴菓子（小晦日）読解 6. 第十二、十三課 練習問題、課題 7. 第十～十三課まとめ 8. 第十四課 阿滅株をやる（株の売買）読解 9. 第十五課 風邪（医療の商業化）読解 10. 第十四、十五課 練習問題、課題 11. 第十六課 はがねのファン（ファン）読解 12. 第十七課 答礼の宴会（レイオフ）読解 13. 第十六、十七課 練習問題、課題 14. 第十八課 元宵だんご（元宵節）読解 15. 第十四～十八課まとめ	
到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各課のエッセイ（日本語）を読んで内容を理解し、本文を予習しておくこと。 また、各課ごとの課題文を訳し、次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	『新事新説』小島英夫他著 好文出版社		
評価方法	期末試験 60％・平常点（発表・課題・参加姿勢）40％によって評価します。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰa 基礎） 朝鮮語（Ⅰa 基礎）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の発音や文字の読み書きを基礎から丁寧に学びながら、簡単な日常会話ができることを目標とします。韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 韓国語をはじめから学びたい方、韓国語・韓国文化に興味のある方、ぜひチャレンジしてみてください！同じ漢字文化圏である韓国語は日本人にとって学びやすい外国語です。		1. 講義の概要、韓国語で挨拶 2. ハングルとは 3. ハングルの構造（基本母音） 4. ハングルの構造（基本子音） 5. 韓国のイモチョモ 1、復習 6. ハングルの構造（激音、農音） 7. ハングルの構造（合成母音 8. ハングルの構造（パッチム） 9. 私の名前はマリカです 10. 韓国のイモチョモ 2、復習 11. これは何ですか 12. 私のカメラではありません 13. この人は誰ですか 14. 主に鍋料理を食べます 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、参考文献	柳蓮淑他『新しい韓国語 初級』ウリアカデミー出版		
評価方法	定期試験の結果（80％）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20％）も評価対象とします。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（I b 基礎） 朝鮮語（I b 基礎）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
入門で学んだ基礎的な文法や語彙を復習しつつ、基礎文法や語彙を体系的に学ぶことによって、様々な場面での高度の日常会話ができることを目標とします。 文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、ペアワークによる応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、読む、書く、話す、聞くといった四技能の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。		1. 講義の概要 2. 今日は友達と約束があります 3. 友達と鐘路で食事します 4. 来週の土曜日です 5. 韓国のイモチョモ 1、復習 6. 今週末に何をしますか 7. 妹と一緒にいてもいいですか 8. 月曜日から日曜日までです 9. 電車で 20 分ほどかかります 10. 韓国のイモチョモ 2、復習 11. リングを五つください 12. 日本人の友達に教わりました 13. プルゴギだけでもっと食べたいです 14. 私もまだ登っていません 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、 参考文献	柳蓮淑他『新しい韓国語 初級』ウリアカデミー出版		
評価方法	定期試験の結果（80％）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20％）も評価対象とします。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語 (I a 基礎) 朝鮮語 (I a 基礎)	担当者	金 熙淑
講義目的、講義概要		授業計画	
言語はその国の文化を知る一番の近道である。ハングル文字の構造は、体系的であり、発音上の多様な表現を可能にする。 本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながらハングル文字の学習と発音の変化の規則を学ぶ。はじめて出会うハングル文字の読み書きができる楽しさ、初級段階の基本的な文法を知る楽しさ、挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる楽しさを知る。そのためには地道な努力が必要であり、常に復習と予習を繰り返す必要がある。 受講生には韓国語を学ぶ目的をもち、授業中には積極的に参加したい。 ●韓国の代表的な民謡(アリラン)・童謡などの歌を通して日韓の交流を図る。		1. ガイダンス 2. ハングルの構造 3. 母音 4. 子音(平音) 5. 子音(激音・濃音) 6. パッチム 7. 発音規則(連音化・ㅇの音化・濃音化) 8. 発音規則(鼻音化・激音化・ロ蓋音化) 9. 発音規則 (流音化・ㄹの鼻音化・ㄴの添加) 10. 会話 (新入生のオリエンテーションで) 11. 名詞+です/ですか表現 12. 会話 (大学のキャンパスで) 13. 名詞+～ではない表現 14. 自己紹介 15. まとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所の CD を事前に聞いておいてください。テキストの練習問題を解いて次回に持ってきてください。毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	崔 柄珠 『おはよう 韓国語 1』 朝日出版社 (2014 年)		
評価方法	授業への参加度 20%。中間試験・期末試験 80%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰb 基礎） 朝鮮語（Ⅰb 基礎）	担当者	金 熙淑
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語（Ⅰa）で身につけた知識をフルに活用する。既に身につけたハングルの文字が読めるようになれば、一気に楽しくなる。 本講義では見てわかる、聞いてわかるという「理解語彙」と、書ける、話せるという「使用語彙」を増やす学習をめざす。基礎段階で学習すべき文法も体系的に学び、より豊かな表現力を身につけ、韓国語ができるという自信感をもてるように工夫したい。 ●「韓国語ができるという」楽しさを知り、実際のコミュニケーションを楽しむために、授業中には積極的な参加が求められる。		1. 春学期の復習 2. 会話(図書館で) 3. 用言+니다体の表現 4. 用言+지 않다の指定文 5. 会話(ウンジの家の前で) 6. 요体の表現 7. 漢数詞 8. 会話(公園で) 9. 아요/어요の縮約形 10. 固有数詞 11. 時刻 12. 会話(靴屋で) 13. 用言の連体形 14. 楽しい買い物・ハングルで作文 15. まとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所の CD を事前に聞いておいてください。テキストの練習問題を解いて次回に持ってきてください。毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	崔 柄珠 『おはよう 韓国語 1』 朝日出版社（2014 年）		
評価方法	授業への参加度 20%。中間試験・期末試験 80%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（I a 基礎） 朝鮮語（I a 基礎）	担当者	呉 吉煥
講義目的、講義概要		授業計画	
授業では、韓国語文字（ハングル）の正確な発音と書き方、文章の構造や作り方、そして日常会話でよく使う簡単な決まり文句などの習得を目指す。 授業の前半には、ハングルの子音と母音の発音、書き方などを覚える。そして後半には、文章を作るため基礎文法や数字、用言の活用法などについて学習する。学んだ学習内容を確認するために、課題を課したり小テストを行う場合がある。		1. ガイダンス、ハングルについて 2. 母音字①（基本母音） 3. 子音字①（基本子音） 4. 子音字②（濃音）、子音字のまとめ 5. 子音字②（濃音）、子音字のまとめ 6. 複合母音 7. パッチム（終声の発音） 8. 発音の規則 9. 復習 10. 基本文型の作り方（A は B です・A は B ですか） 11. 指示語と体言の否定形 12. 存在の有無を表す表現 13. 位置関係の言い方 14. 復習または補助教材 15. まとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習の徹底。		
テキスト、参考文献	テキスト：金智賢『教養韓国語一初級』（朝日出版社、2015）		
評価方法	授業への参加度：30%、期末試験：70%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰb 基礎） 朝鮮語（Ⅰb 基礎）	担当者	呉 吉煥
講義目的、講義概要		授業計画	
後期の授業では、前期に学んだことを復習しつつ、用言の活用法、助詞や数詞の使い方など、基本的な文法事項を習得する。そして日常生活で使う基礎的な会話の表現などを学習し、基礎課程の完成を目指す。 後期の授業では、韓国語文章の意味を正しく理解するために必要な文法知識を身につけていく。具体的には、用言の概念を理解して、丁寧な表現をはじめ様々な活用形の作り方、そして助詞や数詞の使い方などを学習する。学んだ学習内容を確認めるために、課題を課したり小テストを行う場合がある。		1. 補助教材 2. 用言の丁寧形①（「ハムニダ体」） 3. 動作の対象や目的を表す表現 4. 年月日の言い方（漢数詞の使い方） 5. 曜日と用言の否定形①（「後置否定形」） 6. 体言と用言の尊敬形（「ハムニダ体」） 7. 副詞と体の名称 8. 復習 9. 用言の丁寧形②（「へヨ体」） 10. 用言の否定形②（「前置否定形」） 11. 固有数詞の使い方 12. 体言と用言の尊敬形（「へヨ体」） 13. 過去形の作り方 14. 時間の言い方 15. まとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習の徹底。		
テキスト、参考文献	テキスト：金智賢『教養韓国語―初級』（朝日出版社、2015）		
評価方法	授業への参加度：30%、期末試験：70%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰa 基礎） 朝鮮語（Ⅰa 基礎）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など短文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。		1. 韓国語とハングル文字、基本母音 2. 基本子音 3. 合成母音 4. バッチム 5. 発音規則 6. 文字と発音のおさらい、韓国語の文法的な仕組み 7. Review 8. 私は日本人です 9. これは何ですか 10. 誰の本ですか 11. 学校はどこにありますか 12. 何をしますか 13. どこに行きますか 14. 会話練習（簡単な自己紹介等） 15. Review	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年		
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰb 基礎） 朝鮮語（Ⅰb 基礎）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など短文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。		1. 前期のおさらい 2. 天気はどうですか 3. 今日は何日ですか 4. 数詞 1 5. 数詞 2 6. 数詞 3 7. Review 8. どこに住んでいますか 9. 週末に何をしますか 10. 昨日は何をしましたか 11. Review 12. 今何をしていますか 13. 何を食べましょうか 14. 会話練習 15. Review	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回だされる課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年		
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰa 総合1） 朝鮮語（Ⅰa 総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰb 総合Ⅰ） 朝鮮語（Ⅰb 総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。		1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㄷ語幹 8 ㄷ変則用言 9 ㄴ変則用言 10 ㄹ変則用言 11 ㅎ変則用言 12 ㄹ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰa 総合 2） 朝鮮語（Ⅰa 総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ（総合 1）」で学んだ文法や単語を教室 室内で実際に使用してみるにより、韓国語の実践力を 鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 1 0 数詞② 1 1 否定形 1 2 尊敬形 1 3 連用形 1 4 해요 体 1 5 해요 体の尊敬形	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとること ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅰb 総合 2） 朝鮮語（Ⅰb 総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。		1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㄷ語幹 8 ㄷ変則用言 9 ㄴ変則用言 10 ㄹ変則用言 11 ㅎ変則用言 12 ㄹ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語 (IIa 講読・会話) 朝鮮語 (IIa 講読・会話)	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。		1 基礎文法のおさらい 1 2 基礎文法のおさらい 2 3 第 1 課 サッカーがお好きですか 1 4 第 1 課 サッカーがお好きですか 2 5 第 2 課 明日は何をなさいますか 1 6 第 2 課 明日は何をなさいますか 2 7 第 3 課 郵便局に行く 1 8 第 3 課 郵便局に行く 2 9 第 4 課 喫茶店にて 1 10 第 4 課 喫茶店にて 2 11 第 5 課 韓国レストランにて 1 12 第 5 課 韓国レストランにて 2 13 第 6 課 道を尋ねる 1 14 第 6 課 道を尋ねる 2 15 Review	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年		
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語 (IIb 講読・会話) 朝鮮語 (IIb 講読・会話)	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。		1 第7課 地下鉄駅で1 2 第7課 地下鉄駅で2 3 第8課 タクシーに乗る1 4 第8課 タクシーに乗る2 5 Review 6 第9課 約束をする1 7 第9課 約束をする2 8 第10課 天気1 9 第10課 天気2 10 Review 11 第11課 電話をかける1 12 第11課 電話をかける2 13 第12課 ショッピングをする1 14 第12課 ショッピングをする1 15 Review	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年		
評価方法	中間テスト及び小テスト 20%、期末テスト 50%、課題 10%、授業参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅱa 総合1） 朝鮮語（Ⅱa 総合1）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1 第一課 空港に出迎え 2 第二課 部屋探し 3 第三課 自己紹介 4 第四課 ソンミンの家で 5 まとめと復習 6 中間テスト 7 アクティビティ 8 第五課 帰り道 9 第六課 百日記念日 10 第七課 引越しパーティーの日 11 アクティビティ 12 第八課 汽車に乗っておでかけ 13, 14 まとめと復習 15 期末テスト	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅱb 総合 1） 朝鮮語（Ⅱb 総合 1）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1 春学期の復習 2 第九課 村の風景 3 第十課 ソンミンさんを訪ねて 4 第六課～第十課の復習 5 第十一課 下宿に帰って 6 中間テスト 7 アクティビティ 8 第十二課 診察を受ける 9 第十三課 和解 10 第十四課 悲しみよ、さようなら 11 第十一課から第一四課の復習 12 アクティビティ 13, 14 まとめと復習 15 期末テスト	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅱa 総合 2） 朝鮮語（Ⅱa 総合 2）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1. 第一課 空港に出迎え 2. 第二課 部屋探し 3. 第三課 自己紹介 4. 第四課 ソンミンの家で 5. まとめと復習 6. アクティビティ 7. 第五課 帰り道 8. 第一課から第五課のまとめ 9. 第六課 百日記念日 10. 第七課 引越しパーティーの日 11. アクティビティ 12. 第八課 汽車に乗っておでかけ 13, 14. まとめと復習 15. アクティビティ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。		

08 年度以降 07 年度以前	韓国語（Ⅱb 総合 2） 朝鮮語（Ⅱb 総合 2）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1. 春学期の復習 2. 春学期の復習 3. 第九課 村の風景 4. 第十課 ソンミンさんを訪ねて 5. 第六課～第十課の復習 6. 第十一課 下宿に帰って 7. 中間テスト 8. アクティビティ 9. 第十二課 診察を受ける 10. 第十三課 和解 11. 第十四課 悲しみよ、さようなら 12. 第十一課から第一四課の復習 13. アクティビティ 14. まとめと復習 15. 期末テスト	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。		

08 年度以降	韓国語（IIIa 総合 3）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の初級段階を履修した学習者を対象に、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、聞き取りや会話の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。		1. 講義の概要、韓国語で挨拶 2. 紹介 3. 旅行 4. 予約 5. 韓国のイモゾモ 1、復習 6. 案内 7. ショッピング 8. 交通 9. 取り消し 10. 韓国のイモゾモ 2、復習 11. 新聞 12. 伝言 13. 食事 14. 韓国のイモゾモ 3、復習 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、参考文献	授業で提示します。		
評価方法	定期試験の結果（80％）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20％）も評価対象とします。		

08 年度以降	韓国語（IIIb 総合 3）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
前期の学習内容を復習しつつ、これまで学んだ文法や語彙を復習しながら、より高度な表現を身につけていきます。文法事項の解説を最小にとどめ、発音や聞き取り、会話の応用練習に力を入れます。積極的に発声し、予習・復習を積み上げることによって、聞き取りや会話の向上が実感できるはずです。 韓国の文化事情を理解するために、韓国のドラマや映画、K-POP などの視聴覚教材も適宜取り入れる予定です。 授業スケジュールは、参加者のニーズを考慮し多少変更する可能性があります。		1. 講義の概要 2. 電話 3. 問い合わせ 4. 美容室 5. 韓国のイモゾモ 1、復習 6. 礼儀 7. 非言語行動 8. 手紙 9. 描写 10. 韓国のイモゾモ 2、復習 11. パンマル 12. 相談 13. 昔物語 14. 韓国のイモゾモ 3、復習 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、参考文献	授業で提示します。		
評価方法	定期試験の結果（80％）によって評価するが、平常授業における会話や復習テストなどの実績（20％）も評価対象とします。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 Ia 基礎） イタリア語 Ia	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1. ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2. イタリア語の発音について 3. 名詞と冠詞（1） 4. 名詞と冠詞（2） 5. 挨拶の表現、形容詞 6. イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7. 規則動詞の現在形（1） 8. 規則動詞の現在形（2） 9. 規則動詞の現在形（3） 10. 会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11. 前置詞 12. 不規則で重要な動詞（1） 13. 不規則で重要な動詞（2） 14. 不規則で重要な動詞（3） 15. まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他、プリントを配布する。		
評価方法	平素の学習態度（20％）と、授業内に随時行う小テストの成績（80％）による。あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 Ib 基礎） イタリア語 Ib	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。		1. 会話表現：家族構成を話す 2. 様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3. 所有形容詞（1） 4. 所有形容詞（2） 5. 会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6. 代名動詞（1） 7. 代名動詞（2） 8. 会話表現：あるものが存在するかしらないかを聞く 9. 比較級と最上級 10. 近過去（1） 11. 近過去（2） 12. 直接・間接目的語代名詞 13. 半過去（1） 14. 半過去（2） 15. まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、教科書に目を通しておくこと。教科書の内容に準拠した練習問題をプリントとして配布するので、知らない単語を辞書で確認し、授業後には練習問題の復習を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩【改訂版】』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他、プリントを配布する。		
評価方法	平素の学習態度（20％）と、授業内に随時行う小テストの成績（80％）による。あまりにも欠席回数が多い者には単位を認めない。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 Ia 基礎） イタリア語 Ia	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。 （受講上の注意点） 教科書、辞書は必ず購入して下さい。推奨辞書はガイドンスの際に案内します。		1) ガイダンス 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 4) 規則動詞の練習(1) 5) 規則動詞の練習(2) 6) 規則動詞の練習(3) 7) 規則動詞の練習(4) 8) 基本不規則動詞の練習(1) 9) 基本不規則動詞の練習(2) 10) 基本不規則動詞の練習(3) 11) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(1) 12) 冠詞・形容詞・所有形容詞のまとめ(2) 13) 頻出不規則動詞の練習(1) 14) 頻出不規則動詞の練習(2) 15) 頻出不規則動詞の練習(3)	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ディアログの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
テキスト、 参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『私のイタリア』朝日出版社、2016 年.		
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)40%、期末試験 60%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 Ib 基礎） イタリア語 Ib	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります。		1) 人称代名詞の練習(1) 2) 人称代名詞の練習(2) 3) 近過去形の練習(1) 4) 近過去形の練習(2) 5) 近過去形の練習(3) 6) 近過去形の練習(4) 7) 近過去形の練習(5) 8) 再帰動詞の練習(1) 9) 再帰動詞の練習(2) 10) 再帰動詞の練習(3) 11) 半過去形の練習(1) 12) 半過去形の練習(2) 13) 半過去形の練習(3) 14) 半過去形の練習(4) 15) 半過去形の練習(5)	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ディアログの予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
テキスト、 参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『私のイタリア』朝日出版社、2016 年。		
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 IIa 基礎） イタリア語 IIa	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） イタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テキストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して行います。また60年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとります。		1) 過去形・再帰動詞の復習(1) 2) 過去形・再帰動詞の復習(2) 3) 過去形・再帰動詞の復習(3) 4) 過去形・再帰動詞の復習(4) 5) 過去形・再帰動詞の復習(5) 6) 大過去形の練習(1) 7) 大過去形の練習(2) 8) 未来形の練習(1) 9) 未来形の練習(2) 10) 条件法の練習(1) 11) 条件法の練習(2) 12) 条件法の練習(3) 13) 遠過去形の練習(1) 14) 遠過去形の練習(2) 15) 遠過去形の練習(3)	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
テキスト、 参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年.		
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語 IIb 基礎） イタリア語 IIb	担当者	島津 寛
講義目的、講義概要		授業計画	
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします。 （概要） 前半はイタリア文化のいくつかのトピックに関する説明テキストの読解を軸に伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習を並行して進めます。後半では受講者のレベルに応じて、ストーリー性を備えた長めの会話テキスト、映画のシナリオ、時事文、小説を中心とした文学作品等の高度なテキストを講読し、読解力養成を図ります。最終授業ではしめくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います。		1) 接続法の練習(1) 2) 接続法の練習(2) 3) 接続法の練習(3) 4) 接続法の練習(4) 5) 接続法の練習(5) 6) 接続法の練習(6) 7) 接続法の練習(7) 8) 講読(1) 9) 講読(2) 10) 講読(3) 11) 講読(4) 12) 講読(5) 13) 講読(6) 14) 講読(7) 15) 映画鑑賞	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト読解の予習復習、新出文法項目を扱う練習問題(宿題)の履行		
テキスト、参考文献	(教科書) 一ノ瀬俊和・他『文で味わうイタリア』朝日出版社、2012 年。		
評価方法	平常点(授業参加、宿題履行等)100%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 Ia 総合） ポルトガル語 Ia（総合）	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語 I b に続く形でポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます		1. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 2. 主格人称代名詞、不規則動詞 <i>ser</i>、否定文、疑問文 3. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 4. 規則動詞の直説法現在形、基本前置詞 <i>de, em, com</i> 5. 不規則動詞 <i>estar</i>、所有詞、基数詞 6. 規則動詞の直説法現在形、疑問詞、指示詞、曜日 7. 不規則動詞の直説法現在形、前置詞 <i>a, para, por</i> 8. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形 9. 不規則動詞の直説法現在形と直説法過去形 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞、序数詞 12. 感嘆文、強調構文、時間表現 13. 直説法半過去形、月日、名詞・形容詞の特殊な複数形 14. 関係代名詞 <i>que</i> と <i>quem</i>、接尾辞 <i>-inho</i>、命令形 15. 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 Ib 総合） ポルトガル語 Ib（総合）	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では前期のポルトガル語 I a に引き続いてポルトガル語の初級文法を中心に学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます		1. 過去分詞、直説法大過去形、絶対最上級 2. 優等比較級、劣等比較級、同等比較級、相対最上級 3. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 4. 受動文、結果構文、接尾辞-mente 5. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形 6. 直説法複合過去形、二重過去分詞 7. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 8. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現 9. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形、強調構文、接続法半過去形 13. 時間表現、接続法過去形、接続法大過去形 14. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文 15. 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、テキストがすらすらと読めるまで音読しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 Ia 会話） ポルトガル語 Ia（会話）	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
ポルトガル語 I（会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。		1. イントロダクション「挨拶する」「出身地を尋ねる」 2. 「物の名を尋ねる」「持ち主を尋ねる」 3. 「曜日を尋ねる」「日付を尋ねる」 4. 「健康状態を尋ねる」「場所を尋ねる」 5. 「時間を尋ねる」「約束・待ち合わせをする」 6. 「人を待つ」「物の貸し借りをする」 7. 「聞き返す」「好き嫌いを述べる」 8. 「食事をする」「買い物をする」 9. 「感想を述べる」「希望を述べる」「天候を尋ねる」 10. 「義務を課す」「許可を与える」「同意する」 11. 「身体の状態を述べる」「経験を述べる」 12. 「頻度を尋ねる」「選択を述べる」「勧誘する」 13. 「道順を尋ねる」「伝聞を述べる」「誇張して述べる」 14. 「日常生活について述べる（起床・身支度・就寝）」 15. 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、会話テキストがすらすらと口をつくまで復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語 Ib 会話） ポルトガル語 Ib（会話）	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
ポルトガル語 I（会話）では、会話と単語の補強を中心としてポルトガル語を学びます。 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 本格的に学習するのであれば、辞書はぜひ購入することをお勧めします。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は授業後に受け付けます。		1. イントロダクション・既習事項の復習 2. 「相互動作を表現する」「過去の事柄を表現する」 3. 「感謝する」「話題に取り上げる」「乗り物の表現」 4. 「休暇について尋ねる」「未遂の事柄を述べる」 5. 「過去の習慣を述べる」「過去の状態を述べる」 6. 「願望を婉曲的に述べる」「喜びを表現する」 7. 「人を褒める」「羨望を述べる」 8. 「驚き・残念・嘆き・後悔を表現する」 9. 「忠告する」「推測する」「断定する」 10. 「丁寧に頼む」「丁寧に断る」 11. 「可能性のある『もし…なら』」 12. 「可能性のない『もし…なら』」 13. 「謙遜して述べる」 14. 総まとめ 15. 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業中に次の授業の範囲を指示するので、事前に予習しておいてください。 また授業後は、会話テキストがすらすらと口をつくまで復習しておいてください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：講師がプリント形式で用意します。 辞書：上記の「講義目的、講義概要」を参照のこと。		
評価方法	平常点 4 割（練習問題の解答＋授業への参加度）＋最終日試験点 6 割とし、60 点以上の者を合格とします。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 Ia 総合） ロシア語 Ia（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
初心者を対象としてロシア語の文法を学ぶ授業です。 アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 ロシア語は様々な分野で重要な言語であるにもかかわらず、大学以外ではなかなか学ぶ機会がありません。ぜひこの機会にロシア語の世界へ足を踏み入れてみてください。 会話を中心とした「ロシア語I 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。		教科書の第 10 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在形（1） 13-14 場所の表現（前置詞、名詞類の格変化の導入） 15 まとめ 授業では受講者の皆さん一人一人の練習を中心とします。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。 ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ほぼ毎回行なう小テストの準備、およびほぼ毎回出す宿題を、自宅できちんとやってきてください。		
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。辞書については授業時に説明しますので、それを聞いてから購入してください。		
評価方法	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安です）。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 Ib 総合） ロシア語 Ib（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語 Ia 総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。		教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-2 動詞の現在形（2） 3 動詞の現在形（3） 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞類の格変化（1）生格 10-11 名詞類の格変化（2）対格 12 動詞の過去形 13-14 移動の動詞、方向の表現 15 まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ほぼ毎回行なう小テストの準備、およびほぼ毎回出す宿題を、自宅できちんとやってきてください。		
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。		
評価方法	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安です）。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 Ia 会話） ロシア語 Ia（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 またロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。		1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形（1） 11. 名詞の対格（1） 12. 願望の表現 13. 命令形の表現 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 Ib 会話） ロシア語 Ib（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
ロシア語 Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格（2） 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
テキスト、参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 IIa 総合） ロシア語 IIa（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
昨年度の「ロシア語Ⅰ 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、その後はプリント教材をもちいて新たな文法事項を学んでゆきます。最終的に、秋学期の終わりには、辞書を引きながら自力で簡単なロシア語の文章を読めるだけの力（検定試験 3 級程度）を身につけることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度「ロシア語Ⅰ 総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能です。		教科書の第 18 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。 1-2 移動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 まとめと応用（数詞） 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現（無人称文） 11-12 未来の表現 13-14 格変化・造格 15 まとめ さらにロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単なテキストの読解練習も始めます。また、昨年度に習得した文法事項や語彙の復習にも時間を割きます。	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ほぼ毎回行なう小テストの準備、およびほぼ毎回出す宿題を、自宅できちんとやってきてください。		
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。辞書については授業時に説明するので、それを聞いたうえで購入してください。		
評価方法	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安です）		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 IIb 総合） ロシア語 IIb（総合）	担当者	齊藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語 IIa 総合」の続きの授業ですので、詳しくはこちらをご覧ください。		教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、新たな文法事項の習得を行なってゆきます。春学期に引き続き、簡単なテキストの読解練習も行ないます。 1-2 数と名詞 3 まとめと応用（前置詞と格変化） 4-6 動詞の体（不完了体と完了体） 7-8 格変化の総まとめ 9 形容詞短語尾 10 比較級・最上級 11-12 関係代名詞、不定人称文 13 仮定法 14 形動詞、副動詞 15 まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	ほぼ毎回行なう小テストの準備、およびほぼ毎回出す宿題を、自宅できちんとやってきてください。		
テキスト、参考文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）		
評価方法	①期末試験(80%)、②小テスト・宿題・授業態度などの平常点(20%)（%はおおよその目安です）		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 IIa 会話） ロシア語 IIa（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語I 会話」の続きの授業ですが、「ロシア語I」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語I 会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。		1. ガイダンス 2. 名詞の生格、所有代名詞 3. 所有の表現 4. 曜日の表現 5. 未来の表現（1） 6. 形容詞の変化 7. 名詞の前置格と場所の表現 8. 「～の中に」と「～の上に」 9. 動詞の過去（1） 10. 動詞の過去（2） 11. 再帰動詞 12. 名詞の対格（2） 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
テキスト、 参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ロシア語 IIb 会話） ロシア語 IIb（会話）	担当者	小西 昌隆
講義目的、講義概要		授業計画	
「ロシア語 IIa 会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、 またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。		1. 春学期の復習 2. 名詞の与格 3. 名詞の造格 4. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 5. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 6. 未来の表現（2） 7. 形容詞の格変化 8. 無人称文 9. 運動の動詞（2） 10. 前置詞のまとめ 11. 仮定の表現 12. 関係代名詞 13. 自己紹介文を作る（1） 14. 自己紹介文を作る（2） 15. まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	とくに課すものではありませんが、各自で復習は欠かさないでください。		
テキスト、 参考文献	中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。		
評価方法	定期試験 70%、単語テスト 15%、授業態度 15%		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（タイ語 Ia 会話） タイ語 Ia（会話）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱa で学ぶ。Ⅱa の方が難易度が高いので、Ia を先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。		1 導入：タイ社会の現状、タイ語を学ぶ意義について発音練習（声調・数字・子音・母音） 2 会話 1（挨拶、所在に関する表現） 3 会話 2（ものの性質などに関して） 4 会話 3（家族）、タイ語を聞いて書く 5 会話 4（所有、存在）、タイ語を聞いて書く 6 会話 5（職業、国名）タイ語を聞いて書く 7 会話 6（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く 8 会話 7（名前、所在、手段などに関する表現） 9 会話 8（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く 10 会話 9（レストランで）、タイ語を聞いて書く 11 会話 10（お金の計算）タイ語を聞いて書く 12 会話 11（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く 13 タイ事情（映画どのビジュアル教材の鑑賞） 14 タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） 15 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。CD を聞いて発音練習をすること。		
テキスト、参考文献	2000 円程度のテキスト使用する。最初の授業で指定する。		
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（タイ語 Ib 会話） タイ語 Ib（会話）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
Ia に引き続き、標準タイ語会話をを中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。特に類別詞の使い方について重点的に理解し、比較表現などに応用できるようにする。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 インターネット動画や映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。		1 会話 1（類別詞の用法 1）、タイ語を聞いて書く 2 会話 2（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3 会話 3（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4 会話 4（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5 会話 5（類別詞の用法 2）、タイ語を聞いて書く 6 会話 6（類別詞の用法 3）、タイ語を聞いて書く 7 会話 7（類別詞の用法 4）、タイ語を聞いて書く 8 会話 8（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9 会話 9（電話をかける）、タイ語を聞いて書く 10 会話 10(受身の表現)、タイ語を聞いて書く 11 会話 11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く 12 会話 12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く 13 タイ事情（映画鑑賞など） 14 タイ事情(映画鑑賞など) 15 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習に力をいれること。CD を聞いて発音練習をすること。		
テキスト、参考文献	前期と同じテキスト（2000 円程度）の予定。		
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（タイ語 IIa 文字の読み書き） タイ語 IIa（文字の読み書き）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。文字が判読でき、正しく発音できること、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢を身につけることが目標である。本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。随時、インターネット動画、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話 I a を先に履修の方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。II a のみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。		1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？社会のタイ語需要 2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3 文字の読み書き 1（中子音・高子音） 4 文字の読み書き 2（低子音と長母音） 5 文字の読み書き 3（真正二重子音・平音節・促音節） 6 文字の読み書き 4（声調符号、短母音） 7 文字の読み書き 5（高子音化、擬似二重子音） 8 文字の読み書き 6（一字再読字） 9 文字の読み書き 7（タイ数字など） 10 文字の読み書き 8（特殊な表記） 11 タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12 タイ事情（映画などのビジュアル教材） 13 講読 1（読み方、文章のつながり方など） 14 講読 2（読み方、タイ語らしい言い回し） 15 全体の復習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は難しいので、復習をしっかりと行って知識の定着をはかる。		
テキスト、参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（タイ語 IIb 文字の読み書き） タイ語 IIb（文字の読み書き）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
IIa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、小学校の国語の教科書など、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。		1 講読 1 （読み方、文章のつながり方など） 2 講読 2 （平易な物語など） 3 文法 1 （指示詞の用法） 4 文法 2 （一般動詞の用法） 5 文法 3 （形容詞の用法） 6 講読 3 （平易な物語など） 7 文法 4 （類別詞の用法・比較） 8 講読 4 （タイの文化・祭り） 9 講読 5 （首都バンコクについて） 10 文法 5 （否定の表現） 11 講読 6 （子どもの夢） 12 講読 7 （書店） 13 タイ事情（現代映画の鑑賞） 14 タイ事情（現代映画の鑑賞） 15 試験	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの講読を行うので、自分でできるところまで進めておく。暗唱をしてみよう。		
テキスト、参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント		
評価方法	定期試験の成績を 80 パーセント、課題や小テストなどを 20 パーセントとして総合的に判断する。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 Ia 会話と文化） アラビア語 Ia（会話と文化）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 またアラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語IIa 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. 発音の基礎 3. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. 「ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は〇〇です」 7. 「おはようございます」 8. アラビア文字の基礎 9. アラビア文字を読む 10. これまで学んだことの応用 11. 「アラブの様々な食べ物」 12. 「トイレはどこですか？」 13. アラブのテレビを観る 14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 15. 復習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいのか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。		
テキスト、参考文献	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之著・白水社） 参考文献：『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK 出版）		
評価方法	常時会話の小テストを行います。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語 Ib 会話と文化） アラビア語 Ib（会話と文化）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語 IIb 読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 数と数字 3. 「彼女の名前はファーティマです」 4. 「これはエジプトのパンですか？」 5. 「アラビア語を学んだことがありますか？」 6. 「あなたに兄弟はいますか？」 7. 「私たちはピラミッドの前にいます」 8. 「ラクダに乗ったことがありますか？」 9. 「日本にはたくさんの大学がありますか？」 10. 「コシャリを食べたことはありません」 11. 「書店に行きたいです」 12. 「どちらがより近いですか？」 13. 「電話をお借りできますか？」 14. 「もしもし？」 15. 復習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で学んだ表現を使って何を言いたいのか、何を伝えられるか、毎回考えて次の授業で発表・質問・確認してください。		
テキスト、 参考文献	『ニューエクスプレス・アラビア語』（竹田敏之著・白水社） 参考文献：『これなら覚えられるアラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK 出版）		
評価方法	常時会話の小テストを行います。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語Ⅱa 読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱa（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア語は総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語Ia 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. Introduction 2. アラビア文字を覚える (1) 挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える (2) 挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える (3) 自己紹介 5. アラビア文字に覚える (4) 「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える (5) アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 男性形と女性形「私は学生です」 12. 定冠詞の使い方「駅はどこですか」 13. 「それは何ですか？」「アラブのコーヒーです」 14. 復習 15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	小テストを行うので、学んだテキストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『これなら覚えらるるアラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK 出版）		
評価方法	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（アラビア語Ⅱb 読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱb（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib 会話と文化」と同時に履修することができます。		1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも〇〇にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」 13. 辞書の引き方の基礎 14. 辞書の引き方の基礎・復習 15. テスト	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	小テストを行うので、学んだテキストは必ず書けるようになるまで毎回練習してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『これなら覚えらるるアラビア語単語帳』（師岡カリマ・エルサムニー、NHK 出版）		
評価方法	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語 Ia 基礎） 現代ヘブライ語 Ia	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムードなどの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。		1. アルファベットの歴史・発音練習 2. 発音練習 3. ヘブライ文字の書き方、ユダヤ人の祭 4. 自分の名前をヘブライ語で書いてみよう。 5. 会話練習、自己紹介 6. ヘブライ語起源の人名 7. 名詞と形容詞の性、安息日とは何か 8. 名詞と形容詞の複数形 9. 動詞の現在形（1） 10. 動詞の現在形（2） 11. ヘブライ語の神名について 12. 数字としてのヘブライ文字 13. 動詞の現在形（3） 14. 動詞の現在形（4） 15. 総復習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定部分を精読と返却されたプリントの確認と復習		
テキスト、 参考文献	授業テキストは教室にてプリントで配布。		
評価方法	授業毎のプリント提出（40%）、試験（60%）		

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語 Ib 基礎） 現代ヘブライ語 Ib	担当者	阿部 望
講義目的、講義概要		授業計画	
セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点を学びます。 1. アラビア語とヘブライ語の違い。 2. イエス・キリスト時代の言語 3. ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 4. 現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 5. ユダヤ人が使っていた各種のユダヤ語とは何か。 6. ユダヤ人のファミリーネームと文化的背景 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の注意点やエチケットを学びます。 「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」の違いを正しく認識し、それぞれの特徴を学びます。		1. 春学期の復習 2. ユダヤ人の祭（１）、会話練習 3. ユダヤ人の祭（２）、会話練習 4. ユダヤ人の祭（３）、ヘブライ語の復活 5. ユダヤ人のファミリーネーム（１） 6. ユダヤ人のファミリーネーム（２） 7. ユダヤ人のファミリーネーム（３） 8. ユダヤ人の言語、ユダヤ語とヘブライ語 9. ユダヤ人との付き合い方、食習慣 10. 所有、所在、存在の表現（１） 11. 所有、所在、存在の表現（２） 12. 動詞の不定詞（１） 13. 動詞の不定詞（２） 14. 動詞の不定詞（３） 15. 総復習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定部分を精読と返却されたプリントの確認と復習		
テキスト、参考文献	授業テキストは教室にてプリントで配布。		
評価方法	授業毎のプリント提出（４０％）、試験（６０％）		

08 年度以降	外国語（トルコ語 I a 総合）	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学習を進めていきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学ぶとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 アルタイ語族に属するトルコ語は、日本語とも同語族とされ、基本的な文法構造が似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音も規則的なことから、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。 トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがるトルコ語話者は、同系言語を含めると2億2千万人がいるとされ、汎用性の高い言語です。 単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語I a会話」とあわせて受講することを勧めます。		1) アルファベット 2) 数字 3) 挨拶の言葉 4) 挨拶の練習 5) 人称代名詞／トルコ料理の紹介 6) 人称・指示代名詞で文を作る「これはAです」 7) 人称・指示代名詞で質問を作る「これは何ですか」 8) 国と言語の名前／トルコの観光 9) 肯定文の作り方 10) 疑問文の作り方 11) 否定文の作り方／トルコの歴史 12) 形容詞の使い方 13) 自己紹介をする 14) 単語の複数形 15) まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

08 年度以降	外国語（トルコ語 I b 総合）	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスは、「トルコ語 I a 総合」の続きになります。 授業では、文法や読み書きを中心にトルコ語の基礎を学んでいきますが、あわせてトルコの建築、芸術、食文化などさまざまな側面についても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語 I b 会話」とあわせて受講することを勧めます。		1) 前期の復習 2) 家族について紹介する（1） 3) 家族について紹介する（2） 4) 命令形の作り方／トルコの芸術（マーブリング） 5) 生活環境についての単語（1） 6) 生活環境についての会話（2） 7) 場所を聞く（1） 8) 場所を聞く（2） 9) 色の名前／トルコのコーヒーと紅茶 10) 現在進行形（肯定文） 11) 現在進行形（疑問文） 12) 現在進行形（否定文） 13) 現在進行形の総合練習 14) スケジュールを説明する 15) まとめ、総合練習	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティトゥート編）ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

08 年度以降	外国語（トルコ語 I a 会話）	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本人を含め多くの観光客が集まります。一方で、近年は経済的な発展もとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、アフリカ、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増えています。 このクラスは、初めてトルコ語を学ぶ学生を対象とし、授業では日常生活やトルコへの旅行などで使えるフレーズを中心に、会話の練習を行いながらコミュニケーション能力を身につけていきます。また、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語I a 総合」とあわせて受講することを勧めます。		1) アルファベットと数字 2) 初めての挨拶 3) 自己紹介／肯定文 4) タクシーに乗る／疑問形 5) レストランで①／所有形 6) ホテルでの会話／人称代名詞 7) 買い物をする①「～をください」 8) 家族を紹介する／複数語尾 9) レストランで② 10) 依頼する 11) 予約をする 12) 両替をする／未来形 13) 乗り物に乗る「～へ行きます」 14) 買い物をする②／未来形 15) まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティテュート編）ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

08 年度以降	外国語（トルコ語 I b 会話）	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスは、「トルコ語 I a 会話」の続きになります。授業では会話の学習を中心に進め、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状況や考えを相手に伝える練習も行います。また、前期同様、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティテュート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。 なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを中心に学ぶ「トルコ語 I b 総合」とあわせて受講することを勧めます。		1) 前期の復習 2) 自分の体験を語る／過去形 3) 「週末何をしましたか？」／過去形 4) 「～だそうです」／伝聞完了形 5) インフォメーションでの会話 6) 電話で話す／未来形と中立形 7) バスターミナルで／中立形の否定形 8) 買い物の会話「～できますか？」 9) 様々な疑問詞・許可／「～してもいいですか？」 10) 趣味について話す「～が好きですか？」 11) 「～しよう」 12) レストランでの会話 13) 別れの場面／「～でいてください」 14) 復習 15) まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習として授業で学習した会話を音読するとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』（ユヌス・エムレ インスティテュート編）ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果（70%）、および課題の提出（30%）を評価対象とする。		

08 年度以降	外国語(トルコ語 II a 応用)	担当者	未定 (掲示で確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスは、トルコ語の基礎的な学習を行った学生を対象としています。 トルコ語の文法と会話を中心に総合的に練習を重ね、トルコ語のレベルアップを目指します。特に、トルコ語において重要な動詞の活用については、現在進行形、未来形、過去形、超越形の構造を身につけ、会話の中でも使えるように取り組みます。 あわせて、トルコの文化や歴史などについて知る時間を設けるとともに、ネイティブスピーカーとの交流会やトルコでの学習プログラムへの推薦など、国内外でトルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。		- 挨拶、人称 - 自己紹介の復習 - 現在進行形 (肯定文) - 現在進行形 (疑問文) - 現在進行形 (否定文) / トルコ料理の紹介 「を」格 「へ」格 / トルコ映画 「から」の表現方法格 - 家族について話す - 過去形 (肯定文) / トルコの歴史 - 過去形 (否定文、疑問文) - 時間を表す表現 - 時間を表す表現 / トルコの芸術 (マープリング) - 時間表現を使って話す - まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インスティトゥート編)ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果 (70%)、および課題の提出 (30%) を評価対象とする。		

08 年度以降	外国語(トルコ語 II b 応用)	担当者	未定 (掲示で確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスは、「トルコ語 II a 応用」の続きのクラスです。 中級レベルのトルコ語会話を中心に学び、旅行や日常生活など様々な場面で使えるフレーズを身に付けます。今までに学習した文章を使いながら、会話だけでなく、自分の考えや状況を相手に伝える練習も行い、トルコ語でのコミュニケーション力の向上を図ります。 授業は会話の練習を中心に進んでいきますが、トルコの習慣や、観光、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。あわせて、ネイティブスピーカーとの交流会など、トルコ語に触れる機会についても随時紹介していきます。 テキストは、トルコの公的機関「ユヌス・エムレ インスティトゥート」が制作した教科書のほか、各回の授業にあわせた補助教材も配布しながら授業を進めていきます。		1) 前期の復習 2) ile と ve の使い方 3) -lı, -li の使い方 4) 日常生活の会話 5) 週末の予定について話す 6) 家族について話す 7) 交通機関 8) 買い物の会話 9) 計量単位 10) 食事の会話 11) 道を尋ねる 12) 時間を尋ねる 13) トルコのお金 14) スーパーでの会話 15) まとめ	
到達目標	外国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習帳の指定箇所の問題を解くとともに、次回授業に出てくる単語を予習する。		
テキスト、参考文献	『YUNUS EMRE TÜRKÇE ÖĞRENİM SETİ』(ユヌス・エムレ インスティトゥート編) ほか補助教材を使用。		
評価方法	期末試験の結果 (70%)、および課題の提出 (30%) を評価対象とする。		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Aa） 日本語 I a	担当者	小島 小夜子
講義目的、講義概要		授業計画	
大学生活において必要な口頭表現を、独話と対話に分け、学ぶ講義である。4技能のうち、「話す」を主とし活動を行うが、「聞く」「読む」「書く」活動も授業内に取り入れ、総合的な日本語能力の向上を目指す。 独話（スピーチ、プレゼンテーション等）では、自分の関心のある分野に関連した話題について、明確かつ詳細に、さらには聞き手を説得させるようなスピーチ、プレゼンテーションができるようになることを目指す。 対話（ディスカッション、スキット等）では、場面や状況、人間関係に応じた適切な表現、語彙を選択でき、話し手に配慮のある対話ができるようになることを目指す。 またグループ内での作業が円滑に進むよう、工夫し協力し合うことを体験する。		1. 講義概要（講義内容・課題・評価等について） 2. 紹介のためのスピーチ 1（自己について） 3. ディスカッション（雑誌記事） 4. ディスカッション（雑誌記事） 5. 紹介のためのスピーチ 2（ビブリオバトル準備） 6. 紹介のためのスピーチ 2（ビブリオバトル・講評） 7. スキット（準備①口語表現、敬語などについて） 8. スキット（準備②発表態度、発音など） 9. スキット（発表・講評） 10. プレゼンテーション（準備①資料作成について） 11. プレゼンテーション（準備②発表態度、発音など） 12. プレゼンテーション（発表） 13. ディスカッション（映像ニュース） 14. ディスカッション（映像ニュース） 15. 講義のまとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：次回授業のための課題があるので準備をし、授業にのぞむこと。 事後：授業内の活動について配布される自己評価シートに記入し、提出すること。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	スピーチ、プレゼンテーション（個人）50%、ディスカッション、スキット（グループ）30%、平常点（授業への参加度、発言など）20%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Ab） 日本語 I b	担当者	福田 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 大学での学習に必要な日本語の技能のうち、主に話す技能を養成する。具体的には、情報を集め調べる能力、発表する能力を養成する。 講義概要 プレゼンテーションに必要な日本語の基礎技能を学ぶ。ミニスピーチで図表やニュースの説明、意見述べの練習を行う。各自の関心に沿ってテーマを選び、PPTやレジュメを作成し、練習を経て最終的にプレゼンテーションを行う。各発表ではピア評価も実施する。		1. プレゼンテーションとは何か、ミニスピーチ解説 2. ミニスピーチ 1（人物紹介）発表 3. ミニスピーチ 2（図表の説明）解説 4. ミニスピーチ 2 準備 5. ミニスピーチ 2 発表 6. ミニスピーチ 3（ニュースの説明、意見述べ）解説 7. ミニスピーチ 3 準備 8. ミニスピーチ 3 発表 9. プレゼンテーションの準備、アウトライン 10. レジュメの書き方 11. PPT の作り方 12. プレゼンテーション練習 1 13. プレゼンテーション練習 2 14. 最終プレゼンテーション 1 15. 最終プレゼンテーション 2、振り返り	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各課題に取り組み、次回に提出する。		
テキスト、 参考文献	テキスト：プリント配布 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	最終プレゼンテーション 50%、課題・ミニスピーチ 30%、授業への参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Ba） 日本語 I a	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
各学部に入学者の留学生の 1 年生を対象とした日本語のクラスである。経営・経済を学ぶ留学生を主な対象とする。 目的 ・専門分野の漢字の正しい読み方を学び、討論・発表にも役立てる。 ・経済学の用語を日本語で把握する。 ・経済学の基礎的テキストを読み、理解する。 概要 1、講義は 1 つのテーマを 2 回かけて深めていくよう組んである。 2、各テーマごとに小テスト（次回）をする。 学生のレベル、ニーズを考慮し、対応する。		1. 景気の話① 2. ② 3. 株の話① 4. ② 5. 物価の話① 6. ② 7. コンプライアンスの話① 8. ② 9. 国の政策の話① 10. ② 11. 日本の経済と日銀の話① 12. ② 13. 仕事で使う経済学 ① 14. ② 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布したテキスト（プリント）を予習しておいてください。次回のテストにそなえ、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テーマごとのプリントを配布。		
評価方法	小テスト 30%，定期試験 70%で評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Bb） 日本語 I b	担当者	江添 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、様々なジャンルの日本語の文献の読解を中心に、聴解・ディスカッション・プレゼンテーション・プロジェクトワーク等を適宜組み合わせながら行います。 初回の授業で、皆さんの興味ある分野とこれから学習・研究する上で必要な分野について調査し、それに合わせて授業を組み立てていきますので、参加する皆さんは事前に考えておいてください。 教材には、できるだけ新鮮なものを使用し、今の日本や世界を感じられる授業内容にしたいと考えています。 皆さんの積極的な参加を期待しています。		1. 授業の概要・ニーズ調査 2. 生活 1 3. 生活 2 4. 社会 1 5. 社会 2 6. 社会 3 7. 経済 1 8. 経済 2 9. 経済 3 10. 文化 1 11. 文化 2 12. 文化 3 13. 科学技術 1 14. 科学技術 2 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は、教材を読み、不明な語彙があれば調べておくこと。事後は、授業内で出た課題について調べることです。		
テキスト、参考文献	教材は、こちらで用意します。参考文献は、その都度紹介します。		
評価方法	定期試験 20% 発表 20% レポート 20% 授業内課題 20% 授業への参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Ca） 日本語 I a	担当者	福田 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 大学での学習に必要な日本語の技能のうち、主に書く技能を養成する。具体的には、情報を集め調べる能力、レポートを作成する能力を養成する。 講義概要 レポート作成に必要な日本語の基礎技能を学ぶ。毎回提示された課題に取り組み、次回に提出する。添削を受け、次々回にリライトする。最終的にテーマに沿ったレポートを書き上げる。		1. レポートとは何か、情報収集の方法 2. 文体・表現、テーマの選び方 3. 定義と分類、テーマの検討 4. 引用のルール、参考文献の書き方、テーマ決定 5. 図表の提示、アウトライン 6. 資料提出 7. 要約 8. 序論を書く 9. 序論の概要発表 10. 本論を書く 11. 本論の推敲 12. 結論を書く 13. レポート第一稿提出 14. 再提出指導 15. レポート最終稿提出、振り返り	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各課題に取り組み、次回に提出する。		
テキスト、 参考文献	テキスト：プリント配布 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	最終レポート 50%、課題（提出・内容）30%、授業への参加度 20%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合 I Cb） 日本語 I b	担当者	石田 ゆり子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 大学の講義を受けるにあたって必要なアカデミックな文章（レポート作成、研究論文）を書く技能を養うことを目的とする。特に、客観的なデータを用いて、分析・考察を行い、論理的に自分の意見が述べられることを目標とする。 講義内容 前半は前期の授業に引き続き、レポート作成に必要な表現や書き方などを学び、所々クラスで討論できるテーマを用いて小レポートを書く。後半はそれぞれが自分のテーマを決め、研究レポート作成の過程に沿って授業を進めていき、最終的に研究レポートを一つ仕上げる。それが最終評価となる。		1 講義の進め方・自己紹介 2 ワーク① 順序立ててレポートを書く① 3 ワーク② 引用してレポートを書く② 4 ワーク③ グラフや表を説明する 5 ワーク④ 分析・考察 6 ワーク⑤ 資料を利用してレポートを書く③ 7 研究レポートの概要を知る（行程・モデル確認） 8 テーマを決める・事前調査 9 テーマ発表 10 資料収集・文献リスト作成 11 情報の整理・意見をまとめる 12 アウトラインを書く 13 レポート作成① 14 レポート作成② 15 まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	レポートのテーマ選びのために、日頃からニュースや新聞等で時事問題を調べておくこと。 小レポートの FB は必ず確認し、必要があれば書き直し、自身の日本語の問題点を見直しておくこと。		
テキスト、 参考文献	プリント配布		
評価方法	研究レポート(40%) 課題・提出物（40%）授業への参加度（20%）		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	石田 ゆり子
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語としての日本語学習を終え、次の段階として、学習した日本語をいかに実生活へ応用していくかを課題とする。大学の講義を受けるにあたって必要な「理解力」と「表現力」を養うことを目標とする。		1 講義の進め方・自己紹介 2 表現のワーク① 体感を言葉にする 3 表現のワーク② 比喻 4 表現のワーク③ 思考のパターンを掴む 5 表現のワーク④ 経験からパターンを捉える 6 表現のワーク⑤ ブレインストーミング 7 新聞記事の読み方 8 新聞・雑誌記事を読む① 9 新聞・雑誌記事を読む② 10 新聞・雑誌記事を読む③ 11 表現のワーク⑥新聞記事を使って論じる 12 表現のワーク⑦新聞記事を使って論じる 13 発表 14 発表 15 まとめ	
講義内容 この講義では自己を内省し、自分の意見を日本語で表現できるようなワークを行い、表現の幅を広げていく。また、新聞記事を読みながら時事問題について考え、思考を深め、最終的には資料をもとに、自分の考えや意見を述べることを目標として進めていく。			
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から日本の新聞記事や雑誌をチェックし、気になる記事を収集しておいてください。毎回出された課題を解いて、次回提出してください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	発表(40%) 課題・提出物（40%）授業への参加度（20%）		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
自分の書きたいことを、読む人が理解しやすい文章で書けるようにすることを目標とする。 まず、自分の書きたいことを知り、それを文章化するために整理する方法を学ぶ。 次に、書きたいことが伝わる文章を書くために必要なことを学ぶ。 やり方としては、そのために必要なことは何か、モデルの文章を読んで分析し構造を理解してから、書いていくこととする。 前回の授業時に作成したものを使って次の段階に進む形をとるので、体調管理をし、できるだけ欠席しないよう留意すること。欠席時の配布物、作業内容などについては自分で管理すること。		1. 自己紹介 授業の方針と目的 2. わかりやすい日本語の文章とは 3. 内容作りその① 一般論について 4. 要約のしかた 5. 内容作りその② 自分の意見を作る 6. 柔軟に考えるには 7. 一般論と自分の意見 8. 文章を書く上で必要な文法 9. 型を意識して書く 10. 文章の型① 11. 文章の型② 12. 文章の型③ 13. 文章の型④ 14. 最終作品を仕上げる 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業や宿題で自分で作成したものを発展させていく形で進めていくので、毎回の課題を必ずやること。		
テキスト、参考文献	授業時に指示		
評価方法	授業参加度 10% 課題提出点 30% 作文評価点 60%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	丸山 具子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、時事問題、特に産業界の話題を中心に、「聞いたことをまとめる」「読んだことをまとめて伝える」ということができるようになることを目標とした活動を行います。具体的にはまず、ラジオ、テレビのニュースや経済番組、対談番組などが理解できる聴解力を養成します。その際、グループ協働で聞きとったものを再現するディクトグロスという方法を用います。また、その活動を通じ、語彙、表現、文法の力も高めます。そして聞いたり、読んだりすることで得た情報をまとめて話したり、短い文章にまとめたりする活動も行います。併せて、自分に合った自律学習が継続的にできるように、さまざまな学習法を体験します。 隔週で小テストを行う他、課題も出しますので、30分程度自宅学習も必要となります。		1. 講義の概要 レベルチェック 目標設定 2. ディクトグロスのやりかた 3. 一般ニュース 4. 経済番組 5. 経済ニュース 6. 一般ニュース 7. 学習法体験 復習 8. 中間テスト 9. 対談番組のリスニング 待遇表現 10. 経済番組 11. ニュース 12. ニュース 13. 学習法体験 14. 復習 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	小テストの範囲の復習、宿題。その他、ニュースの視聴、ニュース記事のチェックを毎日行ってください。		
テキスト、 参考文献	特になし		
評価方法	期末試験 25%、平常点（中間試験、小テスト、授業中に指示する課題、クラス参加度等） 65% 自己評価 10%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	北村 淳子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本語を様々な角度から捕え、今まで気づかなかったことや問題を発見し、さらに調査・考察を加え、レポートとしてまとめる力を養います。 いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、レポートを書かせます。指名された何人かはレポートの内容をクラスに報告します。 問題を発見しようという積極的な姿勢で授業に臨み、課題に取り組んでほしいと思っています。		1. 日本語学習者（1） 2. 日本語学習者（2） 3. 日本語と歴史（1） 4. 日本語と歴史（2） 5. ディスカッション（1） 6. ディスカッション（2） 7. ディスカッション（3） 8. アンケート調査（1） 9. アンケート調査（2） 10. アンケート調査（3） 11. レポート作成（1） 12. レポート作成（2） 13. レポート作成（3） 14. レポート作成（4） 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で配布された資料を事前によく読み、問題点等を考えておいてください。 授業後、学んだこと（気づきや発見等）をまとめてください。		
テキスト、 参考文献	金田一春彦『日本語（上）』岩波書店（岩波新書） 金田一春彦『日本語（下）』岩波書店（岩波新書）		
評価方法	レポート（90％）に授業への参加度・貢献度（10％）を加味して評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	丸山 具子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本国内の企業、母国にある日系企業などへの就職を希望している留学生は多いものの、どういった準備が必要か、どのような能力が必要か、ほとんど知らないまま上級生になり、せっかくのチャンスを逃してしまうという例をよく聞く。また1、2年生からでも参加できるインターンシップなどの機会があるが、積極的に参加してみようとする留学生は少ないのは残念なところである。 このクラスでは「日本の企業」と「社会人の生活」を知ることを通して、敬語やメールの書き方など実践的な日本語力を磨くほか、働くこととはどういうことか、今、自分がここにいることとはどういうことか、といったことも考えてもらう。クラスでの課題に取り組む中で、自分の将来について、明確な目的意識を持ち、それを日本語学習や専門科目に活かしてもらうことを目的とする。		1. 自己紹介・自己PR 2. 敬語の復習 3. 適切な依頼、適切な電話の掛け方 4. 就職制度について調べる1 5. 就職制度について調べる2 6. 発表 7. 日本企業での生活1 8. 日本企業での生活2 9. メールの書き方1 10. メールの書き方2 11. 企業調査1 12. 企業調査2 13. 発表 14. 発表 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業の復習、指示されたことについて調べてくる課題など		
テキスト、 参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	期末テスト(25%)、発表(40%)、課題、授業への参加度などの平常点(35%)		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営・経済を学ぶ留学生を主な対象とした日本語のクラスである。総合Ⅰ同様以下の目的・概要で進める。 目的・専門分野の漢字の正しい読み方を学び、討論・発表にも役立てる。 ・経済学の用語を日本語で把握する。 ・経済学の基礎的テキストを読み、理解する。 概要 1、講義は1つのテーマを3回かけて深めていくよう組んでいる。 2、各テーマにそった新聞記事の読解。 3、テーマごとに小テスト（次回）をする。 学生のレベル、ニーズを考慮し、対応する。		1. グローバル経済① 2. ② 3. 新聞記事読解③ 4. 国民の払っている税金① 5. ② 6. 新聞記事読解③ 7. 株式投資① 8. ② 9. 新聞記事読解③ 10. 外貨投資① 11. ② 12. 新聞記事読解③ 13. 母国の経済状況① 14. ② 15. まとめ	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	配布したテキスト（プリント）を予習しておいてください。次回のテストにそなえ、復習しておいてください。		
テキスト、 参考文献	テーマごとのプリントを配布。		
評価方法	小テスト 30%，定期試験 70%で評価する。		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 言葉と表現を増やしながら、場面や状況に相応しい日本語が運用できるようになることを目指します。また、自己分析を通して、自分に必要な働くためのコミュニケーション能力について考えます。 【講義概要】 この講義は、日系企業への就職を考えている人、日本語を使って仕事がしたいと思っている人を対象とした「会社で働くための日本語」基礎編です。就職活動に関わる場面を取り上げ、テーマによって演習、ディスカッション、発表と様々な形式で進めます。		1. オリエンテーション 2. 自己分析と労働観 3. 働いた経験を話す・ディスカッション 4. 就職活動に必要な日本語 文章 ① 5. 就職活動に必要な日本語 文章 ② 6. データを「読む」・ディスカッション 7. 「ウチ」「ソト」の概念と敬語 ① 8. 「ウチ」「ソト」の概念と敬語 ② 9. 就職活動に必要な日本語 会話 ① 10. 就職活動に必要な日本語 会話 ② 11. 就職活動に必要な日本語 会話 ③ 12. プロジェクトワーク 13. プロジェクトワーク 14. プロジェクトワーク 15. ポスターセッション・振り返り	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。		
テキスト、 参考文献	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。参考文献は授業の中で適宜指示する。		
評価方法	①課題の取り組み 30% ②参加態度・貢献度 30% ③期末試験 40%		

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 言葉と表現を増やししながら、場面や状況に相応しい日本語が運用できるようになることを目指します。また、日系企業や日本人の労働観について理解を深めます。 【講義概要】 この講義は、春学期の「会社で働くための日本語」応用編です。日系企業への就職を考えている人、日本語を使って仕事がしたいと思っている人を対象とした「会社で働くための日本語」基礎編です。就職活動に関わる場面を取り上げ、テーマによって演習、ディスカッション、発表と様々な形式で進めます。		1. オリエンテーション 2. 職場で求められる日本語能力 3. ビジネスメールの基本① 4. ビジネスメールの基本② 5. ビジネス文書の基本 6. 企業研究のための情報の読み取り① 7. 企業研究のための情報の読み取り② 8. ロールプレイで学ぶ 就職活動場面 9. ロールプレイで学ぶ ビジネス場面① 10. ロールプレイで学ぶ ビジネス場面② 11. 企業研究 進捗報告 12. ビジターセッション 13. 企業研究 発表①・振り返り 14. 企業研究 発表②・振り返り 15. 企業研究 発表③・振り返り	
到達目標	日本語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。		
テキスト、参考文献	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。参考文献は授業の中で適宜指示する。		
評価方法	①課題の取り組み 30% ②参加態度・貢献度 30% ③期末レポート 40%		

シラバス 全学共通授業科目

2016 年 4 月 1 日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1661



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	